

2001年（第51回）学生生活実態調査の結果



第27回東京大学伊豆・戸田マラソン2002年10月27日午前7時スタート

まえがき

昨年度に実施された、本学の学生生活実態調査の結果がまとまりましたので、学内広報の場を借りて、報告いたします。

例年行われるこの調査は、第51回を迎えました。2001年8月1日現在本学に所属する学部学生15,139名のうち、学部別、男女別に1/8を無作為に抽出して行ったものです。回収率は、49.6%で、942名の回答がありました。つい数年前までは、60%以上の回収率であったことからみると、最近の回収率がやや下がっているのは、残念なことです。調査の有効性を高めるためにも、学生諸君には協力をお願いするとともに、今後は調査方法も工夫改善していきたいと考えています。

調査項目としては、毎回必ず含めている基本項目とその年度の特徴となる項目があります。今回は、とくに東大生の「社会観」に関する項目を特殊分析として設け、農学生命科学研究科の小田切徳美助教授に担当をお願いしました。

この調査を実施し、まとめるにあたっては、学生生活調査室の室員の先生方と事務官の方々に尽力いただきました。そして、多くの項目に回答してくださった学生諸君に報いるためにも、この調査報告が活かされることを心より願っております。

目 次

調査の概要	2	X. 不安・悩み	22
調査の結果	2	XI. 学生生活の満足度	23
I. 基本的事項	4	XII. 社会観	24
II. 家庭の状況	5	XIII. 就職	26
III. 生活費の状況	8	XIV. 大学への要望	27
IV. 通学・住居	11	特殊分析	28
V. 奨学金	13	資料1 (集計表)	32
VI. アルバイト	14	具体的記述 (抜粋)	81
VII. 入学までの学習	15	資料2 (調査表)	108
VIII. 入学・進学・学業	17	学生生活委員会学生生活調査室	125
IX. ボランティア活動	21		

調査の概要

1. 調査票の作成

2001年(平成13年)5月から10月にかけて、学生生活実態調査委員会で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2001年(平成13年)11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部系統別無作為抽出法で、在籍者数の1/8を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する(自記式)方法。

5. 調査の内容

I. 基本的事項、II. 家庭の状況、III. 生活費の状況、IV. 通学・住居、V. 奨学金、VI. アルバイト、VII. 入学までの学習、VIII. 入学・進学・学業、IX. ボランティア活動、X. 不安・悩み、XI. 学生生活の満足度、XII. 社会観、XIII. 就職、XIV. 大学への要望、XV. 具体的記述

調査の結果

今回は、2000年(第50回)と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。

グラフと表について

- 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1971年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表1」に1971年以降の調査の実施状況を表示した。
- 本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100%に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
- 各表の2001年の集計結果は、太枠で示してある。
- 1984年調査で抜本的改正を行った家計支持者の職業分類については、2000年調査に引き続き三重クロス集計(「職業」×「従事先の規模」×「雇用形態」)の一元化表を作成した。「表3」6ページを参照されたい。

表1 学生生活実態調査実施状況一覧表

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
第21回	1971年12月	学部男子	1/4・1/15	797人	67.3%	郵送自記式
第22回	1972年11月	学部男子・女子	男子 1/15 女子 1/5	648 107	68.2 78.5	〃
第23回	1973年12月	学部男子・女子	男子 1/15 女子 1/2	794 340	76.2 75.0	〃
第24回	1974年11月	学部男子	1/5～1/15	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学部男子	1/5～1/15	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学部男子	1/5～1/15	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学部女子	全数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大学院学生	男子 1/4 女子 全数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学部男子	1/5～1/15	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学部男子	1/5～1/15	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学部男子	1/5～1/15	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学部女子	全数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学部男子	1/5～1/15	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大学院学生	男子 1/2～1/4 女子 1/2 OM・OD 1/2	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大学院学生	男子 1/2～1/6 女子 1/2	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大学院学生	男・女 1/4 OM・OD 1/4	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,900	49.6	〃

(注1) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

(注2) 1971年調査で、抽出率に2つの数字が掲げられているのは、前者は医学部であり、後者は医学部を除く他の学部である。また、1974年以降の調査で抽出率に幅がある場合は、学部(大学院)の規模により、その数字の範囲内で抽出率をそれぞれ定めている。

I. 基本的事項

表2 2001年(第51回)学生生活実態調査回収状況一覽

学 部	男 子				女 子				全 体			
	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率
男女別	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
教養学部(前期)	5,769	722	373	51.7	1,200	152	95	62.5	6,969	874	468	53.5
文科小計	2,366	297	154	51.9	727	92	53	57.6	3,093	389	207	53.2
文科一類	1,003	126	59	46.8	250	32	21	65.6	1,253	158	80	50.6
文科二類	669	84	41	48.8	110	14	8	57.1	779	98	49	50.0
文科三類	694	87	54	62.1	367	46	24	52.2	1,061	133	78	58.6
理科小計	3,403	425	219	51.5	473	60	42	70.0	3,876	485	261	53.8
理科一類	2,345	293	146	49.8	154	20	14	70.0	2,499	313	160	51.1
理科二類	901	113	63	55.8	291	36	26	72.2	1,192	149	89	59.7
理科三類	157	19	10	52.6	28	4	2	50.0	185	23	12	52.2
法学部	1,397	175	72	41.1	286	36	20	55.6	1,683	211	92	43.6
経済学部	728	91	40	44.0	98	13	9	69.2	826	104	49	47.1
文学部	641	80	32	40.0	259	33	17	51.5	900	113	49	43.4
教育学部	136	17	5	29.4	76	10	4	40.0	212	27	9	33.3
理学部	612	77	36	46.8	65	8	6	75.0	677	85	42	49.4
工学部	1,885	236	104	44.1	138	17	15	88.2	2,023	253	119	47.0
農学部	544	68	28	41.2	188	24	14	58.3	732	92	42	45.7
薬学部	123	16	13	81.3	48	7	4	57.1	171	23	17	73.9
医学部	391	48	23	47.9	125	16	11	68.8	516	64	34	53.1
教養学部(後期)	309	39	15	38.5	121	15	6	40.0	430	54	21	38.9
合 計	12,535	1,569	741	47.2	2,604	331	201	60.7	15,139	1,900	942	49.6
2000年(第50回)調査	12,560	1,581	806	50.0	2,671	336	236	70.2	15,231	1,917	1,042	54.4

注) 「在籍者数」は2001年(平成13年)8月1日現在の学生数(休学者、留学者、外国人留学生を除く)である。

II. 家庭の状況

家庭の所在地は55.7%が関東（東京都を含む）
 主たる家計支持者は「父」が91.5%、職業は「管理的職業」が43.0%
 年収額1,002万円、91年以降最も落ち込む

家庭の所在地は、「東京都」22.9%、東京都以外の「関東」が32.8%、合計すると55.7%で、前回（2000年）調査と比較して1.8ポイントの減少となっている。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の54.4%に対し、女子は60.7%で前回調査と同様男子を上回っている。

「東京都」の比率は全体で前回の24.3%から1.4ポイント減少して22.9%、男女別に見ると、男子は22.8%から21.2%に1.6ポイント減少し、女子は29.2%から29.4%に0.2ポイントの微増となっている（図1—1～2、資料1—II—1表）。

主たる家計支持者は「父」が91.5%を占め、「母」は4.4%となっている（資料1—II—3表）。

その職業は例年どおり「管理的職業」が最も多く43.0%、次いで「専門的、技術的職業」17.4%、「教育的職業」12.8%と続き、前回調査と同順となっている（表3、資料1—II—4表）。

年収の分布状況は、「750万円以上950万円未満」以下が45.7%を占めて、「950万円以上1,050万円未満」が23.1%、「1,050万円以上1,250万円未満」以上が31.1%となっている。前回調査との比較では、「750万円以上950万円未満」以下は44.7%から1.0ポイント、「950万円以上1,050万円未満」は22.5%から0.6ポイント増加し、「1,050万円以上1,250万円未満」以上が33.0%から1.9ポイント減少している（図2、資料1—II—5表）。

家計支持者の年収額の全体平均は1,002万円で、前回調査（1,016万円）に比べ14万円、最高額を示した95年調査（1,095万円）より93万円の減少で、90年調査（1,016万円）以降の年収額で最も低くなっている（図3、資料1—II—6表）。

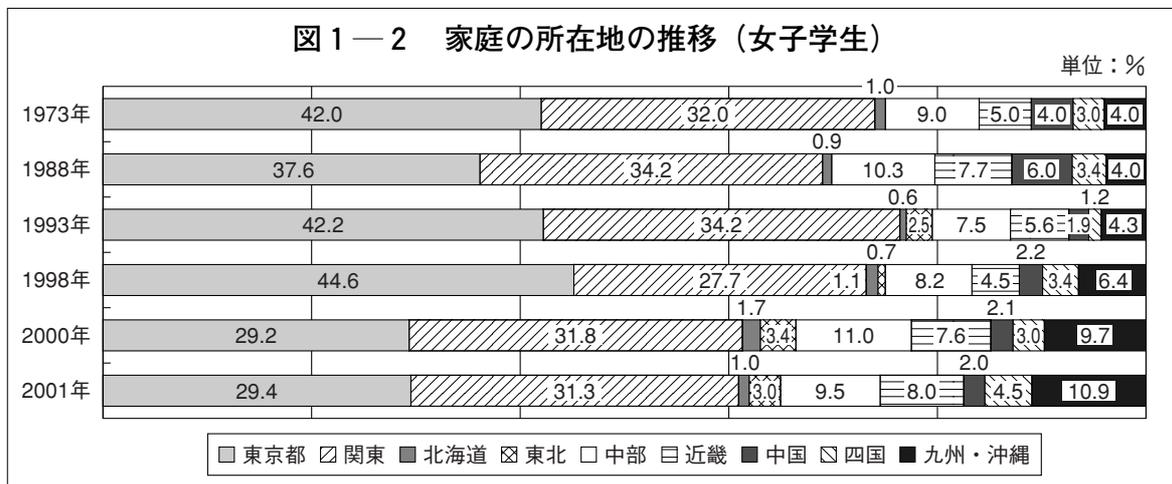
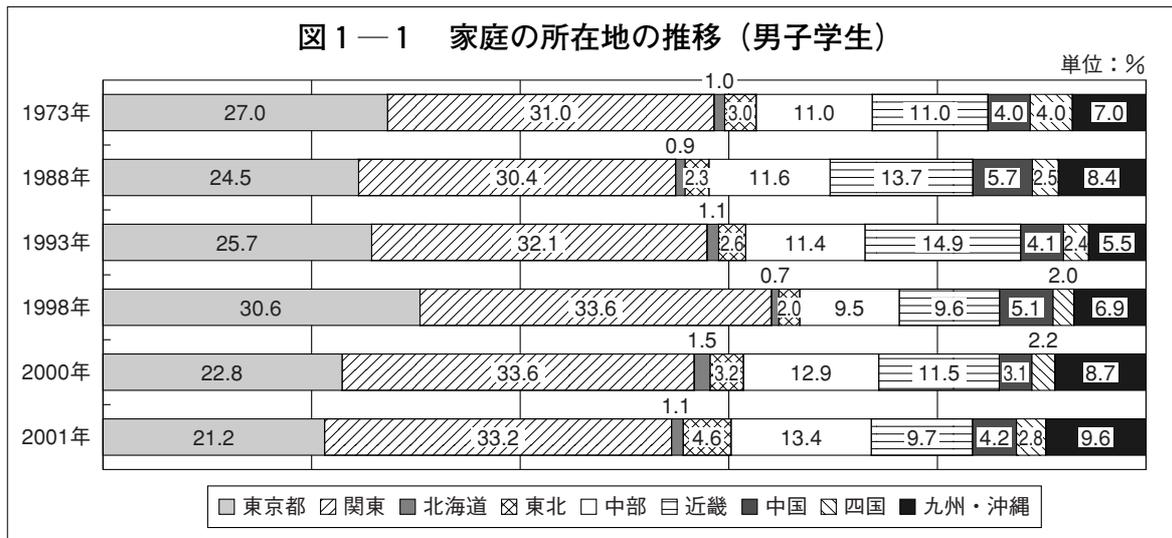


表3 「家計支持者の職業分類」三重クロス集計の一元表（「職業」×「勤務先の規模」×「雇用形態」）

区分	専門的、技術的職業			教育的職業				管理的職業						事務	販売	農・林・漁業	生産工程・採掘作業	運輸・通信・保安・サービス	無職	その他・分類不能		無回答	合計	事例数
	被雇用者	単独又は、雇用主	小計	大学（研究所）、短大、	高専の教授・助教	小・中・高校の	校長・教頭	一般教員	小計	民間企業大規模（従業員、○○○人以上）	中間規模企業（従業員、○○○人未満）	雇用主・経営者（従業員、○○○人以上）	大規模（従業員、○○○人以上）							中規模（従業員、○○○人未満）	官公庁			
1984年全体	% 6.9	% 3.6	% 10.5	% 5.2	% 2.4	% 6.7	% 14.3	% 19.1	% 9.2	% 1.6	% 7.7	% 8.6	% 46.2	% 6.4	% 5.6	% 1.6	% 5.5	% 5.6	% 2.8	% 1.4	% 100.0	人 1,050		
男子	6.5	3.2	9.7	5.0	2.4	7.0	14.4	19.1	9.1	1.7	7.8	8.6	46.3	6.5	5.9	1.8	5.9	5.6	2.5	1.2	100.0	962		
女子	10.2	8.0	18.2	8.0	2.3	3.4	13.7	19.3	10.2	1.1	6.8	8.0	45.4	4.5	2.3	-	1.1	5.7	5.7	3.4	100.0	88		
1997年全体	% 10.7	% 6.1	% 16.8	% 5.8	% 1.8	% 2.8	% 10.4	% 22.9	% 9.9	% 1.8	% 5.2	% 5.8	% 45.6	% 6.9	% 4.6	% 0.9	% 3.5	% 4.7	% 2.4	% 2.6	% 1.7	人 1,198		
男子	10.8	6.7	17.5	5.1	1.7	2.2	9.0	23.6	9.6	1.8	5.2	5.5	45.7	7.2	4.8	0.8	3.7	5.3	2.1	2.5	1.5	950		
女子	10.1	3.6	13.7	8.5	2.4	4.8	15.7	20.2	11.3	1.6	5.2	7.3	45.6	6.0	3.6	1.2	2.8	2.4	3.6	2.8	2.4	248		
1998年全体	% 11.4	% 5.7	% 17.1	% 4.6	% 1.6	% 3.6	% 9.8	% 21.9	% 9.5	% 1.6	% 4.5	% 6.6	% 44.1	% 6.5	% 5.3	% 0.4	% 3.5	% 5.1	% 2.6	% 2.4	% 3.0	人 1,185		
男子	10.6	6.1	16.7	4.7	1.4	3.5	9.6	22.1	9.8	1.0	4.6	6.5	44.0	6.6	5.4	0.5	4.0	5.2	2.2	2.4	3.3	918		
女子	14.2	4.5	18.7	4.5	2.2	4.1	10.8	21.3	8.6	3.7	4.1	6.7	44.4	6.0	4.9	-	1.9	4.5	4.1	2.6	1.9	267		
2000年全体	% 5.5	% 10.7	% 16.2	% 6.0	% 2.0	% 3.5	% 11.4	% 18.5	% 12.7	% 0.7	% 5.7	% 8.2	% 45.7	% 7.4	% 4.0	% 0.7	% 4.0	% 3.2	% 3.4	% 2.3	% 1.7	人 1,042		
男子	5.2	11.7	16.9	5.1	2.4	3.2	10.7	19.1	13.0	0.5	5.3	7.7	45.7	8.1	3.6	0.6	4.5	3.3	3.2	1.6	1.9	806		
女子	6.4	7.6	14.0	8.9	0.8	4.2	14.0	16.5	11.4	1.3	6.8	9.7	45.8	5.1	5.5	0.8	2.5	2.5	3.8	4.7	1.3	236		
2001年全体	% 10.7	% 6.6	% 17.3	% 5.2	% 2.9	% 4.4	% 12.5	% 18.9	% 10.7	% 0.8	% 4.9	% 6.2	% 41.5	% 8.3	% 4.5	% 0.7	% 4.2	% 5.4	% 2.7	% 2.9	% 0.1	人 942		
男子	10.3	6.7	17.0	3.8	3.2	4.2	11.2	19.2	11.1	0.4	4.9	5.9	41.5	8.8	4.2	0.7	4.9	5.9	2.8	3.0	0.1	741		
女子	12.4	6.0	18.4	10.4	1.5	5.0	16.9	17.9	9.5	2.5	5.0	7.0	41.9	6.5	5.5	1.0	2.0	3.5	2.0	2.5	-	201		

注) 2001年調査で、「専門的、技術的職業」で雇用形態の不明者1名。「教育的職業」で教育的職業の不明者が4名。「管理的職業」で勤務先の規模の不明者が14名。

各不明者を「その他・分類不能」の欄へ移行し集計した。従って「職業分類」のみを挙げたⅡ-4表とでは、集計数値に若干の相違がある。

図2 主たる家計支持者の年収額分布

単位：%

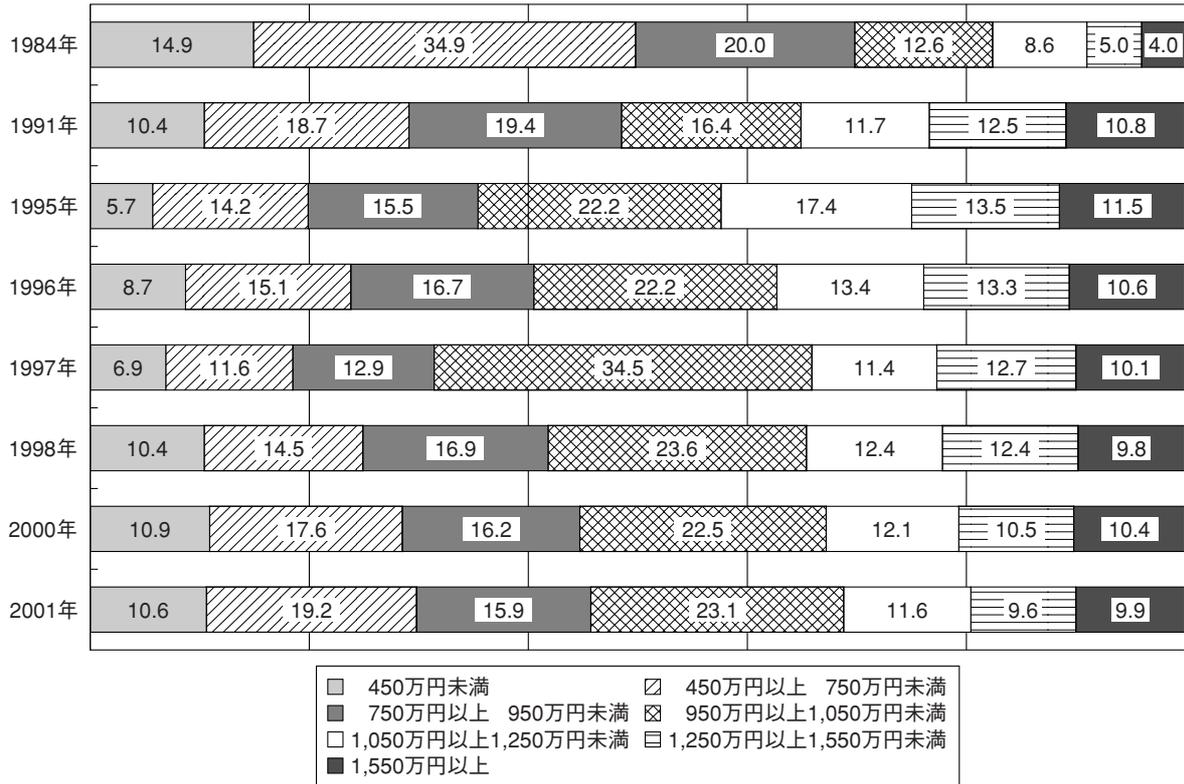
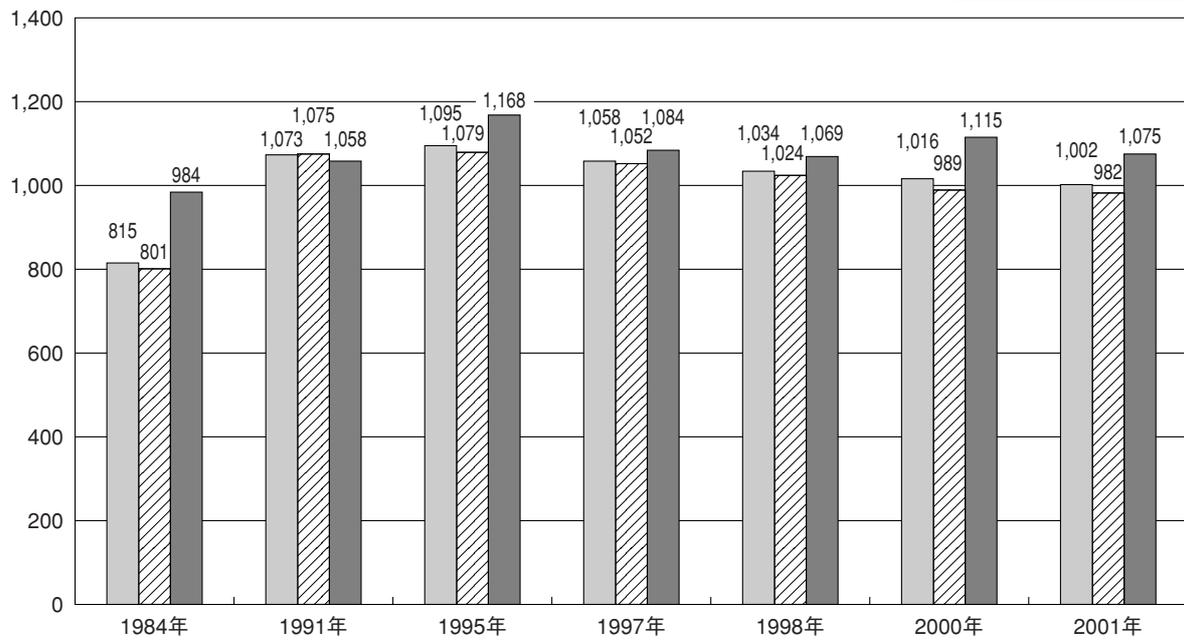


図3 主たる家計支持者の平均年収額の推移

全体 単位：万円
 男子
 女子



Ⅲ. 生活費の状況

生活費は自宅生70,200円、自宅外生151,400円

自宅外生の「住居費」は支出総額の44.1%

収入形態で大きな割合を占めるのは、自宅生が「アルバイト・雑収入」で46,000円、自宅外生が「家庭からの仕送り・小遣」で122,500円

1か月当たりの生活費（100円未満四捨五入）をみると、「支出総額」は、自宅生70,200円、自宅外生151,400円で、前回（2000年）調査結果と比較すると自宅生が700円増え、自宅外生が1,400円減っている。

自宅外生の「住居費」は、66,800円で、前回調査と比べ2,900円増え、支出総額に占める割合も2.3ポイント増えて44.1%になっている。また、7割を超える「賃貸マンション・アパート（バスつき）」の平均額は、男子73,800円、女子82,600円で前回調査と比較すると、男子が1,900円、女子が4,700円増えている。

「通学費」は、自宅生10,100円、自宅外生5,000円で、支出総額に占める割合は自宅生が14.4%、自宅外生は3.3%である（図4、資料1—Ⅲ—1表）。

一方、「収入総額」は、自宅生70,400円、自宅外生164,000円で、前回調査と比較すると自宅生で5,100円、自宅外生で3,600円減っている。自宅外生の生活費は自宅生に比べ、支出総額では前回調査と同じ2.2倍、収入総額でも前回調査とほぼ同じ2.3倍となっている。

収入のうち、「家庭からの仕送り・小遣い」は、自宅生35,700円、自宅外生122,500円で、前回調査より自宅生で5,300円、自宅外生でも5,700円減少している。「アルバイト・雑収入」は自宅生、自宅外生ともに前回調査を下回って、自宅生46,000円、自宅外生44,600円となっている（資料1—Ⅲ—2表）。

収入形態の推移をみると、「仕送り+アルバイト・雑収入」が最も大きな割合を占めている（表5）。

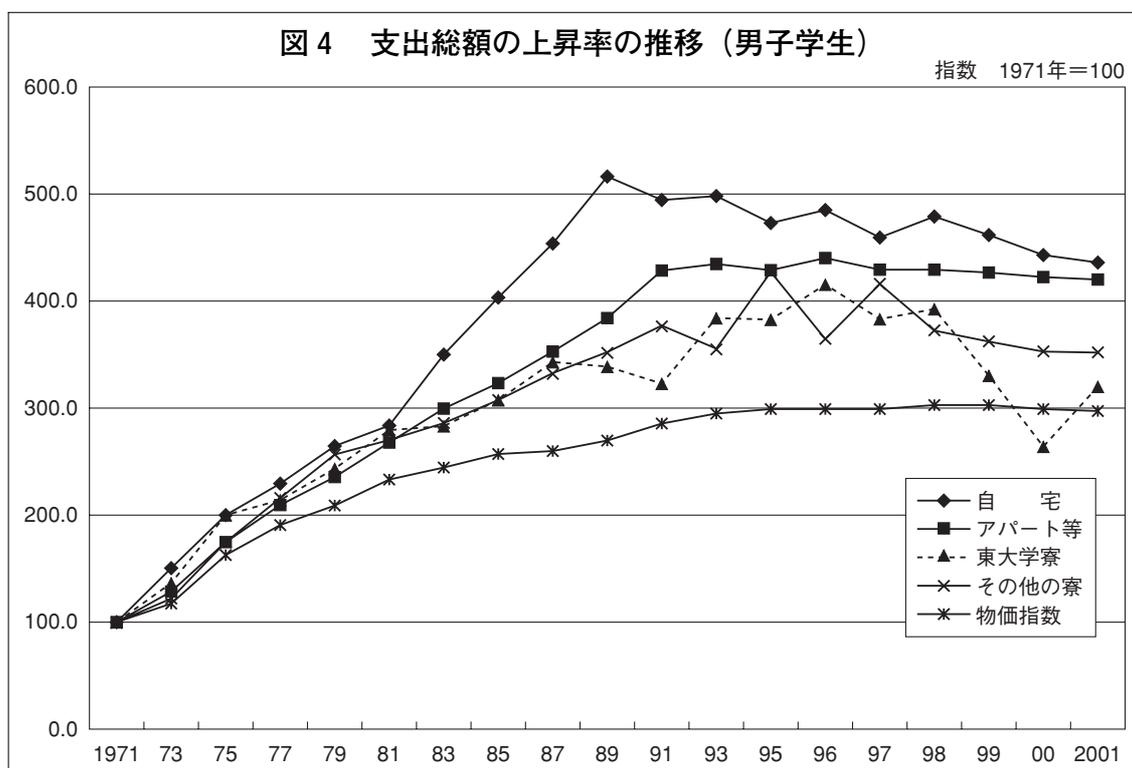


表4 生活費の状況の推移（支出総額・収入総額）

区 分	支 出 総 額				収 入 総 額			
	自 宅	マンション・ア パート・下宿他	学 寮	その他の寮	自 宅	マンション・ア パート・下宿他	学 寮	その他の寮
	円	円	円	円	円	円	円	円
1971年（男子）	15,600	37,600	25,100	30,400	16,800	39,000	27,500	32,100
1972年（男子）	20,100	40,900	27,600	31,400	21,100	42,200	29,900	32,200
1976年（男子）	32,600	73,500	49,400	59,300	35,900	76,900	55,100	63,900
1977年（女子）	31,000	76,700	51,000	85,300	36,200	82,000	56,900	92,000
1979年（男子）	41,000	88,100	61,000	77,700	45,600	93,100	68,500	83,600
1980年（男子）	41,100	92,900	62,600	78,300	48,100	100,200	66,800	84,400
1981年（男子）	44,300	100,500	69,900	82,200	50,100	107,000	75,500	91,300
1982年（女子）	41,700	105,400	64,900	108,700	49,600	115,400	75,500	119,200
1983年（男子）	54,900	110,900	71,300	86,700	60,800	118,600	78,600	96,700
1984年（男子）	61,300	116,100	77,700	85,500	67,600	124,200	86,100	95,300
〃（女子）	56,500	114,900	64,700	107,200	56,700	125,400	78,300	112,800
1991年（男子）	77,300	161,300	81,000	115,100	86,900	175,100	109,100	132,300
〃（女子）	76,100	162,200	91,400	134,000	81,300	182,500	90,600	141,000
1993年（男子）	77,600	163,800	97,700	108,500	82,300	176,000	103,000	126,400
〃（女子）	77,400	157,800	133,000	147,500	77,000	172,600	151,500	168,300
1994年（男子）	75,300	164,300	91,400	119,100	82,000	173,200	116,400	131,800
〃（女子）	74,700	162,200	92,600	127,300	82,000	180,300	115,600	142,900
1995年（男子）	74,000	161,600	96,400	130,300	80,500	176,200	109,500	156,200
〃（女子）	65,700	166,000	94,800	143,000	74,900	187,000	130,100	156,800
1996年（男子）	76,000	166,500	105,900	111,300	83,000	176,800	129,500	130,900
〃（女子）	79,500	157,500	115,300	142,100	81,500	169,600	119,500	173,600
1997年（男子）	71,500	162,300	96,800	126,500	78,400	175,200	117,300	149,200
〃（女子）	74,500	155,200	94,000	148,300	83,900	177,100	116,400	161,900
1998年（男子）	75,100	162,500	99,500	113,600	75,400	171,100	114,800	123,400
〃（女子）	77,000	172,300	83,800	154,300	73,800	182,300	125,800	161,300
2000年（男子）	69,400	159,700	65,900	108,200	76,500	172,000	100,100	129,000
〃（女子）	69,900	165,000	79,500	158,300	72,300	181,200	104,300	175,000
2001年（男子）	68,400	159,100	82,800	107,800	68,200	169,900	93,000	129,200
〃（女子）	76,000	166,400	91,100	170,300	77,100	178,600	116,700	176,600

表5 収入形態の推移

区 分	仕送りのみ	奨学金のみ	アルバイトのみ	アルバイト・雑収入のみ	仕送り＋奨学金	仕送り＋アルバイト	奨学金＋アルバイト	仕送り＋奨学金＋アルバイト	仕送り＋アルバイト・雑収入	奨学金＋アルバイト・雑収入	仕送り＋奨学金＋アルバイト・雑収入	その他	雑収入	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
1971年(男子)	36.0	1.0	5.0	—	7.0	36.0	3.0	14.0	—	—	—	—	—	—	100.0	536
1972年(男子)	38.0	—	7.0	—	11.0	29.0	2.0	13.0	—	—	—	—	—	—	100.0	442
1976年(男子)	30.9	0.3	8.2	—	6.7	39.0	3.4	11.6	—	—	—	—	—	—	100.0	803
1977年(女子)	28.6	0.2	10.9	—	4.7	38.9	3.1	6.3	—	—	—	—	—	7.3	100.0	615
1979年(男子)	31.1	0.4	7.3	—	7.4	38.6	2.7	10.8	—	—	—	—	—	1.7	100.0	840
1980年(男子)	30.6	0.1	9.6	—	7.6	37.1	3.4	9.4	—	—	—	—	—	2.2	100.0	785
1981年(男子)	32.0	0.1	8.6	—	6.7	36.3	2.8	9.9	—	—	—	—	—	3.5	100.0	765
1982年(女子)	24.8	0.3	17.0	—	2.8	41.1	3.5	5.8	—	—	—	—	—	4.7	100.0	706
1983年(男子)	28.4	0.1	7.4	—	4.9	42.5	3.2	10.3	—	—	—	—	—	3.2	100.0	756
1984年(男子)	25.5	—	8.0	—	6.1	45.7	3.3	8.8	—	—	—	—	—	2.5	100.0	962
〃 (女子)	25.0	—	12.5	—	1.1	52.3	2.3	5.7	—	—	—	—	—	1.1	100.0	88
1991年(男子)	18.7	5.3	—	—	3.3	50.4	3.1	12.5	—	—	—	5.5	—	1.3	100.0	819
〃 (女子)	12.1	4.5	—	—	3.8	48.5	1.5	16.7	—	—	—	9.1	—	3.8	100.0	132
1993年(男子)	22.3	0.2	3.1	—	5.2	51.1	2.2	9.8	—	—	—	4.8	—	1.4	100.0	871
〃 (女子)	14.9	0.6	5.0	—	3.1	55.9	1.9	11.2	—	—	—	5.6	—	1.9	100.0	161
1994年(男子)	23.8	0.3	3.6	—	4.4	49.6	1.9	9.7	—	—	—	5.6	—	1.2	100.0	1,008
〃 (女子)	25.6	—	4.8	—	2.9	48.3	1.0	10.6	—	—	—	4.3	—	2.4	100.0	207
1995年(男子)	20.5	0.4	3.2	—	3.7	40.4	1.8	7.5	—	—	—	—	19.6	2.9	100.0	1,056
〃 (女子)	17.7	0.4	6.5	—	3.0	35.8	1.7	6.5	—	—	—	—	26.7	1.7	100.0	232
1996年(男子)	20.9	0.3	—	3.9	5.5	—	—	—	53.1	2.4	10.3	—	—	3.6	100.0	974
〃 (女子)	18.7	0.8	—	5.7	2.8	—	—	—	57.3	1.2	11.4	—	—	2.0	100.0	246
1997年(男子)	22.7	0.5	—	4.2	5.8	—	—	—	53.6	1.2	9.6	—	—	2.4	100.0	950
〃 (女子)	20.2	0.4	—	4.8	1.2	—	—	—	53.6	4.0	12.5	—	—	3.2	100.0	248
1998年(男子)	22.0	0.3	—	6.6	5.1	—	—	—	51.5	2.1	9.2	—	—	3.2	100.0	918
〃 (女子)	23.6	0.7	—	9.0	4.1	—	—	—	49.8	0.7	10.5	—	—	1.5	100.0	267
2000年(男子)	27.2	0.9	—	5.2	5.6	—	—	—	43.9	1.6	11.5	—	—	4.1	100.0	806
〃 (女子)	22.9	0.4	—	7.2	3.0	—	—	—	47.9	3.4	11.4	—	—	3.8	100.0	236
2001年(男子)	23.9	0.9	—	4.0	6.3	—	—	—	45.6	2.6	12.7	—	—	3.9	100.0	741
〃 (女子)	19.9	—	—	2.0	6.0	—	—	—	54.2	3.0	10.9	—	—	4.0	100.0	201

IV. 通学・住居

現在の居住地は73.5%が「都内」

「賃貸マンション、アパート（バスつき）」は72.7%、後期課程の女子では79.2%

「通学所用時間」は平均48.4分、自宅生は自宅外生の2倍以上の69.2分

都内在住者は73.5%で、「23区内」58.9%、「23区外」14.6%となっている（資料1—IV—1表）。

自宅生の現住所分布は、東京都49.2%（23区内33.6%、23区外15.6%）、神奈川県22.8%、埼玉県14.5%、千葉県12.5%の順で、前回（2000年）調査との比較では、23区内で2.2ポイント、千葉県で1.4ポイント減少し、23区外で3.1ポイント、埼玉県で2.0ポイント、神奈川県で1.1ポイント増加している。

自宅外生の現住所分布を課程別にみると、前期課程は「世田谷・渋谷・目黒」が31.7%、「23区外」が22.8%、「中野・杉並・新宿」が20.5%、「台東・文京・豊島」が11.2%、後期課程では「台東・文京・豊島」が45.8%、「板橋・練馬・北」が21.5%、「世田谷・渋谷・目黒」が8.4%と続き、前回調査同様上位に分布している。分布を前回調査と比較すると、前期課程の上位区で「世田谷・渋谷・目黒」が3.2ポイント、「23区外」が1.7ポイント、「中野・杉並・新宿」が3.7ポイント増加し、「台東・文京・豊島」が5.6ポイント減少している。後期課程の上位区では「台東・文京・豊島」が2.4ポイント、「板橋・練馬・北」が3.5ポイント増加し、「世田谷・渋谷・目黒」が1.8ポイント減少している（図5—1～2、資料1—IV—1表）。

自宅外生の住居区分は「賃貸マンション・アパート（バスつき）」が72.7%で最も多く、他は「その他の寮」9.2%、「アパート（バスなし）」6.5%、「東大寮・三鷹国際学生宿舎」5.3%が続いている。前回調査と比較すると、「分譲マンション、賃貸マンション・アパート（バスつき）」は全体で78.5%から74.7%に3.8ポイント減っており、男子が3.5ポイント減って73.7%、女子が5.1ポイント減って78.6%となっている（図6—1～2、資料1—IV—2表）。

通学に利用する交通機関では、「自転車」の利用が比較的多く、第1位の回答と第2位の回答を合わせた全体で見ると、「電車」86.3%に次いで44.3%に上っている（資料1—IV—3表）。

通学所用時間は、片道平均48.4分で前回調査より若干少なくなっている。自宅生は自宅外生30.8分の倍以上の69.2分を要している（資料1—IV—4表）。

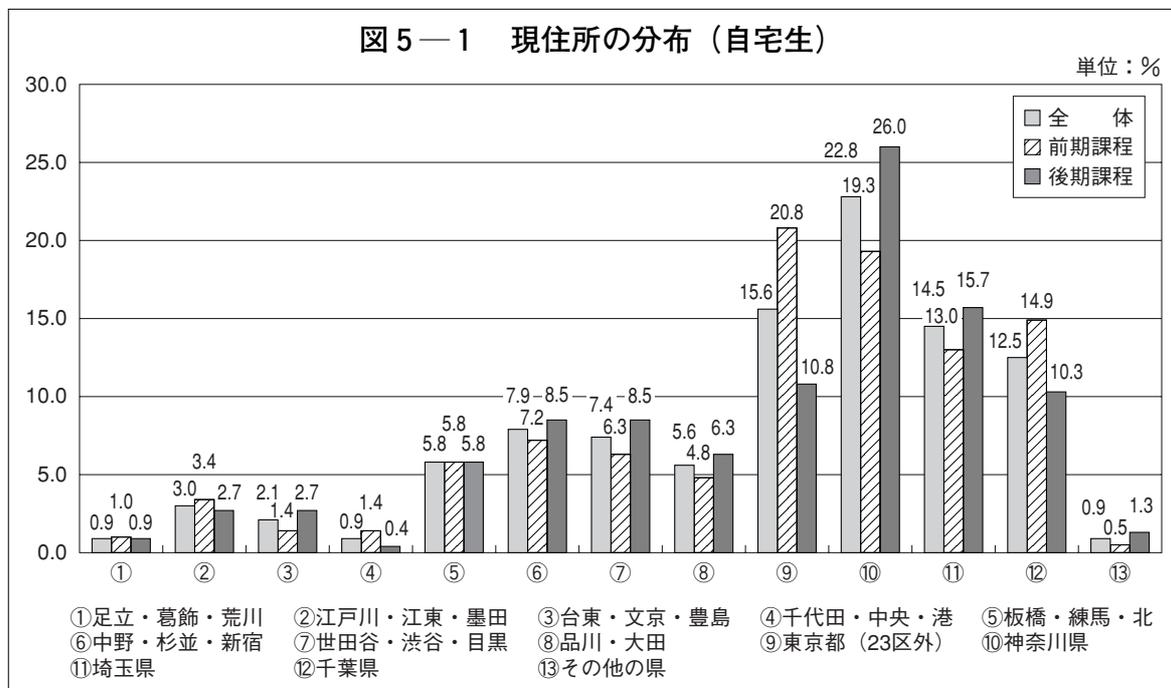


図5—2 現住所の分布（自宅外生）

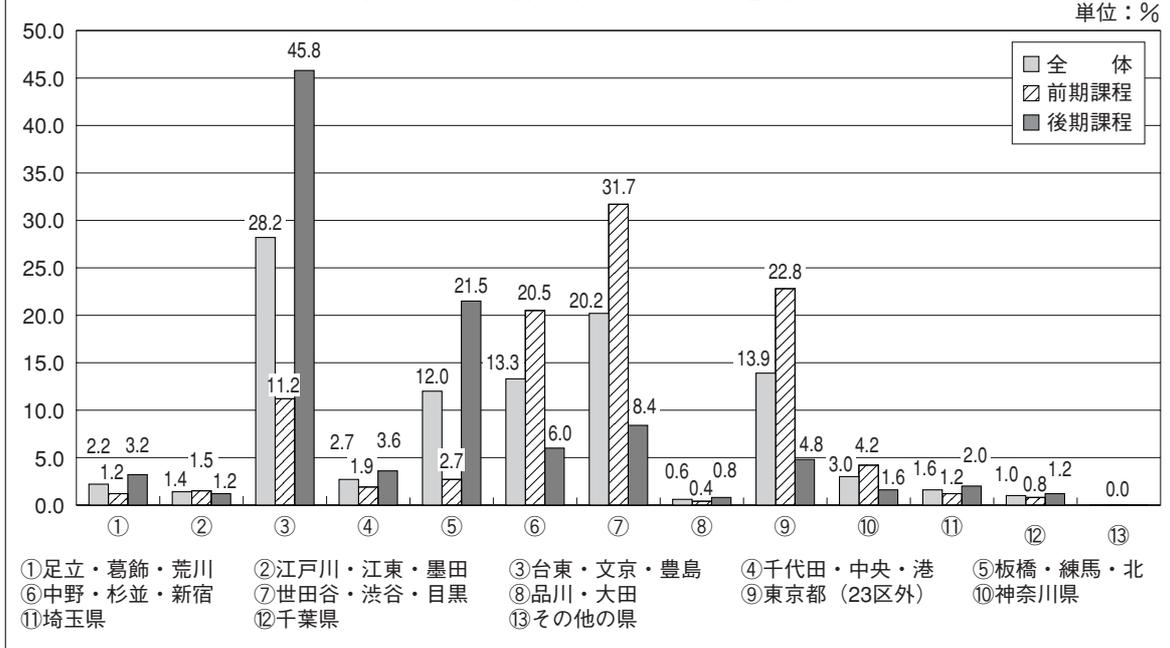


図6—1 自宅外生の住居区分の推移（男子学生）

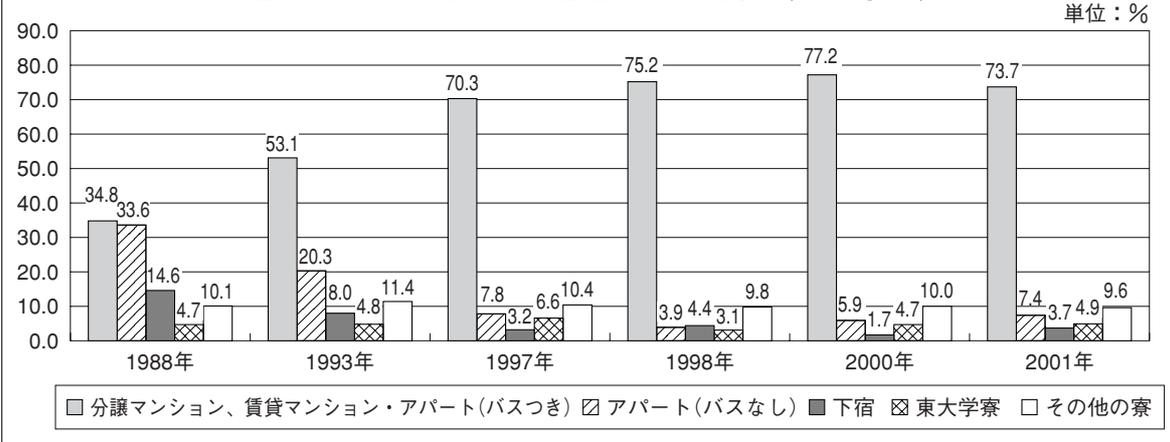
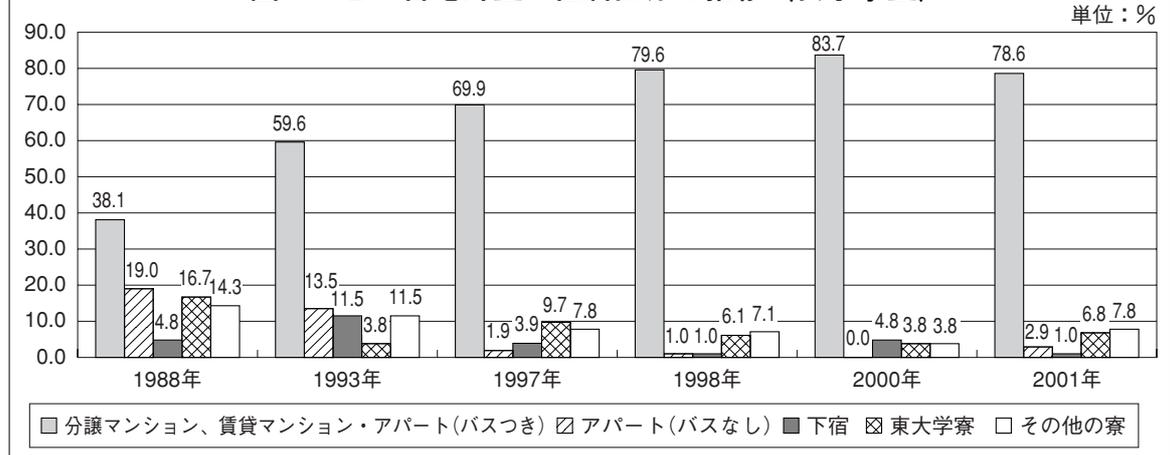


図6—2 自宅外生の住居区分の推移（女子学生）



V. 奨 学 金

奨学金を希望している者40.6%
 奨学生のうち85.7%が日本育英会から貸与を受けている
 用途は「生活費」「勉学費」「教養・娯楽費」の順

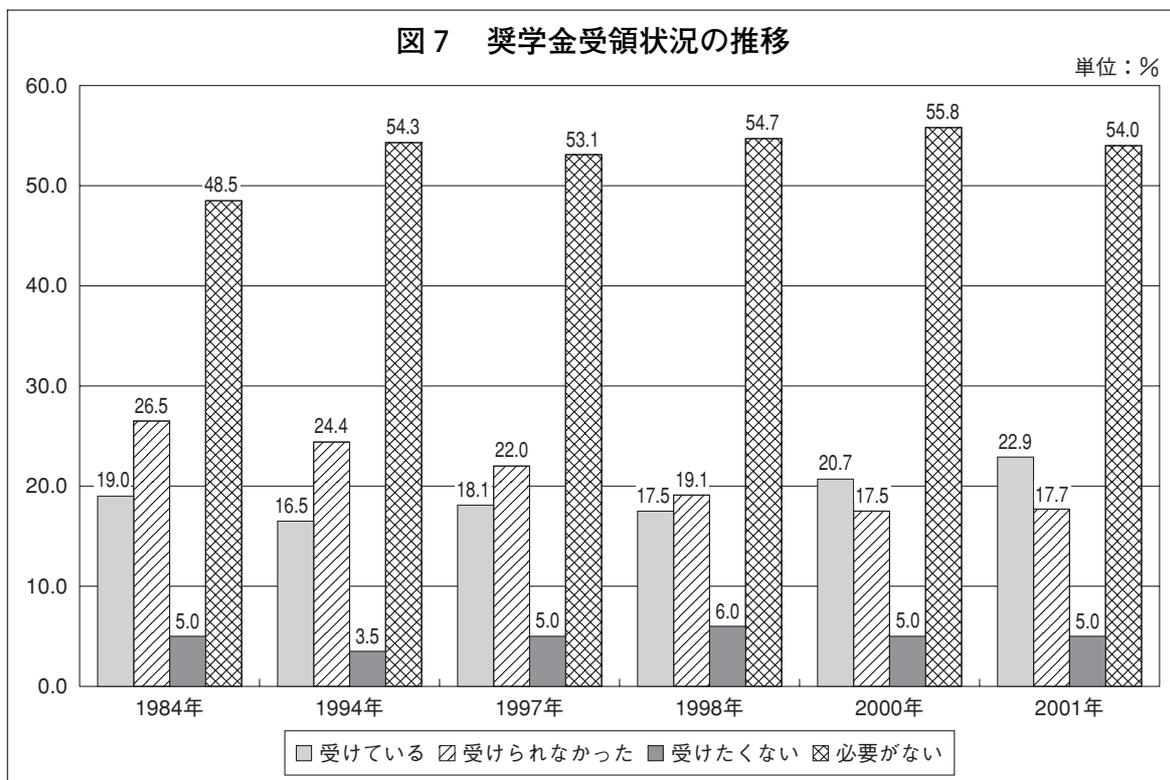
奨学金を希望している学生は、「受けている」22.9%「受けたいが受けられなかった」17.7%合わせて40.6%となり、前回（2000年）調査と比較すると38.2%から2.4ポイントの増加となっている（図7、資料1—V—1表）。

「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由としては、「出願はしたが採用されなかった」24.8%が最も多く、次いで、「資格がない」22.0%、「貸与なので申請しなかった」21.5%、「事務手続きが煩雑だから」14.0%、「掲示等に気が付かなかった」10.7%となっている（資料1—V—2表）。

受領している奨学金の内訳は、「日本育英会のみ」が70.9%で、これに「他の奨学金との併用」14.8%を含めると、日本育英会から貸与を受けている奨学生は85.7%を占め、前回調査と比べると0.9ポイント増加している（資料1—V—3表）。

奨学金はどんな面で役立っているかについては（2つまで選択可）、例年どおり「家庭の経済的負担が軽減される」が81.0%で最も多く、「奨学金があるので生活が成り立っている」28.7%、「多少ともゆとりのある生活ができる」26.9%、「アルバイトが軽減される」25.0%が上位になっている（資料1—V—4表）。

奨学金の主たる支出目的（用途）は（3つまで選択可）、前回調査とほぼ同順で「生活費（衣・食・住居費）」76.9%、「勉学費」47.7%、「教養・娯楽費」43.1%、「授業料」32.4%、「貯金」18.1%の順となっている。また前回調査との比較では、「授業料」が3.7ポイント、「技術資格等取得の費用」が2.8ポイント増加しており、「教養・娯楽費」「旅行（帰省旅行も含む）」「耐久消費財購入費用」がそれぞれ2.3ポイント、「勉学費」が1.8ポイント減少している（資料1—V—5表）。



VI. アルバイト

アルバイトをしている者79.2%
「家庭教師」が約半数、女子では「販売・セールス・サービス業」が続く
週に11.1時間、月額で47,600円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体の79.2%（「継続的」53.6%、「臨時」10.2%、「継続的+臨時」15.4%）で、前回（2000年）調査と比較し全体で1.5ポイント減少している。また、男子学生の77.3%に対し、女子学生は86.1%を占め女子が男子を上回っている（資料1-VI-1表）。

アルバイトの種類は（2つまで選択可）「家庭教師」48.4%がほぼ半数で、男子の場合は「家庭教師」46.1%、「塾講師」33.5%、「販売・セールス・サービス業」21.6%、「肉体労働」16.6%と続き、女子では「家庭教師」56.1%、「販売・セールス・サービス業」38.7%、「塾講師」30.6%と続いている。（資料1-VI-2表）。

アルバイトの従事時間数は1週間当たり11.1時間、1か月当たりの収入額は47,600円となっている。前回調査と比べると、時間では週0.5時間増え、収入では月額300円減少している（資料1-VI-3表）。

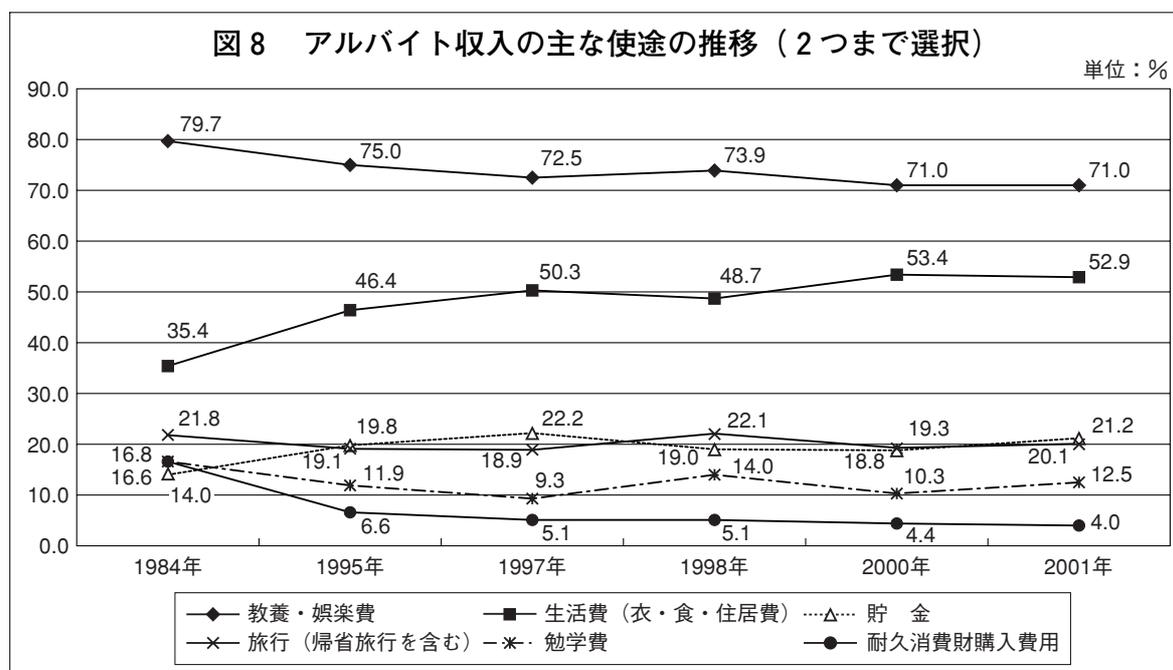
アルバイトの紹介者は（2つまで選択可）「友人・知人等」41.8%、「新聞広告・アルバイト広告誌」32.3%、「アルバイト先と直接」25.9%、「大学の担当事務」13.1%、「インターネット」11.1%と続いている（資料1-VI-4表）。

アルバイトをした理由では、「学生生活を楽しむため」を挙げている学生が38.9%で最も多いが、前回調査より2.2ポイント下がっている。次いで「家庭の経済的負担を軽減するため」28.2%、「社会経験のため」26.4%と続き、前回調査と同順である（資料1-VI-5表）。

アルバイト収入の主たる使途は（2つまで選択可）「教養・娯楽費」が71.0%で前回調査同様最も多く、次いで「生活費（衣・食・住居費）」52.9%、「貯金」21.2%、「旅行（帰省旅行も含む）」20.1%、「勉学費」12.5%の順となっているが、「旅行（帰省旅行も含む）」では女子が男子を14.4ポイント上回っている（図8、資料1-VI-6表）。

継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんかという問いに、「かなり妨げになった」8.6%と回答した学生と「多少妨げになった」42.6%と回答した学生を含めると51.2%になるが、前回調査と比べると4.1ポイント減少している（資料1-VI-7表）。

現在の暮らし向きについては、83.1%の学生が普通以上であると答えている（内訳は「かなり楽な方」21.2%、「やや楽な方」25.5%、「普通」36.4%）反面、2.9%の学生が「大変苦しい方」と答えている（資料1-VI-8表）。



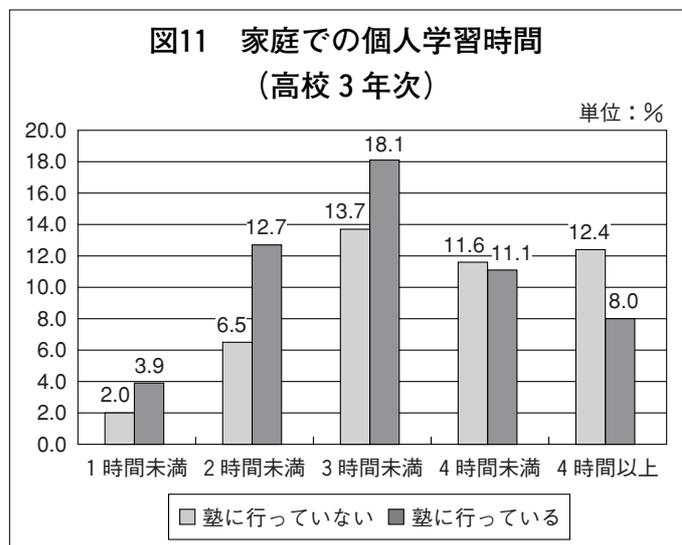
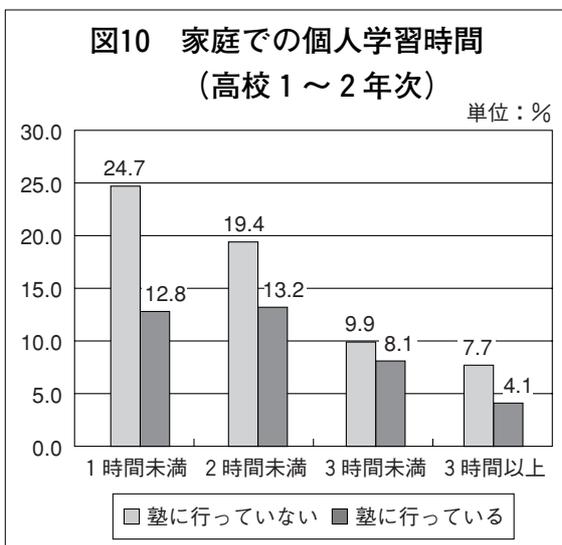
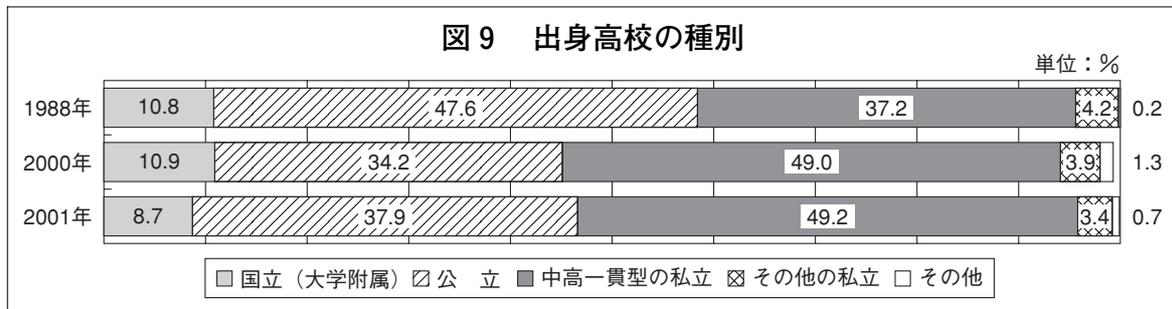
Ⅶ. 入学までの学習

出身高校の種別は、「公立」が37.9%、「中・高一貫型の私立」が49.2%
 「塾に行っていない」が高校1～2年次で61.8%、高校3年次で46.2%
 高校1～2年のときに部活動や生徒会活動をやっていた学生は75.9%
 学習意欲を高めるのに影響が大きかったと思う人は、小学校時代が「母親」54.1%、中学・高校時代が「親しい友人」59.6%で1位
 高い学力を身につける要因の1位は、「学校全体の、勉強をする雰囲気」

入学者の出身高校は、「国立（大学附属）」8.7%、「公立」37.9%、「中・高一貫型の私立」49.2%、「その他の私立」3.4%、「その他」・「無回答」合わせて0.8%となっており、前回（2000年）調査と同様「中・高一貫型の私立」が約半数を占めている。1988年から見ると、公立は減少し、中・高一貫型の私立の割合が上昇している（図9、資料1—Ⅶ—1表）。

学校外での学習については、「塾（家庭教師を含む）に行っていない」が高校1～2年次で936人中578人（61.8%）、を占める。塾での学習時間ごとに人数の割合を見ると、1日平均1時間未満が13.7%、2時間未満が13.1%、3時間未満が8.5%、3時間以上が2.9%となる。家庭での個人学習時間を、塾に行っていない人について見ると、1時間未満が40.0%、2時間未満が31.5%、3時間未満が16.1%、3時間以上が12.5%である。この家庭での個人学習時間の分布は、塾に行っている人を含めた場合でも、あまり変わらない（図10、資料1—Ⅶ—2表）。

高校3年次についてみると、「塾に行っていない」は、935人中432人（46.2%）となり半数以下となる。塾での学習時間ごとの割合は、1日1時間未満が11.3%、2時間未満が16.1%、3時間未満が14.9%、4時間未満が8.2%、4時間以上が3.2%である。家庭での個人学習時間は、塾に行っていない人において、1時間未満が4.4%、2時間未満が14.1%、3時間未満が29.6%、4時間未満が25.0%、4時間以上が26.9%となり、1～2年次に比べるとかなり多いほうにシフトしてくる。塾に行っている人たちの、家庭での個人学習時間は、2時間～3時間くらいが最も多い（図11、資料1—Ⅶ—4表）。



高校1～2年のときに部活動や生徒会活動をやっていた学生は、「文化部」27.5%、「運動部」44.2%、「生徒会活動」4.2%と合わせて75.9%に上っている。部活動を男女別に見ると、男子(741人)のうち文化部が21.5%、運動部が48.9%であるのに対して、女子(201人)は文化部が49.8%で運動部が26.9%と、逆の傾向が見られる(資料1—Ⅶ—3表)。

学習意欲を高めるのに影響が大きかったと思う人については、小学校時代は「母親」54.1%、「塾の教師や家庭教師」36.0%、「父親」32.4%と続くのに対し、中学・高校時代は「親しい友人」59.6%、「学校の教師」54.0%、「学級(あるいは学校)全体」50.0%と続き、学校をめぐる人間関係の影響が大きくなる傾向が見える(図12—1～2、資料1—Ⅶ—5表)。

高い学力を身につけるのに重要だと思っていた要因として、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると、1位は、「学校全体に、勉強をする雰囲気があった」67.8%であった。その後には、「家庭に教養的なことや学習を奨励する雰囲気があった」60.9%、「学校の授業で教師の教え方がよかった」58.9%、「塾、予備校、家庭教師などでレベルの高い指導を受けた」58.8%が続いている(図13、資料1—Ⅶ—6表)。

図12—1 学習意欲をたかめるのに影響が大きかったと思う人(小学校時代)

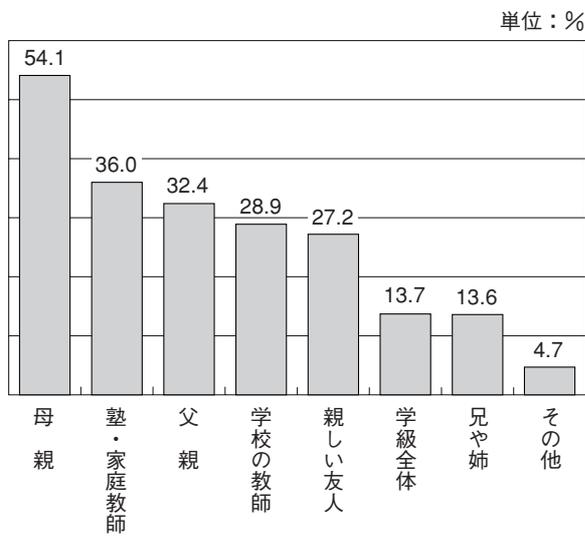


図12—2 学習意欲をたかめるのに影響が大きかったと思う人(中学・高校時代)

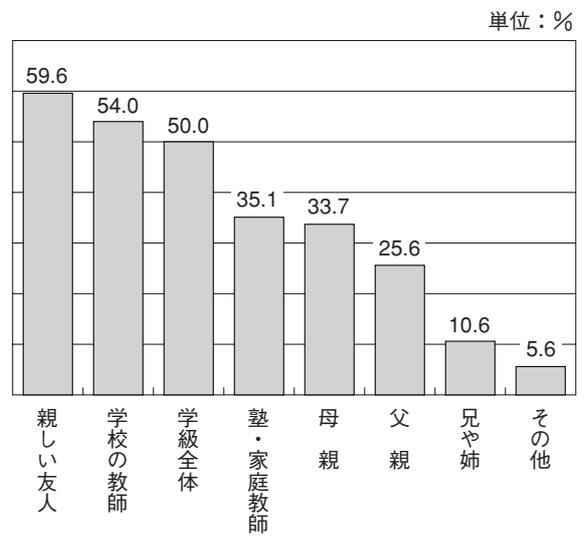
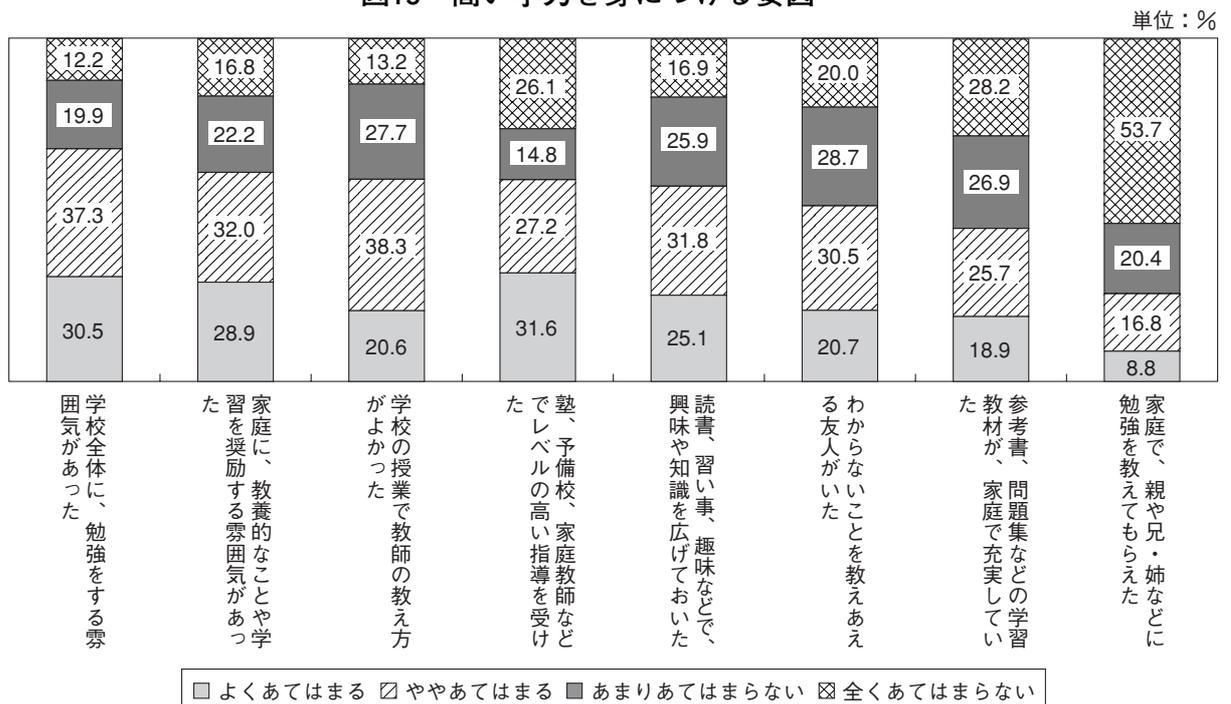


図13 高い学力を身につける要因



Ⅷ. 入学・進学・学業

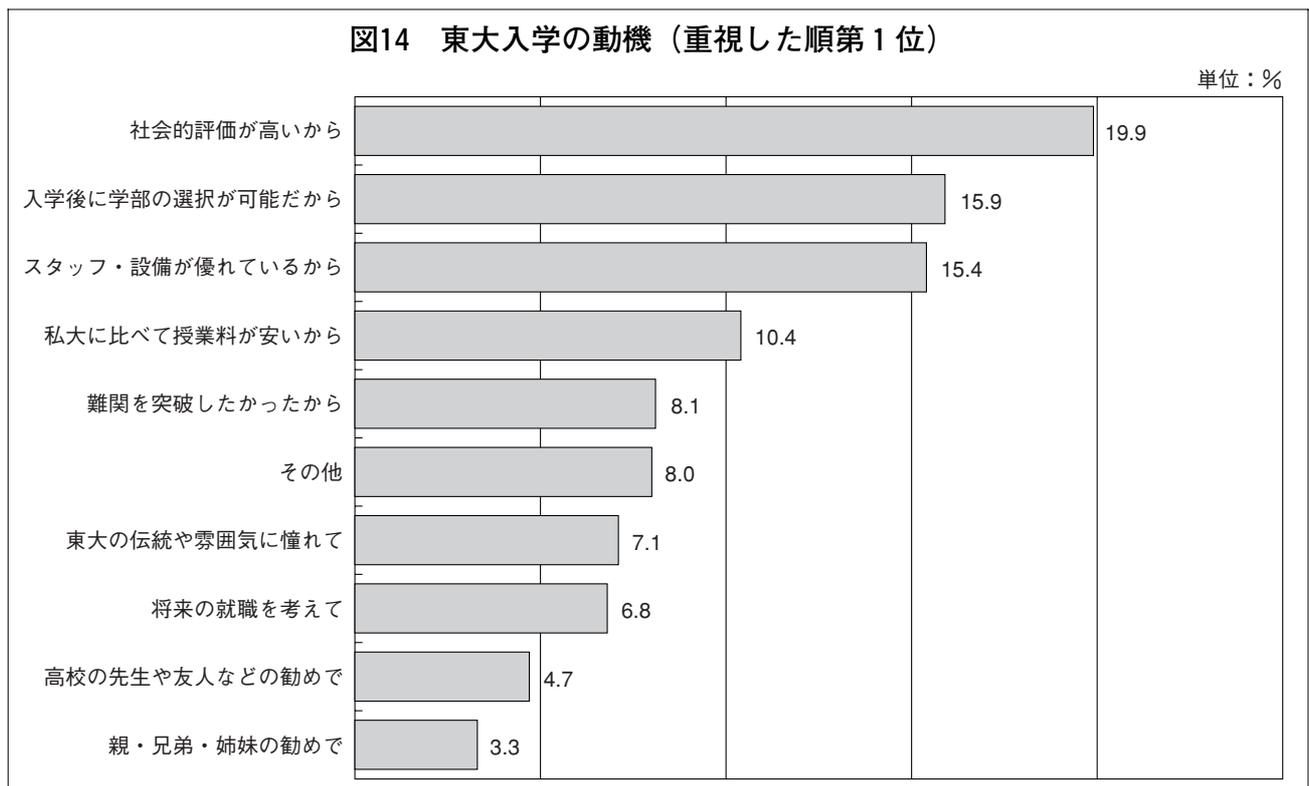
Ⅷ―1. 入学について

本学に「どうしても入りたかった」は44.3%
 入学の動機（第1位）は今回も「社会的評価が高いから」
 入学時に進学希望学部までを62.9%が決める

東大に入学することを、どの程度希望していたかの間では、「どうしても入りたかった」と回答する学生は44.3%で、前回（2000年）調査から5.2ポイント減少した。男女の比較では、女子46.8%が男子43.6%を3.2ポイント上回っている。「だめなら他大学でもよいと思った」では、逆に男子36.0%が女子29.4%を6.6ポイント上回っている（資料1―Ⅷ―1表）。

東大入学の動機（第1位）は、「社会的評価が高いから」が1993年（第43回）調査以降最も多かった前々回（1998年）調査と同じ19.9%で、前回調査より0.1ポイント上がった。「入学後に学部の選択が可能だから」15.9%、「スタッフ・設備が優れているから」15.4%、「私大に比べて授業料が安いから」10.4%が続いている。「東大の伝統や雰囲気に憧れて」7.1%は1990年（第40回）調査で第1位（16.8%）であったが、前々回調査に続いて10%を切った（図14、資料1―Ⅷ―2表）。

入学時に進学する学部・学科等を決めていた学生は62.9%で、前回調査から3.9ポイント下がったが、学科等まで決めていた学生は29.4%とほぼ同じ値となっている（資料1―Ⅷ―3表）。



Ⅷ— 2. 進学について

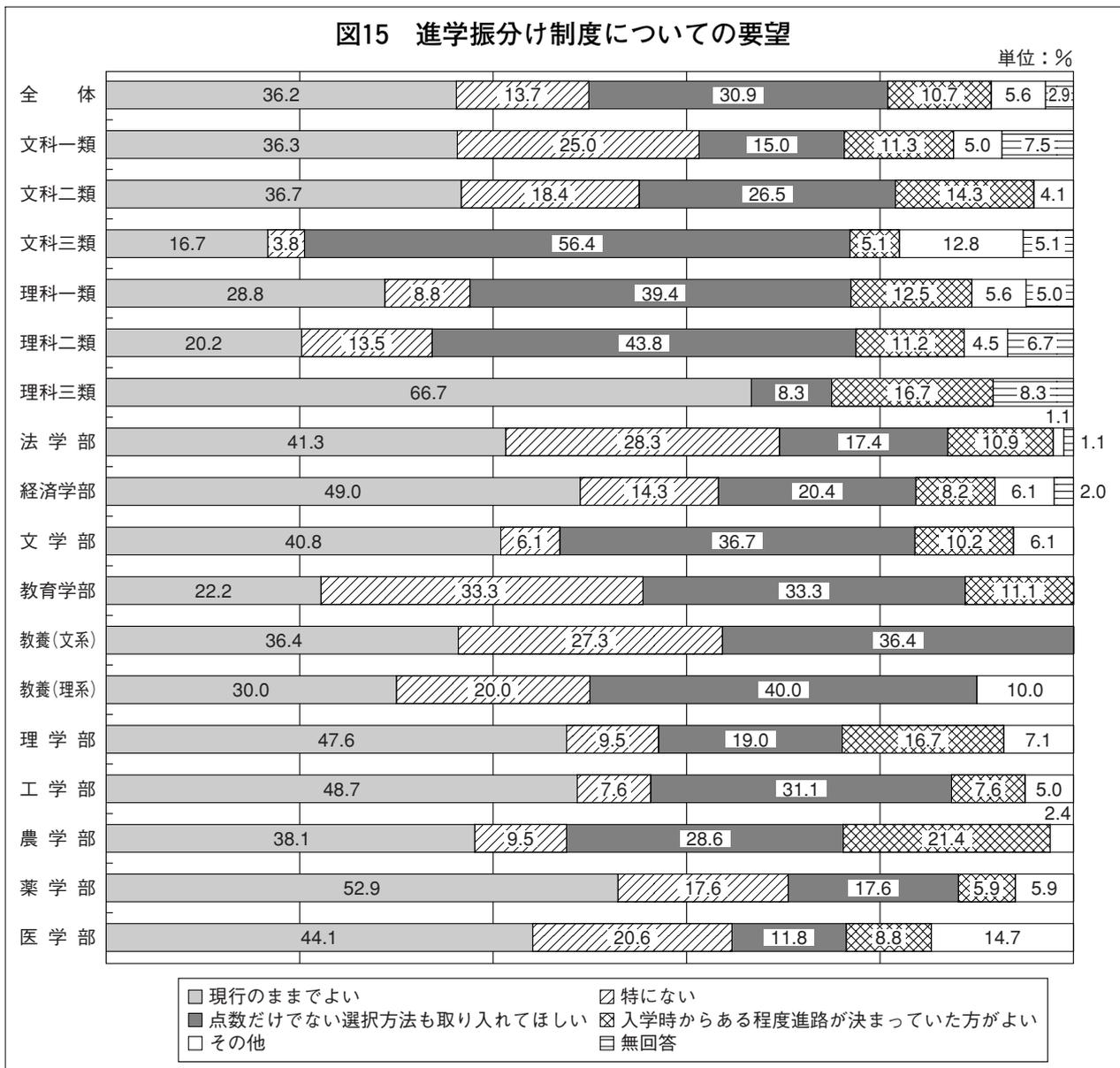
「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは93.4%
 在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」しているのは71.1%
 進学振分け制度「現行のままでよい」は36.2%

学部・学科等の選択に際して重視したもの（2つまで選択可）は、「自分が惹きつけられた学問分野であること」が79.1%で、前回調査から2.8ポイント下がったが、次に続く「将来なりたい職業に就くのに必須であること」28.1%、「社会のためになる分野であること」22.6%等の項目を大きく引き離している（資料1—Ⅷ—4表）。

進学の決定については、「希望通り決定した」79.9%、これに「ほぼ希望通り決定した」13.5%を合わせると、総じて希望通り進学したと回答した学生は93.4%に達し、前回調査より4.4ポイント上回っている（資料1—Ⅷ—5表）。

現在在籍している学部・学科等に満足しているかについては、「満足している」が前回調査より0.7ポイント減の37.8%で、これに「まあまあ満足している」33.3%を合わせると71.1%となり、94年調査以降満足している学生が70%を超えている（資料1—Ⅷ—6表）。

進学振分け制度についてどのように考えているかでは、「現行のままでよい」が36.2%で、「特にない」13.7%を合わせても49.9%で、半数に近い学生が何らかの変更を希望している。特に前期課程では、必要単位を修得すれば特定学部への進学が可能という仕組みとはなっていない文科三類、理科一類、二類が、後期課程では、文学部と農学部が何らかの変更を希望する割合が高い（図15、資料1—Ⅷ—7表）。



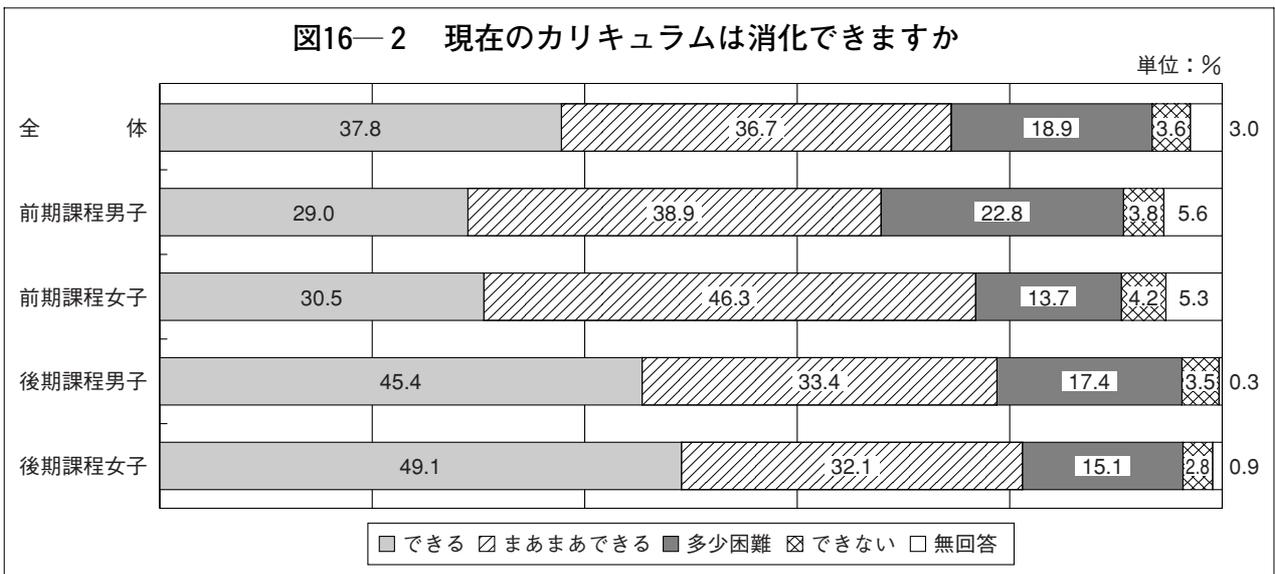
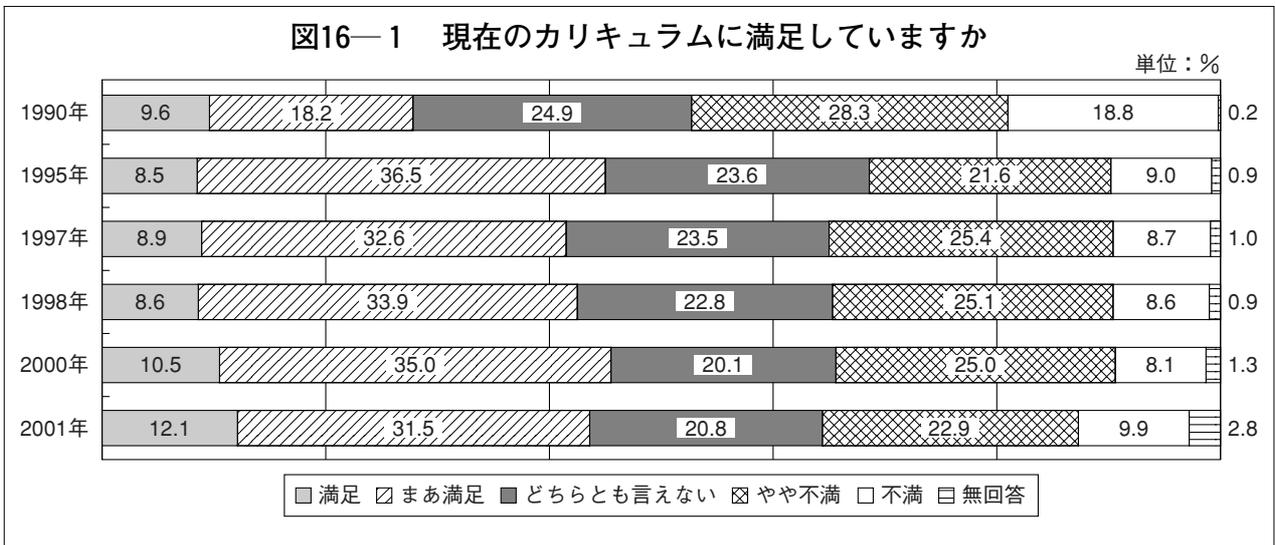
Ⅷ—3. カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は43.6%
カリキュラムの消化が「できる・まあまあできる」は74.5%

現在のカリキュラムに満足しているかでは、総じて満足していると回答した学生は43.6%で、総じて不満と回答した32.8%を上回っている。1990年調査では不満が20ポイント程上回ったが、1994年調査以降は逆転し、次第に満足していると回答する学生の方が多くなった。前回調査ではその差が12.4ポイント、今回の調査ではその差は少し縮まり10.8ポイントになった（図16—1、資料1—Ⅷ—8表）。

カリキュラムの消化ができていのかどうかについては、「できる」「まあまあできる」を合わせると74.5%になり、前回調査より1.5ポイント上回っている。他方、カリキュラムの消化に困難を感じる学生は22.5%で、年々増加の傾向にあったものが96年調査とはほぼ同じ割合となった前回調査より3.4ポイント減少している（図16—2、資料1—Ⅷ—9表）。

カリキュラムの消化が「多少困難」・「できない」と回答した理由第1位は、前回調査同様「授業の内容が高すぎて理解できない科目がある」を32.5%が挙げている。次いで「授業に対する自分の意欲や努力が足りない」が19.3%、「進学・卒業に必要な単位が多過ぎる」と「授業の準備と復習の時間が十分とれない」が13.7%で上位となっている（資料1—Ⅷ—10表）。



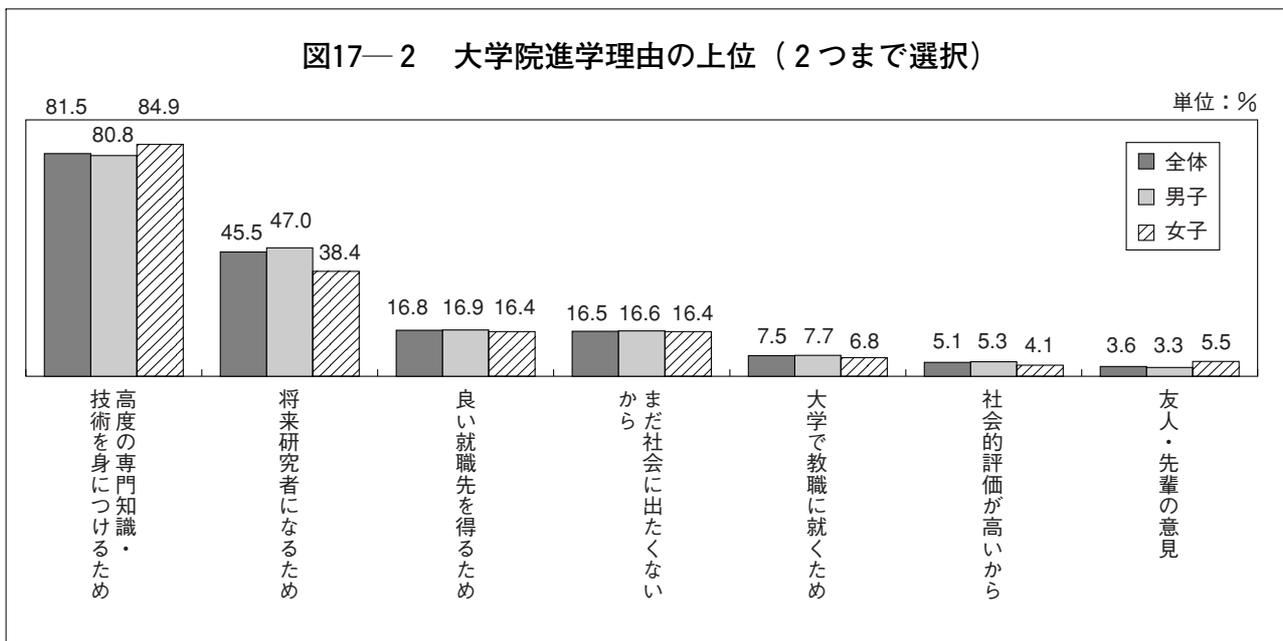
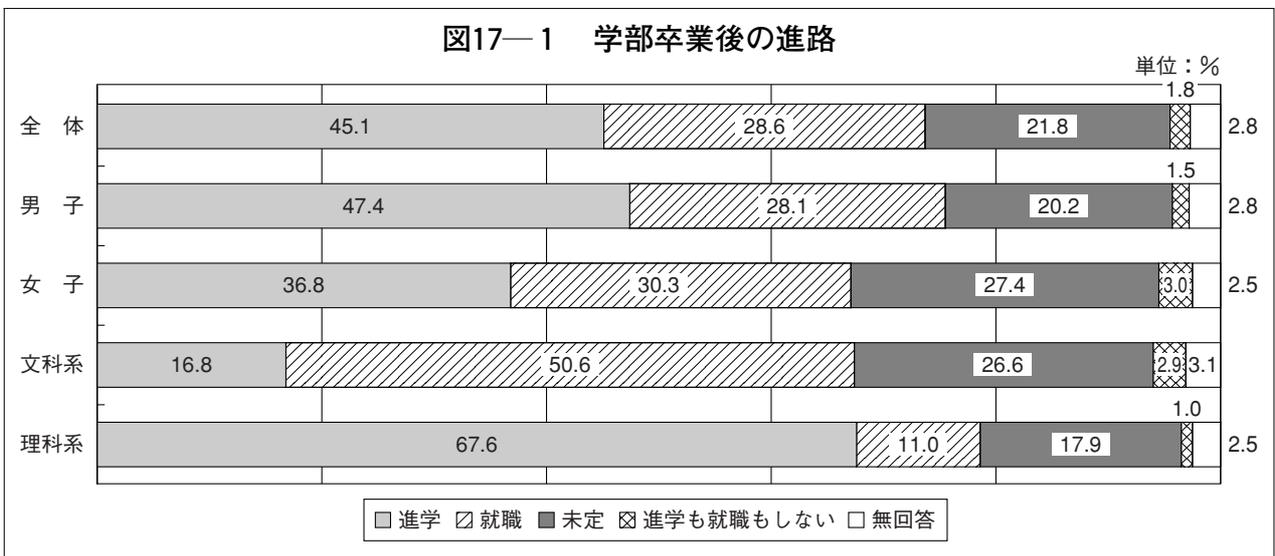
Ⅷ— 4. 学部卒業後の進路等について

文科系は就職希望者が、理科系では進学希望者が半数を超える
 進学希望者では、文科系は博士課程、理科系は修士課程までの予定者が半数を超える。
 主な進学理由第1位は、文科系、理科系共に「高度の専門知識・技術を身につけるため」

学部卒業後、どのような進路を予定しているかについては「進学する」45.1%、「就職する」28.6%、「まだわからない」21.8%で、前回調査より「進学する」が0.5ポイント、「就職する」が1.2ポイント減少し、「まだわからない」が0.5ポイント、「無回答」が1.6ポイント増加している。文科系と理科系の比較では、「進学する」は理科系67.6%に対し文科系16.8%、「就職する」は文科系50.6%、理科系11.0%と割合が逆転している（図17— 1、資料1—Ⅷ—11表）。

進学予定者のうち「大学院修士課程」までが59.8%、「大学院博士課程」までが36.9%となっている。ただし、文科系は「博士課程」までを60.0%、理科系では「修士課程」までを64.5%の学生が希望している（資料1—Ⅷ—12表）。

大学院へ進学する理由としては、「高度の専門知識・技術を身につけるため」が81.5%で最も多く、次いで「将来研究者になるため」45.5%、「良い就職先を得るため」16.8%、「まだ社会に出たくないから」16.5%と続いている（図17— 2、資料1—Ⅷ—13表）。



Ⅸ. ボランティア活動

ボランティア活動を経験した者は3人に1人
その活動内容は「老人福祉・介護等」が第1位
ボランティア活動を行おうとしたときに必要だと思うものは「まとまった時間」

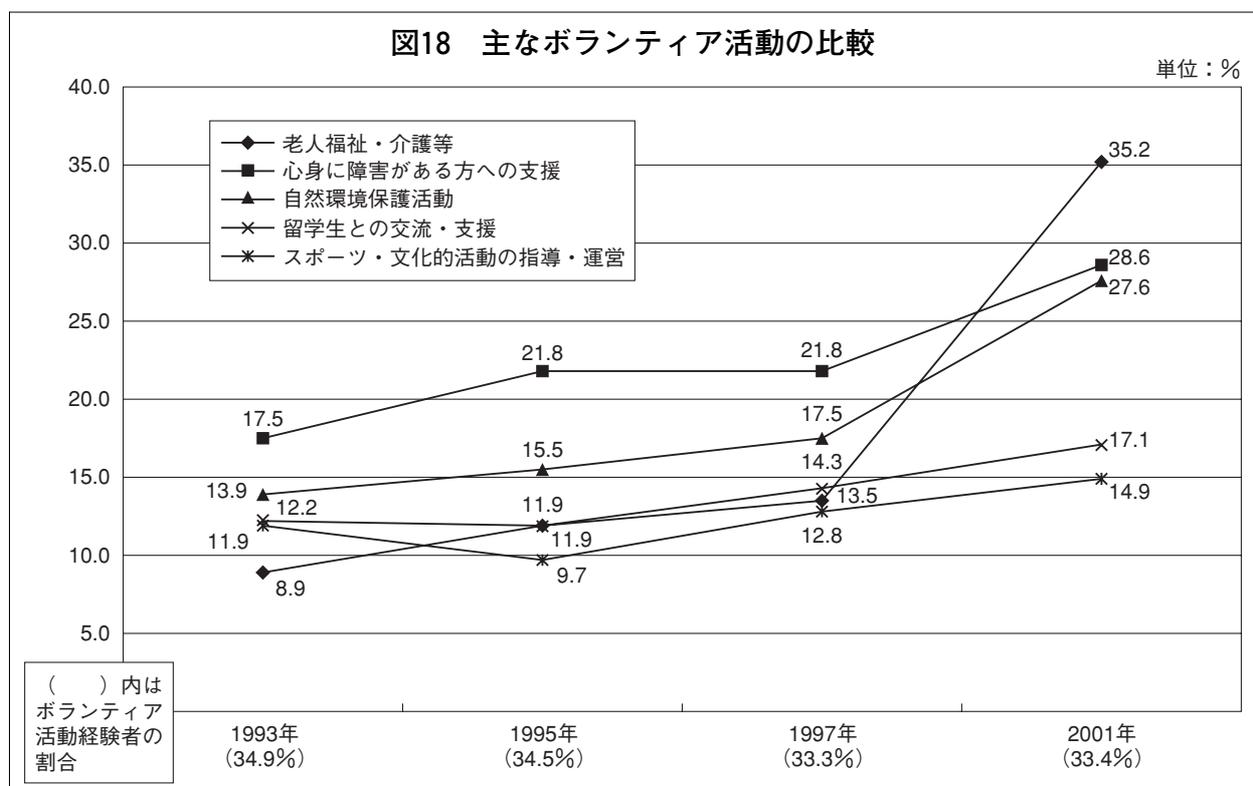
ボランティア活動をしたことがありますかとの問いに「ある」と答えた学生は33.4%で、前回（1997年）調査とほぼ同じ割合であった。なお、今回はボランティア回答項目の見直しを行い、前回調査にあった「献血」「骨髄バンクへの登録」を除き、「青年海外協力隊での活動」「NGOなどの組織での活動」を新たに加えた（資料1—Ⅸ—1表）。

ボランティア活動をしたことがあると答えた学生がたずさわったボランティア活動の種類は（複数項目選択可）、「老人福祉・介護等」が35.2%で最も多く、次いで「心身に障害がある方（子供を含む）への支援」28.6%、「自然環境保護活動」27.6%、「児童福祉に関する支援」17.5%、「留学生との交流・支援」17.1%の順となっている。回答項目が同一ではないので厳密な比較はできないが、全ての項目で前回調査を上回っている。また、「老人福祉・介護等」をみると前回より21.7ポイントの大幅な増加がみられる。これは、平成10年4月新入学生から、中学校教諭普通免許状の取得要件として「介護等の体験」が義務づけられたことに係わりがあると思われる（図18、資料1—Ⅸ—2表）。

今後、ボランティア活動をしてみたいと思うと答えた学生は62.2%で、前回より3.1ポイント減少している（資料1—Ⅸ—3表）。

ボランティア活動を自分で行おうとしたときに必要だと思うことは（2つまで選択可）、「まとまった時間」74.4%、「活動の情報提供・呼びかけ」61.8%、「活動参加への大学からの支援」17.2%、「その他」10.4%の順となっている（資料1—Ⅸ—4表）。

大学周辺地域の街づくりや街の活性化の活動に参加したことがある学生は、僅かに3.7%であったが、大学周辺地域との関わりについては、59.0%の学生が「周辺地域から要望があれば応えたい」と答えている（資料1—Ⅸ—5～6表）。



X. 不安・悩み

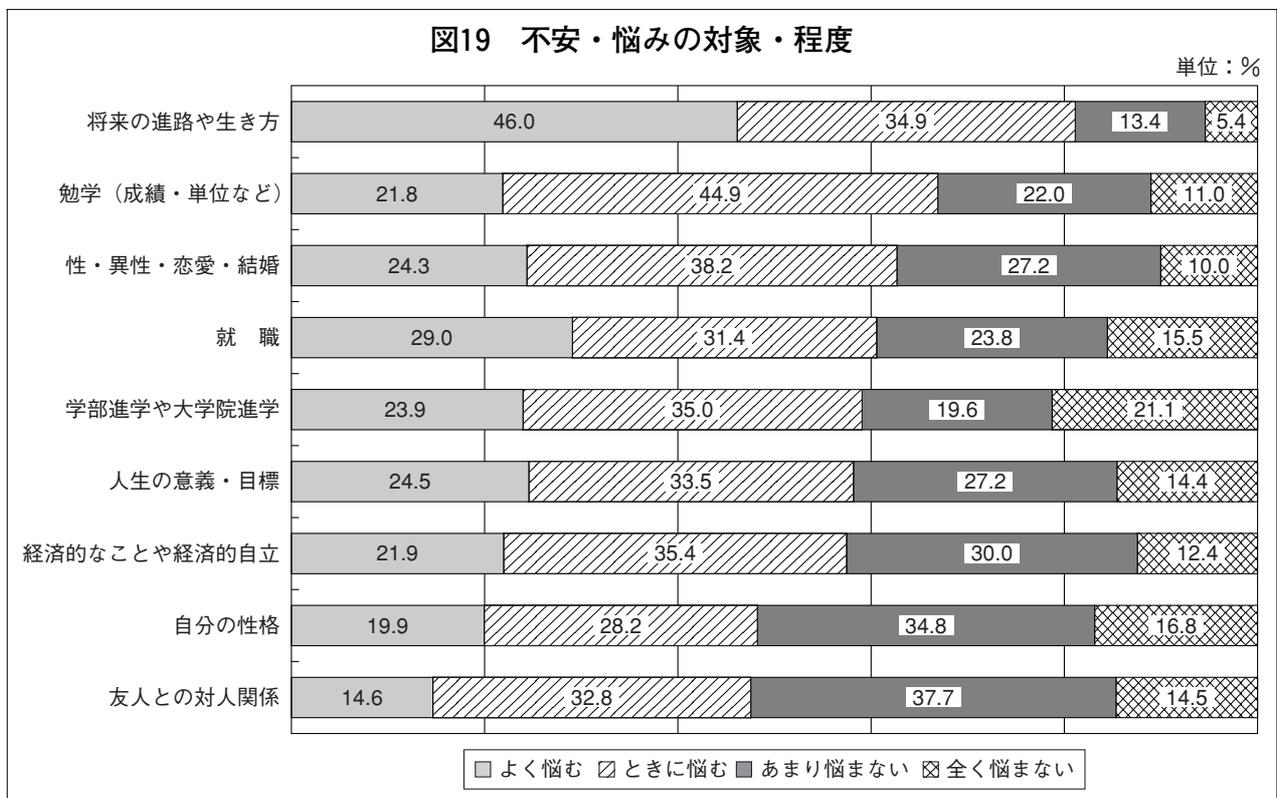
「将来の進路や生き方」に80.9%の学生が悩みや不安を感じている
「よく相談する」相談相手は、恋人、友人、父母で、大学の教職員には、89.3%の学生が「全く相談しない」
「就職指導や進路相談の機能を充実させる」ことを64.4%の学生が望んでいる

学生生活の中で、悩みや不安を感じたりしているものとして、「よく悩む」と答えたものをみると、「将来の進路や生き方」が46.0%で最も多く、「就職」29.0%、「人生の意義・目標」24.5%、「性・異性・恋愛・結婚」24.3%と続き、「ときに悩む」を加えると実に80.9%学生が「将来の進路や生き方」に悩んでいる。また、「よく悩む」「ときに悩む」と答えた学生の男女の比較では、「勉学（成績・単位など）」で男子が2.5ポイント上回っている他は、「経済的なことや経済的自立」が男女同じで、残りの項目全てで女子が上回り、特に「就職」は12.4ポイントも上回っている。（図19、資料1—X—1表）

不安や悩みの相談相手では、「よく相談する」相手は、「恋人」が18.0%で、「大学内のサークルや団体の友人」と「大学外の友人」が15.1%、「父・母」10.5%と続き、「大学の教職員」は僅かに0.3%で最下位となっている。また、これに「ときどき相談する」「たまに相談する」と答えた学生を加えると、「大学外の友人」74.1%、「父・母」68.9%、「大学内のサークルや団体の友人」64.7%と続くが、「恋人」については、恋人がいない学生は答えようがないので46.8%と順位を下げている。（資料1—X—2表）。

最近6ヶ月の間に、体験したり悩んだりしたこととしては、「よく体験する」「ときに体験する」と答えた学生を合わせると、「強い不安に襲われた」47.7%、「気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった」36.4%、「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」35.4%が上位となっている。（資料1—X—3表）。

悩みや不安を解消するための大学の対応として「全くそう思う」「まあそう思う」と答えた学生を合わせると、「就職指導や進路相談の機能を充実させる」64.4%、「学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる」62.5%、「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する」58.0%、「健康相談や保健センターの機能を充実させる」54.8%が半数を超えている（資料1—X—4表）。



XI. 学生生活の満足度

大学に来るのは1週間に「4回」以上が87.3%

大学生生活の目的は、理系は「専門的学問・研究をする」、文系は「豊かな教養を身につける」が第1位
 学生生活の満足度は「住居」が1位、全体では78.1%が満足

1週間のうち大学に来る回数は、「5回」が50.6%で最も多く、「6回」16.2%、「4回」15.6%、「3回」5.5%、「7回」4.9%、「2回」3.5%、「1回」2.2%、「ほとんど来ない」1.3%で、前回（2000年）調査と同順となっている。また、「4回」以上を合わせると87.3%になり、前回調査より0.9ポイントの増となっている（資料1—XI—1表）。

日頃大学に行くときどのように感じますかとの問いに、「行きたい・楽しみ」が15.3%、「どちらかといえば行きたい・楽しみ」が60.7%で合わせると76.0%になる（資料1—XI—2表）。

自分の大学生生活の目的は、第1位が「専門的学問・研究をする」26.6%で最も多く、次いで、「高度な専門知識・技術を身につける」24.3%、「豊かな教養を身につける」19.7%、「学生生活を楽しむ」10.5%、「学歴・資格を得る」6.1%、と前回調査と同順になっている（資料1—XI—3表）。

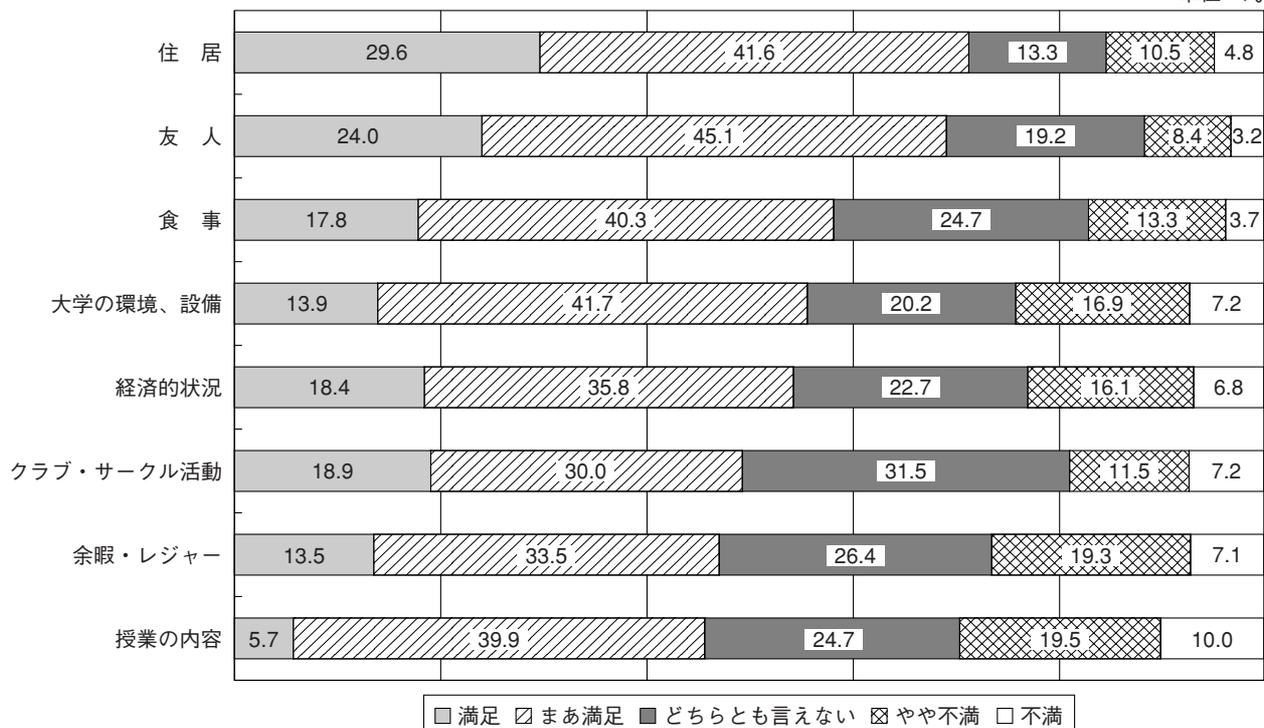
学生生活の満足度については、「満足している」「まあ満足している」と回答した学生の方が、「不満である」「やや不満である」と回答した学生よりも全8項目で上回っている。項目別には、「経済的状況」は「満足している」「まあ満足している」合わせて54.2%と前回調査より1.4ポイント増え、また、「余暇・レジャー」の満足率も前回調査より3.4ポイント増えて47.0%となり、約半数は文化的に満足した生活をしていると考えられる。これに対し、最も不満な内容は「授業の内容」であり、「不満である」と「やや不満である」を合わせると29.5%となる。この結果、講義内容については約3人に1人が改善を望んでいる（図20、資料1—XI—4表—1～8）。

全体として大学生生活に満足しているかどうかの問いに対し、「満足している」29.3%と「まあ満足している」48.8%を合わせると、前回調査と同じ割合の学生（78.1%）が満足していると答えている（資料1—XI—5表）。

いろいろ考えてみて、あなたは幸福ですかの問いには、「幸福だ」54.2%と「どちらかといえば幸福だ」38.3%を合わせて、92.5%の学生が幸福であると答えている（資料1—XI—6表）。

図20 学生生活の諸側面における満足度

単位：%



XII. 社会観

「食料自給率の向上について」は積極的にすすめるべきだと思う
 「人間の生命操作（クローン・遺伝子操作）」は積極的にすすめるべきだと思わない
 「自分の欲望や利益しか考えない人が増えている」と思う

現在の日本社会において、積極的にすすめる（認める）べきだと思うかどうかを9つの項目について尋ねた。「思う」の「5」から「思わない」の「1」までの範囲で、該当する意見の番号を選択してもらった。

「5」と「4」を合わせた回答では、「地方分権について」63.3%、「食料自給率の向上について」63.2%、「公共事業の縮減について」60.8%、「外国人の参政権について」58.9%、「飛び級・飛び入学について」57.6%の順で肯定する学生が過半数を超えている。逆に「人間の生命操作（クローン・遺伝子操作）」では、「1」と「2」を合わせると57.9%となり、過半数の学生が否定的に考えている。該当者平均値でみると、「食料自給率の向上について」と「公共事業の縮減について」が3.8で並び、「地方分権について」が3.7で続いている（図21、資料1—XII—1表）。

現在の日本社会の見方については、7項目のうち、「自分の欲望や利益しか考えない人が増えている」と1項目のみが「5」と「4」を合わせて74.0%と過半数を超え肯定されているが、その他の項目は過去の調査と同様、概して否定的である（図22、資料1—XII—2表）。

全体として現在の日本社会をどう思うかについて「良い」4.0%と「まあ良い」25.1%を合わせると29.1%で、前回（1997年）調査と比較すると11.9ポイント減少し、逆に「良くない」11.1%、「あまり良くない」33.9%を合わせると45.0%で7.2ポイント増加している（資料1—XII—3表）。

日本社会の将来の見通しについては、「悪くなる」16.1%、「ある程度悪くなる」29.2%を合わせると45.3%で、「良くなる」「やや良くなる」とする学生（18.1%）を27.2ポイントも上回っている（資料1—XII—4表）。

図21 現在の日本社会において積極的にすすめる（認める）べきだと思うか

単位：％ （ ）内は該当者平均値

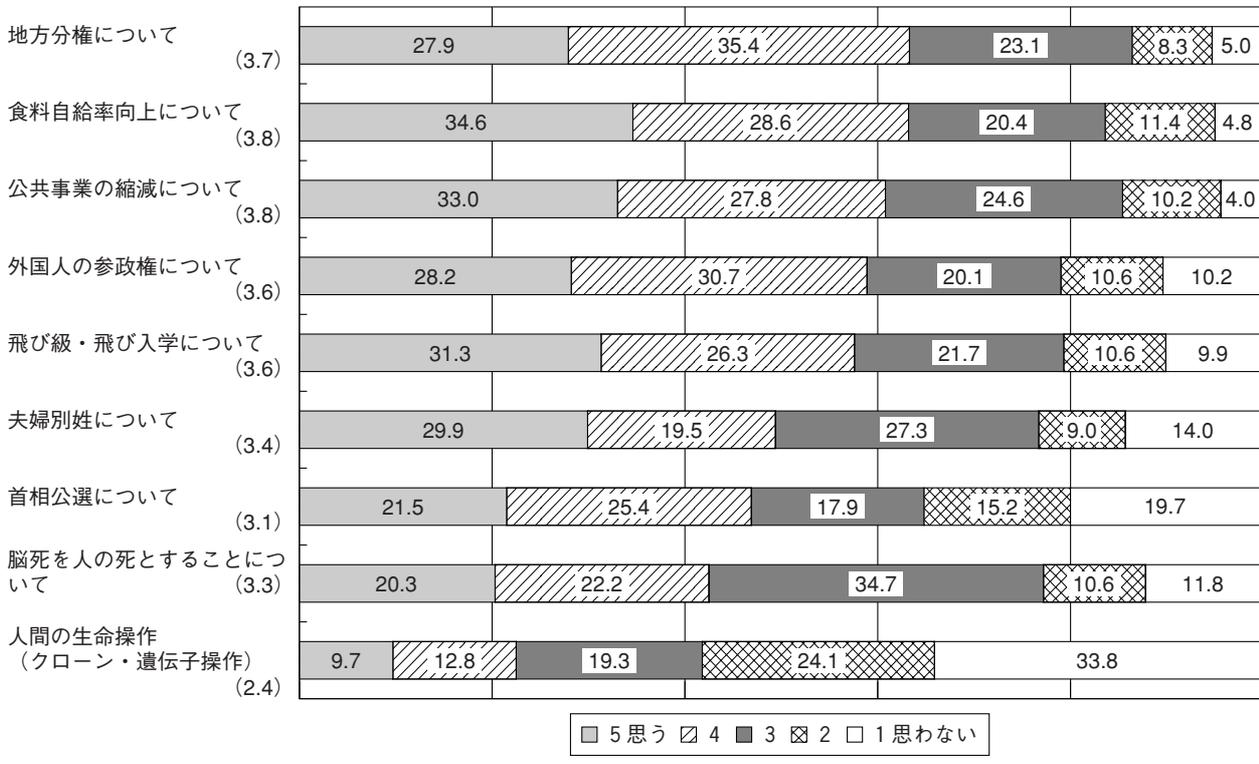
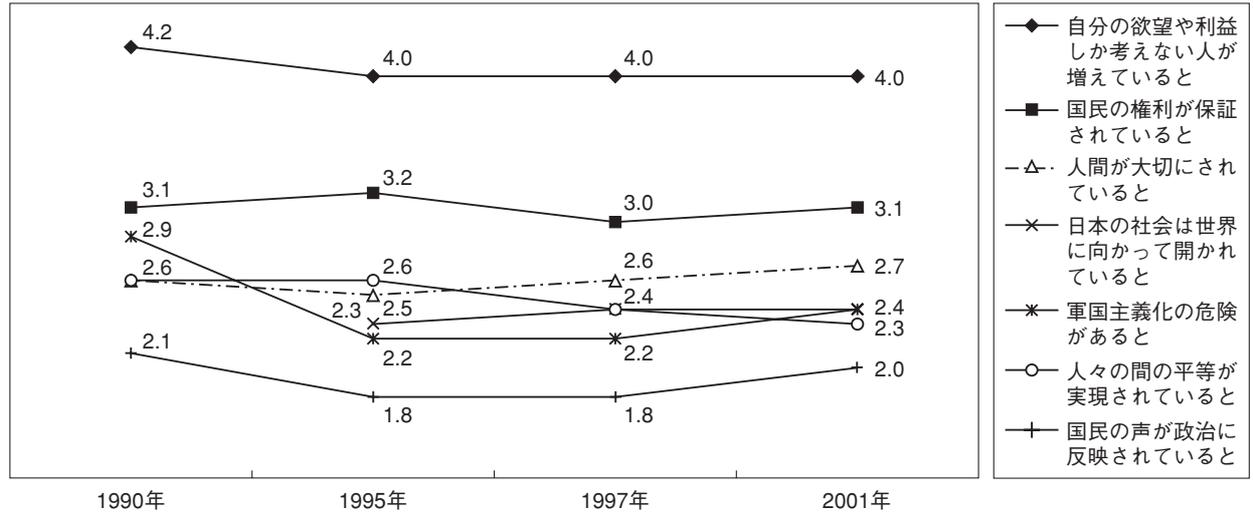


図22 日本社会の見方

(該当者平均値)



五月祭 教育学部前風景

XIII. 就 職

就職希望種の第1位は「大学・官公庁の教育・研究職」26.2%
 希望職種に就きたい理由第1位は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」40.1%
 仕事や職場を選ぶ際に重視するもの第1位は「やりがいがある」48.7%

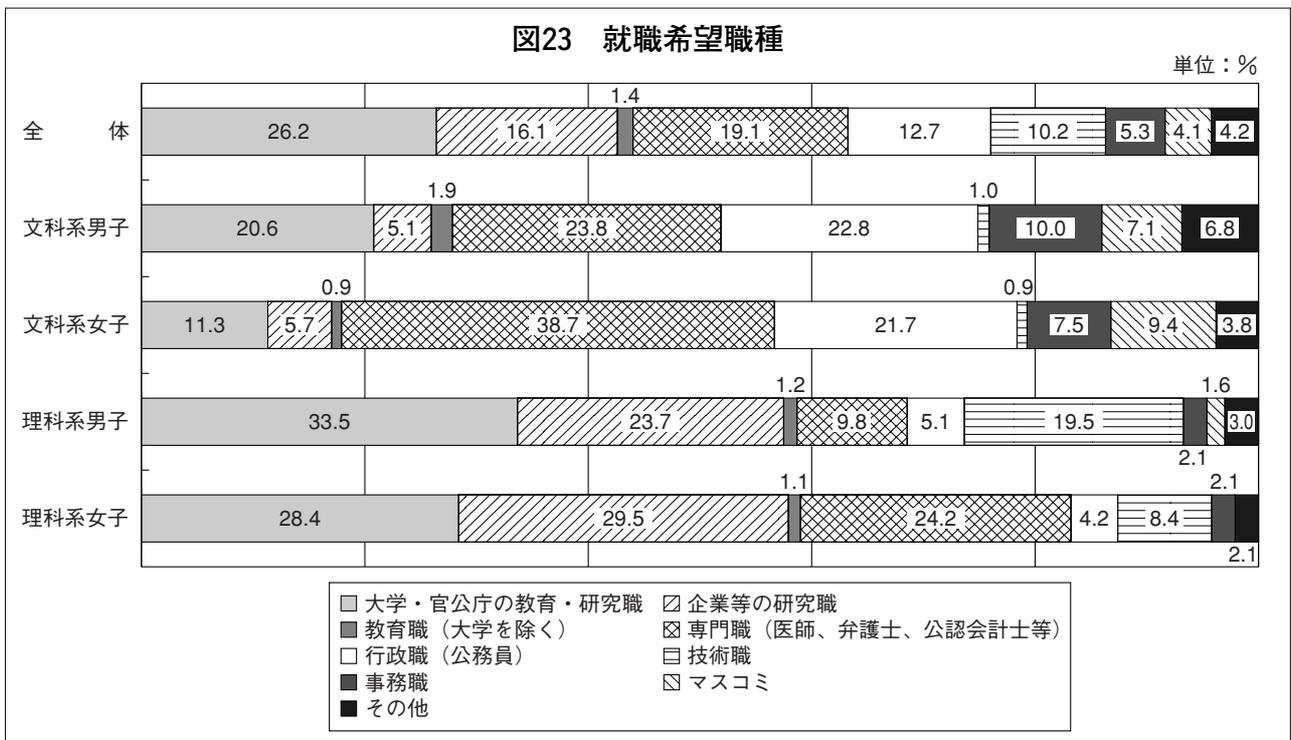
どのような職業に就きたいか（第1位）の間に、前回（2000年）調査と同様「大学・官公庁の教育・研究職」が26.2%で最も多く、これに「企業等の研究職」16.1%、「教育職（大学を除く）」1.4%、を合わせた教育・研究職を望む学生は、前回調査と比較して3.3ポイント増の43.7%である。また、「教育・研究職」を除くと、「専門職（医師、弁護士、公認会計士等）」が19.1%、「行政職（公務員）」が12.7%で続いている。特に理科系は「大学・官公庁の教育・研究職」を望む学生が男子33.5%、女子28.4%と文科系よりかなり多いが、文科系は「専門職」が男子で23.8%、女子で38.7%と比較的多い（図23、資料1—XIII—1表）。

その職業に就きたい理由（第1位）も前回調査と同様「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が40.1%で最も多く、「人を助けたり社会に奉仕する」19.0%、「安定した生活が保証されている」10.5%、「独創性や創造性を発揮できる」9.2%が続き、前回調査と同順となっている（資料1—XIII—2表）。

仕事や職場を選ぶ際に重視するものとしては、「やりがいがある」が48.7%で、「能力が発揮できる」14.5%、「給料がよい」10.4%、「技術や知識を身につけられる」5.7%と続き、前回調査と同順となっている（資料1—XIII—3表）。

就職活動としては、「インターネット等で、情報を収集する」37.3%、「企業等のセミナーや説明会に参加する」20.9%、「職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する」17.2%、「就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する」11.9%と続き、前回調査と同順となっている（資料1—XIII—4表）。

就職する場所としては、前回調査と同様に「東京圏（東京近郊）を希望する」が54.4%と過半数を超えたが、前回は2.1ポイント下回った。男女別では、男子の52.2%に対して女子が62.2%で6割を超えている（資料1—XIII—5表）。



XV. 大学への要望

「授業の方法の工夫・改善」が第1位
「カリキュラムの改革」「小人数教育の充実」「進学振分け制度の改善」が続く

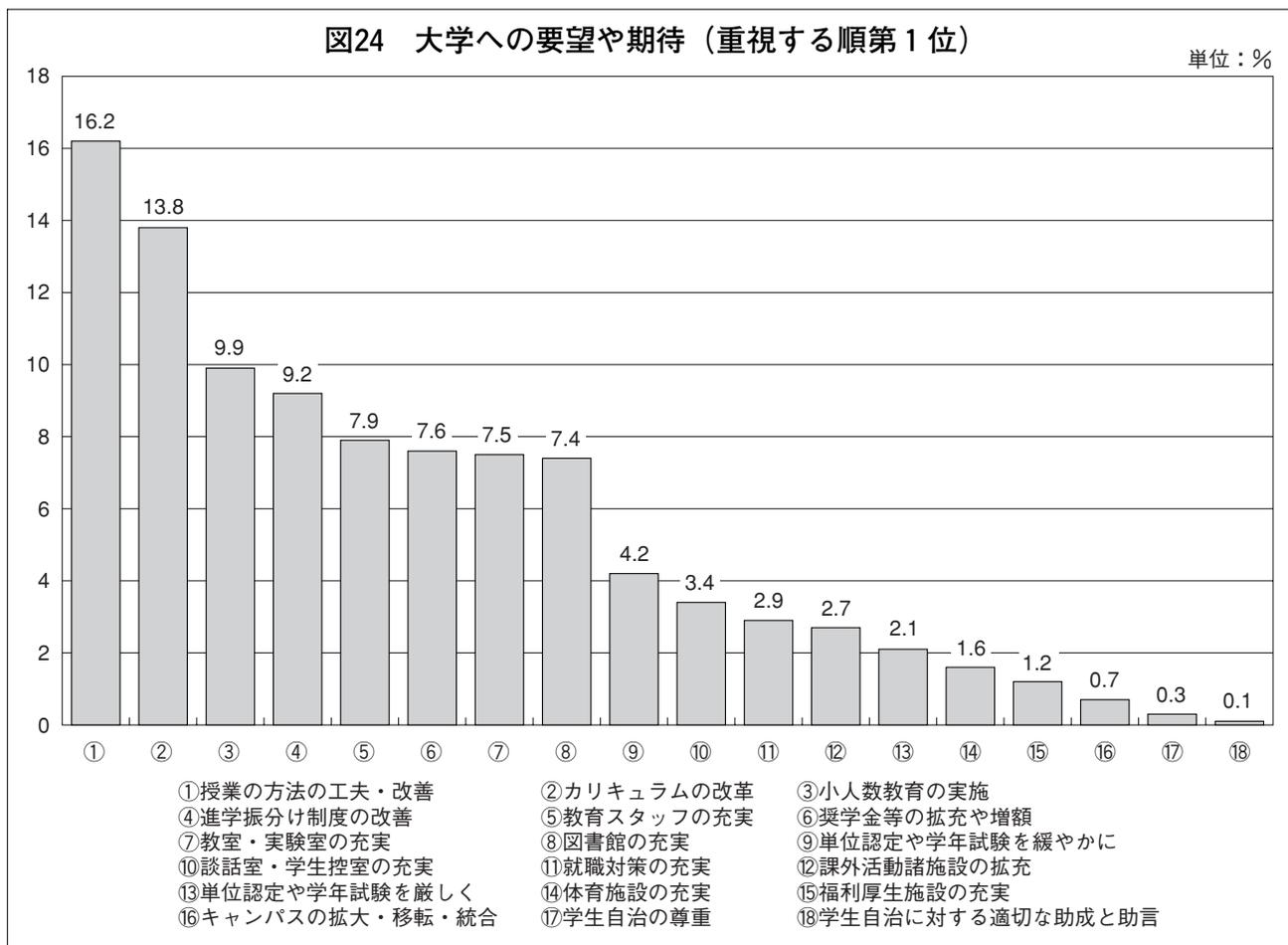
前回までは主たるものを3つ選んでもらった総計結果であったが、今回は、重視する順に3つまで選んでもらうという回答方法の変更を行った。

大学への要望や期待することの第1位は、「授業の方法の工夫・改善」が16.2%で、続いて「カリキュラムの改革」が13.8%、「小人数教育の実施」9.9%、「進学振分け制度の改善」9.2%、「教育スタッフの充実」7.9%、「教室・実験室の充実」7.5%、「図書館の充実」7.4%、と順位は若干異なるが前回（2000年）調査同様上位となっている。

学部・科類別の第1位の要望は、文科一類・文科二類・理科二類・文学部が「授業の方法の工夫・改善」を、文科三類・理科一類、理科二類（「授業の方法の工夫・改善」と同率）が「進学振分け制度の改善」を、理科三類・農学部・薬学部が「教室・実験室の充実」を、法学部は「小人数教育の実施」を、経済学部・教育学部・理学部・工学部・医学部は「カリキュラムの改革」を、教養学部（文系・理系）が「図書館の充実」をそれぞれ第1位に挙げている。

全体（重視する順第1位から第3位）の回答を合算して前回調査との比較してみると、「授業の方法の工夫・改善」が2.5ポイント減の40.7%であるが他の項目を引き離して前回同様第1位で、「カリキュラムの改革」29.8%、「図書館の充実」26.7%と続いている。他では、「談話室・学生控室の充実」が9.2%から14.4%に、「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」が17.9%から21.1%へと要望や期待の割合が増えている（図24、資料1—XIV表）。

図24 大学への要望や期待（重視する順第1位）



特殊分析

1. 調査のねらい

今年度の特殊分析は、学生の社会観を取り上げた。

社会観については、過去の本調査でも数年おきに調べられており、1990年代には、90年、95年、97年に実施されている。

今回の社会観の設問は、それらの既往調査と比較するために、過去の調査と同一の設問を多く取り入れている。これにより、20世紀末から今世紀初めへの本学学生の意識変化を、連続的にとらえようと試みた。

また、今年度調査では具体的記述事項として、「日本社会はこれからどのようになると思うか」という質問をおこなっており、択一式調査を補完することを意図している。本分析とあわせて、その結果を参照していただければ幸いである。

2. 社会的論点に対する意識の変化と差違

(1) 意識の変化

まず、社会的な争点として、多くの論議がなされているいくつかの事項についての学生の意識をみよう(表1)。今回の調査では、9項目について尋ねたが、1997年の前回調査と比較できるのは、「外国人の参政権」「地方分権」「脳死を人の死とすること」「人間の生命操作(クローン・遺伝子操作)」「夫婦別姓」「飛び級・飛び入学」の6項目である。

それらの結果を見ると、「脳死を人の死とすること」を除いて、共通して肯定的評価が増大している。特に、「夫婦別姓」では、最も強く「そう思う」を示す「5」およびそれに続く「4」を合計した割合(以下「肯定的割合」とする。同様に、最も強く「思わない」を示す「1」に「2」を加えた割合を「否定的割合」とする)は、前回の38%から49%に急増した。肯定的割合と否定的割合が拮抗している状況から、大きく肯定へ向けて学生の意識が動いていることがわかる。

これに対して、「脳死を人の死とすること」「人間の生命操作」の結果は複雑である。「脳死」については、肯定的割合が50%から43%に後退している。しかし、それにもかかわらず、否定的割合は20%から22%にわずかに増加しただけであり、むしろ増えたのは中間を示す「3」の割合である。また、「人間の生命操作」については、否定的割合は前回調査では64%と大きな値を示していたが、今回は58%に低下した。しかし、他方で肯定的割合は、3%増えただけであり、ここでも「3」の増加が確認される。これらの「生命倫理」の問題に対しては、学生のとまどいが見られるのかもしれない。

尚、今回はじめて調査した、「首相公選」「公共事業の縮減」「食料自給率の向上」の3点については、いずれも肯定派が否定派を上回り、特に後二者では肯定的割合が圧倒的に多い。

(2) 意識の性別差違

次に、回答者の性別の傾向について見ると(表2)、

その差違が最も顕著なのは、「夫婦別姓」である。肯定的割合は、女子67%に対して、男子は45%であり、20ポイント以上の差が見られる。前回の調査でも、女子55%に対して、男子33%であり、その開差はほとんど変化がない。同様に、男女の意識差が大きいのが「人間の生命操作」である。ここでも、前回調査との格差は埋まっていない。

しかし、これ以外の4項目については、前回調査でも男女差が見られない「地方分権」をのぞき、その差は縮小している。そして注目されるのが、「外国人参政権」と「脳死」の動向である。ここでは、その差の縮減が、女子の意識に男子がより大きく接近する形で発生しているように読める。つまり、本学においては、女子は学生数の上では依然として少数派であるが、しかし社会的争点に関する意識では、女子が男子をリードする状況が、一部には見られるとは言えないだろうか。

尚、今回の追加した調査項目では、特に「食料自給率の向上」に大きな男女差が見られる。女子の肯定的割合は、実に77%にも達し、男子のそれと比較して17ポイントも高い。こうした状況が男子にまで波及するのかどうか、今後注目される。

3. 日本社会についての評価

(1) 個別的评价

日本社会の評価とかわり、7つの項目について、具体的な見方の賛否を尋ねた。これらは、そのほとんどが、1990年調査以降、同じ設問を採用しており、今回を含めた4回の調査にわたる変化を見ることができる(「日本の社会は世界に向かって開かれている」のみ、1995年から調査開始)

それらの結果は、前掲の図22に示しているが、ここでは、先にも利用した「肯定的割合」「否定的割合」を指標として、その変化をあらためて表3に示した。

これによれば、総じて前項の「社会的論点」ほど大きな動きは見られないと言える。しかし、その中でも、やや大きな変化があるのは「軍国主義化の危険があると思うか」という問に対する回答である。

この問に対しては、90年には37%の学生が肯定した。否定派の42%を下回ってはいるものの、そうした懸念が学生の間には、根強く見られたのである。しかし、そのわずか5年後の95年には、大きく変化する。肯定的割合が、17%へと劇的に低下し、否定的割合(67%)と、ちょうど50ポイントもの差が生じている。同様の結果を示す97年も含め、90年代後半は、学生の「軍国主義」への懸念がもっとも弱い時期であった。しかし、今回の調査結果は、肯定的割合が、27%となり、明らかな増加傾向を示している。否定的割合は58%と過半を占めており、90年の状況とは、依然として質的に異なるものであろうが、今後の動向を注視する必要がある。

(2) 全体的評価と見直し

最後に、日本社会の全体的評価や今後の見直しに対する、学生の意識をまとめておこう。いずれも、特徴的な

変化が生じている（表4）。

日本社会の現状に対する評価については、1990年以降、調査のたびに否定的に評価する割合が増加していた。そして、今回は肯定的に評価する割合（「良い」＋「まあ良い」）が、従来になく減少し、遂に否定的に評価する割合（「良くない」＋「余り良くない」）を下回るに至っている（肯定的29%—否定的45%）。学生の日本社会に対する評価は、かなり悲観的なものである。尚、表示は略しているが、このような変化は男女とも共通しているものの、特に女子に悲観的な評価が強いことがわかる。

以上の現状評価に対して、興味深いのは、将来の見通しである。今回の調査では、「良くなる」と「やや良くなる」が、ともにその割合を増加させている。そして、90年以降の調査では、いずれも最高値を示している。両者の和は18%に過ぎないものの、この値が目立って増加

している点は特筆に値しよう。また、性別には、男女に共通する傾向である（表示略）。

つまり、東大生は日本社会の現状を、かつてないほどネガティブにとらえてはいるものの、しかし将来展望については、多少ではあるが、楽観的に評価し始めているのである。

尚、同じ表に掲載した学生の所属する部・科類別の傾向を見れば、学部等間の格差は大きく、特に文科二類、理科一類、法学部、農学部で、比較的明るい展望を描く学生が多い。〈理系〉—〈文系〉という区分では、割り切れない、将来見通しに対する学生意識の傾向があるのかもしれない。ただし、この表にも示したように、学部によってはアンケートに回答した事例数が極端に少ないところもあり、この点の解釈は注意を要しよう。

表1 社会的論点に対する学生の意識（1997年および2001年）

（単位：％）

	調査年次	回答の構成比							(指標)	
		合計	思う—————思わない					無回答	肯定的割合 (5+4)	否定的割合 (1+2)
			5	4	3	2	1			
外国人の参政権について	1997年	100.0	24.8	28.5	23.1	10.9	12.4	0.3	53.3	23.3
	2001年	100.0	28.2	30.7	20.1	10.6	10.2	0.2	58.9	20.8
地方分権について	1997年	100.0	28.6	30.4	26.1	9.3	5.4	0.1	59.0	14.7
	2001年	100.0	27.9	35.4	23.1	8.3	5.0	0.3	63.3	13.3
脳死を人の死とすることについて	1997年	100.0	26.0	24.0	29.8	10.4	9.5	0.3	50.0	19.9
	2001年	100.0	20.3	22.2	34.7	10.6	11.8	0.4	42.5	22.4
人間の生命操作 (クローン・遺伝子操作)	1997年	100.0	9.5	10.6	16.2	19.5	44.0	0.2	20.1	63.5
	2001年	100.0	9.7	12.8	19.3	24.1	33.8	0.3	22.5	57.9
夫婦別姓について	1997年	100.0	21.5	16.2	25.9	14.9	21.3	0.2	37.7	36.2
	2001年	100.0	29.9	19.5	27.3	9.0	14.0	0.2	49.4	23.0
飛び級・飛び入学について	1997年	100.0	26.9	23.8	16.6	15.2	17.4	0.2	50.7	32.6
	2001年	100.0	31.3	26.3	21.7	10.6	9.9	0.2	57.6	20.5
首相公選について	2001年	100.0	21.5	25.4	17.9	15.2	19.7	0.2	46.9	34.9
公共事業の縮減について	2001年	100.0	33.0	27.8	24.6	10.2	4.0	0.3	60.8	14.2
食料自給率の向上について	2001年	100.0	34.6	28.6	20.4	11.4	4.8	0.3	63.2	16.2

表2 社会的論点に対する意識の性別格差
(1997年および2001年)

(単位：%)

	調査年次	肯定的割合(回答の5と4の和)		
		①男子	②女子	男女差 ①-②
外国人の参政権について	1997年 2001年	49.7 58.3	67.3 61.2	-17.6 -2.9
地方分権について	1997年 2001年	59.7 64.1	56.5 60.2	3.2 3.9
脳死を人の死とすることについて	1997年 2001年	52.9 44.4	39.1 35.3	13.8 9.1
人間の生命操作 (クローン・遺伝子操作)	1997年 2001年	23.2 25.5	8.4 11.5	14.8 14.0
夫婦別姓について	1997年 2001年	33.3 44.8	54.5 66.7	-21.2 -21.9
飛び級・飛び入学について	1997年 2001年	52.5 58.6	43.6 54.2	8.9 4.4
首相公選について	2001年	45.5	52.2	-6.7
公共事業の縮減について	2001年	61.4	58.7	2.7
食糧自給率の向上について	2001年	59.5	76.6	-17.1

注：太字は男女差が10ポイント以上あるものを示す。

表3 社会に対する意識の変化
(1990年、95年、97年および2001年)

(単位：%)

	調査年次	肯定的割合 (5+4)	否定的割合 (1+2)
国民の声が政治に反映されている	1990年	12.8	71.1
	1995年	5.3	80.3
	1997年	4.9	82.1
	2001年	8.3	74.3
人々間の平等が実現されている	1990年	24.9	53.4
	1995年	26.7	50.9
	1997年	22.3	58.8
	2001年	19.8	60.1
人間が大切にされている	1990年	19.6	50.4
	1995年	18.9	50.3
	1997年	21.0	49.4
	2001年	24.4	46.0
軍国主義化の危険があること	1990年	36.7	42.0
	1995年	16.7	66.6
	1997年	19.0	64.3
	2001年	26.8	58.0
国民の権利が保障されていること	1990年	41.1	28.5
	1995年	40.4	26.1
	1997年	36.7	30.8
	2001年	39.8	26.8
自分の欲望や利益しか考えない人が増えている	1990年	81.9	3.2
	1995年	74.4	9.2
	1997年	74.2	10.0
	2001年	74.0	10.0
日本の社会は世界に向かって開かれている	1990年	—	—
	1995年	14.5	61.7
	1997年	13.6	60.7
	2001年	15.5	55.3

表4 日本社会に対する全体的な評価と見通し（1990年、95年、97年および2001年）

(単位：%)

	調査年次	回答の構成比							(指標)		事例数 (人)	
		合計	① 良い (良くなる)	② まあ良い (やや良くなる)	③ どちら とも言 えない	④ 余り良 くない (ある程 度悪く なる)	⑤ 良くない (悪く なる)	⑥ 無回答	「良い」 割合 (①+②)	「悪い」 割合 (④+⑤)		
全体として現在の日本社会	1990年	100.0	6.3	40.6	22.0	23.9	7.2	—	46.9	31.1	949	
	1995年	100.0	5.5	41.5	19.4	26.3	6.4	0.4	47.0	32.7	1,288	
	1997年	100.0	5.3	35.7	21.0	28.5	9.3	0.3	41.0	37.8	1,198	
	2001年	100.0	4.0	25.1	25.7	33.9	11.1	0.2	29.1	45.0	942	
日本の将来の見通し	1990年	100.0	4.1	9.3	38.1	36.6	11.9	—	13.4	48.5	949	
	1995年	100.0	5.7	10.8	41.3	31.4	10.4	0.4	16.5	41.8	1,288	
	1997年	100.0	3.4	8.8	37.1	35.1	15.3	0.3	12.2	50.4	1,198	
	2001年	100.0	6.6	11.5	36.3	29.2	16.1	0.3	18.1	45.3	942	
日本将来の見通し・科類／学部別内訳	文 科 一 類	2001年	100.0	7.5	11.3	40.0	25.0	15.0	1.3	18.8	40.0	80
	文 科 二 類	2001年	100.0	8.2	12.2	40.8	22.4	16.3	0.0	20.4	38.7	49
	文 科 三 類	2001年	100.0	3.8	11.5	47.4	30.8	6.4	0.0	15.3	37.2	78
	理 科 一 類	2001年	100.0	9.4	13.1	33.8	29.4	14.4	0.0	22.5	43.8	160
	理 科 二 類	2001年	100.0	2.2	11.2	39.3	33.7	13.5	0.0	13.4	47.2	89
	理 科 三 類	2001年	100.0	0.0	16.7	16.7	25.0	41.7	0.0	16.7	66.7	12
	法 学 部	2001年	100.0	10.9	14.1	28.3	26.1	20.7	0.0	25.0	46.8	92
	経 済 学 部	2001年	100.0	6.1	8.2	42.9	34.7	8.2	0.0	14.3	42.9	49
	文 学 部	2001年	100.0	6.1	12.2	26.5	34.7	20.4	0.0	18.3	55.1	49
	教 育 学 部	2001年	100.0	0.0	0.0	44.4	55.6	0.0	0.0	0.0	55.6	9
	教 養 (文系)	2001年	100.0	0.0	9.1	45.5	27.3	18.2	0.0	9.1	45.5	11
	教 養 (理系)	2001年	100.0	0.0	10.0	30.0	30.0	30.0	0.0	10.0	60.0	10
	理 学 部	2001年	100.0	4.8	4.8	35.7	26.2	28.6	0.0	9.6	54.8	42
	工 学 部	2001年	100.0	6.7	10.1	36.1	28.6	16.8	1.7	16.8	45.4	119
	農 学 部	2001年	100.0	9.5	19.0	35.7	26.2	9.5	0.0	28.5	35.7	42
薬 学 部	2001年	100.0	0.0	0.0	35.3	29.4	35.3	0.0	0.0	64.7	17	
医 学 部	2001年	100.0	5.9	11.8	32.4	29.4	20.6	0.0	17.7	50.0	34	

資 料 1

集 計 表

ここでは、「調査票」のそれぞれの設問項目と、所要な基本項目とのクロス集計を行ったものを一括して順次掲載した。また、比較のため1997年（第47回）・1998年（第48回）・2000年（第50回）調査で、今回調査と同じ設定をしている調査項目の数値を、適宜、各集計表の中で（ ）内に示した。

表の見方

- 百分率（パーセント）表示については、小数点第一位までを有効数字として算出した。
- 作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。
 - 「全体」……………回答者全員の比率を示す。
 - 「自宅」……………自宅通学者（親と同居）の者を示す。
 - 「自宅外」……………賃貸マンション、アパート、下宿、学寮、他寮を一括して示す。
 - 「東大学寮」……………本学の学生寮、三鷹国際学生宿舎の居住者を示す。
 - 「その他の寮」……………地方公共団体等が設置した学生寮の居住者を示す。
 - 「前期課程」……………1、2年生を示す。
 - 「後期課程」……………3、4年生（医学部医学科・農学部獣医学課程は5、6年生を含む。）を示す。
 - 「文科系」「理科系」……………在籍する学部、学科等により二つの系に区分したものを示す。

I. 基本的事項

I—1表 課 程

区 分		前期課程		後期課程		合 計	
2000年調査 (50回)	人	人	%	人	%	人	%
	(543)	(52.1)	(499)	(47.9)	(1,042)	(100.0)	
全 体		468	49.7	474	50.3	942	100.0
男 子		373	50.3	368	49.7	741	78.7
女 子		95	47.3	106	52.7	201	21.3
男 子	文科系	154	49.5	157	50.5	311	33.0
	理科系	219	50.9	211	49.1	430	45.6
女 子	文科系	53	50.0	53	50.0	106	11.3
	理科系	42	44.2	53	55.8	95	10.1

I—2表 現役・浪人等

区 分	現 役		1 浪		2 浪 以 上		学 士 入 学		そ の 他		無 回 答		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
2000年調査 (50回)	(717)	(68.8)	(254)	(24.4)	(43)	(4.1)	(8)	(0.8)	(20)	(1.9)	—	—	(1,042)	(100.0)
全 体	621	65.9	274	29.1	31	3.3	3	0.3	13	1.4	—	—	942	100.0
男 子	489	66.0	213	28.7	28	3.8	3	0.4	8	1.1	—	—	741	78.7
女 子	132	65.7	61	30.3	3	1.5	—	—	5	2.5	—	—	201	21.3

II. 家庭の状況

II-1表 家庭の所在地 (A. 地区)

区 分	東京都	関 東	北海道	東 北	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州 沖 縄	その他	無回答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (24.3)	% (33.2)	% (1.5)	% (3.3)	% (12.5)	% (10.7)	% (2.9)	% (2.4)	% (8.9)	% (0.3)	% (0.1)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体	22.9	32.8	1.1	4.2	12.5	9.3	3.7	3.2	9.9	0.2	0.1	942	100.0
男 子	21.2	33.2	1.1	4.6	13.4	9.7	4.2	2.8	9.6	0.1	0.1	741	78.7
女 子	29.4	31.3	1.0	3.0	9.5	8.0	2.0	4.5	10.9	0.5	—	201	21.3

II-2表 家庭の所在地 (B. 都市規模)

区 分	大都市	中都市	小都市	郡 部	無回答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (37.1)	% (42.8)	% (10.2)	% (9.5)	% (0.4)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体	35.0	43.1	12.2	8.9	0.7	942	100.0
男 子	36.0	41.8	12.7	8.9	0.5	741	78.7
女 子	31.3	47.8	10.4	9.0	1.5	201	21.3

II-3表 主たる家計支持者

区 分	父	母	本人	兄 弟 姉 妹	祖 父 母	配 偶 者	だ れ と い え な い 口 に	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (90.7)	% (5.2)	% (0.7)	% (0.1)	% (0.4)	% (0.1)	% (1.8)	% (0.8)	% (0.3)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体	91.5	4.4	0.3	0.2	0.5	—	2.4	0.5	0.1	942	100.0
男 子	91.0	4.6	0.4	0.1	0.7	—	2.4	0.7	0.1	741	78.7
女 子	93.5	3.5	—	0.5	—	—	2.5	—	—	201	21.3

II-4表 主たる家計支持者の職業

区 分	専門的、 技術的 職 業	教育的 職 業	管理的 職 業	事 務	販 売	農・林 ・ 漁業	生産工 程・採 掘作業	運輸・通 信・保安・ サービス	無 職	その他	無回答	事 例 数		
2000年調査 (50回)	% (16.4)	% (11.7)	% (47.2)	% (7.4)	% (4.0)	% (0.7)	% (4.0)	% (3.2)	% (3.4)	% (1.3)	% (0.7)	人 (1,042)	% (100.0)	
全 体	17.4	12.8	43.0	8.3	4.5	0.7	4.2	5.4	2.7	0.6	0.3	942	100.0	
男 子	17.1	11.6	43.0	8.8	4.2	0.7	4.9	5.9	2.8	0.5	0.4	741	78.7	
女 子	18.4	17.4	42.8	6.5	5.5	1.0	2.0	3.5	2.0	1.0	—	201	21.3	
男 子	文科系	15.1	11.9	45.3	11.6	2.9	1.0	3.9	4.8	2.6	0.6	0.3	311	42.0
	理科系	18.6	11.4	41.4	6.7	5.1	0.5	5.6	6.7	3.0	0.5	0.5	430	58.0
女 子	文科系	21.7	16.0	42.5	10.4	4.7	0.9	—	1.9	0.9	0.9	—	106	52.7
	理科系	14.7	18.9	43.2	2.1	6.3	1.1	4.2	5.3	3.2	1.1	—	95	47.3
男 子	自 宅	18.3	6.6	54.7	6.6	2.1	0.6	1.5	4.5	3.9	0.9	0.3	333	35.4
	分譲マンション	12.5	12.5	25.0	—	12.5	—	37.5	—	—	—	—	8	0.8
	賃貸マンション(バスあり)	15.8	15.8	36.6	10.6	6.2	0.7	5.1	6.8	2.1	0.3	—	292	31.0
	アパート(バスなし)	26.7	20.0	10.0	10.0	3.3	3.3	13.3	10.0	3.3	—	—	30	3.2
	下 宿	26.7	6.7	46.7	13.3	—	—	6.7	—	—	—	—	15	1.6
	東大寮・三鷹国際学生館	5.0	—	20.0	25.0	5.0	—	25.0	15.0	—	—	5.0	20	2.1
	その他の寮	15.4	23.1	35.9	5.1	5.1	—	7.7	5.1	2.6	—	—	39	4.1
	その他	—	33.3	—	—	33.3	—	—	33.3	—	—	—	3	0.3
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	1	0.1	
女 子	自 宅	17.5	16.5	51.5	5.2	3.1	—	3.1	1.0	1.0	1.0	—	97	10.3
	分譲マンション	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.2
	賃貸マンション(バスあり)	20.3	16.5	36.7	6.3	7.6	1.3	1.3	5.1	3.8	1.3	—	79	8.4
	アパート(バスなし)	33.3	—	66.7	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.3
	下 宿	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
	東大寮・三鷹国際学生館	—	28.6	42.9	—	14.3	14.3	—	—	—	—	—	7	0.7
	その他の寮	12.5	37.5	12.5	12.5	—	—	—	25.0	—	—	—	8	0.8
	その他	—	33.3	—	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—	3	0.3
無 回 答	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1	

Ⅱ—5表 主たる家計支持者の年収分布

(無回答を除く)

区 分	350万円	350万円	450万円	550万円	650万円	750万円	850万円	950万円	1,050万円	1,150万円	1,250万円	1,350万円	1,450万円	1,550万円	事 例 数		
	未満	450万円 未満	550万円 未満	650万円 未満	750万円 未満	850万円 未満	950万円 未満	1,050万円 未満	1,150万円 未満	1,250万円 未満	1,350万円 未満	1,450万円 未満	1,550万円 未満	以上	人	%	
2000年調査(50回) 全 体	(7.6) 6.4	(3.3) 4.2	(5.0) 5.9	(6.8) 5.8	(5.8) 7.5	(10.4) 9.8	(5.8) 6.1	(22.5) 23.1	(2.3) 3.0	(9.8) 8.6	(3.3) 3.4	(1.5) 1.2	(5.7) 5.0	(10.4) 9.9	(884) 826	(100.0) 100.0	
男 子	6.6	4.8	6.5	6.3	7.7	9.6	6.0	23.7	3.1	7.7	2.9	1.1	4.3	9.7	649	78.6	
女 子	5.6	2.3	4.0	4.0	6.8	10.7	6.2	20.9	2.8	11.9	5.1	1.7	7.3	10.7	177	21.4	
男 子	自 宅	6.0	2.1	1.4	6.7	2.5	7.8	3.9	27.6	3.2	11.3	4.2	1.8	8.5	13.1	283	34.3
	分譲マンション	—	—	14.3	28.6	—	—	14.3	28.6	—	—	—	—	—	14.3	7	0.8
	賃貸マンション・アパート(バス付き)	4.9	6.0	8.3	6.4	12.1	13.6	6.8	21.5	3.0	4.5	2.6	0.8	1.5	7.9	265	32.1
	アパート(バスなし)	16.0	4.0	16.0	—	4.0	8.0	16.0	8.0	8.0	20.0	—	—	—	—	25	3.0
	下 宿	7.1	7.1	7.1	—	7.1	14.3	7.1	28.6	7.1	—	—	—	—	14.3	14	1.7
	東大寮・三鷹国際学生宿舎	25.0	43.8	12.5	—	12.5	—	6.3	—	—	—	—	—	—	—	16	1.9
	そ の 他 の 寮	8.3	—	19.4	8.3	19.4	—	8.3	27.8	—	2.8	—	—	—	5.6	36	4.4
	そ の 他 の 無 回 答	33.3	—	33.3	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	—	3	0.4
女 子	自 宅	2.3	1.1	3.4	1.1	3.4	6.9	1.1	24.1	4.6	16.1	6.9	2.3	11.5	14.9	87	10.5
	分譲マンション	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	2	0.2
	賃貸マンション・アパート(バス付き)	8.8	1.5	4.4	5.9	8.8	16.2	11.8	16.2	1.5	7.4	2.9	1.5	4.4	8.8	68	8.2
	アパート(バスなし)	—	—	33.3	—	66.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.4
	下 宿	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	1	0.1
	東大寮・三鷹国際学生宿舎	—	28.6	—	14.3	—	—	14.3	28.6	—	14.3	—	—	—	—	7	0.8
	そ の 他 の 寮	28.6	—	—	—	14.3	14.3	14.3	28.6	—	—	—	—	—	—	7	0.8
	そ の 他 の 無 回 答	—	—	—	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.2

Ⅱ—6表 主たる家計支持者の職業別に見た年収平均 (単位：十万円)

(無回答を除く)

区 分	専門的、技術的 職		教育的職業		管理的職業		事 務		販 売		農・林・漁業		生産工程・ 採掘作業		運輸・通信・保 安・サービス		無 職		分類不能		事 例 数	
	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数	平均値	人 数
2000年調査(50回) 全 体	(123.76) 115.65	(142) 148	(97.32) 96.67	(108) 109	(111.72) 117.15	(425) 353	(69.25) 65.74	(63) 70	(78.67) 69.31	(33) 36	(43.86) 38.33	(7) 6	(63.85) 58.72	(41) 36	(80.67) 61.43	(27) 46	(32.50) 69.58	(26) 19	(112.92) 62.67	(12) 3	(101.62) 100.22	(884) 826
男 子	112.38	114	93.15	75	115.99	282	63.42	59	63.85	26	42.50	4	58.00	33	63.74	39	77.87	15	55.00	2	98.24	649
女 子	126.62	34	104.44	34	121.76	71	78.18	11	83.50	10	30.00	2	66.67	3	48.57	7	38.50	4	78.00	1	107.50	177

Ⅲ. 生活費の状況

Ⅲ—1表 支出額（1ヶ月平均、単位：千円）

区 分	衣 料 費		食 費		住 居 費		勉 学 費		教 養・ 娯 楽 費		通 学 費		雑 費		支 出 額 合 計		
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	
2000年調査(50回)	(9.53)	(985)	(26.57)	(1,004)	(64.40)	(542)	(8.85)	(991)	(14.08)	(998)	(6.15)	(982)	(12.13)	(986)	(111.23)	(1,005)	
全 体	10.73	794	26.90	904	67.22	485	10.08	862	15.07	891	7.58	731	12.92	868	114.76	909	
男 子	9.35	608	27.92	712	64.72	389	10.23	679	15.40	703	7.60	564	12.62	679	113.64	716	
女 子	15.26	186	23.15	192	77.35	96	9.53	183	13.87	188	7.50	167	13.97	189	118.92	193	
自 宅	10.25	357	17.47	406	—	—	10.93	383	14.94	400	10.11	383	9.39	400	70.15	410	
自 宅 外	11.12	437	34.60	498	66.80	481	9.41	479	15.19	491	4.96	479	15.72	491	151.42	499	
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
男 子	自 宅	9.02	266	18.10	313	—	—	11.15	296	15.16	309	10.22	286	8.88	295	68.44	317
	自 宅 外	9.60	342	35.62	399	64.80	387	9.52	383	15.58	394	4.91	278	15.50	384	149.56	399
	無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	6.67	6	44.71	7	62.71	7	7.50	6	21.43	7	5.71	7	15.71	7	162.43	7
	賃貸マンション・アパート(バスつき)	10.44	254	36.62	286	73.78	280	9.64	276	15.89	281	4.78	196	17.22	277	162.99	286
	アパート(バスなし)	7.30	23	30.90	30	56.77	30	10.00	28	15.27	30	4.79	14	12.14	29	131.83	30
	下 宿	7.78	9	32.14	14	63.54	13	11.79	14	13.79	14	5.70	10	11.92	13	136.86	14
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	7.38	13	34.50	20	9.25	20	8.74	19	13.25	20	3.89	18	10.76	17	82.75	20
	そ の 他 の 寮	6.91	34	33.28	39	34.22	37	8.11	37	14.77	39	5.70	30	9.45	38	107.82	39
	そ の 他 無 回 答	7.33	3	20.00	3	—	—	9.67	3	10.67	3	8.33	3	8.00	3	64.00	3
女 子	自 宅	13.86	91	15.33	93	—	—	10.17	87	14.19	91	9.74	86	11.08	90	76.00	93
	自 宅 外	16.60	95	30.48	99	75.06	94	8.95	96	13.57	97	5.11	81	16.60	99	158.84	100
	無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	6.00	2	30.00	2	8.00	1	15.00	2	20.00	2	5.00	2	17.50	2	97.50	2
	賃貸マンション・アパート(バスつき)	17.89	72	30.44	75	82.62	73	8.56	72	13.32	73	4.69	58	17.85	75	168.45	76
	アパート(バスなし)	7.50	2	25.00	3	85.67	3	7.00	3	12.00	3	6.00	2	16.67	3	155.33	3
	下 宿	10.00	1	40.00	1	80.00	1	30.00	1	10.00	1	5.00	1	10.00	1	185.00	1
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	14.29	7	26.86	7	6.29	7	7.71	7	18.71	7	6.71	7	10.57	7	91.14	7
	そ の 他 の 寮	14.88	8	38.38	8	74.50	8	11.75	8	11.50	8	5.25	8	14.00	8	170.25	8
	そ の 他 無 回 答	11.00	3	21.67	3	40.00	1	4.67	3	11.67	3	8.67	3	7.67	3	78.67	3

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

Ⅲ—2表 収入額（1ヶ月平均、単位：千円）

区 分	家庭からの仕送り・小遣い		奨 学 金		アルバイト・雑収入		収 入 額 合 計		
	平 均 値	人 数	平 均 値	人 数	平 均 値	人 数	平 均 値	人 数	
2000年調査（50回）	(87.07)	(912)	(52.71)	(201)	(47.78)	(667)	(121.63)	(1,002)	
全 体	84.82	839	52.24	207	45.30	622	121.71	905	
男 子	85.40	656	51.39	167	44.15	481	120.57	712	
女 子	82.72	183	55.78	40	49.20	141	125.93	193	
自 宅	35.66	364	45.54	39	46.04	305	70.42	409	
自 宅 外	122.48	475	53.79	168	44.58	317	164.01	496	
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	
男 子	自 宅	36.34	276	46.33	33	43.61	231	68.45	316
	自 宅 外	121.04	380	52.63	134	44.66	250	162.15	396
	無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	126.43	7	50.00	1	93.33	3	173.57	7
	賃貸マンション・アパート(バス付き)	129.23	283	52.95	88	44.54	178	172.49	285
	アパート(バスなし)	104.86	29	57.40	10	49.00	22	156.43	30
	下 宿	127.67	12	61.75	4	42.50	6	145.29	14
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	53.50	10	53.07	15	40.62	13	103.28	18
	そ の 他 の 寮	89.14	37	45.38	16	40.64	25	129.23	39
	そ の 他	65.00	2	—	—	26.67	3	70.00	3
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	
女 子	自 宅	33.56	88	41.17	6	53.65	74	77.10	93
	自 宅 外	128.25	95	58.35	34	44.28	67	171.35	100
	無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	87.00	1	—	—	100.00	1	93.50	2
	賃貸マンション・アパート(バス付き)	133.28	75	53.83	23	46.64	53	180.34	76
	アパート(バスなし)	123.33	3	70.00	2	40.00	1	183.33	3
	下 宿	100.00	1	100.00	1	—	—	200.00	1
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	69.00	5	71.75	4	37.00	5	116.71	7
	そ の 他 の 寮	163.71	7	79.50	2	27.00	4	176.63	8
	そ の 他	46.67	3	30.00	2	20.67	3	87.33	3
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

IV. 通学・住居

IV-1表 現在の居住地

区 分	足立区	江戸川区	台東区	千代田区	板橋区	中野区	世田谷区	品川区	東京都				さいたま		千 葉		その他	無回答	事 例 数	
	葛飾区	江東区	文京区	中央区	練馬区	杉並区	渋谷区	大田区	(23区外)	横浜市	川崎市	神奈川県	川 口	埼玉県	船 橋	千葉県			人	%
2000年調査 (50回) 全 体	% (2.6)	% (1.7)	% (18.2)	% (1.5)	% (8.3)	% (9.8)	% (13.4)	% (2.1)	% (13.2)	% (6.4)	% (3.0)	% (2.7)	% (3.1)	% (4.4)	% (3.5)	% (3.9)	% (1.6)	% (0.4)	(1,042)	(100.0)
	1.6	2.1	16.2	1.9	9.1	10.8	14.3	2.9	14.6	5.7	2.5	3.7	2.3	5.1	3.0	3.3	0.4	0.2	942	100.0
男 子	1.6	1.6	16.5	1.3	9.3	10.3	14.0	3.2	14.8	6.5	3.0	4.0	2.3	5.0	2.6	3.2	0.5	0.1	741	78.7
女 子	1.5	4.0	15.4	4.0	8.5	12.9	15.4	1.5	13.9	3.0	1.0	2.5	2.5	5.5	4.5	3.5	—	0.5	201	21.3
自 宅	0.9	3.0	2.1	0.9	5.8	7.9	7.4	5.6	15.6	10.5	4.2	8.1	4.0	10.5	5.8	6.7	0.9	—	430	45.6
自 宅 外	2.2	1.4	28.2	2.7	12.0	13.3	20.2	0.6	13.9	1.8	1.2	—	1.0	0.6	0.6	0.4	—	—	510	54.1
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	2	0.2
男	0.9	2.4	1.8	0.9	5.7	6.9	6.9	6.3	14.7	12.3	5.1	9.0	3.9	10.2	5.1	6.6	1.2	—	333	35.4
自 宅 外	2.2	1.0	28.5	1.7	12.3	13.0	19.9	0.7	15.0	1.7	1.2	—	1.0	0.7	0.5	0.5	—	—	407	43.2
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	1	0.1
女	1.0	5.2	3.1	1.0	6.2	11.3	9.3	3.1	18.6	4.1	1.0	5.2	4.1	11.3	8.2	7.2	—	—	97	10.3
自 宅 外	1.9	2.9	27.2	6.8	10.7	14.6	21.4	—	9.7	1.9	1.0	—	1.0	—	1.0	—	—	—	103	10.9
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	1	0.1
前 期 課 程	1.0	3.4	1.4	1.4	5.8	7.2	6.3	4.8	20.8	7.7	3.9	7.7	4.3	8.7	7.7	7.2	0.5	—	207	22.0
自 宅 外	1.2	1.5	11.2	1.9	2.7	20.5	31.7	0.4	22.8	2.7	1.5	—	0.8	0.4	0.4	0.4	—	—	259	27.5
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	2	0.2
後 期 課 程	0.9	2.7	2.7	0.4	5.8	8.5	8.5	6.3	10.8	13.0	4.5	8.5	3.6	12.1	4.0	6.3	1.3	—	223	23.7
自 宅 外	3.2	1.2	45.8	3.6	21.5	6.0	8.4	0.8	4.8	0.8	0.8	—	1.2	0.8	0.8	0.4	—	—	251	26.6
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

Ⅳ—2表 現在の住居区分

(自宅外のみ)

区 分	分譲マンション	賃貸マンション・アパート (バスつき)	ア パ ー ト (バスなし)	下 宿	東大寮・三鷹国際学生宿舎	その他の寮	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (3.9)	% (74.6)	% (4.7)	% (2.3)	% (4.5)	% (8.8)	% (1.0)	% (0.2)	人 (512)	% (100.0)
全 体	2.0	72.7	6.5	3.1	5.3	9.2	1.2	—	510	100.0
男 子	2.0	71.7	7.4	3.7	4.9	9.6	0.7	—	407	79.8
女 子	1.9	76.7	2.9	1.0	6.8	7.8	2.9	—	103	20.2
男 子 前期課程	2.0	65.2	7.8	2.5	7.8	13.2	1.5	—	204	40.0
後期課程	2.0	78.3	6.9	4.9	2.0	5.9	—	—	203	39.8
女 子 前期課程	1.8	74.5	1.8	—	5.5	12.7	3.6	—	55	10.8
後期課程	2.1	79.2	4.2	2.1	8.3	2.1	2.1	—	48	9.4
男 子 文科系	3.0	69.7	7.3	2.4	4.8	10.9	1.8	—	165	32.4
理科系	1.2	73.1	7.4	4.5	5.0	8.7	—	—	242	47.5
女 子 文科系	1.8	80.7	3.5	1.8	5.3	5.3	1.8	—	57	11.2
理科系	2.2	71.7	2.2	—	8.7	10.9	4.3	—	46	9.0

No.1252 2002. 12. 12

— 38 —

Ⅳ—3表 通学に利用している交通機関 (第1位)

区 分	電 車	バ ス	自家用車	バイク	自 転 車	徒歩のみ	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (78.5)	% (0.6)	% (0.2)	% (1.7)	% (15.0)	% (3.5)	% (0.3)	% (0.3)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体	78.3	0.2	—	0.5	16.9	3.8	—	0.2	942	100.0
男 子	77.6	—	—	0.5	18.1	3.6	—	0.1	741	78.7
女 子	81.1	1.0	—	0.5	12.4	4.5	—	0.5	201	27.1
男 子 前期課程	87.9	—	—	—	8.8	2.9	—	0.3	373	39.6
後期課程	67.1	—	—	1.1	27.4	4.3	—	—	368	49.7
女 子 前期課程	90.5	—	—	—	6.3	2.1	—	1.1	95	47.3
後期課程	72.6	1.9	—	0.9	17.9	6.6	—	—	106	28.4
(第2位) 全 体	8.0	5.8	1.4	1.3	27.4	18.8	—	37.4	942	100.0

Ⅳ—4表 通学所要時間

区 分	平均時間	事 例 数
2000年調査 (50回) 全 体	分 (50.9) 48.4	人 (1,039) 942
男 子	48.2	741
女 子	49.0	201
自 宅 自 宅 無 回 答	69.2 30.8 —	430 510 2
男 子 自 宅 自 宅 無 回 答	69.8 30.5 —	333 407 1
女 子 自 宅 自 宅 無 回 答	67.2 31.9 —	97 103 1

片道、単位：分

V. 奨 学 金

V-1表 奨学金を受けていますか

区 分	受けている	受けたいが受けられなかった	受けたくない	受ける必要がない	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (20.7)	% (17.5)	% (5.0)	% (55.8)	% (1.1)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体	22.9	17.7	5.0	54.0	0.3	942	100.0
男 子	23.5	17.0	5.5	53.7	0.3	741	78.7
女 子	20.9	20.4	3.0	55.2	0.5	201	21.3

V-2表 「奨学金を受けたいが受けられなかった」又は「奨学金を受けたくない」と答えた理由

区 分	事務手続が煩雑だから	掲示等気がつかなかった	書類を期限までに整えられなかった	出願はしたけれど採用されなかった	貸与なので申請しなかった	資格がない	その他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (14.5)	% (10.3)	% (4.7)	% (21.4)	% (20.5)	% (24.8)	% (3.0)	% (0.9)	人 (234)	% (100.0)
全 体	14.0	10.7	5.1	24.8	21.5	22.0	1.9	—	214	100.0
男 子	16.8	10.8	5.4	22.8	22.8	19.8	1.8	—	167	78.0
女 子	4.3	10.6	4.3	31.9	17.0	29.8	2.1	—	47	22.0

V-3表 受領している奨学金の内訳

区 分	日本育英会第一種奨学金	日本育英会第二種奨学金・きぼう21プラン奨学金	日本育英会第一種と二種の併用又はきぼう21プラン奨学金の併用	育英会と財団・地方公共団体の併用	財団・地方公共団体等の奨学金	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (38.0)	% (32.4)	% (2.8)	% (11.6)	% (13.0)	% (2.3)	人 (216)	% (100.0)
全 体	37.5	31.5	1.9	14.8	13.4	0.9	216	100.0
男 子	39.1	29.9	2.3	13.8	14.4	0.6	174	80.8
女 子	31.0	38.1	—	19.0	9.5	2.4	42	19.2

V-4表 奨学金はどんな面で役立っていますか

(2つまで選択)

区 分	家庭の経済的負担が軽減される	多少ともゆとりのある生活ができる	アルバイトが軽減される	奨学金があるので生活が成り立っている	定期的な収入があるので助かる	その他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (76.4)	% (39.8)	% (15.7)	% (30.1)	% (19.9)	% (2.3)	% (0.9)	人 (216)	
全 体	81.0	26.9	25.0	28.7	16.7	2.3	0.5	216	
男 子	82.2	28.7	22.4	29.9	17.8	2.3	—	174	
女 子	76.2	19.0	35.7	23.8	11.9	2.4	2.4	42	

V-5表 奨学金の主たる支出目的 (用途)

(3つまで選択)

区 分	生活費 (衣・食・住居費)	授業料	勉学費	教養・娯楽費	旅行 (帰省旅行も含む)	技術・資格等取得の費用	耐久消費財購入費用	貯 金	その他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)	% (77.3)	% (28.7)	% (49.5)	% (45.4)	% (10.6)	% (5.1)	% (9.7)	% (18.5)	% (1.9)	% (0.9)	人 (216)	
全 体	76.9	32.4	47.7	43.1	8.3	7.9	7.4	18.1	—	0.5	216	
男 子	78.2	33.3	47.1	43.7	8.6	6.9	7.5	17.8	—	—	174	
女 子	71.4	28.6	50.0	40.5	7.1	11.9	7.1	19.0	—	2.4	42	

Ⅵ. アルバイト

Ⅵ-1表 過去一年間にアルバイトをしましたか

区 分		継続的（1ヶ月以上）アルバイトをした	臨時的（1ヶ月未満）アルバイトをした	継続的+臨時的アルバイトをした	しなかった	無 回 答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	人	%
2000年調査 (50回)		(55.0)	(12.5)	(13.2)	(19.0)	(0.3)	(1,042)	(100.0)
全 体		53.6	10.2	15.4	20.5	0.3	942	100.0
男 子		51.4	10.7	15.2	22.3	0.4	741	78.7
女 子		61.7	8.5	15.9	13.9	—	201	21.3
男 子	前 期 課 程	48.5	10.7	18.0	22.5	0.3	373	39.6
	後 期 課 程	54.3	10.6	12.5	22.0	0.5	368	39.1
女 子	前 期 課 程	57.9	8.4	20.0	13.7	—	95	10.1
	後 期 課 程	65.1	8.5	12.3	14.2	—	106	11.3
男 子	自 宅	58.0	6.9	15.6	19.2	0.3	333	35.4
	分譲マンション	37.5	—	—	62.5	—	8	0.8
	賃貸マンション・アパート(バスつき)	48.3	13.0	13.4	24.7	0.7	292	31.0
	アパート(バスなし)	33.3	26.7	23.3	16.7	—	30	3.2
	下 宿	40.0	13.3	6.7	40.0	—	15	1.6
	東大学寮・三鷹学生宿舎	40.0	15.0	20.0	25.0	—	20	2.1
	そ の 他 の 寮	46.2	12.8	20.5	20.5	—	39	4.1
	そ の 他	66.7	—	33.3	—	—	3	0.3
無 回 答	—	—	100.0	—	—	1	0.1	
女 子	自 宅	69.1	6.2	11.3	13.4	—	97	10.3
	分譲マンション	50.0	50.0	—	—	—	2	0.2
	賃貸マンション・アパート(バスつき)	57.0	7.6	20.3	15.2	—	79	8.4
	アパート(バスなし)	66.7	—	—	33.3	—	3	0.3
	下 宿	100.0	—	—	—	—	1	0.1
	東大学寮・三鷹学生宿舎	71.4	14.3	14.3	—	—	7	0.7
	そ の 他 の 寮	25.0	37.5	25.0	12.5	—	8	0.8
	そ の 他	—	—	66.7	33.3	—	3	0.3
無 回 答	100.0	—	—	—	—	1	0.1	

Ⅵ-2表 アルバイトの種類

(2つまで選択)

区 分	家庭教師	塾 講 師	試験監督・採点	特殊技術を要すること	一般事務	販売・セールス・サービス業	肉体労働	宿直・警 備	その他	無回答	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
2000年調査 (50回)	(45.5)	(30.9)	(9.8)	(6.9)	(7.4)	(26.3)	(15.9)	(1.5)	(6.4)	(—)	(841)
全 体	48.4	32.8	9.7	5.4	10.1	25.6	13.1	1.6	5.1	—	746
男 子	46.1	33.5	9.6	5.2	9.2	21.6	16.6	2.1	5.4	—	573
女 子	56.1	30.6	9.8	5.8	12.7	38.7	1.7	—	4.0	—	173

Ⅵ-3表 アルバイト所要時間と収入金額

区 分	ア ル バ イ ト 所 要 時 間		ア ル バ イ ト 収 入 金 額	
	1週間当たりの平均時間	人 数	1ヶ月当たりの平均収入	人 数
2000年調査 (50回)	時間	人	千円	人
全 体	(10.64) 11.13	(816) 736	(47.93) 47.64	(820) 737
男 子	11.32	567	47.23	569
女 子	10.49	169	49.01	168

Ⅵ-4表 アルバイトの紹介者

(2つまで選択)

区 分	大学の担当事務	大学の研究室	内外学生センター	新聞広告・アルバイト広告誌	インターネット	友人・知人等	アルバイト先と直接	スーパー・銀行等の伝言板	その他	無回答	事例数
2000年調査(50回)全体	% (11.2) 13.1	% (1.0) 2.5	% (6.7) 6.2	% (32.8) 32.3	% (7.6) 11.1	% (46.8) 41.8	% (26.0) 25.9	% (2.9) 2.1	% (5.0) 6.2	% (0.4) 0.3	人 (841) 746
男子	12.9	2.8	6.8	31.2	10.5	41.2	25.1	2.1	6.3	0.3	573
女子	13.9	1.7	4.0	35.8	13.3	43.9	28.3	2.3	5.8	—	173

Ⅵ-5表 アルバイトの目的

区 分	家庭の経済的負担を軽減するため	学生生活を楽しむため	社会経験のため	その他	無回答	事例数	
2000年調査(50回)全体	% (28.1) 28.2	% (41.1) 38.9	% (24.0) 26.4	% (6.5) 6.2	% (0.2) 0.4	人 (841) 746	% (100.0) 100.0
男子	29.5	38.0	25.3	6.6	0.5	573	76.8
女子	23.7	41.6	30.1	4.6	—	173	30.2

Ⅵ-6表 アルバイト収入の主たる使途

(2つまで選択)

区 分	生活費(衣・食・住居費)	授業料	勉学費	教養・娯楽費	旅行(帰省旅行も含む)	技術・資格等取得の費用	耐久消費財購入費用	貯金	その他	無回答	事例数
2000年調査(50回)全体	% (53.4) 52.9	% (2.4) 2.1	% (10.3) 12.5	% (71.0) 71.0	% (19.3) 20.1	% (1.4) 2.1	% (4.4) 4.0	% (18.8) 21.2	% (1.7) 0.9	% (0.1) —	人 (841) 746
男子	54.5	2.4	14.5	71.0	16.8	1.7	4.4	20.1	1.2	—	573
女子	48.0	1.2	5.8	71.1	31.2	3.5	2.9	24.9	—	—	173

Ⅵ-7表 継続的アルバイトは勉強の妨げになりませんでしたか

区 分	かなり妨げになった	多少妨げになった	妨げにならなかった	無回答	事例数	
2000年調査(50回)全体	% (11.0) 8.6	% (44.3) 42.6	% (41.6) 45.2	% (3.1) 3.5	人 (711) 650	% (100.0) 100.0
男子	9.9	42.7	44.9	2.4	494	76.0
女子	4.5	42.3	46.2	7.1	156	24.0

Ⅵ-8表 現在の暮らし向きについてどうお考えですか

区 分	かなり楽な方	やや楽な方	普通	やや苦しい方	大変苦しい方	分からない	無回答	事例数	
2000年調査(50回)全体	% (28.6) 21.2	% (22.4) 25.5	% (30.7) 36.4	% (13.0) 13.0	% (3.4) 2.9	% (1.1) 0.6	% (1.0) 0.4	人 (1,042) 942	% (100.0) 100.0
男子	18.6	26.3	36.8	13.9	3.1	0.7	0.5	741	78.7
女子	30.8	22.4	34.8	9.5	2.0	0.5	—	201	21.3

Ⅶ. 入学までの学習

Ⅶ—1表 出身高校

区 分	国 立 (大学附属)	公 立	中高一貫 型の私立	その他 の私立	大学入学 資格検定	その他	無回答	合 計	事例数
2000年調査 (50回)	% (10.9)	% (34.2)	% (49.0)	% (3.9)	% (0.2)	% (1.3)	% (0.4)	% (100.0)	人 (1,042)
全 体	8.7	37.9	49.2	3.4	—	0.7	0.1	100.0	942
男 子	8.0	37.9	49.9	3.4	—	0.7	0.1	100.0	741
女 子	11.4	37.8	46.3	3.5	—	1.0	—	100.0	201
文 科 系	9.6	35.7	51.1	2.6	—	0.7	0.2	100.0	417
理 科 系	8.0	39.6	47.6	4.0	—	0.8	—	100.0	525
現 役	8.1	34.6	53.1	3.5	—	0.5	0.2	100.0	621
1 浪	11.3	42.0	43.1	3.3	—	0.4	—	100.0	274
2 浪 以 上	3.2	71.0	19.4	—	—	6.5	—	100.0	31
学 士 入 学	—	—	100.0	—	—	—	—	100.0	3
そ の 他	—	38.5	46.2	7.7	—	7.7	—	100.0	13

Ⅶ—5表 学習意欲を高めるのに影響が大きかったと思う人

(複数回答)

区 分	小 学 校 時 代									事例数
	父 親	母 親	学校の 教 師	塾の教師や 家庭教師	兄や姉	学級(ある いは学校) 全 体	親しい 友 人	その他	無回答	
全 体	% 32.4	% 54.1	% 28.9	% 36.0	% 13.6	% 13.7	% 27.2	% 4.7	% 10.4	人 942
男 子	32.3	51.7	27.7	36.0	11.6	13.8	29.1	5.1	11.3	741
女 子	32.8	63.2	33.3	35.8	20.9	13.4	19.9	3.0	7.0	201
文 科 系	37.6	59.5	30.9	39.1	13.4	14.9	28.5	5.5	8.9	417
理 科 系	28.2	49.9	27.2	33.5	13.7	12.8	26.1	4.0	11.6	525

(複数回答)

区 分	中 学 ・ 高 校 時 代									事例数
	父 親	母 親	学校の 教 師	塾の教師や 家庭教師	兄や姉	学級(ある いは学校) 全 体	親しい 友 人	その他	無回答	
全 体	% 25.6	% 33.7	% 54.0	% 35.1	% 10.6	% 50.0	% 59.6	% 5.6	% 4.4	人 942
男 子	24.7	30.0	54.3	31.8	9.7	49.9	60.1	6.7	5.0	741
女 子	28.9	47.3	53.2	47.3	13.9	50.2	57.7	1.5	2.0	201
文 科 系	30.0	38.8	54.0	37.9	11.3	51.1	59.2	4.8	4.8	417
理 科 系	22.1	29.5	54.1	33.0	10.1	49.1	59.8	6.3	4.0	525

注：Ⅶ—2表からⅦ—4表は次頁以降にあります

Ⅶ—2表 学校外での1日当りの学習時間（高校1～2年次）

区分	塾（家庭教師などを含む）での学習 塾に行っていない 578人（61.8%）					塾（家庭教師などを含む）での学習 1時間未満 128人（13.7%）					塾（家庭教師などを含む）での学習 2時間未満 123人（13.1%）				
	家庭での個人学習					家庭での個人学習					家庭での個人学習				
	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	計
全体	人 (%) 231(40.0)	人 (%) 182(31.5)	人 (%) 93(16.1)	人 (%) 72(12.5)	人 (%) 578(100.1)	人 (%) 55(43.0)	人 (%) 44(34.4)	人 (%) 19(14.8)	人 (%) 10(7.8)	人 (%) 128(100.0)	人 (%) 39(31.7)	人 (%) 45(36.6)	人 (%) 31(25.2)	人 (%) 8(6.5)	人 (%) 123(100.0)
男子	204(43.4)	140(29.8)	69(14.7)	57(12.1)	470(100.0)	47(43.1)	36(33.0)	17(15.6)	9(8.3)	109(100.0)	31(34.8)	31(34.8)	20(22.5)	7(7.9)	89(100.0)
女子	27(25.0)	42(38.9)	24(22.2)	15(13.9)	108(100.0)	8(42.1)	8(42.1)	2(10.5)	1(5.3)	19(100.0)	8(23.5)	14(41.2)	11(32.4)	1(2.9)	34(100.0)
文科系	86(35.0)	82(33.3)	42(17.1)	36(14.6)	246(100.0)	22(44.0)	16(32.0)	8(16.0)	4(8.0)	50(100.0)	24(33.8)	21(29.6)	20(28.2)	6(8.5)	71(100.1)
理科系	145(43.7)	100(30.1)	51(15.4)	36(10.8)	332(100.0)	33(42.3)	28(35.9)	11(14.1)	6(7.7)	78(100.0)	15(28.8)	24(46.2)	11(21.2)	2(3.8)	52(100.0)

区分	塾（家庭教師などを含む）での学習 3時間未満 80人（8.5%）					塾（家庭教師などを含む）での学習 3時間以上 27人（2.9%）					塾（家庭教師などを含む）での学習					
	家庭での個人学習					家庭での個人学習					塾にいていない	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	合計
	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	計						
全体	人 (%) 21(26.3)	人 (%) 28(35.0)	人 (%) 19(23.8)	人 (%) 12(15.0)	人 (%) 80(100.1)	人 (%) 5(18.5)	人 (%) 7(25.9)	人 (%) 7(25.9)	人 (%) 8(29.6)	人 (%) 27(99.9)	人 (%) 578(61.8)	人 (%) 128(13.7)	人 (%) 123(13.1)	人 (%) 80(8.5)	人 (%) 27(2.9)	人 (%) 936(100.0)
男子	15(29.4)	15(29.4)	14(27.5)	7(13.7)	51(100.0)	5(29.4)	4(23.5)	4(23.5)	4(23.5)	17(99.9)	470(63.9)	109(14.8)	89(12.1)	51(6.9)	17(2.3)	736(100.0)
女子	6(20.7)	13(44.8)	5(17.2)	5(17.2)	29(99.9)	—	3(30.0)	3(30.0)	4(40.0)	10(100.0)	108(54.0)	19(9.5)	34(17.0)	29(14.5)	10(5.0)	200(100.0)
文科系	10(30.3)	11(33.3)	8(24.2)	4(12.1)	33(99.9)	1(7.7)	2(15.4)	5(38.5)	5(38.5)	13(100.1)	246(59.6)	50(12.1)	71(17.2)	33(8.0)	13(3.1)	413(100.0)
理科系	11(23.4)	17(36.2)	11(23.4)	8(17.0)	47(100.0)	4(28.6)	5(35.7)	2(14.3)	3(21.4)	14(100.0)	332(63.5)	78(14.9)	52(9.9)	47(9.0)	14(2.7)	523(100.0)

区分	家庭での個人学習					無回答 分類不能	事例数
	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	合計		
全体	人 (%) 351(37.5)	人 (%) 306(32.7)	人 (%) 169(18.1)	人 (%) 110(11.8)	人 (%) 936(100.1)	人 6	人 942
男子	302(41.0)	226(30.7)	124(16.8)	84(11.4)	736(99.9)	5	741
女子	49(24.5)	80(40.0)	45(22.5)	26(13.0)	200(100.0)	1	201
文科系	143(34.6)	132(32.0)	83(20.1)	55(13.3)	413(100.0)	4	417
理科系	208(39.8)	174(33.3)	86(16.4)	55(10.5)	523(100.0)	2	525

Ⅶ—3表 部活動・生徒会活動等の状況（高校1～2年次）

区分	文化部	運動部	生徒会 活動	不参加	その他	無回答	合計	事例数
全体	% 27.5	% 44.2	% 4.2	% 21.8	% 1.4	% 1.0	% 100.0	人 942
男子	21.5	48.9	3.6	23.6	1.2	1.2	100.0	741
女子	49.8	26.9	6.5	14.9	2.0	—	100.0	201
文科系	29.3	44.1	5.0	19.2	1.2	1.2	100.0	417
理科系	26.1	44.2	3.6	23.8	1.5	0.8	100.0	525

Ⅶ—4表 学校外での1日当りの学習時間（高校3年次）

区分	塾（家庭教師などを含む）での学習 塾に行っていない 432人（46.2%）						塾（家庭教師などを含む）での学習 1時間未満 106人（11.3%）						塾（家庭教師などを含む）での学習 2時間未満 151人（16.1%）					
	家庭での個人学習						家庭での個人学習						家庭での個人学習					
	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	計
全体	人 (%) 19(4.4)	人 (%) 61(14.1)	人 (%) 128(29.6)	人 (%) 108(25.0)	人 (%) 116(26.9)	人 (%) 432(100.0)	人 (%) 4(3.8)	人 (%) 24(22.6)	人 (%) 32(30.2)	人 (%) 29(27.4)	人 (%) 17(16.0)	人 (%) 106(100.0)	人 (%) 8(5.3)	人 (%) 43(28.5)	人 (%) 55(36.4)	人 (%) 32(21.2)	人 (%) 13(8.6)	人 (%) 151(100.0)
男子	16(4.5)	55(15.6)	110(31.3)	79(22.4)	92(26.1)	352(99.9)	3(3.3)	22(24.2)	27(29.7)	23(25.3)	16(17.6)	91(100.1)	6(5.1)	35(29.9)	44(37.6)	23(19.7)	9(7.7)	117(100.0)
女子	3(3.8)	6(7.5)	18(22.5)	29(36.3)	24(30.0)	80(100.1)	1(6.7)	2(13.3)	5(33.3)	6(40.0)	1(6.7)	15(100.0)	2(5.9)	8(23.5)	11(32.4)	9(26.5)	4(11.8)	34(100.1)
文科系	5(2.9)	26(14.9)	50(28.7)	39(22.4)	54(31.0)	174(99.9)	2(4.0)	10(20.0)	13(26.0)	14(28.0)	11(22.0)	50(100.0)	3(4.2)	17(23.9)	21(29.6)	23(32.4)	7(9.9)	71(100.0)
理科系	14(5.4)	35(13.6)	78(30.2)	69(26.7)	62(24.0)	258(99.9)	2(3.6)	14(25.0)	19(33.9)	15(26.8)	6(10.7)	56(100.0)	5(6.3)	26(32.5)	34(42.5)	9(11.3)	6(7.5)	80(100.1)

区分	塾（家庭教師などを含む）での学習 3時間未満 139人（14.9%）						塾（家庭教師などを含む）での学習 4時間未満 77人（8.2%）						塾（家庭教師などを含む）での学習 4時間以上 30人（3.2%）					
	家庭での個人学習						家庭での個人学習						家庭での個人学習					
	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	計
全体	人 (%) 10(7.2)	人 (%) 32(23.0)	人 (%) 50(36.0)	人 (%) 26(18.7)	人 (%) 21(15.1)	人 (%) 139(100.0)	人 (%) 8(10.4)	人 (%) 15(19.5)	人 (%) 25(32.5)	人 (%) 16(20.8)	人 (%) 13(16.9)	人 (%) 77(100.1)	人 (%) 6(20.0)	人 (%) 5(16.7)	人 (%) 7(23.3)	人 (%) 1(3.3)	人 (%) 11(36.7)	人 (%) 30(100.0)
男子	8(8.2)	25(25.8)	37(38.1)	12(12.4)	15(15.5)	97(100.0)	7(12.7)	11(20.0)	17(30.9)	10(18.2)	10(18.2)	55(100.0)	5(21.7)	4(17.4)	6(26.1)	1(4.3)	7(30.4)	23(99.9)
女子	2(4.8)	7(16.7)	13(31.0)	14(33.3)	6(14.3)	42(100.1)	1(4.5)	4(18.2)	8(36.4)	6(27.3)	3(13.6)	22(100.0)	1(14.3)	1(14.3)	1(14.3)	—	4(57.1)	7(100.0)
文科系	8(11.6)	12(17.4)	23(33.3)	15(21.7)	11(15.9)	69(99.9)	5(15.6)	4(12.5)	11(34.4)	6(18.8)	6(18.8)	32(100.1)	2(11.8)	2(11.8)	7(41.2)	—	6(35.3)	17(100.1)
理科系	2(2.9)	20(28.6)	27(38.6)	11(15.7)	10(14.3)	70(100.1)	3(6.7)	11(24.4)	14(31.1)	10(22.2)	7(15.6)	45(100.0)	4(30.8)	3(23.1)	—	1(7.7)	5(38.5)	13(100.1)

区分	塾（家庭教師などを含む）での学習							家庭での個人学習						無回答 分類不能	事例数
	塾に行っていない	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	合計	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	合計		
全体	人 (%) 432(46.2)	人 (%) 106(11.3)	人 (%) 151(16.1)	人 (%) 139(14.9)	人 (%) 77(8.2)	人 (%) 30(3.2)	人 (%) 935(99.9)	人 (%) 55(5.9)	人 (%) 180(19.3)	人 (%) 297(31.8)	人 (%) 212(22.7)	人 (%) 191(20.4)	人 (%) 935(100.1)	人 7	人 942
男子	352(47.9)	91(12.4)	117(15.9)	97(13.2)	55(7.5)	23(3.1)	735(100.0)	45(6.1)	152(20.7)	241(32.8)	148(20.1)	149(20.3)	735(100.0)	6	741
女子	80(40.0)	15(7.5)	34(17.0)	42(21.0)	22(11.0)	7(3.5)	200(100.0)	10(5.0)	28(14.0)	56(28.0)	64(32.0)	42(21.0)	200(100.0)	1	201
文科系	174(42.1)	50(12.1)	71(17.2)	69(16.7)	32(7.7)	17(4.1)	413(99.9)	25(6.1)	71(17.2)	125(30.3)	97(23.5)	95(23.0)	413(100.1)	4	417
理科系	258(49.4)	56(10.7)	80(15.3)	70(13.4)	45(8.6)	13(2.5)	522(99.9)	30(5.7)	109(20.9)	172(33.0)	115(22.0)	96(18.4)	522(100.0)	3	525

Ⅶ—6表 高い学力を身につけた要因

注：平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
学校の授業で 教師の考え方が よかった	全 体	% 20.6	% 38.3	% 27.7	% 13.2	% 0.2	942	100.0	2.66
	男 子	20.8	38.9	26.7	13.5	0.1	741	78.7	2.67
	女 子	19.9	36.3	31.3	11.9	0.5	201	21.3	2.63
	文 科 系	22.5	36.2	27.3	13.7	0.2	417	44.3	2.67
	理 科 系	19.0	40.0	28.0	12.8	0.2	525	55.7	2.65

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
学校全体に、 勉強をする雰 囲気があった	全 体	% 30.5	% 37.3	% 19.9	% 12.2	% 0.2	942	100.0	2.86
	男 子	30.1	36.7	20.4	12.7	0.1	741	78.7	2.84
	女 子	31.8	39.3	17.9	10.4	0.5	201	21.3	2.91
	文 科 系	30.7	37.6	19.2	12.2	0.2	417	44.3	2.86
	理 科 系	30.3	37.0	20.4	12.2	0.2	525	55.7	2.85

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
塾、予備校、 家庭教師など でレベルの高 い指導を受け た	全 体	% 31.6	% 27.2	% 14.8	% 26.1	% 0.3	942	100.0	2.64
	男 子	29.4	27.1	15.9	27.4	0.1	741	78.7	2.58
	女 子	39.8	27.4	10.4	21.4	1.0	201	21.3	2.84
	文 科 系	33.6	30.5	14.6	20.9	0.5	417	44.3	2.76
	理 科 系	30.1	24.6	14.9	30.3	0.2	525	55.7	2.54

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
わからないこ とを教えあえ る友人がいた	全 体	% 20.7	% 30.5	% 28.7	% 20.0	% 0.2	942	100.0	2.52
	男 子	21.2	30.5	27.8	20.4	0.1	741	78.7	2.52
	女 子	18.9	30.3	31.8	18.4	0.5	201	21.3	2.49
	文 科 系	16.1	29.0	33.6	21.1	0.2	417	44.3	2.40
	理 科 系	24.4	31.6	24.8	19.0	0.2	525	55.7	2.61

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
家庭に、教養的なことや学習を奨励する雰囲気があった	全 体	% 28.9	% 32.0	% 22.2	% 16.8	% 0.2	942	100.0	2.73
	男 子	24.4	32.3	24.4	18.8	0.1	741	78.7	2.62
	女 子	45.3	30.8	13.9	9.5	0.5	201	21.3	3.11
	文 科 系	33.8	32.9	18.2	14.9	0.2	417	44.3	2.85
	理 科 系	25.0	31.2	25.3	18.3	0.2	525	55.7	2.63

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
家庭で、親や兄・姉などに勉強を教えられた	全 体	% 8.8	% 16.8	% 20.4	% 53.7	% 0.3	942	100.0	1.80
	男 子	6.6	15.1	19.8	58.2	0.3	741	78.7	1.70
	女 子	16.9	22.9	22.4	37.3	0.5	201	21.3	2.18
	文 科 系	9.6	16.5	21.3	52.3	0.2	417	44.3	1.83
	理 科 系	8.2	17.0	19.6	54.9	0.4	525	55.7	1.78

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
参考書、問題集などの学習教材が、家庭で充実していた	全 体	% 18.9	% 25.7	% 26.9	% 28.2	% 0.3	942	100.0	2.35
	男 子	17.7	26.0	25.8	30.2	0.3	741	78.7	2.31
	女 子	23.4	24.4	30.8	20.9	0.5	201	21.3	2.49
	文 科 系	19.4	29.5	24.0	26.9	0.2	417	44.3	2.41
	理 科 系	18.5	22.7	29.1	29.3	0.4	525	55.7	2.30

	区 分	よくあてはまる——全くあてはまらない				無回答	事 例 数		平均値
		4	3	2	1		人	%	
読書、習い事、趣味などで、興味や知識を広げておいた	全 体	% 25.1	% 31.8	% 25.9	% 16.9	% 0.3	942	100.0	2.65
	男 子	22.5	31.4	26.3	19.4	0.3	741	78.7	2.56
	女 子	34.3	33.3	24.4	7.5	0.5	201	21.3	2.93
	文 科 系	27.8	31.4	25.7	14.9	0.2	417	44.3	2.72
	理 科 系	22.9	32.2	26.1	18.5	0.4	525	55.7	2.59

Ⅷ. 入学・進学・学業

Ⅷ—1表 東大入学をどの程度希望していましたか

区 分		どうしても入 りたかった	だめなら他大 でもよいと 思った	なんとなく	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		%	%	%	%	人	%
全 体		(49.5)	(37.7)	(12.7)	(0.1)	(1,042)	(100.0)
男 子		44.3	34.6	20.6	0.5	942	100.0
女 子		43.6	36.0	19.7	0.7	741	78.7
		46.8	29.4	23.9	—	201	21.3
男 子	前期課程	45.0	35.4	18.8	0.8	373	39.6
	後期課程	42.1	36.7	20.7	0.5	368	39.1
女 子	前期課程	50.5	25.3	24.2	—	95	10.1
	後期課程	43.4	33.0	23.6	—	106	11.3
男 子	文科系	47.6	33.1	18.6	0.6	311	33.0
	理科系	40.7	38.1	20.5	0.7	430	45.6
女 子	文科系	52.8	28.3	18.9	—	106	11.3
	理科系	40.0	30.5	29.5	—	95	10.1

Ⅷ—2表 東大入学の動機（第1位）

区 分	社会的評価 が高いから	スタッフ・ 設備が優れ ているから	将来の就職 を考えて	難関を突破 したかった から	私大に比べ て授業料が 安いから	東大の伝統 や雰囲気に 憧れて	入学後に学 部の選択が 可能だから	親・兄弟・ 姉妹の勧め で	高校の先生 や友人など の勧めで	その他	無回答	事 例 数		
												人	%	
2000年調査 (50回)	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	(19.8)	(18.3)	(8.4)	(8.3)	(6.8)	(10.6)	(16.1)	(1.5)	(3.0)	(6.9)	(0.3)	(1,042)	(100.0)	
男 子	19.9	15.4	6.8	8.1	10.4	7.1	15.9	3.3	4.7	8.0	0.5	942	100.0	
女 子	21.3	15.9	6.2	8.0	10.7	7.6	15.5	2.8	3.9	7.6	0.5	741	78.7	
	14.4	13.4	9.0	8.5	9.5	5.5	17.4	5.0	7.5	9.5	0.5	201	21.3	
男 子	前期課程	21.2	15.0	7.0	8.0	11.3	5.4	17.7	2.4	2.1	9.4	0.5	373	39.6
	後期課程	21.5	16.8	5.4	7.9	10.1	9.8	13.3	3.3	5.7	5.7	0.5	368	39.1
女 子	前期課程	20.0	12.6	11.6	10.5	8.4	5.3	13.7	3.2	5.3	9.5	—	95	10.1
	後期課程	9.4	14.2	6.6	6.6	10.4	5.7	20.8	6.6	9.4	9.4	0.9	106	11.3
男 子	文科系	31.8	10.0	8.0	10.9	6.8	10.0	7.1	3.2	3.2	8.4	0.6	311	33.0
	理科系	13.7	20.2	4.9	5.8	13.5	5.8	21.6	2.6	4.4	7.0	0.5	430	45.6
女 子	文科系	16.0	14.2	13.2	10.4	8.5	5.7	8.5	4.7	8.5	9.4	0.9	106	11.3
	理科系	12.6	12.6	4.2	6.3	10.5	5.3	27.4	5.3	6.3	9.5	—	95	10.1
(第2位)														
全 体	11.8	11.3	8.9	9.6	22.5	8.7	13.1	3.5	4.1	1.8	4.8	942	100.0	
(第3位)														
全 体	11.4	7.3	9.6	7.6	15.8	8.3	12.0	3.4	7.1	4.0	13.5	942	100.0	

Ⅷ—3表 入学時に進学する学部・学科等を決めていましたか

区 分		学科等まで決 めていた	学部のみを決 めていた	学部、学科等 は決めていな かった	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		%	%	%	%	人	%
全 体		(29.7)	(37.1)	(33.2)	(—)	(1,042)	(100.0)
男 子		29.4	33.5	36.7	0.3	942	100.0
女 子		29.3	34.7	35.8	0.3	741	78.7
		29.9	29.4	40.3	0.5	201	21.3
文 科 系		28.8	44.6	26.1	0.5	417	44.3
理 科 系		29.9	24.8	45.1	0.2	525	55.7

Ⅷ—4表 学部・学科等の選択に際しどのような点を重視しましたか（しますか）

（2つまで選択）

区 分		最先端の学問が学べる こと	自分が惹き つけられた 学問分野で あること	その学部・ 学科等の教 官に魅力を 感じることに 関すること	社会のため になる分野 であることに 関すること	就職の際に 有利である ことに関すること	将来なりた い職業に就 くのに必須 であることに 関すること	選択に際し 特に考えな かった	無 回 答	事 例 数
2000年調査 (50回)		% (15.9)	% (81.9)	% (10.2)	% (21.4)	% (12.7)	% (34.5)	% (7.0)	% (16.4)	人 (1,042)
全 体		13.4	79.1	12.3	22.6	13.9	28.1	8.1	0.3	942
男 子		14.8	78.5	11.3	23.2	13.5	26.7	8.8	0.3	741
女 子		8.0	81.1	15.9	20.4	15.4	33.3	5.5	0.5	201
男 子	前期課程	16.9	82.3	11.0	22.8	11.8	27.9	7.0	0.5	373
	後期課程	12.8	74.7	11.7	23.6	15.2	25.5	10.6	—	368
女 子	前期課程	3.2	81.1	20.0	23.2	15.8	34.7	5.3	—	95
	後期課程	12.3	81.1	12.3	17.9	15.1	32.1	5.7	0.9	106
男 子	文科系	7.1	70.7	11.9	25.7	20.6	28.3	11.6	—	311
	理科系	20.5	84.2	10.9	21.4	8.4	25.6	6.7	0.5	430
女 子	文科系	4.7	73.6	15.1	25.5	18.9	34.9	6.6	0.9	106
	理科系	11.6	89.5	16.8	14.7	11.6	31.6	4.2	—	95
前 期 課 程	文科一類	5.0	58.8	3.8	22.5	26.3	57.5	11.3	—	80
	文科二類	6.1	81.6	4.1	42.9	18.4	14.3	8.2	—	49
	文科三類	9.0	93.6	25.6	17.9	11.5	17.9	5.1	—	78
	理科一類	19.4	91.3	14.4	16.9	8.8	25.0	6.3	0.6	160
	理科二類	20.2	78.7	12.4	23.6	6.7	28.1	4.5	1.1	89
	理科三類	25.0	66.7	8.3	50.0	—	41.7	—	—	12
後 期 課 程	法学部	6.5	42.4	2.2	34.8	32.6	44.6	16.3	1.1	92
	経済学部	2.0	63.3	14.3	30.6	30.6	12.2	18.4	—	49
	文学部	12.2	100.0	28.6	8.2	—	10.2	4.1	—	49
	教育学部	—	100.0	11.1	22.2	—	33.3	—	—	9
	教養(文系)	—	90.9	36.4	9.1	—	27.3	—	—	11
	教養(理系)	10.0	100.0	40.0	—	—	—	20.0	—	10
	理学部	33.3	92.9	9.5	4.8	—	19.0	4.8	—	42
	工学部	12.6	87.4	12.6	19.3	14.3	25.2	5.0	—	119
	農学部	21.4	85.7	7.1	23.8	9.5	16.7	11.9	—	42
	薬学部	23.5	64.7	5.9	35.3	29.4	17.6	11.8	—	17
医学部	11.8	67.6	2.9	32.4	2.9	64.7	5.9	—	34	

Ⅷ—5表 進学決定(内定)について

区 分		希望通り決定した	ほぼ希望通り決定した	希望通りでなかった	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		% (73.2)	% (15.8)	% (5.2)	% (5.8)	人 (792)	% (100.0)
全 体		79.9	13.5	4.8	1.9	690	100.0
男 子		78.2	14.7	5.4	1.7	536	77.8
女 子		85.7	9.1	2.6	2.6	154	22.2
前 期 課 程 (進 学 内 定 者)	文科一類	94.9	5.1	—	—	39	5.7
	文科二類	100.0	—	—	—	21	3.0
	文科三類	65.7	31.4	2.9	—	35	5.1
	理科一類	84.0	14.7	1.3	—	75	10.9
	理科二類	61.5	23.1	15.4	—	39	5.7
	理科三類	100.0	—	—	—	7	1.0
後 期 課 程	法学部	89.1	3.3	2.2	5.4	92	13.3
	経済学部	91.8	6.1	—	2.0	49	7.1
	文学部	73.5	22.4	2.0	2.0	49	7.1
	教育学部	66.7	22.2	11.1	—	9	1.3
	教養(文系)	81.8	9.1	9.1	—	11	1.6
	教養(理系)	90.0	—	10.0	—	10	1.4
	理学部	88.1	4.8	7.1	—	42	6.1
	工学部	71.4	21.0	5.0	2.5	119	17.2
	農学部	54.8	26.2	16.7	2.4	42	6.1
	薬学部	88.2	5.9	5.9	—	17	2.5
医学部	85.3	2.9	5.9	5.9	34	4.9	

Ⅷ—6表 現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか

区 分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		%	%	%	%	%	%	人	%
全 体		(38.5)	(33.6)	(11.6)	(9.5)	(4.9)	(1.9)	(1,042)	(100.0)
男 子		37.8	33.3	10.5	10.1	5.0	3.3	942	100.0
女 子		36.3	33.7	10.5	10.7	5.4	3.4	741	78.7
		43.3	31.8	10.4	8.0	3.5	3.0	201	21.3
男子	前期課程	29.5	34.9	13.4	11.3	4.6	6.4	373	39.6
	後期課程	43.2	32.6	7.6	10.1	6.3	0.3	368	39.1
女子	前期課程	40.0	35.8	10.5	7.4	1.1	5.3	95	10.1
	後期課程	46.2	28.3	10.4	8.5	5.7	0.9	106	11.3
男子	文 科 系	36.3	33.8	11.6	10.0	4.8	3.5	311	33.0
	理 科 系	36.3	33.7	9.8	11.2	5.8	3.3	430	45.6
女子	文 科 系	44.3	29.2	10.4	9.4	2.8	3.8	106	11.3
	理 科 系	42.1	34.7	10.5	6.3	4.2	2.1	95	10.1

Ⅷ—7表 進学振分け制度についてどのように考えていますか

区 分		現行のまま でよい	点数だけでな い選択方法も 取り入れてほ しい	入学時からあ る程度進路が 決まっていた 方がよい	特 に ない	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		%	%	%	%	%	%	人	%
全 体		(33.6)	(32.9)	(11.5)	(14.4)	(6.1)	(1.4)	(1,042)	(100.0)
男 子		36.2	30.9	10.7	13.7	5.6	2.9	942	100.0
女 子		37.2	29.7	10.5	14.0	5.7	2.8	741	78.7
		32.3	35.3	11.4	12.4	5.5	3.0	201	21.3
前 期 課 程	文 科 一 類	36.3	15.0	11.3	25.0	5.0	7.5	80	8.5
	文 科 二 類	36.7	26.5	14.3	18.4	4.1	—	49	5.2
	文 科 三 類	16.7	56.4	5.1	3.8	12.8	5.1	78	8.3
	理 科 一 類	28.8	39.4	12.5	8.8	5.6	5.0	160	17.0
	理 科 二 類	20.2	43.8	11.2	13.5	4.5	6.7	89	9.4
	理 科 三 類	66.7	8.3	16.7	—	—	8.3	12	1.3
後 期 課 程	法 学 部	41.3	17.4	10.9	28.3	1.1	1.1	92	9.8
	経 済 学 部	49.0	20.4	8.2	14.3	6.1	2.0	49	5.2
	文 学 部	40.8	36.7	10.2	6.1	6.1	—	49	5.2
	教 育 学 部	22.2	33.3	11.1	33.3	—	—	9	1.0
	教 養(文系)	36.4	36.4	—	27.3	—	—	11	1.2
	教 養(理系)	30.0	40.0	—	20.0	10.0	—	10	1.1
	理 学 部	47.6	19.0	16.7	9.5	7.1	—	42	4.5
	工 学 部	48.7	31.1	7.6	7.6	5.0	—	119	12.6
	農 学 部	38.1	28.6	21.4	9.5	2.4	—	42	4.5
	薬 学 部	52.9	17.6	5.9	17.6	5.9	—	17	1.8
医 学 部	44.1	11.8	8.8	20.6	14.7	—	34	3.6	

Ⅷ—8表 現在のカリキュラムに満足していますか

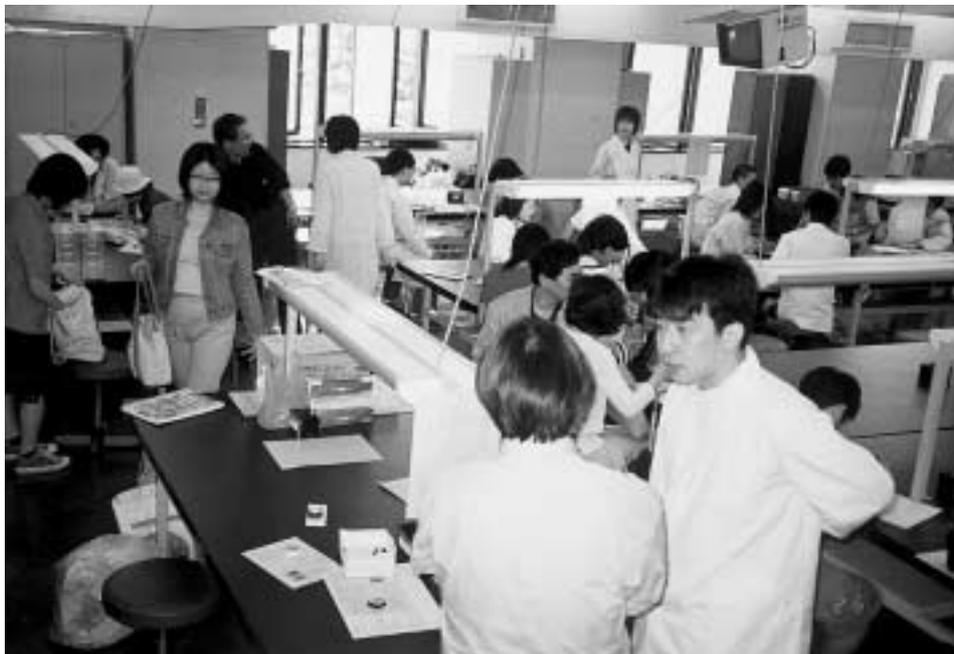
区 分		満足している	まあ満足して いる	どちらとも 言えない	やや不満であ る	不満である	無 回 答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	人	%
2000年調査 (50回)		(10.5)	(35.0)	(20.1)	(25.0)	(8.1)	(1.3)	(1,042)	(100.0)
全 体		12.1	31.5	20.8	22.9	9.9	2.8	942	100.0
男 子		11.6	30.6	19.8	24.4	10.8	2.7	741	78.7
女 子		13.9	34.8	24.4	17.4	6.5	3.0	201	21.3
前 期 課 程	文 科 一 類	11.3	30.0	21.3	23.8	6.3	7.5	80	8.5
	文 科 二 類	8.2	36.7	24.5	20.4	10.2	—	49	5.2
	文 科 三 類	6.4	26.9	23.1	32.1	6.4	5.1	78	8.3
	理 科 一 類	10.6	32.5	25.6	20.6	6.3	4.4	160	17.0
	理 科 二 類	7.9	29.2	22.5	19.1	14.6	6.7	89	9.4
	理 科 三 類	—	33.3	33.3	25.0	—	8.3	12	1.3
後 期 課 程	法 学 部	13.0	27.2	18.5	28.3	12.0	1.1	92	9.8
	経 済 学 部	22.4	38.8	10.2	22.4	4.1	2.0	49	5.2
	文 学 部	8.2	49.0	16.3	22.4	4.1	—	49	5.2
	教 育 学 部	—	22.2	33.3	11.1	33.3	—	9	1.0
	教 養 (文系)	54.5	9.1	18.2	18.2	—	—	11	1.2
	教 養 (理系)	—	40.0	30.0	20.0	10.0	—	10	1.1
	理 学 部	16.7	33.3	21.4	19.0	9.5	—	42	4.5
	工 学 部	16.8	33.6	15.1	21.0	13.4	—	119	12.6
	農 学 部	11.9	21.4	26.2	23.8	16.7	—	42	4.5
	薬 学 部	17.6	41.2	11.8	29.4	—	—	17	1.8
	医 学 部	11.8	20.6	17.6	23.5	26.5	—	34	3.6
文 科 系		12.2	32.1	19.7	25.2	7.9	2.9	417	44.3
理 科 系		12.0	31.0	21.7	21.1	11.4	2.7	525	55.7
男 子	前 期 課 程	8.6	28.4	24.1	24.4	9.4	5.1	373	39.6
	後 期 課 程	14.7	32.9	15.5	24.5	12.2	0.3	368	39.1
女 子	前 期 課 程	10.5	41.1	23.2	16.8	3.2	5.3	95	10.1
	後 期 課 程	17.0	29.2	25.5	17.9	9.4	0.9	106	11.3

Ⅷ—9表 現在のカリキュラムは消化できますか

区 分		で き る	まあまあで きる	多少困難	できない	無 回 答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	人	%
2000年調査 (50回)		(36.7)	(36.3)	(22.6)	(3.3)	(1.2)	(1,042)	(100.0)
全 体		37.8	36.7	18.9	3.6	3.0	942	100.0
男 子		37.1	36.2	20.1	3.6	3.0	741	78.7
女 子		40.3	38.8	14.4	3.5	3.0	201	21.3
前 期 課 程	文 科 一 類	38.8	40.0	11.3	2.5	7.5	80	8.5
	文 科 二 類	34.7	49.0	14.3	—	2.0	49	5.2
	文 科 三 類	32.1	47.4	12.8	2.6	5.1	78	8.3
	理 科 一 類	22.5	33.8	32.5	5.6	5.6	160	17.0
	理 科 二 類	27.0	39.3	22.5	5.6	5.6	89	9.4
	理 科 三 類	33.3	58.3	—	—	8.3	12	1.3
後 期 課 程	法 学 部	29.3	38.0	25.0	6.5	1.1	92	9.8
	経 済 学 部	57.1	32.7	8.2	—	2.0	49	5.2
	文 学 部	51.0	28.6	20.4	—	—	49	5.2
	教 育 学 部	55.6	44.4	—	—	—	9	1.0
	教 養 (文系)	45.5	45.5	9.1	—	—	11	1.2
	教 養 (理系)	30.0	50.0	20.0	—	—	10	1.1
	理 学 部	45.2	31.0	21.4	2.4	—	42	4.5
	工 学 部	47.9	31.9	14.3	5.9	—	119	12.6
	農 学 部	66.7	19.0	14.3	—	—	42	4.5
	薬 学 部	47.1	47.1	5.9	—	—	17	1.8
	医 学 部	41.2	32.4	20.6	5.9	—	34	3.6
文 科 系		39.1	40.0	15.3	2.4	3.1	417	44.3
理 科 系		36.8	34.1	21.7	4.6	2.9	525	55.7
男 子	前 期 課 程	29.0	38.9	22.8	3.8	5.6	373	39.6
	後 期 課 程	45.4	33.4	17.4	3.5	0.3	368	39.1
女 子	前 期 課 程	30.5	46.3	13.7	4.2	5.3	95	10.1
	後 期 課 程	49.1	32.1	15.1	2.8	0.9	106	11.3

Ⅷ—10表 「多少困難」・「できない」と答えた理由（第1位）

区 分		進学・卒業 に必要な単 位数が多過 ぎる	授業の内容 が高度すぎ て理解でき ない科目が ある	カリキュラ ムの組み方 に問題があ る	教育上の指 導助言が十 分ででない	高校までの 勉強のやり 方ではうまく 適応でき ない	大学入試の 受験科目と して取らな かった	授業の準備 と復習の時 間が十分と れない	授業に対す る自分の意 欲や努力が 足りない	その他	無回答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		% (18.2)	% (22.7)	% (11.5)	% (7.4)	% (4.1)	% (1.9)	% (10.8)	% (18.6)	% (4.8)	% (—)	人 (269)	% (100.0)
全 体		13.7	32.5	8.5	5.2	0.9	2.8	13.7	19.3	3.3	—	212	100.0
男 子		13.1	33.0	8.5	5.1	1.1	3.4	11.4	20.5	4.0	—	176	83.0
女 子		16.7	30.6	8.3	5.6	—	—	25.0	13.9	—	—	36	17.0
前 期 課 程	文 科 一 類	—	54.5	9.1	—	—	—	18.2	9.1	9.1	—	11	5.2
	文 科 二 類	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	—	14.3	—	—	—	7	3.3
	文 科 三 類	16.7	16.7	—	—	—	—	16.7	33.3	16.7	—	12	5.7
	理 科 一 類	13.1	34.4	4.9	3.3	—	1.6	19.7	21.3	1.6	—	61	28.8
	理 科 二 類	4.0	44.0	—	8.0	—	20.0	4.0	20.0	—	—	25	11.8
	理 科 三 類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後 期 課 程	法 学 部	10.3	27.6	13.8	3.4	—	—	10.3	34.5	—	—	29	13.7
	経 済 学 部	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	4	1.9
	文 学 部	30.0	10.0	10.0	10.0	—	—	—	20.0	20.0	—	10	4.7
	教 育 学 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	教 養 (文系)	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	1	0.5
	教 養 (理系)	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	2	0.9
	理 学 部	—	40.0	10.0	—	10.0	—	20.0	20.0	—	—	10	4.7
	工 学 部	25.0	29.2	8.3	12.5	—	—	12.5	8.3	4.2	—	24	11.3
	農 学 部	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—	—	6	2.8
	薬 学 部	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	1	0.5
医 学 部	11.1	33.3	33.3	11.1	—	—	11.1	—	—	—	9	4.2	
(第2位) 全体		5.3	14.7	15.3	15.8	7.9	4.7	17.4	16.3	2.6	—	190	100.0
(第3位) 全体		9.6	12.2	8.3	12.8	9.6	2.6	12.8	26.9	5.1	—	156	100.0



五月祭 鉄門扉の会による骨密度測定

Ⅷ—11表 学部卒業後の進路

区 分	進学する	就職する	まだわかない	進学も、就職もするつもりはない	無回答	事 例 数		
	%	%	%	%	%	人	%	
2000年調査 (50回)	(45.6)	(29.8)	(21.3)	(2.1)	(1.2)	(1,042)	(100.0)	
全 体	45.1	28.6	21.8	1.8	2.8	942	100.0	
男 子	47.4	28.1	20.2	1.5	2.8	741	78.7	
女 子	36.8	30.3	27.4	3.0	2.5	201	21.3	
前期課程	40.0	23.3	30.8	0.9	5.1	468	49.7	
後期課程	50.2	33.8	12.9	2.7	0.4	474	50.3	
文 科 系	16.8	50.6	26.6	2.9	3.1	417	44.3	
理 科 系	67.6	11.0	17.9	1.0	2.5	525	55.7	
男子	文科系	16.7	53.1	24.4	2.6	3.2	311	33.0
	理科系	69.5	10.0	17.2	0.7	2.6	430	45.6
女子	文科系	17.0	43.4	33.0	3.8	2.8	106	11.3
	理科系	58.9	15.8	21.1	2.1	2.1	95	10.1

Ⅷ—12表 学部卒業後の進学予定

区 分	大学院 修士課程	大学院 博士課程	その他 (学士入学等)	無回答	事 例 数	
	%	%	%	%	人	%
2000年調査 (50回)	(56.2)	(41.1)	(2.5)	(0.2)	(475)	(100.0)
全 体	59.8	36.9	2.8	0.5	425	100.0
男 子	57.0	39.3	3.1	0.6	351	82.6
女 子	73.0	25.7	1.4	—	74	17.4
前期課程	59.4	36.9	2.7	1.1	187	44.0
後期課程	60.1	37.0	2.9	—	238	56.0
文 科 系	35.7	60.0	2.9	1.4	70	16.5
理 科 系	64.5	32.4	2.8	0.3	355	83.5

Ⅷ—13表 大学院進学の原因

(2つまで選択)

区 分	高度の専門知識・技術を身につけるため	大学で教職に就くため	将来研究者になるため	良い就職先を得るため	まだ社会に出たくないから	周囲にすすめられたから	社会的評価が高いから	友人・先輩の意見	大学での進路指導	その他	無回答	事 例 数	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2000年調査 (50回)	(79.9)	(10.2)	(46.3)	(18.6)	(22.9)	(2.8)	(3.0)	(3.2)	(1.3)	(3.5)	(0.2)	(462)	(100.0)
全 体	81.5	7.5	45.5	16.8	16.5	2.7	5.1	3.6	1.7	2.9	0.5	411	100.0
男 子	80.8	7.7	47.0	16.9	16.6	2.7	5.3	3.3	1.8	3.3	0.6	338	82.2
女 子	84.9	6.8	38.4	16.4	16.4	2.7	4.1	5.5	1.4	1.4	—	73	17.8
男子	前期課程	82.9	8.6	48.0	21.1	13.8	3.3	3.9	0.7	3.3	—	152	37.0
	後期課程	79.0	7.0	46.2	13.4	18.8	2.2	7.0	2.7	3.2	1.1	186	45.3
女子	前期課程	82.1	10.7	35.7	14.3	17.9	3.6	3.6	3.6	—	—	28	6.8
	後期課程	86.7	4.4	40.0	17.8	15.6	2.2	4.4	6.7	—	—	45	10.9
男子	文 科 系	68.0	24.0	60.0	6.0	18.0	—	2.0	2.0	—	8.0	50	12.2
	理 科 系	83.0	4.9	44.8	18.8	16.3	3.1	5.9	3.5	2.1	2.4	288	70.1
女子	文 科 系	82.4	11.8	29.4	11.8	17.6	—	5.9	—	—	—	17	4.1
	理 科 系	85.7	5.4	41.1	17.9	16.1	3.6	3.6	7.1	1.8	1.8	56	13.6

Ⅷ. ボランティア活動

Ⅷ—1表 ボランティア活動の有無

区 分	あ る (あった)	な い	無 回 答	事 例 数	
				人	%
1997年調査 (47回)	% (33.3)	% (65.7)	% (1.0)	(1,198)	(100.0)
全 体	33.4	66.5	0.1	942	100.0
男 子	29.1	70.7	0.1	741	78.6
女 子	49.3	50.7	—	201	21.4

Ⅷ—2表 ボランティア活動の内容

(複数項目選択)

区 分	老人福祉・ 介護等	心身に障害 がある方 (子供を含む) への支援	児童福祉に 関する支援	災害の復旧 支援	自然環境保 護活動	スポーツ・ 文化的活動 の指導・運 営	留学生との 交流・支援	青年海外協 力隊での活 動	NGOなど の組織での 活動	その他	無回答	事例数
1997年調査 (47回)	% (13.5)	% (21.8)	% (—)	% (8.5)	% (17.5)	% (12.8)	% (14.3)	% (—)	% (—)	% (7.3)	% (—)	人 (399)
全 体	35.2	28.6	17.5	8.6	27.6	14.9	17.1	0.3	7.0	10.2	0.3	315
男 子	31.9	22.2	17.6	9.3	31.9	17.1	17.6	0.5	6.9	10.6	0.5	216
女 子	42.4	42.4	17.2	7.1	18.2	10.1	16.2	—	7.1	9.1	—	99

Ⅷ—3表 今後、ボランティア活動をしてみたいと思うか

区 分	は い	いいえ	無 回 答	事 例 数	
				人	%
1997年調査 (47回)	% (65.3)	% (23.2)	% (11.5)	(1,198)	(100.0)
全 体	62.2	36.6	1.2	942	100.0
男 子	59.0	39.7	1.3	741	78.5
女 子	74.1	25.4	0.5	201	21.5

区—4表 今ボランティア活動に必要なものは

(2つまで選択)

区 分	まとまった時間	活動の情報提供・呼びかけ	活動参加への大学からの支援	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
全 体	% 74.4	% 61.8	% 17.2	% 10.4	% 6.0	人 586	% 100.0
男 子	73.7	61.8	16.7	11.4	6.2	437	74.6
女 子	76.5	61.7	18.8	7.4	5.4	149	25.4

区—5表 大学周辺地域の街づくりや街の活性化の活動に参加したことがあるか

区 分	あ る	な い	無 回 答	事 例 数	
全 体	% 3.7	% 93.9	% 2.3	人 942	% 100.0
男 子	4.3	93.1	2.6	741	78.7
女 子	1.5	97.0	1.5	201	21.3

区—6表 大学周辺地域との関わり

区 分	街づくりに積極的に参加したい	周辺地域から要望があれば応えたい	自分とは関係ない	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
全 体	% 7.1	% 59.0	% 28.1	% 3.5	% 2.2	人 942	% 100.0
男 子	6.6	57.1	29.8	4.0	2.4	741	78.7
女 子	9.0	66.2	21.9	1.5	1.5	201	21.3

X. 不安・悩み

X-1表 学生生活の中での悩みと不安

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
勉学（成績・単位など）	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	21.8	44.9	22.0	11.0	0.3	942	100.0	2.8
男 子	20.6	46.6	21.1	11.5	0.3	741	78.7	2.8
女 子	25.9	38.8	25.4	9.5	0.5	201	21.3	2.8
男子	前期課程	54.2	18.8	7.2	—	373	39.6	2.9
	後期課程	21.5	38.9	23.4	15.8	368	39.1	2.7
女子	前期課程	45.3	16.8	5.3	1.1	95	10.1	3.0
	後期課程	20.8	33.0	33.0	13.2	106	11.3	2.6
男子	文科系	45.0	22.8	11.3	—	311	33.0	2.8
	理科系	20.5	47.7	19.8	11.6	430	45.6	2.8
女子	文科系	41.5	22.6	11.3	—	106	11.3	2.8
	理科系	24.5	28.4	7.4	1.1	95	10.1	2.8

区分	よく悩む———全く悩まない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
学部進学や大学院進学	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	23.9	35.0	19.6	21.1	0.3	942	100.0	2.6
男 子	22.7	34.4	19.8	22.8	0.3	741	78.7	2.6
女 子	28.4	37.3	18.9	14.9	0.5	201	21.3	2.8
男子	前期課程	40.8	22.8	13.9	—	373	39.6	2.7
	後期課程	22.8	28.0	16.8	31.8	368	39.1	2.4
女子	前期課程	41.1	22.1	7.4	1.1	95	10.1	2.9
	後期課程	28.3	34.0	16.0	21.7	106	11.3	2.7
男子	文科系	27.7	19.0	34.7	—	311	33.0	2.3
	理科系	18.6	20.5	14.2	0.5	430	45.6	2.8
女子	文科系	34.9	22.6	20.8	—	106	11.3	2.6
	理科系	21.7	14.7	8.4	1.1	95	10.1	3.0

区分	よく悩む———全く悩まない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
就 職	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	29.0	31.4	23.8	15.5	0.3	942	100.0	2.7
男 子	27.5	30.2	25.0	17.0	0.3	741	78.7	2.7
女 子	34.3	35.8	19.4	10.0	0.5	201	21.3	3.0
男子	前期課程	33.5	28.4	16.9	—	373	39.6	2.6
	後期課程	21.2	21.5	17.1	0.5	368	39.1	2.8
女子	前期課程	36.8	23.2	9.5	1.1	95	10.1	2.9
	後期課程	29.5	16.0	10.4	—	106	11.3	3.0
男子	文科系	31.2	20.3	11.6	—	311	33.0	2.9
	理科系	20.7	28.4	20.9	0.5	430	45.6	2.5
女子	文科系	34.0	15.1	9.4	—	106	11.3	3.1
	理科系	41.5	24.2	10.5	1.1	95	10.1	2.8

区 分	よく悩む				全く悩まない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1	無回答	人	%					
全 体	% 46.0	% 34.9	% 13.4	% 5.4	% 0.3	人 942	% 100.0	3.2				
男 子	44.3	34.5	14.6	6.3	0.3	741	78.7	3.2				
女 子	52.2	36.3	9.0	2.0	0.5	201	21.3	3.4				
男子	前期課程 40.5	38.9	14.7	5.9	—	373	39.6	3.1				
	後期課程 48.1	30.2	14.4	6.8	0.5	368	39.1	3.2				
女子	前期課程 45.3	43.2	8.4	2.1	1.1	95	10.1	3.3				
	後期課程 58.5	30.2	9.4	1.9	—	106	11.3	3.5				
男子	文 科 系 52.1	31.8	12.2	3.9	—	311	33.0	3.3				
	理 科 系 38.6	36.5	16.3	8.1	0.5	430	45.6	3.1				
女子	文 科 系 65.1	29.2	3.8	1.9	—	106	11.3	3.6				
	理 科 系 37.9	44.2	14.7	2.1	1.1	95	10.1	3.2				

区 分	よく悩む				全く悩まない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1	無回答	人	%					
全 体	% 14.6	% 32.8	% 37.7	% 14.5	% 0.3	人 942	% 100.0	2.5				
男 子	14.0	32.3	38.3	15.1	0.3	741	78.7	2.5				
女 子	16.9	34.8	35.3	12.4	0.5	201	21.3	2.6				
男子	前期課程 17.2	33.8	38.6	10.5	—	373	39.6	2.6				
	後期課程 10.9	30.7	38.0	19.8	0.5	368	39.1	2.3				
女子	前期課程 18.9	31.6	33.7	14.7	1.1	95	10.1	2.6				
	後期課程 15.1	37.7	36.8	10.4	—	106	11.3	2.6				
男子	文 科 系 14.1	34.7	37.9	13.2	—	311	33.0	2.5				
	理 科 系 14.0	30.5	38.6	16.5	0.5	430	45.6	2.4				
女子	文 科 系 18.9	32.1	34.9	14.2	—	106	11.3	2.6				
	理 科 系 14.7	37.9	35.8	10.5	1.1	95	10.1	2.6				

区 分	よく悩む				全く悩まない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1	無回答	人	%					
全 体	% 24.3	% 38.2	% 27.2	% 10.0	% 0.3	人 942	% 100.0	2.8				
男 子	24.4	37.7	26.9	10.8	0.3	741	78.7	2.8				
女 子	23.9	40.3	28.4	7.0	0.5	201	21.3	2.8				
男子	前期課程 28.4	38.3	24.7	8.6	—	373	39.6	2.9				
	後期課程 20.4	37.0	29.1	13.0	0.5	368	39.1	2.7				
女子	前期課程 24.2	40.0	27.4	7.4	1.1	95	10.1	2.8				
	後期課程 23.6	40.6	29.2	6.6	—	106	11.3	2.8				
男子	文 科 系 23.2	41.2	25.1	10.6	—	311	33.0	2.8				
	理 科 系 25.3	35.1	28.1	10.9	0.5	430	45.6	2.8				
女子	文 科 系 24.5	35.8	30.2	9.4	—	106	11.3	2.8				
	理 科 系 23.2	45.3	26.3	4.2	1.1	95	10.1	2.9				

区分	よく悩む				ときに悩む		あまり悩まない		全く悩まない		無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1					人	%				
全 体	% 21.9	% 35.4	% 30.0	% 12.4	% 0.3					942	100.0	2.7		
男 子	20.8	36.4	30.2	12.3	0.3					741	78.7	2.7		
女 子	25.9	31.3	29.4	12.9	0.5					201	21.3	2.7		
男子	前期課程	20.1	35.7	32.7	11.5	—				373	39.6	2.6		
	後期課程	21.5	37.2	27.7	13.0	0.5				368	39.1	2.7		
女子	前期課程	24.2	29.5	34.7	10.5	1.1				95	10.1	2.7		
	後期課程	27.4	33.0	24.5	15.1	—				106	11.3	2.7		
男子	文 科 系	22.2	38.6	27.3	11.9	—				311	33.0	2.7		
	理 科 系	19.8	34.9	32.3	12.6	0.5				430	45.6	2.6		
女子	文 科 系	29.2	34.9	18.9	17.0	—				106	11.3	2.8		
	理 科 系	22.1	27.4	41.1	8.4	1.1				95	10.1	2.6		

区分	よく悩む				全く悩まない		無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1						
全 体	% 19.9	% 28.2	% 34.8	% 16.8	% 0.3			942	100.0	2.5
男 子	18.9	27.4	35.8	17.7	0.3			741	78.7	2.5
女 子	23.4	31.3	31.3	13.4	0.5			201	21.3	2.7
男子	前期課程	20.1	28.7	35.7	15.5	—		373	39.6	2.5
	後期課程	17.7	26.1	35.9	19.8	0.5		368	39.1	2.4
女子	前期課程	27.4	24.2	34.7	12.6	1.1		95	10.1	2.7
	後期課程	19.8	37.7	28.3	14.2	—		106	11.3	2.6
男子	文 科 系	18.6	31.8	34.7	14.8	—		311	33.0	2.5
	理 科 系	19.1	24.2	36.5	19.8	0.5		430	45.6	2.4
女子	文 科 系	27.4	27.4	27.4	17.9	—		106	11.3	2.6
	理 科 系	18.9	35.8	35.8	8.4	1.1		95	10.1	2.7

区分	よく悩む				全く悩まない		無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1						
全 体	% 11.4	% 21.0	% 41.5	% 25.8	% 0.3			942	100.0	2.2
男 子	10.9	19.7	41.6	27.5	0.3			741	78.7	2.1
女 子	12.9	25.9	41.3	19.4	0.5			201	21.3	2.3
男子	前期課程	11.0	24.1	41.0	23.9	—		373	39.6	2.2
	後期課程	10.9	15.2	42.1	31.3	0.5		368	39.1	2.1
女子	前期課程	11.6	24.2	41.1	22.1	1.1		95	10.1	2.3
	後期課程	14.2	27.4	41.5	17.0	—		106	11.3	2.4
男子	文 科 系	10.9	21.5	40.5	27.0	—		311	33.0	2.2
	理 科 系	10.9	18.4	42.3	27.9	0.5		430	45.6	2.1
女子	文 科 系	17.9	19.8	42.5	19.8	—		106	11.3	2.4
	理 科 系	7.4	32.6	40.0	18.9	1.1		95	10.1	2.3

区分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 24.5	% 33.5	% 27.2	% 14.4	% 0.3	942	100.0	2.7
男 子	24.8	32.4	27.1	15.4	0.3	741	78.7	2.7
女 子	23.4	37.8	27.4	10.9	0.5	201	21.3	2.7
男子	前期課程 24.9	32.2	29.0	13.9	—	373	39.6	2.7
	後期課程 24.7	32.6	25.3	16.8	0.5	368	39.1	2.7
女子	前期課程 23.2	35.8	24.2	15.8	1.1	95	10.1	2.7
	後期課程 23.6	39.6	30.2	6.6	—	106	11.3	2.8
男子	文科系 26.4	33.4	26.4	13.8	—	311	33.0	2.7
	理科系 23.7	31.6	27.7	16.5	0.5	430	45.6	2.6
女子	文科系 22.6	44.3	25.5	7.5	—	106	11.3	2.8
	理科系 24.2	30.5	29.5	14.7	1.1	95	10.1	2.6

X—2表 不安や悩みの相談相手

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区分	よく相談する	ときどき相談する	たまに相談する	全く相談しない	無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 10.5	% 19.0	% 39.4	% 30.7	% 0.4	942	100.0	2.1
男 子	7.6	16.5	41.0	34.5	0.4	741	78.7	2.0
女 子	21.4	28.4	33.3	16.4	0.5	201	21.3	2.6
男子	前期課程 7.0	16.6	43.2	33.0	0.3	373	39.6	2.0
	後期課程 8.2	16.3	38.9	36.1	0.5	368	39.1	2.0
女子	前期課程 24.2	25.3	31.6	17.9	1.1	95	10.1	2.6
	後期課程 18.9	31.1	34.9	15.1	—	106	11.3	2.5
男子	文科系 9.6	19.3	39.9	31.2	—	311	33.0	2.1
	理科系 6.0	14.4	41.9	37.0	0.7	430	45.6	1.9
女子	文科系 25.5	22.6	35.8	16.0	—	106	11.3	2.6
	理科系 16.8	34.7	30.5	16.8	1.1	95	10.1	2.5

区分	よく相談する———全く相談しない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 3.3	% 8.5	% 22.6	% 64.6	% 1.0	942	100.0	1.5
男 子	2.2	6.7	21.3	68.7	1.1	741	78.7	1.4
女 子	7.5	14.9	27.4	49.8	0.5	201	21.3	1.8
男子	前期課程 1.9	5.9	18.8	72.7	0.8	373	39.6	1.4
	後期課程 2.4	7.6	23.9	64.7	1.4	368	39.1	1.5
女子	前期課程 8.4	13.7	28.4	48.4	1.1	95	10.1	1.8
	後期課程 6.6	16.0	26.4	50.9	—	106	11.3	1.8
男子	文科系 2.9	8.4	21.2	66.9	0.6	311	33.0	1.5
	理科系 1.6	5.6	21.4	70.0	1.4	430	45.6	1.4
女子	文科系 7.5	11.3	28.3	52.8	—	106	11.3	1.7
	理科系 7.4	18.9	26.3	46.3	1.1	95	10.1	1.9

区 分	よく相談する———全く相談しない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 0.3	% 1.5	% 8.5	% 89.3	% 0.4	942	100.0	1.1
男 子	0.4	1.3	8.8	89.1	0.4	741	78.7	1.1
女 子	—	2.0	7.5	90.0	0.5	201	21.3	1.1
男子	前期課程 —	0.8	4.6	94.4	0.3	373	39.6	1.1
	後期課程 0.8	1.9	13.0	83.7	0.5	368	39.1	1.2
女子	前期課程 —	—	—	98.9	1.1	95	10.1	1.0
	後期課程 —	3.8	14.2	82.1	—	106	11.3	1.2
男子	文 科 系 0.3	1.0	8.7	90.0	—	311	33.0	1.1
	理 科 系 0.5	1.6	8.8	88.4	0.7	430	45.6	1.1
女子	文 科 系 —	1.9	5.7	92.5	—	106	11.3	1.1
	理 科 系 —	2.1	9.5	87.4	1.1	95	10.1	1.1

区 分	よく相談する	ときどき 相談する	たまに相 談する	全く相談 しない	無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 9.4	% 21.7	% 33.0	% 35.4	% 0.5	942	100.0	2.1
男 子	8.5	20.5	32.3	38.2	0.5	741	78.7	2.0
女 子	12.9	25.9	35.8	24.9	0.5	201	21.3	2.3
男子	前期課程 7.0	20.6	31.6	40.2	0.5	373	39.6	1.9
	後期課程 10.1	20.4	32.9	36.1	0.5	368	39.1	2.0
女子	前期課程 11.6	25.3	33.7	28.4	1.1	95	10.1	2.2
	後期課程 14.2	26.4	37.7	21.7	—	106	11.3	2.3
男子	文 科 系 8.7	20.6	30.5	40.2	—	311	33.0	2.0
	理 科 系 8.4	20.5	33.5	36.7	0.9	430	45.6	2.0
女子	文 科 系 14.2	24.5	34.9	26.4	—	106	11.3	2.3
	理 科 系 11.6	27.4	36.8	23.2	1.1	95	10.1	2.3

区 分	よく相談する———全く相談しない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 15.1	% 23.0	% 26.6	% 34.8	% 0.4	942	100.0	2.2
男 子	14.0	22.7	27.8	35.1	0.4	741	78.7	2.2
女 子	18.9	24.4	22.4	33.8	0.5	201	21.3	2.3
男子	前期課程 13.1	25.7	29.8	31.1	0.3	373	39.6	2.2
	後期課程 14.9	19.6	25.8	39.1	0.5	368	39.1	2.1
女子	前期課程 17.9	28.4	22.1	30.5	1.1	95	10.1	2.3
	後期課程 19.8	20.8	22.6	36.8	—	106	11.3	2.2
男子	文 科 系 16.4	24.8	25.7	33.1	—	311	33.0	2.2
	理 科 系 12.3	21.2	29.3	36.5	0.7	430	45.6	2.1
女子	文 科 系 18.9	27.4	25.5	28.3	—	106	11.3	2.4
	理 科 系 18.9	21.1	18.9	40.0	1.1	95	10.1	2.2

区 分	よく相談する———全く相談しない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 15.1	% 27.8	% 31.2	% 25.5	% 0.4	942	100.0	2.3
男 子	13.2	27.4	30.9	28.1	0.4	741	78.7	2.3
女 子	21.9	29.4	32.3	15.9	0.5	201	21.3	2.6
男子	前期課程 13.7	28.7	31.9	25.5	0.3	373	39.6	2.3
	後期課程 12.8	26.1	29.9	30.7	0.5	368	39.1	2.2
女子	前期課程 22.1	32.6	31.6	12.6	1.1	95	10.1	2.6
	後期課程 21.7	26.4	33.0	18.9	—	106	11.3	2.5
男子	文 科 系 12.2	28.6	32.2	27.0	—	311	33.0	2.3
	理 科 系 14.0	26.5	30.0	28.8	0.7	430	45.6	2.3
女子	文 科 系 23.6	34.9	29.2	12.3	—	106	11.3	2.7
	理 科 系 20.0	23.2	35.8	20.0	1.1	95	10.1	2.4

区 分	よく相談する	ときどき相談する	たまに相談する	全く相談しない	無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 3.9	% 13.1	% 26.6	% 55.8	% 0.5	942	100.0	1.6
男 子	3.5	12.7	27.0	56.3	0.5	741	78.7	1.6
女 子	5.5	14.4	25.4	54.2	0.5	201	21.3	1.7
男子	前期課程 3.2	12.9	24.7	58.7	0.5	373	39.6	1.6
	後期課程 3.8	12.5	29.3	53.8	0.5	368	39.1	1.7
女子	前期課程 4.2	14.7	25.3	54.7	1.1	95	10.1	1.7
	後期課程 6.6	14.2	25.5	53.8	—	106	11.3	1.7
男子	文 科 系 4.8	16.4	26.0	52.4	0.3	311	33.0	1.7
	理 科 系 2.6	10.0	27.7	59.1	0.7	430	45.6	1.6
女子	文 科 系 6.6	15.1	27.4	50.9	—	106	11.3	1.8
	理 科 系 4.2	13.7	23.2	57.9	1.1	95	10.1	1.6

区 分	よく相談する———全く相談しない				無回答	事 例 数		平均値
	4	3	2	1		人	%	
全 体	% 18.0	% 13.5	% 15.3	% 51.7	% 1.5	942	100.0	2.0
男 子	13.5	12.8	14.8	57.2	1.6	741	78.7	1.8
女 子	34.8	15.9	16.9	31.3	1.0	201	21.3	2.5
男子	前期課程 10.2	11.5	12.3	63.8	2.1	373	39.6	1.7
	後期課程 16.8	14.1	17.4	50.5	1.1	368	39.1	2.0
女子	前期課程 22.1	15.8	17.9	43.2	1.1	95	10.1	2.2
	後期課程 46.2	16.0	16.0	20.8	0.9	106	11.3	2.9
男子	文 科 系 16.1	14.1	16.7	51.4	1.6	311	33.0	1.9
	理 科 系 11.6	11.9	13.5	61.4	1.6	430	45.6	1.7
女子	文 科 系 36.8	17.9	12.3	33.0	—	106	11.3	2.6
	理 科 系 32.6	13.7	22.1	29.5	2.1	95	10.1	2.5

X—3表 最近6ヶ月間での体験・悩み

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

強い不安に襲われた	区 分		よく体験する				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
			%	%	%	%	%	人	%	
	全 体		14.5	33.2	24.0	27.9	0.3	942	100.0	2.3
	男 子		13.4	32.8	24.4	29.1	0.3	741	78.7	2.3
	女 子		18.9	34.8	22.4	23.4	0.5	201	21.3	2.5
	男 子	前期課程	10.5	33.5	23.6	32.2	0.3	373	39.6	2.2
		後期課程	16.3	32.1	25.3	26.1	0.3	368	39.1	2.4
	女 子	前期課程	14.7	30.5	26.3	27.4	1.1	95	10.1	2.3
		後期課程	22.6	38.7	18.9	19.8	—	106	11.3	2.6
	男 子	文 科 系	18.6	31.8	25.7	23.5	0.3	311	33.0	2.5
		理 科 系	9.5	33.5	23.5	33.3	0.2	430	45.6	2.2
	女 子	文 科 系	22.6	34.0	21.7	21.7	—	106	11.3	2.6
		理 科 系	14.7	35.8	23.2	25.3	1.1	95	10.1	2.4

みなければならなかった だり、自分のすることを 自分でバカらしいと思 う考えが浮かん	区 分		よく体験する				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
			%	%	%	%	%	人	%	
	全 体		9.4	21.8	28.6	40.0	0.2	942	100.0	2.0
	男 子		10.0	22.9	27.5	39.4	0.1	741	78.7	2.0
	女 子		7.5	17.4	32.3	42.3	0.5	201	21.3	1.9
	男 子	前期課程	8.6	20.6	30.3	40.5	—	373	39.6	2.0
		後期課程	11.4	25.3	24.7	38.3	0.3	368	39.1	2.1
	女 子	前期課程	8.4	22.1	21.1	47.4	1.1	95	10.1	1.9
		後期課程	6.6	13.2	42.5	37.7	—	106	11.3	1.9
	男 子	文 科 系	11.6	25.7	31.2	31.5	—	311	33.0	2.2
		理 科 系	8.8	20.9	24.9	45.1	0.2	430	45.6	1.9
	女 子	文 科 系	10.4	17.9	32.1	39.6	—	106	11.3	2.0
		理 科 系	4.2	16.8	32.6	45.3	1.1	95	10.1	1.8

不安を感じた 人と話していても緊張したり、	区 分		よく体験する				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
			%	%	%	%	%	人	%	
	全 体		8.5	24.9	30.9	35.5	0.2	942	100.0	2.1
	男 子		8.5	26.3	29.1	35.9	0.1	741	78.7	2.1
	女 子		8.5	19.9	37.3	33.8	0.5	201	21.3	2.0
	男 子	前期課程	8.8	27.6	27.6	35.9	—	373	39.6	2.1
		後期課程	8.2	25.0	30.7	35.9	0.3	368	39.1	2.1
	女 子	前期課程	9.5	17.9	34.7	36.8	1.1	95	10.1	2.0
		後期課程	7.5	21.7	39.6	31.1	—	106	11.3	2.1
	男 子	文 科 系	8.4	27.7	31.2	32.8	—	311	33.0	2.1
		理 科 系	8.6	25.3	27.7	38.1	0.2	430	45.6	2.0
	女 子	文 科 系	11.3	18.9	36.8	33.0	—	106	11.3	2.1
		理 科 系	5.3	21.1	37.9	34.7	1.1	95	10.1	2.0

人から監視されていると感じた 他の人が自分に敵意を持っている、	区 分		よく体験する	ときに体験する	あまり体験しない	全く体験しない	無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
			3.7	14.3	22.1	59.7	0.2	942	100.0	1.6
	男 子		3.8	14.7	22.4	59.0	0.1	741	78.7	1.6
	女 子		3.5	12.9	20.9	62.2	0.5	201	21.3	1.6
	男子	前期課程	3.8	14.7	26.3	55.2	—	373	39.6	1.7
		後期課程	3.8	14.7	18.5	62.8	0.3	368	39.1	1.6
	女子	前期課程	4.2	12.6	20.0	62.1	1.1	95	10.1	1.6
		後期課程	2.8	13.2	21.7	62.3	—	106	11.3	1.6
男子	文 科 系	3.9	15.1	27.7	53.4	—	311	33.0	1.7	
	理 科 系	3.7	14.4	18.6	63.0	0.2	430	45.6	1.6	
女子	文 科 系	6.6	8.5	15.1	69.8	—	106	11.3	1.5	
	理 科 系	—	17.9	27.4	53.7	1.1	95	10.1	1.6	

乗るのがこわかった バス・地下鉄・電車などの乗り物に	区 分		よく体験する————全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
			1.1	1.6	8.5	88.6	0.2	942	100.0	1.1
	男 子		1.1	1.5	7.4	89.9	0.1	741	78.7	1.0
	女 子		1.0	2.0	12.4	84.1	0.5	201	21.3	1.0
	男子	前期課程	0.5	1.9	8.0	89.5	—	373	39.6	1.1
		後期課程	1.6	1.1	6.8	90.2	0.3	368	39.1	1.1
	女子	前期課程	2.1	2.1	10.5	84.2	1.1	95	10.1	1.2
		後期課程	—	1.9	14.2	84.0	—	106	11.3	1.2
男子	文 科 系	1.6	2.3	6.8	89.4	—	311	33.0	1.2	
	理 科 系	0.7	0.9	7.9	90.2	0.2	430	45.6	1.1	
女子	文 科 系	1.9	1.9	15.1	81.1	—	106	11.3	1.2	
	理 科 系	—	2.1	9.5	87.4	1.1	95	10.1	1.1	

持てなくなった 気分が落ち込んだり、何にも興味が	区 分		よく体験する————全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
			10.5	25.9	28.7	34.7	0.2	942	100.0	2.1
	男 子		9.3	22.9	30.2	37.4	0.1	741	78.7	2.0
	女 子		14.9	36.8	22.9	24.9	0.5	201	21.3	2.4
	男子	前期課程	7.2	24.7	32.4	35.7	—	373	39.6	2.0
		後期課程	11.4	21.2	28.0	39.1	0.3	368	39.1	2.0
	女子	前期課程	17.9	40.0	20.0	21.1	1.1	95	10.1	2.6
		後期課程	12.3	34.0	25.5	28.3	—	106	11.3	2.3
男子	文 科 系	11.9	25.7	31.2	31.2	—	311	33.0	2.2	
	理 科 系	7.4	20.9	29.5	41.9	0.2	430	45.6	1.9	
女子	文 科 系	17.0	34.9	19.8	28.3	—	106	11.3	2.4	
	理 科 系	12.6	38.9	26.3	21.1	1.1	95	10.1	2.4	

人と一緒にいてもさびしい感じがあった	区 分		よく体験する ————— 全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
	全 体		7.9	24.3	27.1	40.4	0.3	942	100.0	2.0
	男 子		7.3	21.6	27.4	43.6	0.1	741	78.7	1.9
	女 子		10.0	34.3	25.9	28.9	1.0	201	21.3	2.3
	男子	前期課程	7.0	22.3	28.4	42.4	—	373	39.6	1.9
		後期課程	7.6	20.9	26.4	44.8	0.3	368	39.1	1.9
	女子	前期課程	13.7	36.8	24.2	24.2	1.1	95	10.1	2.4
		後期課程	6.6	32.1	27.4	33.0	0.9	106	11.3	2.1
	男子	文 科 系	10.0	25.4	26.0	38.6	—	311	33.0	2.1
		理 科 系	5.3	18.8	28.4	47.2	0.2	430	45.6	1.8
	女子	文 科 系	11.3	31.1	26.4	31.1	—	106	11.3	2.2
		理 科 系	8.4	37.9	25.3	26.3	2.1	95	10.1	2.3

めまい・動悸などがした 体の病気でもないのに、息切れ・	区 分		よく体験する ————— 全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
	全 体		1.9	8.7	14.0	75.2	0.2	942	100.0	1.4
	男 子		1.3	8.1	13.1	77.3	0.1	741	78.7	1.3
	女 子		4.0	10.9	17.4	67.2	0.5	201	21.3	1.5
	男子	前期課程	1.3	6.4	13.9	78.3	—	373	39.6	1.3
		後期課程	1.4	9.8	12.2	76.4	0.3	368	39.1	1.4
	女子	前期課程	3.2	9.5	15.8	70.5	1.1	95	10.1	1.4
		後期課程	4.7	12.3	18.9	64.2	—	106	11.3	1.6
	男子	文 科 系	1.9	7.4	14.5	76.2	—	311	33.0	1.4
		理 科 系	0.9	8.6	12.1	78.1	0.2	430	45.6	1.3
	女子	文 科 系	4.7	10.4	13.2	71.7	—	106	11.3	1.5
		理 科 系	3.2	11.6	22.1	62.1	1.1	95	10.1	1.6

傷つけたりしたい衝動にかられた イライラしたり、物をこわしたり人を	区 分		よく体験する ————— 全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
	全 体		5.6	15.1	25.2	53.9	0.2	942	100.0	1.7
	男 子		5.7	15.1	24.4	54.7	0.1	741	78.7	1.7
	女 子		5.5	14.9	27.9	51.2	0.5	201	21.3	1.7
	男子	前期課程	3.8	17.2	25.7	53.4	—	373	39.6	1.7
		後期課程	7.6	13.0	23.1	56.0	0.3	368	39.1	1.7
	女子	前期課程	6.3	16.8	27.4	48.4	1.1	95	10.1	1.8
		後期課程	4.7	13.2	28.3	53.8	—	106	11.3	1.7
	男子	文 科 系	8.7	15.4	28.6	47.3	—	311	33.0	1.9
		理 科 系	3.5	14.9	21.4	60.0	0.2	430	45.6	1.6
	女子	文 科 系	8.5	16.0	20.8	54.7	—	106	11.3	1.8
		理 科 系	2.1	13.7	35.8	47.4	1.1	95	10.1	1.7

やる気がなくなり、無気力状態 (アバシー)になった	区 分		よく体験する	ときに体験する	あまり体験しない	全く体験しない	無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		% 10.9	% 24.5	% 28.9	% 35.5	% 0.2	人 942	% 100.0	2.1
	男 子		10.3	23.1	28.5	38.1	0.1	741	78.7	2.1
	女 子		13.4	29.9	30.3	25.9	0.5	201	21.3	2.3
	男 子	前期課程	8.8	24.9	27.3	38.9	—	373	39.6	2.0
		後期課程	11.7	21.2	29.6	37.2	0.3	368	39.1	2.1
	女 子	前期課程	14.7	35.8	28.4	20.0	1.1	95	10.1	2.5
		後期課程	12.3	24.5	32.1	31.1	—	106	11.3	2.2
	男 子	文 科 系	10.6	26.7	26.7	36.0	—	311	33.0	2.1
理 科 系		10.0	20.5	29.8	39.5	0.2	430	45.6	2.0	
女 子	文 科 系	14.2	28.3	25.5	32.1	—	106	11.3	2.2	
	理 科 系	12.6	31.6	35.8	18.9	1.1	95	10.1	2.4	

ついつい過食してしまう傾向があった	区 分		よく体験する————全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		% 7.0	% 18.3	% 21.2	% 53.3	% 0.2	人 942	% 100.0	1.8
	男 子		5.1	16.5	20.9	57.4	0.1	741	78.7	1.7
	女 子		13.9	24.9	22.4	38.3	0.5	201	21.3	2.1
	男 子	前期課程	4.8	18.0	24.1	53.1	—	373	39.6	1.7
		後期課程	5.4	14.9	17.7	61.7	0.3	368	39.1	1.6
	女 子	前期課程	18.9	29.5	18.9	31.6	1.1	95	10.1	2.4
		後期課程	9.4	20.8	25.5	44.3	—	106	11.3	2.0
	男 子	文 科 系	5.8	17.0	19.6	57.6	—	311	33.0	1.7
理 科 系		4.7	16.0	21.9	57.2	0.2	430	45.6	1.7	
女 子	文 科 系	18.9	19.8	21.7	39.6	—	106	11.3	2.2	
	理 科 系	8.4	30.5	23.2	36.8	1.1	95	10.1	2.1	

したくないと思った 食欲がなくなり、食べ物を口に	区 分		よく体験する————全く体験しない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体		% 2.5	% 8.0	% 18.0	% 71.2	% 0.2	人 942	% 100.0	1.4
	男 子		2.2	7.0	17.0	73.7	0.1	741	78.7	1.4
	女 子		4.0	11.4	21.9	62.2	0.5	201	21.3	1.6
	男 子	前期課程	1.6	6.7	18.0	73.7	—	373	39.6	1.4
		後期課程	2.7	7.3	16.0	73.6	0.3	368	39.1	1.4
	女 子	前期課程	4.2	10.5	20.0	64.2	1.1	95	10.1	1.5
		後期課程	3.8	12.3	23.6	60.4	—	106	11.3	1.6
	男 子	文 科 系	2.6	6.4	20.3	70.7	—	311	33.0	1.4
理 科 系		1.9	7.4	14.7	75.8	0.2	430	45.6	1.4	
女 子	文 科 系	5.7	10.4	21.7	62.3	—	106	11.3	1.6	
	理 科 系	2.1	12.6	22.1	62.1	1.1	95	10.1	1.5	

X-4表 悩み・不安を解消するための大学の対応

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

機会を増やす 学生が教官や職員と接触する	区 分		全くそう思う——全くそう思わない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体	%	%	%	%	%	人	%		
		10.2	34.5	29.0	26.0	0.3	942	100.0	2.3	
	男 子	10.7	34.0	26.5	28.6	0.3	741	78.7	2.3	
	女 子	8.5	36.3	38.3	16.4	0.5	201	21.3	2.4	
	男子	前期課程	9.4	34.6	24.9	30.8	0.3	373	39.6	2.2
		後期課程	12.0	33.4	28.0	26.4	0.3	368	39.1	2.3
	女子	前期課程	9.5	32.6	38.9	17.9	1.1	95	10.1	2.3
		後期課程	7.5	39.6	37.7	15.1	—	106	11.3	2.4
	男子	文 科 系	12.5	32.2	26.7	28.3	0.3	311	33.0	2.3
		理 科 系	9.3	35.3	26.3	28.8	0.2	430	45.6	2.3
	女子	文 科 系	9.4	39.6	37.7	13.2	—	106	11.3	2.5
		理 科 系	7.4	32.6	38.9	20.0	1.1	95	10.1	2.3

充実させる 教務課や学生課などの事務機能を	区 分		全くそう思う——全くそう思わない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体	%	%	%	%	%	人	%		
		6.4	22.7	36.8	33.8	0.3	942	100.0	2.0	
	男 子	7.2	22.3	34.5	35.8	0.3	741	78.7	2.0	
	女 子	3.5	24.4	45.3	26.4	0.5	201	21.3	2.1	
	男子	前期課程	7.5	22.3	34.6	35.4	0.3	373	39.6	2.0
		後期課程	6.8	22.3	34.5	36.1	0.3	368	39.1	2.0
	女子	前期課程	5.3	25.3	43.2	25.3	1.1	95	10.1	2.1
		後期課程	1.9	23.6	47.2	27.4	—	106	11.3	2.0
	男子	文 科 系	8.0	23.5	36.0	32.2	0.3	311	33.0	2.1
		理 科 系	6.5	21.4	33.5	38.4	0.2	430	45.6	2.0
	女子	文 科 系	2.8	28.3	50.9	17.9	—	106	11.3	2.2
		理 科 系	4.2	20.0	38.9	35.8	1.1	95	10.1	1.9

充実させる クラス担任制度やチューター制度を	区 分		全くそう思う——全くそう思わない				無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1				
	全 体	%	%	%	%	%	人	%		
		6.4	22.1	34.2	37.0	0.3	942	100.0	2.0	
	男 子	7.0	21.1	32.4	39.3	0.3	741	78.7	2.0	
	女 子	4.0	25.9	40.8	28.9	0.5	201	21.3	2.1	
	男子	前期課程	6.4	26.3	29.5	37.5	0.3	373	39.6	2.0
		後期課程	7.6	15.8	35.3	41.0	0.3	368	39.1	1.9
	女子	前期課程	5.3	26.3	38.9	28.4	1.1	95	10.1	2.1
		後期課程	2.8	25.5	42.5	29.2	—	106	11.3	2.0
	男子	文 科 系	9.0	24.4	32.2	34.1	0.3	311	33.0	2.1
		理 科 系	5.6	18.6	32.6	43.0	0.2	430	45.6	1.9
	女子	文 科 系	2.8	27.4	41.5	28.3	—	106	11.3	2.0
		理 科 系	5.3	24.2	40.0	29.5	1.1	95	10.1	2.1

区分	全くそう思う				まあそう思う				あまりそう思わない				全くそう思わない				無回答	事例数		平均値	
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1		人	%		
全体	%				%				%				%				%	人	%	2.4	
男子	%				%				%				%				%	人	%	2.3	
女子	%				%				%				%				%	人	%	2.5	
男子	前期課程	%				%				%				%				%	人	%	2.4
	後期課程	%				%				%				%				%	人	%	2.3
女子	前期課程	%				%				%				%				%	人	%	2.7
	後期課程	%				%				%				%				%	人	%	2.4
男子	文科系	%				%				%				%				%	人	%	2.3
	理科系	%				%				%				%				%	人	%	2.3
女子	文科系	%				%				%				%				%	人	%	2.6
	理科系	%				%				%				%				%	人	%	2.5

区分	全くそう思う				全くそう思わない				無回答	事例数		平均値	
	4	3	2	1	4	3	2	1		人	%		
全体	%				%				%	人	%	2.7	
男子	%				%				%	人	%	2.6	
女子	%				%				%	人	%	3.0	
男子	前期課程	%				%				%	人	%	2.6
	後期課程	%				%				%	人	%	2.6
女子	前期課程	%				%				%	人	%	3.0
	後期課程	%				%				%	人	%	2.9
男子	文科系	%				%				%	人	%	2.4
	理科系	%				%				%	人	%	2.7
女子	文科系	%				%				%	人	%	3.0
	理科系	%				%				%	人	%	3.0

区分	全くそう思う				全くそう思わない				無回答	事例数		平均値	
	4	3	2	1	4	3	2	1		人	%		
全体	%				%				%	人	%	2.8	
男子	%				%				%	人	%	2.7	
女子	%				%				%	人	%	3.1	
男子	前期課程	%				%				%	人	%	2.7
	後期課程	%				%				%	人	%	2.7
女子	前期課程	%				%				%	人	%	3.0
	後期課程	%				%				%	人	%	3.1
男子	文科系	%				%				%	人	%	2.7
	理科系	%				%				%	人	%	2.6
女子	文科系	%				%				%	人	%	3.1
	理科系	%				%				%	人	%	3.0

充実させる 健康診断や保健センターの機能を	区 分		全くそう思う		まあそう思う		あまりそう 思わない		全くそう 思わない		無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1								
	全 体		%	%	%	%	%	人	%					
			20.3	34.5	26.8	18.2	0.3	942	100.0	2.6				
	男 子		19.0	32.1	27.7	20.9	0.3	741	78.7	2.5				
	女 子		24.9	43.3	23.4	8.0	0.5	201	21.3	2.9				
	男 子	前期課程	18.8	31.6	29.0	20.4	0.3	373	39.6	2.5				
		後期課程	19.3	32.6	26.4	21.5	0.3	368	39.1	2.5				
	女 子	前期課程	22.1	42.1	26.3	8.4	1.1	95	10.1	2.8				
		後期課程	27.4	44.3	20.8	7.5	—	106	11.3	2.9				
男 子	文 科 系	19.9	29.3	27.3	23.2	0.3	311	33.0	2.5					
	理 科 系	18.4	34.2	27.9	19.3	0.2	430	45.6	2.5					
女 子	文 科 系	28.3	40.6	24.5	6.6	—	106	11.3	2.9					
	理 科 系	21.1	46.3	22.1	9.5	1.1	95	10.1	2.8					

セリング機能を充実させる 個人的な悩みの学生相談やカウ	区 分		全くそう思う——全くそう思わない				無回答	事 例 数		平均値	
			4	3	2	1					
	全 体		%	%	%	%	%	人	%		
			17.0	32.9	29.1	20.7	0.3	942	100.0	2.5	
	男 子		15.1	31.8	29.0	23.8	0.3	741	78.7	2.4	
	女 子		23.9	36.8	29.4	9.5	0.5	201	21.3	2.8	
	男 子	前期課程	15.0	31.1	29.5	24.1	0.3	373	39.6	2.4	
		後期課程	15.2	32.6	28.5	23.4	0.3	368	39.1	2.4	
	女 子	前期課程	25.3	29.5	32.6	11.6	1.1	95	10.1	2.7	
		後期課程	22.6	43.4	26.4	7.5	—	106	11.3	2.8	
男 子	文 科 系	15.4	31.2	29.9	23.2	0.3	311	33.0	2.4		
	理 科 系	14.9	32.3	28.4	24.2	0.2	430	45.6	2.4		
女 子	文 科 系	26.4	33.0	32.1	8.5	—	106	11.3	2.8		
	理 科 系	21.1	41.1	26.3	10.5	1.1	95	10.1	2.7		

経済的支援を強化する 奨学金の充実や、授業料免除など、	区 分		全くそう思う——全くそう思わない				無回答	事 例 数		平均値	
			4	3	2	1					
	全 体		%	%	%	%	%	人	%		
			28.0	30.0	23.2	18.4	0.3	942	100.0	2.7	
	男 子		28.9	27.4	22.9	20.5	0.3	741	78.7	2.6	
	女 子		24.9	39.8	24.4	10.4	0.5	201	21.3	2.8	
	男 子	前期課程	27.3	27.9	24.7	19.8	0.3	373	39.6	2.6	
		後期課程	30.4	26.9	21.2	21.2	0.3	368	39.1	2.7	
	女 子	前期課程	23.2	37.9	25.3	12.6	1.1	95	10.1	2.7	
		後期課程	26.4	41.5	23.6	8.5	—	106	11.3	2.9	
男 子	文 科 系	30.2	23.8	24.1	21.5	0.3	311	33.0	2.6		
	理 科 系	27.9	30.0	22.1	19.8	0.2	430	45.6	2.7		
女 子	文 科 系	22.6	42.5	24.5	10.4	—	106	11.3	2.8		
	理 科 系	27.4	36.8	24.2	10.5	1.1	95	10.1	2.8		

学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	区 分		全くそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答	事 例 数		平均値
			4	3	2	1		人	%	
	全 体		%	%	%	%	%	人	%	
			13.8	30.7	32.1	23.1	0.3	942	100.0	2.4
男 子			15.1	30.5	28.9	25.2	0.3	741	78.7	2.4
女 子			9.0	31.3	43.8	15.4	0.5	201	21.3	2.3
男子	前期課程		15.3	33.8	29.0	21.7	0.3	373	39.6	2.4
	後期課程		14.9	27.2	28.8	28.8	0.3	368	39.1	2.3
女子	前期課程		9.5	31.6	36.8	21.1	1.1	95	10.1	2.3
	後期課程		8.5	31.1	50.0	10.4	—	106	11.3	2.4
男子	文 科 系		16.4	29.3	30.5	23.5	0.3	311	33.0	2.4
	理 科 系		14.2	31.4	27.7	26.5	0.2	430	45.6	2.3
女子	文 科 系		10.4	28.3	48.1	13.2	—	106	11.3	2.4
	理 科 系		7.4	34.7	38.9	17.9	1.1	95	10.1	2.3

XI. 学生生活の満足度

XI—1表 大学に来る回数（週平均）

区 分		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	ほとん ど来な い	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2000年調査 (50回)		(2.0)	(3.0)	(6.4)	(14.4)	(48.1)	(19.1)	(4.8)	(1.9)	(0.3)	(1,042)	(100.0)
全 体		2.2	3.5	5.5	15.6	50.6	16.2	4.9	1.3	0.1	942	100.0
男 子		2.2	3.5	5.7	16.1	49.5	17.0	4.7	1.3	—	741	78.7
女 子		2.5	3.5	5.0	13.9	54.7	13.4	5.5	1.0	0.5	201	21.3
男子	前期課程	0.5	1.9	3.5	13.4	56.0	20.6	3.5	0.5	—	373	39.6
	後期課程	3.8	5.2	7.9	18.8	42.9	13.3	6.0	2.2	—	368	39.1
女子	前期課程	—	—	2.1	15.8	60.0	15.8	5.3	—	1.1	95	10.1
	後期課程	4.7	6.6	7.5	12.3	50.0	11.3	5.7	1.9	—	106	11.3
男子	文 科 系	4.5	6.8	8.7	20.6	41.5	11.3	4.8	1.9	—	311	33.0
	理 科 系	0.5	1.2	3.5	12.8	55.3	21.2	4.7	0.9	—	430	45.6
女子	文 科 系	3.8	5.7	7.5	17.9	50.0	10.4	2.8	1.9	—	106	11.3
	理 科 系	1.1	1.1	2.1	9.5	60.0	16.8	8.4	—	1.1	95	10.1

XI—2表 大学に行くときの感じ

区 分		行きたい・楽 しみ	どちらかとい えば、行きた い・楽しみ	どちらかとい えば、行きた くない・憂鬱	行きたくない ・憂鬱	無 回 答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	人	%
全 体		15.3	60.7	20.4	3.0	0.6	942	100.0
男 子		14.3	60.9	21.1	3.2	0.5	741	78.7
女 子		18.9	60.2	17.9	2.0	1.0	201	21.3
男子	前期課程	13.1	63.3	19.6	3.5	0.5	373	39.6
	後期課程	15.5	58.4	22.6	3.0	0.5	368	39.1
女子	前期課程	21.1	60.0	15.8	2.1	1.1	95	10.1
	後期課程	17.0	60.4	19.8	1.9	0.9	106	11.3
男子	文 科 系	15.1	57.6	22.8	3.9	0.6	311	33.0
	理 科 系	13.7	63.3	19.8	2.8	0.5	430	45.6
女子	文 科 系	19.8	64.2	13.2	2.8	—	106	11.3
	理 科 系	17.9	55.8	23.2	1.1	2.1	95	10.1

XI—3表 大学生生活の目的（第1位）

区 分		専門的学 問・研究 をする	高度な専 門知識・ 技術を身 につける	豊かな教 養を身に つける	学歴・資 格を身に つける	クラブ・ サークル 活動に力 を入れる	希望する 企業等に 就職する	学生生活 を楽しむ	友人を多 く持つ	特に目的 はない	無回答	事 例 数	
		% (31.6)	% (23.7)	% (18.0)	% (5.6)	% (2.7)	% (0.8)	% (9.6)	% (4.0)	% (2.1)	% (0.6)	人 (1,042)	% (100.0)
2000年調査 (50回) 全 体		26.6	24.3	19.7	6.1	5.9	0.7	10.5	4.0	1.7	0.3	942	100.0
男 子		26.9	24.7	18.4	5.8	5.8	0.8	10.8	4.3	2.2	0.4	741	78.7
女 子		25.9	22.9	24.9	7.0	6.5	0.5	9.5	3.0	—	—	201	21.3
男子	前期課程	20.1	26.0	20.1	5.4	8.3	—	13.7	3.8	2.4	0.3	373	39.6
	後期課程	33.7	23.4	16.6	6.3	3.3	1.6	7.9	4.9	1.9	0.5	368	39.1
女子	前期課程	17.9	17.9	29.5	7.4	9.5	1.1	12.6	4.2	—	—	95	10.1
	後期課程	33.0	27.4	20.8	6.6	3.8	—	6.6	1.9	—	—	106	11.3
文 科 系		22.1	17.0	25.9	9.1	7.4	1.2	9.8	4.6	2.6	0.2	417	44.3
理 科 系		30.3	30.1	14.9	3.6	4.8	0.4	11.0	3.6	1.0	0.4	525	55.7
男子	文 科 系	21.5	17.0	23.5	8.7	8.0	1.6	10.9	4.8	3.5	0.3	311	33.0
	理 科 系	30.7	30.2	14.7	3.7	4.2	0.2	10.7	4.0	1.2	0.5	430	45.6
女子	文 科 系	23.6	17.0	33.0	10.4	5.7	—	6.6	3.8	—	—	106	11.3
	理 科 系	28.4	29.5	15.8	3.2	7.4	1.1	12.6	2.1	—	—	95	10.1
(第2位) 全 体		9.7	19.6	20.9	5.9	10.4	2.8	15.6	12.4	0.4	2.2	942	100.0
(第3位) 全 体		5.9	6.6	17.4	7.1	10.0	3.6	24.6	18.0	1.6	5.1	942	100.0

XI—4表—1 学生生活の中での満足感（授業の内容）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均 値
		% (7.1)	% (40.3)	% (24.2)	% (18.0)	% (10.2)	% (0.2)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.2)
2000年調査 (50回) 全 体		5.7	39.9	24.7	19.5	10.0	0.1	942	100.0	3.1
男 子		5.1	38.7	25.2	19.6	11.2	0.1	741	78.7	3.1
女 子		8.0	44.3	22.9	19.4	5.5	—	201	21.3	3.3
男子	前期課程	2.7	36.7	26.8	22.5	11.0	0.3	373	39.6	3.0
	後期課程	7.6	40.8	23.6	16.6	11.4	—	368	39.1	3.2
女子	前期課程	3.2	48.4	22.1	22.1	4.2	—	95	10.1	3.2
	後期課程	12.3	40.6	23.6	17.0	6.6	—	106	11.3	3.3
男子	文 科 系	6.1	39.2	22.5	20.9	10.9	0.3	311	33.0	3.1
	理 科 系	4.4	38.4	27.2	18.6	11.4	—	430	45.6	3.1
女子	文 科 系	9.4	49.1	20.8	18.9	1.9	—	106	11.3	3.5
	理 科 系	6.3	38.9	25.3	20.0	9.5	—	95	10.1	3.1

XI—4表—2 学生生活の中での満足感（大学の環境、設備）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (15.2)	% (41.1)	% (21.4)	% (15.7)	% (6.4)	% (0.2)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.4)
全 体		13.9	41.7	20.2	16.9	7.2	0.1	942	100.0	3.4
男 子		13.8	43.5	18.4	16.1	8.2	0.1	741	78.7	3.4
女 子		14.4	35.3	26.9	19.9	3.5	—	201	21.3	3.4
男子	前期課程	9.9	38.3	20.6	21.4	9.4	0.3	373	39.6	3.2
	後期課程	17.7	48.6	16.0	10.6	7.1	—	368	39.1	3.6
女子	前期課程	14.7	33.7	29.5	18.9	3.2	—	95	10.1	3.4
	後期課程	14.2	36.8	24.5	20.8	3.8	—	106	11.3	3.4
男子	文 科 系	13.2	36.7	19.3	20.9	9.6	0.3	311	33.0	3.2
	理 科 系	14.2	48.4	17.7	12.6	7.2	—	430	45.6	3.5
女子	文 科 系	12.3	36.8	24.5	21.7	4.7	—	106	11.3	3.3
	理 科 系	16.8	33.7	29.5	17.9	2.1	—	95	10.1	3.5

XI—4表—3 学生生活の中での満足感（経済的状況）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (21.6)	% (31.2)	% (21.8)	% (19.0)	% (6.2)	% (0.2)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.4)
全 体		18.4	35.8	22.7	16.1	6.8	0.2	942	100.0	3.4
男 子		16.6	35.6	22.8	17.1	7.6	0.3	741	78.7	3.4
女 子		24.9	36.3	22.4	12.4	4.0	—	201	21.3	3.7
男子	前期課程	17.2	33.2	24.1	18.0	7.2	0.3	373	39.6	3.4
	後期課程	16.0	38.0	21.5	16.3	7.9	0.3	368	39.1	3.4
女子	前期課程	25.3	31.6	25.3	13.7	4.2	—	95	10.1	3.6
	後期課程	24.5	40.6	19.8	11.3	3.8	—	106	11.3	3.7
男子	文 科 系	18.0	32.2	22.8	18.3	8.4	0.3	311	33.0	3.3
	理 科 系	15.6	38.1	22.8	16.3	7.0	0.2	430	45.6	3.4
女子	文 科 系	27.4	35.8	23.6	10.4	2.8	—	106	11.3	3.7
	理 科 系	22.1	36.8	21.1	14.7	5.3	—	95	10.1	3.6

XI—4表—4 学生生活の中での満足感（友人）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (31.1)	% (40.8)	% (17.9)	% (6.6)	% (3.4)	% (0.3)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.9)
全 体		24.0	45.1	19.2	8.4	3.2	0.1	942	100.0	3.8
男 子		22.5	44.7	20.8	8.8	3.1	0.1	741	78.7	3.7
女 子		29.4	46.8	13.4	7.0	3.5	—	201	21.3	3.9
男子	前期課程	18.8	45.8	20.6	10.7	3.8	0.3	373	39.6	3.7
	後期課程	26.4	43.5	20.9	6.8	2.4	—	368	39.1	3.8
女子	前期課程	30.5	42.1	12.6	10.5	4.2	—	95	10.1	3.8
	後期課程	28.3	50.9	14.2	3.8	2.8	—	106	11.3	4.0
男子	文 科 系	22.2	42.4	19.9	10.6	4.5	0.3	311	33.0	3.7
	理 科 系	22.8	46.3	21.4	7.4	2.1	—	430	45.6	3.8
女子	文 科 系	29.2	45.3	15.1	6.6	3.8	—	106	11.3	3.9
	理 科 系	29.5	48.4	11.6	7.4	3.2	—	95	10.1	3.9

Ⅺ—4表—5 学生生活の中での満足感（余暇・レジャー）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (13.1)	% (30.5)	% (27.4)	% (21.7)	% (7.1)	% (0.2)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.2)
全 体		13.5	33.5	26.4	19.3	7.1	0.1	942	100.0	3.3
男 子		11.3	33.7	27.8	19.7	7.3	0.1	741	78.7	3.2
女 子		21.4	32.8	21.4	17.9	6.5	—	201	21.3	3.4
男子	前期課程	11.5	32.2	27.6	20.6	7.8	0.3	373	39.6	3.2
	後期課程	11.1	35.3	28.0	18.8	6.8	—	368	39.1	3.3
女子	前期課程	21.1	38.9	16.8	17.9	5.3	—	95	10.1	3.5
	後期課程	21.7	27.4	25.5	17.9	7.5	—	106	11.3	3.4
男子	文 科 系	13.5	34.4	27.0	17.4	7.4	0.3	311	33.0	3.3
	理 科 系	9.8	33.3	28.4	21.4	7.2	—	430	45.6	3.2
女子	文 科 系	25.5	37.7	16.0	16.0	4.7	—	106	11.3	3.6
	理 科 系	16.8	27.4	27.4	20.0	8.4	—	95	10.1	3.2

Ⅺ—4表—6 学生生活の中での満足感（クラブ・サークル活動）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (20.2)	% (29.0)	% (32.6)	% (8.4)	% (7.4)	% (2.3)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.5)
全 体		18.9	30.0	31.5	11.5	7.2	0.8	942	100.0	3.4
男 子		18.5	30.4	30.8	11.7	7.7	0.9	741	78.7	3.4
女 子		20.4	28.9	34.3	10.4	5.5	0.5	201	21.3	3.5
男子	前期課程	19.0	32.7	24.9	13.9	8.0	1.3	373	39.6	3.4
	後期課程	17.9	28.0	36.7	9.5	7.3	0.5	368	39.1	3.4
女子	前期課程	22.1	26.3	29.5	16.8	5.3	—	95	10.1	3.4
	後期課程	18.9	31.1	38.7	4.7	5.7	0.9	106	11.3	3.5
男子	文 科 系	17.0	32.8	28.3	12.5	7.7	1.6	311	33.0	3.4
	理 科 系	19.5	28.6	32.6	11.2	7.7	0.5	430	45.6	3.4
女子	文 科 系	21.7	29.2	30.2	15.1	3.8	—	106	11.3	3.5
	理 科 系	18.9	28.4	38.9	5.3	7.4	1.1	95	10.1	3.5

Ⅺ—4表—7 学生生活の中での満足感（食事）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (19.7)	% (36.5)	% (23.8)	% (14.2)	% (5.7)	% (0.2)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.5)
全 体		17.8	40.3	24.7	13.3	3.7	0.1	942	100.0	3.6
男 子		15.7	40.5	25.8	13.6	4.3	0.1	741	78.7	3.5
女 子		25.9	39.8	20.9	11.9	1.5	—	201	21.3	3.8
男子	前期課程	14.2	37.5	27.3	15.5	5.1	0.3	373	39.6	3.4
	後期課程	17.1	43.5	24.2	11.7	3.5	—	368	39.1	3.6
女子	前期課程	22.1	35.8	26.3	12.6	3.2	—	95	10.1	3.6
	後期課程	29.2	43.4	16.0	11.3	—	—	106	11.3	3.9
男子	文 科 系	16.1	39.2	26.0	13.5	4.8	0.3	311	33.0	3.5
	理 科 系	15.3	41.4	25.6	13.7	4.0	—	430	45.6	3.5
女子	文 科 系	29.2	40.6	18.9	9.4	1.9	—	106	11.3	3.9
	理 科 系	22.1	38.9	23.2	14.7	1.1	—	95	10.1	3.7

XI—4表—8 学生生活の中での満足感（住居）

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区 分		満足して いる 5	まあ満足 している 4	どちらとも 言えない 3	やや不満 である 2	不満である 1	無回答	事 例 数		平均値
2000年調査 (50回)		% (32.9)	% (34.7)	% (16.7)	% (11.4)	% (3.9)	% (0.3)	人 (1,042)	% (100.0)	(3.8)
全 体		29.6	41.6	13.3	10.5	4.8	0.2	942	100.0	3.8
男 子		27.0	43.9	13.4	10.3	5.3	0.3	741	78.7	3.8
女 子		39.3	33.3	12.9	11.4	3.0	—	201	21.3	3.9
男子	前期課程	24.9	42.9	13.9	11.8	5.9	0.5	373	39.6	3.7
	後期課程	29.1	44.8	12.8	8.7	4.6	—	368	39.1	3.9
女子	前期課程	38.9	32.6	15.8	9.5	3.2	—	95	10.1	3.9
	後期課程	39.6	34.0	10.4	13.2	2.8	—	106	11.3	3.9
男子	文 科 系	23.2	46.9	13.8	10.0	5.5	0.6	311	33.0	3.7
	理 科 系	29.8	41.6	13.0	10.5	5.1	—	430	45.6	3.8
女子	文 科 系	40.6	35.8	10.4	10.4	2.8	—	106	11.3	4.0
	理 科 系	37.9	30.5	15.8	12.6	3.2	—	95	10.1	3.9

XI—5表 全体としての大学生生活に対する満足感

区 分		満足している	まあ満足し ている	どちらとも 言えない	やや不満で ある	不満である	無回答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		% (27.7)	% (50.4)	% (10.1)	% (7.7)	% (3.9)	% (0.2)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体		29.3	48.8	11.6	7.1	3.1	0.1	942	100.0
男 子		27.7	48.0	13.1	7.6	3.5	0.1	741	78.7
女 子		35.3	51.7	6.0	5.5	1.5	—	201	21.3
男子	前期課程	21.4	50.9	15.0	8.8	3.5	0.3	373	39.6
	後期課程	34.0	45.1	11.1	6.3	3.5	—	368	39.1
女子	前期課程	31.6	54.7	9.5	3.2	1.1	—	95	10.1
	後期課程	38.7	49.1	2.8	7.5	1.9	—	106	11.3
男子	文 科 系	25.4	49.2	14.8	6.8	3.5	0.3	311	33.0
	理 科 系	29.3	47.2	11.9	8.1	3.5	—	430	45.6
女子	文 科 系	38.7	51.9	3.8	3.8	1.9	—	106	11.3
	理 科 系	31.6	51.6	8.4	7.4	1.1	—	95	10.1

XI—6表 あなたは幸福ですか

区 分		幸福だ	どちらかと いえば幸福 だ	どちらかと いえば幸福 でない	幸福でない	無回答	事 例 数	
2000年調査 (50回)		% (56.5)	% (34.1)	% (5.3)	% (3.6)	% (0.5)	人 (1,042)	% (100.0)
全 体		54.2	38.3	4.4	3.0	0.1	942	100.0
男 子		51.6	40.1	4.7	3.5	0.1	741	78.7
女 子		64.2	31.8	3.0	1.0	—	201	21.3
男子	前期課程	45.8	44.5	5.9	3.5	0.3	373	39.6
	後期課程	57.3	35.6	3.5	3.5	—	368	39.1
女子	前期課程	58.9	36.8	2.1	2.1	—	95	10.1
	後期課程	68.9	27.4	3.8	—	—	106	11.3
男子	文 科 系	51.1	40.2	3.9	4.5	0.3	311	33.0
	理 科 系	51.9	40.0	5.3	2.8	—	430	45.6
女子	文 科 系	70.8	26.4	0.9	1.9	—	106	11.3
	理 科 系	56.8	37.9	5.3	—	—	95	10.1

XII. 社 会 観

XII-1表 現在の日本社会において、積極的にすすめる（認める）べきだと思うか

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

首相公選について	区 分	思う—————思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	全 体	%	%	%	%	%	%	人	%	
		21.5	25.4	17.9	15.2	19.7	0.2	942	100.0	3.1
男 子 女 子		22.0	23.5	18.1	15.1	21.1	0.3	741	78.7	3.1
		19.9	32.3	17.4	15.4	14.9	—	201	21.3	3.3
前 期 課 程 後 期 課 程		22.0	25.6	19.2	15.0	17.7	0.4	468	49.7	3.2
		21.1	25.1	16.7	15.4	21.7	—	474	50.3	3.1
文 科 系 理 科 系		15.8	24.2	16.3	15.8	27.6	0.2	417	44.3	2.8
		26.1	26.3	19.2	14.7	13.5	0.2	525	55.7	3.4

外国人の参政権について	区 分	思う—————思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	%	%	%	%	%	%	人	%	
	(24.8)	(28.5)	(23.1)	(10.9)	(12.4)	(0.3)	(1,198)	(100.0)	(3.4)	
全 体		28.2	30.7	20.1	10.6	10.2	0.2	942	100.0	3.6
男 子 女 子		27.8	30.5	19.0	11.1	11.3	0.3	741	78.7	3.5
		29.9	31.3	23.9	9.0	6.0	—	201	21.3	3.7
前 期 課 程 後 期 課 程		30.8	29.7	19.0	11.5	8.5	0.4	468	49.7	3.6
		25.7	31.6	21.1	9.7	11.8	—	474	50.3	3.5
文 科 系 理 科 系		27.1	30.9	20.4	12.0	9.1	0.5	417	44.3	3.6
		29.1	30.5	19.8	9.5	11.0	—	525	55.7	3.6

地方分権について	区 分	思う—————思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	%	%	%	%	%	%	人	%	
	(28.6)	(30.4)	(26.1)	(9.3)	(5.4)	(0.1)	(1,198)	(100.0)	(3.7)	
全 体		27.9	35.4	23.1	8.3	5.0	0.3	942	100.0	3.7
男 子 女 子		29.6	34.5	21.9	8.5	5.1	0.4	741	78.7	3.8
		21.9	38.3	27.9	7.5	4.5	—	201	21.3	3.7
前 期 課 程 後 期 課 程		23.9	36.3	25.0	9.8	4.3	0.6	468	49.7	3.7
		31.9	34.4	21.3	6.8	5.7	—	474	50.3	3.8
文 科 系 理 科 系		29.7	38.8	17.0	8.4	5.5	0.5	417	44.3	3.8
		26.5	32.6	28.0	8.2	4.6	0.2	525	55.7	3.7

公共事業の縮減について	区 分	思う—————思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	全 体	%	%	%	%	%	%	人	%	
	33.0	27.8	24.6	10.2	4.0	0.3	942	100.0	3.8	
男 子 女 子		33.3	28.1	24.3	9.4	4.5	0.4	741	78.7	3.8
		31.8	26.9	25.9	12.9	2.5	—	201	21.3	3.7
前 期 課 程 後 期 課 程		30.8	26.5	25.2	12.8	4.1	0.6	468	49.7	3.7
		35.2	29.1	24.1	7.6	4.0	—	474	50.3	3.8
文 科 系 理 科 系		35.3	31.7	22.1	7.0	3.6	0.5	417	44.3	3.9
		31.2	24.8	26.7	12.8	4.4	0.2	525	55.7	3.7

食料自給率の向上について	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	全 体	%	%	%	%	%	%	人	%	
		34.6	28.6	20.4	11.4	4.8	0.3	942	100.0	3.8
男 子		32.4	27.1	21.9	12.7	5.5	0.4	741	78.7	3.7
女 子		42.8	33.8	14.9	6.5	2.0	—	201	21.3	4.1
前期課程		35.9	28.6	18.6	11.8	4.5	0.6	468	49.7	3.8
後期課程		33.3	28.5	22.2	11.0	5.1	—	474	50.3	3.7
文科系		31.4	29.3	22.3	12.2	4.3	0.5	417	44.3	3.7
理科系		37.1	28.0	18.9	10.7	5.1	0.2	525	55.7	3.8

脳死を人の死とすることについて	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	%	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	(26.0)	(24.0)	(29.8)	(10.4)	(9.5)	(0.3)	(1,198)	(100.0)	(3.5)	
	20.3	22.2	34.7	10.6	11.8	0.4	942	100.0	3.3	
男 子	22.0	22.4	34.3	9.4	11.3	0.5	741	78.7	3.3	
女 子	13.9	21.4	36.3	14.9	13.4	—	201	21.3	3.1	
前期課程	19.4	24.4	34.8	10.0	10.7	0.6	468	49.7	3.3	
後期課程	21.1	20.0	34.6	11.2	12.9	0.2	474	50.3	3.3	
文科系	18.5	23.5	33.1	12.0	12.5	0.5	417	44.3	3.2	
理科系	21.7	21.1	36.0	9.5	11.2	0.4	525	55.7	3.3	

(クローン・遺伝子操作) 人間の生命操作	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	%	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	(9.5)	(10.6)	(16.2)	(19.5)	(44.0)	(0.2)	(1,198)	(100.0)	(2.2)	
	9.7	12.8	19.3	24.1	33.8	0.3	942	100.0	2.4	
男 子	11.3	14.2	20.1	22.9	31.0	0.4	741	78.7	2.5	
女 子	3.5	8.0	16.4	28.4	43.8	—	201	21.3	2.0	
前期課程	9.6	13.9	19.0	25.0	31.8	0.6	468	49.7	2.4	
後期課程	9.7	11.8	19.6	23.2	35.7	—	474	50.3	2.4	
文科系	6.2	9.4	17.7	24.2	42.0	0.5	417	44.3	2.1	
理科系	12.4	15.6	20.6	24.0	27.2	0.2	525	55.7	2.6	

夫婦別姓について	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	%	%	%	%	%	%	人	%	
全 体	(21.5)	(16.2)	(25.9)	(14.9)	(21.3)	(0.2)	(1,198)	(100.0)	(3.0)	
	29.9	19.5	27.3	9.0	14.0	0.2	942	100.0	3.4	
男 子	25.6	19.2	28.9	9.6	16.5	0.3	741	78.7	3.3	
女 子	45.8	20.9	21.4	7.0	5.0	—	201	21.3	4.0	
前期課程	27.6	20.3	26.3	10.3	15.2	0.4	468	49.7	3.3	
後期課程	32.3	18.8	28.3	7.8	12.9	—	474	50.3	3.5	
文科系	34.5	19.9	24.7	6.7	13.7	0.5	417	44.3	3.6	
理科系	26.3	19.2	29.3	10.9	14.3	—	525	55.7	3.3	

飛び級・飛び入学について	区分	思う—————思わない					無回答	事例数		平均値
		5	4	3	2	1		人	%	
	1997年調査 (47回)	% (26.9)	% (23.8)	% (16.6)	% (15.2)	% (17.4)	% (0.2)	人 (1,198)	% (100.0)	(3.3)
	全体	31.3	26.3	21.7	10.6	9.9	0.2	942	100.0	3.6
	男子	31.6	27.0	21.2	10.0	10.0	0.3	741	78.7	3.6
	女子	30.3	23.9	23.4	12.9	9.5	—	201	21.3	3.5
	前期課程	29.5	27.4	20.7	12.2	9.8	0.4	468	49.7	3.5
	後期課程	33.1	25.3	22.6	9.1	9.9	—	474	50.3	3.6
	文科系	30.2	25.7	20.6	10.1	12.9	0.5	417	44.3	3.5
	理科系	32.2	26.9	22.5	11.0	7.4	—	525	55.7	3.7



五月祭 鉄門水泳部によるエゴグラム性格診断

Ⅷ—2表 現在の日本社会の見方

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

国民の声 が政治に 反映されて いると	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (1.1)	% (3.8)	% (12.7)	% (36.1)	% (46.0)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(1.8)
全 体	1.4	6.9	17.2	38.1	36.2	0.2	942	100.0	2.0	
男 子	1.8	7.0	17.8	37.1	36.0	0.3	741	78.7	2.0	
女 子	—	6.5	14.9	41.8	36.8	—	201	21.3	1.9	
前 期 課 程	1.9	6.6	14.7	40.2	36.1	0.4	468	49.7	2.0	
後 期 課 程	0.8	7.2	19.6	36.1	36.3	—	474	50.3	2.0	

人々の間の 平等が実現 されていると	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (4.2)	% (18.1)	% (18.5)	% (31.7)	% (27.1)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(2.4)
全 体	4.2	15.6	19.9	30.8	29.3	0.2	942	100.0	2.3	
男 子	4.9	15.9	19.3	29.3	30.4	0.3	741	78.7	2.4	
女 子	2.0	14.4	21.9	36.3	25.4	—	201	21.3	2.3	
前 期 課 程	2.4	14.1	17.9	33.8	31.4	0.4	468	49.7	2.2	
後 期 課 程	6.1	17.1	21.7	27.8	27.2	—	474	50.3	2.5	

人間が大切に されていると	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (5.2)	% (15.8)	% (29.4)	% (31.3)	% (18.1)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(2.6)
全 体	5.2	19.2	29.3	27.6	18.4	0.3	942	100.0	2.7	
男 子	5.9	19.4	28.5	26.7	19.0	0.4	741	78.7	2.7	
女 子	2.5	18.4	32.3	30.8	15.9	—	201	21.3	2.6	
前 期 課 程	3.8	19.4	28.6	29.7	17.7	0.6	468	49.7	2.6	
後 期 課 程	6.5	19.0	30.0	25.5	19.0	—	474	50.3	2.7	

軍国主義化の 危険がある	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (5.0)	% (14.0)	% (16.4)	% (27.0)	% (37.3)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(2.2)
全 体	8.3	18.5	15.0	24.7	33.3	0.2	942	100.0	2.4	
男 子	8.4	17.3	13.9	24.2	36.0	0.3	741	78.7	2.4	
女 子	8.0	22.9	18.9	26.9	23.4	—	201	21.3	2.7	
前 期 課 程	9.2	20.3	15.6	25.6	28.8	0.4	468	49.7	2.6	
後 期 課 程	7.4	16.7	14.3	23.8	37.8	—	474	50.3	2.3	

国民の権利が 保障されて いると	区 分	思う———思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (6.3)	% (30.4)	% (32.2)	% (23.0)	% (7.8)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(3.0)
全 体	8.0	31.8	33.1	19.1	7.7	0.2	942	100.0	3.1	
男 子	8.6	32.3	32.0	18.6	8.2	0.3	741	78.7	3.1	
女 子	5.5	30.3	37.3	20.9	6.0	—	201	21.3	3.1	
前 期 課 程	6.2	31.6	32.7	20.5	8.5	0.4	468	49.7	3.1	
後 期 課 程	9.7	32.1	33.5	17.7	7.0	—	474	50.3	3.2	

自分の欲望や利益しか考えない人が増えていくと	区 分	思う—————思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (40.3)	% (33.9)	% (15.5)	% (6.9)	% (3.1)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(4.0)
全 体	40.7	33.3	15.8	6.7	3.3	0.2	942	100.0	4.0	
男 子	40.9	32.5	15.7	7.3	3.4	0.3	741	78.7	4.0	
女 子	39.8	36.3	16.4	4.5	3.0	—	201	21.3	4.1	
前期課程	41.7	35.5	12.2	6.8	3.4	0.4	468	49.7	4.1	
後期課程	39.7	31.2	19.4	6.5	3.2	—	474	50.3	4.0	

かつて開かれていた日本の社会は世界に向	区 分	思う—————思わない					無回答	事 例 数		平均値
		5	4	3	2	1				
	1997年調査 (47回)	% (3.1)	% (10.5)	% (25.5)	% (40.5)	% (20.2)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)	(2.4)
全 体	3.2	12.3	29.0	36.7	18.6	0.2	942	100.0	2.4	
男 子	3.5	12.7	28.7	34.7	20.1	0.3	741	78.7	2.4	
女 子	2.0	10.9	29.9	44.3	12.9	—	201	21.3	2.4	
前期課程	3.2	14.7	28.8	34.6	18.2	0.4	468	49.7	2.5	
後期課程	3.2	9.9	29.1	38.8	19.0	—	474	50.3	2.4	

Ⅺ—3表 全体として現在の日本社会をどう思いますか

区 分	良 い	まあ良い	どちらとも 言えない	余り良くない	良くない	無 回 答	事 例 数	
1997年調査 (47回)	% (5.3)	% (35.7)	% (21.0)	% (28.5)	% (9.3)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)
全 体	4.0	25.1	25.7	33.9	11.1	0.2	942	100.0
男 子	4.7	25.8	25.4	31.6	12.3	0.3	741	78.7
女 子	1.5	22.4	26.9	42.3	7.0	—	201	21.3
前期課程	2.8	24.4	26.7	34.2	11.8	0.2	468	49.7
後期課程	5.3	25.7	24.7	33.5	10.5	0.2	474	50.3
文 科 系	5.5	25.2	25.2	33.1	10.8	0.2	417	44.3
理 科 系	2.9	25.0	26.1	34.5	11.4	0.2	525	55.7

Ⅺ—4表 日本の将来の見通しはどうかと思いますか

区 分	良くなる	やや良くなる	どちらとも 言えない	ある程度悪くなる	悪くなる	無 回 答	事 例 数	
1997年調査 (47回)	% (3.4)	% (8.8)	% (37.1)	% (35.1)	% (15.3)	% (0.3)	人 (1,198)	% (100.0)
全 体	6.6	11.5	36.3	29.2	16.1	0.3	942	100.0
男 子	7.8	11.9	34.7	28.1	17.1	0.4	741	78.7
女 子	2.0	10.0	42.3	33.3	12.4	—	201	21.3
前期課程	6.4	12.2	38.5	28.8	13.9	0.2	468	49.7
後期課程	6.8	10.8	34.2	29.5	18.4	0.4	474	50.3
文 科 系	7.0	11.5	37.9	29.0	14.4	0.2	417	44.3
理 科 系	6.3	11.4	35.0	29.3	17.5	0.4	525	55.7

Ⅹ. 就 職

Ⅹ—1表 就職希望職種（第1位）

区 分	大学・官公庁の教育・研究職	企業等の研究職	技術職	事務職	教育職（大学を除く）	行政職（公務員）	専門職（医師、弁護士、公認会計士等）	マスコミ（新放ア、記者、サ、ナウン、プロデューサー等）	その他	無回答	事例数		
											人	%	
2000年調査(50回)	% (25.3)	% (13.5)	% (11.0)	% (5.5)	% (1.6)	% (12.3)	% (18.4)	% (5.0)	% (6.2)	% (1.1)	(1,042)	(100.0)	
全 体	26.2	16.1	10.2	5.3	1.4	12.7	19.1	4.1	4.2	0.5	942	100.0	
男 子	28.1	15.9	11.7	5.4	1.5	12.6	15.7	3.9	4.6	0.7	741	78.7	
女 子	19.4	16.9	4.5	5.0	1.0	13.4	31.8	5.0	3.0	—	201	21.3	
男子	前期課程	30.8	17.2	11.5	3.2	1.6	13.4	13.1	4.0	4.6	0.5	373	39.6
	後期課程	25.3	14.7	12.0	7.6	1.4	11.7	18.2	3.8	4.6	0.8	368	39.1
女子	前期課程	17.9	18.9	4.2	2.1	2.1	20.0	24.2	5.3	5.3	—	95	10.1
	後期課程	20.8	15.1	4.7	7.5	—	7.5	38.7	4.7	0.9	—	106	11.3
男子	文科系	20.6	5.1	1.0	10.0	1.9	22.8	23.8	7.1	6.8	1.0	311	33.0
	理科系	33.5	23.7	19.5	2.1	1.2	5.1	9.8	1.6	3.0	0.5	430	45.6
女子	文科系	11.3	5.7	0.9	7.5	0.9	21.7	38.7	9.4	3.8	—	106	11.3
	理科系	28.4	29.5	8.4	2.1	1.1	4.2	24.2	—	2.1	—	95	10.1
(第2位) 全 体	17.2	20.7	10.2	7.3	4.6	10.9	7.9	7.7	1.3	12.2	942	100.0	
(第3位) 全 体	11.7	8.1	13.0	7.2	5.9	8.6	7.9	9.8	2.8	25.2	942	100.0	

Ⅹ—2表 その職業に就きたい理由（第1位）

区 分	人社会を助ける仕事	安定した生活	収入が	期待できる	自分の特長・知識が活かせる	華やかで、世間やから	社会的な地位・名声が得られる	組織に自由な活動ができる	人や組織と協力できる	独創性や創造性を発揮できる	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
													人	%
2000年調査(50回)	% (16.6)	% (9.4)	% (4.4)	% (42.1)	% (0.5)	% (1.6)	% (7.0)	% (2.7)	% (8.8)	% (5.2)	% (1.6)	(1,042)	(100.0)	
全 体	19.0	10.5	7.0	40.1	0.2	1.3	5.4	2.4	9.2	3.3	1.5	942	100.0	
男 子	17.7	10.5	7.4	39.1	0.3	1.3	5.5	2.8	10.3	3.1	1.9	741	78.7	
女 子	23.9	10.4	5.5	43.8	—	1.0	5.0	1.0	5.5	4.0	—	201	21.3	
男子	前期課程	15.8	11.0	8.6	39.4	0.3	1.1	5.4	1.6	10.5	4.3	2.1	373	39.6
	後期課程	19.6	10.1	6.3	38.9	0.3	1.6	5.7	4.1	10.1	1.9	1.6	368	39.1
女子	前期課程	18.9	16.8	6.3	42.1	—	—	3.2	2.1	5.3	5.3	—	95	10.1
	後期課程	28.3	4.7	4.7	45.3	—	1.9	6.6	—	5.7	2.8	—	106	11.3
男子	文科系	23.8	11.9	9.3	24.1	0.6	2.6	6.8	5.8	10.0	2.6	2.6	311	33.0
	理科系	13.3	9.5	6.0	50.0	—	0.5	4.7	0.7	10.5	3.5	1.4	430	45.6
女子	文科系	30.2	9.4	5.7	35.8	—	0.9	6.6	0.9	5.7	4.7	—	106	11.3
	理科系	16.8	11.6	5.3	52.6	—	1.1	3.2	1.1	5.3	3.2	—	95	10.1
(第2位) 全 体	11.8	12.8	8.6	19.3	1.3	6.1	11.3	3.7	15.6	0.7	8.8	942	100.0	
(第3位) 全 体	10.4	13.3	10.4	10.2	1.9	7.0	7.7	3.3	13.2	1.5	21.1	942	100.0	

Ⅷ—3表 仕事や職場を選ぶ理由（第1位）

区分	給料がよい	休みをとりやすい	責任が軽い	失業の心配がない	福利厚生が充実している	出世の見込みが多い	技術や知識を身につけられる	権限が大きい	やりがいがある	能力が発揮できる	人から評価される	仕事を行う上で男女の差別がない	将来発展する見込みがある	職場が都心のオフィス街にある	職場が自然環境のよい郊外にある	海外勤務の機会が多い	転勤が少ない	いろいろな人と知り合える	オフィスが新しくきれいな	職場の人間関係がよい	その他	無回答	事例数	
2000年調査(50回)	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体	(9.0)	(1.8)	(0.4)	(3.5)	(1.2)	(0.3)	(5.2)	(0.9)	(50.2)	(17.2)	(0.8)	(0.6)	(1.8)	(0.2)	(0.1)	(0.2)	(0.3)	(0.5)	(0.1)	(2.7)	(1.9)	(1.2)	(1,042)	(100.0)
男子	10.4	2.8	0.1	4.2	1.1	0.3	5.7	0.4	48.7	14.5	1.4	1.2	1.1	0.1	0.1	0.6	0.5	1.2	—	2.7	1.8	1.1	942	100.0
女子	8.5	2.5	—	4.5	1.0	—	4.0	—	52.7	11.9	1.5	5.5	—	—	0.5	1.0	2.5	—	3.0	0.5	0.5	201	21.3	
男子	前期課程 後期課程	2.4 3.3	0.3 —	4.3 4.1	0.8 1.4	— 0.8	4.3 8.2	0.3 0.8	51.2 44.0	12.1 18.5	1.1 1.6	— —	2.1 0.5	— 0.3	0.3 —	0.8 0.5	— 0.8	0.3 1.4	— —	3.2 1.9	2.7 1.6	1.3 1.1	373 368	39.6 39.1
女子	前期課程 後期課程	2.1 2.8	— —	5.3 3.8	1.1 0.9	— —	3.2 4.7	— —	49.5 55.7	12.6 11.3	3.2 —	5.3 5.7	— —	— —	— 0.9	1.1 0.9	2.1 2.8	— —	3.2 2.8	1.1 —	— 0.9	— 106	10.1 11.3	
男子	文科系 理科系	2.9 2.8	— 0.2	4.2 4.2	1.9 0.5	1.0 —	5.5 6.7	1.3 —	48.6 47.0	10.9 18.4	1.6 1.2	— —	0.3 2.1	— 0.2	— 0.2	1.0 0.5	0.6 0.2	1.0 0.7	— —	2.6 2.6	2.3 2.1	1.6 0.9	311 430	33.0 45.6
女子	文科系 理科系	1.9 3.2	— —	4.7 4.2	0.9 1.1	— —	1.9 6.3	— —	56.6 48.4	12.3 11.6	0.9 2.1	4.7 6.3	— —	— —	— —	0.9 —	1.9 —	2.8 2.1	— —	2.8 3.2	0.9 —	— 1.1	106 95	11.3 10.1
(第2位)																								
全体	8.3	4.2	0.7	3.9	2.1	0.7	9.4	1.0	16.0	21.2	4.2	3.3	6.4	0.6	0.6	1.8	1.1	5.0	0.3	6.5	0.2	2.2	942	100.0
(第3位)																								
全体	11.4	4.8	1.2	4.8	1.8	1.1	6.5	1.7	7.2	9.9	5.1	3.6	7.5	1.1	0.8	3.4	2.3	9.3	0.2	9.8	0.6	5.9	942	100.0

Ⅷ—4表 就職活動として、どのようなことをするか

(複数項目選択)

区分	インターネット等で、情報を収集する	企業等のセミナーや説明会に参加する	就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	その他	無回答	事例数
2000年調査(50回)	%	%	%	%	%	%	人
全体	(36.2)	(18.6)	(7.7)	(12.6)	(5.3)	(51.0)	(1,042)
男子	37.3	20.9	11.9	17.2	2.5	50.4	942
女子	37.4	21.2	12.3	16.1	2.8	51.7	741
男子	前期課程 後期課程	8.8 33.7	9.7 14.9	12.3 19.8	1.6 4.1	63.5 39.7	373 368
女子	前期課程 後期課程	6.3 32.1	13.7 7.5	17.9 24.5	1.1 1.9	58.9 34.0	95 106
男子	文科系 理科系	31.2 14.0	15.4 10.0	25.4 9.3	4.2 1.9	37.6 61.9	311 430
女子	文科系 理科系	26.4 12.6	14.2 6.3	34.0 7.4	1.9 1.1	25.5 68.4	106 95

Ⅷ—5表 就職する場所はどこを希望するか

区分	東京圏(東京近郊)を希望する	東京圏(東京近郊)以外を希望する	出身地に近いところを希望する	東京圏、東京圏以外どちらでもよい	その他	無回答	事例数
2000年調査(50回)	%	%	%	%	%	%	人
全体	(56.5)	(2.0)	(5.1)	(28.1)	(5.2)	(3.1)	(1,042)
男子	54.4	2.0	5.7	32.1	3.8	2.0	942
女子	52.2	2.0	5.9	33.5	3.9	2.4	741
男子	前期課程 後期課程	2.1 1.9	5.4 6.5	37.8 29.1	4.8 3.0	2.1 2.7	373 368
女子	前期課程 後期課程	1.1 2.8	5.3 4.7	29.5 24.5	6.3 0.9	— 0.9	95 106
男子	文科系 理科系	1.0 2.8	5.5 6.3	30.2 35.8	3.2 4.4	3.9 1.4	311 430
女子	文科系 理科系	0.9 3.2	4.7 5.3	24.5 29.5	4.7 2.1	— 1.1	106 95

Ⅹ. 大学への要望

Ⅹ表 大学への要望や期待（第1位）

区分	カリキュラムの改革	教室・実験室の充実	教育スタッフの充実	進学振分け制度の改善	小人数教育の実施	授業の工夫・改善	単位認定や学年試験を緩やかに	単位認定や学年試験を厳しく	キャンパスの拡大・移転・統合	図書館の充実	談話室・学生控室の充実	課外活動諸施設の拡充	体育施設の充実	厚生施設の実施	学生自治に対する適切な助成と助言	学生自治の尊重	奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	就職対策の充実	無回答	事例数	
2000年調査(50回)全体	% (33.9) 13.8	% (22.2) 7.5	% (21.9) 7.9	% (23.2) 9.2	% (20.7) 9.9	% (43.2) 16.2	% (17.8) 4.2	% (5.0) 2.1	% (3.9) 0.7	% (24.0) 7.4	% (9.2) 3.4	% (10.7) 2.7	% (8.4) 1.6	% (3.2) 1.2	% (1.7) 0.1	% (2.5) 0.3	% (17.9) 7.6	% (12.2) 2.9	% (1.9) 1.2	人 (1,042) 942	
男子	13.9	7.4	8.2	9.0	9.6	16.2	4.6	2.6	0.7	7.2	2.8	2.7	1.9	1.5	0.1	0.4	7.3	2.6	1.3	741	
女子	13.4	8.0	6.5	10.0	10.9	16.4	3.0	0.5	1.0	8.5	5.5	2.5	0.5	—	—	—	9.0	4.0	0.5	201	
文科系	14.6	2.2	6.5	7.2	15.6	18.9	4.3	1.4	0.2	8.4	4.1	1.9	1.4	1.0	—	0.5	6.2	4.8	0.7	417	
理科系	13.1	11.8	9.0	10.9	5.3	14.1	4.2	2.7	1.1	6.7	2.9	3.2	1.7	1.3	0.2	0.2	8.8	1.3	1.5	525	
前期課程	11.8	7.1	7.3	14.3	7.7	17.7	4.5	1.9	0.6	8.1	1.7	3.6	1.7	1.5	0.2	0.4	6.4	1.9	1.5	468	
後期課程	15.8	8.0	8.4	4.2	12.0	14.8	4.0	2.3	0.8	6.8	5.1	1.7	1.5	0.8	—	0.2	8.9	3.8	0.8	474	
前期課程	文科一類	17.5	—	2.5	2.5	12.5	23.8	1.3	2.5	—	15.0	3.8	2.5	2.5	3.8	—	—	7.5	2.5	—	80
	文科二類	12.2	2.0	6.1	4.1	10.2	30.6	10.2	—	8.2	6.1	2.0	—	—	—	—	6.1	2.0	—	49	
	文科三類	11.5	1.3	6.4	24.4	14.1	12.8	3.8	1.3	10.3	1.3	2.6	—	—	—	1.3	2.6	6.4	—	78	
	理科一類	8.8	10.6	11.9	17.5	3.1	14.4	3.8	3.8	1.3	6.3	0.6	5.0	2.5	1.9	—	5.0	0.6	3.1	160	
	理科二類	12.4	11.2	5.6	15.7	5.6	15.7	6.7	—	1.1	3.4	—	4.5	2.2	1.1	1.1	10.1	—	2.2	89	
	理科三類	8.3	33.3	—	16.7	—	16.7	—	—	—	8.3	—	—	—	—	—	16.7	—	—	12	
後期課程	法学部	14.1	2.2	5.4	2.2	30.4	15.2	3.3	—	1.1	3.3	4.3	1.1	—	1.1	—	5.4	7.6	3.3	92	
	経済学部	16.3	—	10.2	—	14.3	12.2	8.2	4.1	—	4.1	8.2	4.1	—	—	—	12.2	2.0	—	49	
	文学部	16.3	8.2	8.2	10.2	4.1	24.5	4.1	—	6.1	2.0	—	—	—	—	—	8.2	8.2	—	49	
	教育学部	33.3	11.1	11.1	—	—	22.2	—	—	—	—	—	11.1	—	—	11.1	—	—	—	9	
	教養(文系)	—	—	18.2	—	18.2	9.1	—	9.1	—	27.3	9.1	—	9.1	—	—	—	—	—	11	
	教養(理系)	10.0	10.0	—	—	20.0	20.0	—	—	—	30.0	—	—	—	—	—	10.0	—	—	10	
	理学部	16.7	11.9	2.4	7.1	9.5	14.3	—	2.4	—	11.9	2.4	2.4	—	2.4	—	16.7	—	—	42	
	工学部	16.8	6.7	10.1	2.5	8.4	13.4	5.0	5.0	1.7	5.0	5.0	3.4	1.7	0.8	—	10.1	3.4	0.8	119	
	農学部	7.1	16.7	7.1	11.9	2.4	9.5	9.5	2.4	2.4	7.1	7.1	—	—	—	—	11.9	4.8	—	42	
薬学部	23.5	29.4	5.9	5.9	—	11.8	—	—	—	—	—	—	5.9	5.9	—	11.8	—	—	17		
医学部	23.5	14.7	17.6	2.9	2.9	14.7	—	—	—	11.8	11.8	—	—	—	—	—	—	—	—	34	
(第2位)全体	8.3	8.0	7.0	5.7	6.8	15.2	5.2	2.2	1.8	9.6	5.3	4.0	3.5	1.6	0.4	1.6	6.7	3.0	4.1	942	
(第3位)全体	7.7	7.1	6.3	4.1	5.3	9.3	3.8	3.1	1.4	9.7	5.7	5.7	3.5	2.2	0.4	1.6	6.8	6.3	9.9	942	

注：2000年（第50回）調査では、主たるものを3つまで選択可としている

具体的記述事項（抜粋）その1

大学生活の感想（良い点、悪い点）

〔文一男子〕

○ 東大駒場は自由な所が良いと思います。特に私の所属している文Iは必修科目が少なく、部活動・バイト等に時間が割けます。ただもう少し1年のうちに専門科目を増やした方が良いと思います。私は教養学部は“教養”を学ぶ場と位置づけていますが、進路が既に決まっています、専門の勉強をしたがっている人が大勢いるからです。

その一方で施設はあまり良いとはいえません。部活の都合上、ロッカーとシャワーは一刻も早く改善して欲しいと思います。また同窓会館ももう少し整備してほしいです。

○ 良い点…地方から東京に出てきたということもあり、地方ではできない体験、例えば様々な美術展に行く、スポーツ観戦に行くなどができており、非常に有意義な体験が、学校外に於いてもできている点。学校内に於いては、講義の内容が高校までと異なり、問題提起型のこちらに考えさせるようなものが多く、講義についていくのが大変であるが楽しい。また、親の助けなしで（金銭・経済的には違いますが）生活していかねばならない為、社会勉強という意味でも、様々な体験をさせてもらっていると思う。そんな意味で、非常に大学に来てよかったと思う。

悪い点…大学に来た初めの頃はそうでもなかったけれども、一人（寮とはいえ）で生活しているせいか、だんだん、朝の1限の講義に最初から出られなくなってしまい、非常に反省しないといけないが、大学生活の一つの欠点だと思う。

○ ロースクール設置に関する細かい点を早急に決定してほしい。弁護士をめざしているが、司法制度改革がまだ曖昧で将来が見えず、大変不安である。

○ 教養学部を全員入学させるのはやめて、1年次から専門学部に入った方がよいと思う。1年生は（少なくとも半数以上は）大いなる“やる気”をもって入ってくるが、教養学部というのは、それ自体の意思が見えにくいことから空気のような存在で、“やる気”をぶつける相手に欠け、空しさが残る。教養学部は“幅広い勉強を”と思っているのだろうが、大学生活中最も満ち満ちているであろうこの“やる気”を、みすみす喪失させることは、何とももったいない。学生の“やる気”に応える授業（システムだけではない）を提供すべきだ。

1 授業60分（or 50分）制にしてはどうか。授業時間が短いので、授業内容を練らねばならず、教授の意識改革を促す。また、生徒側も自身の興味とより厳しい選択眼をもって選ぶだろうから。学生が授業に出ない原因の1つには、授業の内容と密度の薄さにある。特に教養学部の授業で顕著である。別に最新知識とテ

クニックだけを望んでいるのではなく、教授の自身の研究への熱意と、アプローチの仕方と、その深さ、意義等を、なるべく生き生きと伝わるような授業を提供してはどうか。また、教授とは別に“教員”を作ってはどうか。小中高の教員以上に教え方が上手くない方が少なからずいる。

○ 各学部に進学してからも、専門以外の授業を更に取りやすくするのが良いと思う。たしかに、専門的な知識を得ることは大事であるし、それでこそ大学なのかもしれないが、職によっては専門的知識よりも幅広い見識の方が重視されるものもあるだろうし、専門に限られない知識は豊かな人間性や流動的な社会に対応できる能力などを育てるものだと考えている。事実、自分は2年生になってからよりも、1年の時に受けた教養学部の講義の方に興味がわいた。もちろん、学校では専門的なことだけをやりたいと思う人も多いだろうから、その判断を学生に任せるような制度を更に拡充すると良いのではないか。

○ もう少しきれいになるようにしてほしい。ゴミ箱、吸いがら入れ等を増やせば、あちこちにゴミが落ちていることがなくなると思う。まあ、駒場寮が無くなったのは正直嬉しいことと感じた。

○ マスプロ授業だから、学生数が多いからということを利用して授業に手を抜いている教官が多いように思います。私は3学期から法学部の専門科目を受けていますが、特にそこで感じました。学生数が多いから手を抜くのではなく、逆に学生数が多いからこそ、例えば板書を見易くするとか、声を聞こえるようにするとかいった工夫が必要なはずで、それができないなら、これこそ独学できるように現実的な指示を与えるべきでしょう。学生の板書や声量についての切実な望みもほとんど聞き入れられません。あと教養学部の方法論基礎の法Iは学生の満足度が低く、「法とは何か」という授業のテーマをほとんど考えられず、教官も専門分野と違うのでやりにくそうです。そこで法学部の授業である、法学史、法哲学を融合させた、オムニバス講義への改革を提案します。これこそが法とは何かというテーマに合致していると思います。生徒による授業評価の教養学部の授業以外への拡大や、私語をしたりするやる気のない学生の退出処分の全面的な導入など教育環境の抜本的な改革を早急に実施して欲しいと思います。本大学への評価は厳しくなっていますし、海外の名門大学ととかく比較されるので、負けないようにかつ独自色を保った改革を求めます。

○ ゼミを1—2年のうちから取ることが出来るのはすばらしいです!!

勉強等は各人の自主性に任せてあるのでしょうか、もっと人生の先輩に直接会って話せる機会を増やしてほしいと思います。

セミナーのような形で、社会人の方を呼んで下さい。

そうすれば、勉強意欲も湧くのでは？

〔文一女子〕

- やや悪い点として、教官と気軽に議論できないという点があります。しかし、教官の本業は教育ではなく研究ですし、しかたないことだと思います。少人数のクラスがもっと増えれば、質問などを通して、より深い説明を教官から得られると思いますし、気軽に議論もできるようになると思います。
良い点は、すべて自分しだいであるということですから、なろうと思えば何にでもなれます。
- 暖房は12月からということだが、暦で入れる時期を決めるのは無意味、その日の気温に従うべきだと思う。
選択できる授業の数のばらつきが曜日によってありすぎる（火曜2限、水曜2、3限など）、また、私事だが必修の時間と明らかに文Ⅲの学生の興味の対象となる授業が数多く重なっているのは大学側の配慮が足りないと思う。
- 大学生活はとても充実している。良い友人や先生とも出会えたり、国際会議のスタッフや外務省シンポジウム等に出かけたり活動の場がぐっと広まった。しかしこれは学生個人がどのくらい積極的に行動するかで決まるとは思うが。

〔文二男子〕

- 現在の所、東京大学に対しては強い不満はないが、敢えて言うと、少々学生に勉強を強いるすぎている感はある。多少なりとも真面目に取りくもうとすると予習、復習で手一杯になってしまう。
当然東京大学には優秀な学生を社会に送り出すという使命はあるわけだが、少なくとも駒場時代にはもう少し学生に余暇を与えても良いのではないか。
そもそも学問は強制されてするものではないし、与えられた余暇で学生は机上では得られない貴重な事を学ぼう。
- 世間では「大学生は学ばなくなった」と言われるが、少なくとも東京大学に限れば逆の傾向にある様な気がする。個人的にはこの傾向は危機的だと思う。
- 教授にもっと分かってもらおうという気持ちをもって授業をして欲しいです。（マスプロにおいても）
- 私は昨年4月から今月まで、大学を休学して民間の組織が手掛けるボランティア活動に参加した。（内容は「オーストラリアの小学校にアシスタントとして滞在し現地の地域社会と交流を深める、というものであった。）わざわざ1年間休学してまでこれに参加したのは、努力をして希望の大学に入ったはずなのに、その大学に物足りなさを感じたからである。私は個人的には、進振り制度は必要ない、または駒場で2年は短縮してもよいのでは、と思っている。

〔文二女子〕

- 専門科目の授業が2年生になってから始まる点にや

や不満があります。進振り制度の関係もあると思いますが、1年生のうちから専門分野についての基礎的な授業が開講されていれば良いと思いました。私は文科二類で経済学部に進学予定で、1年生時に「方法論基礎」の「経済Ⅰ」「経済Ⅱ」を受講しましたが、週1コマという時間的にも、内容的にももう少し多くしてもよい気がします。

また3年生になると始まるゼミの選択までに、専門科目が始まるのが2年生だと1年しかないの間自分の興味を持てる分野を探すのに焦ります。大学の授業に頼るだけでなく自分で努力することも当然必要だとは思いますが。

- 大学は担任もいないし、自分で生きていかななくてはいけないからさびしい。大切なことが掲示板のすみに張ってあるのはよくないと思う。大切ならもっと、はっきりと張り出してほしい。自治会の存在は一体何なのでしょう？学校とのつながりがよくわかんないし、宗教・政治とのつながりも噂されているし。勝手に決まってて、自分は投票したわけじゃないのについて間に就任してるんだ？と思うことがあります。
大学は社会の一手手前だから、手取り足取りやってくれる人がいなくても変だとは思いますが、さびしいです。
- 大学は学生が主役のはずなのに、食堂はせまいし、個人のロッカーなどの設備も充実していないので、授業以外での居場所がない。サークル部屋などを利用できる人はいいけど、サークルをやっていない人も、もう少し談話スペースがほしい。あと本郷は図書館がわりと大きいですが、駒場の図書館は本が少なすぎると思う。

〔文三男子〕

- 第一に思うことは、文三からも理学部とか工学部に行かしてくれる制度があったら便利だということです。現在、理一をうけなおそうか本気で悩んでいます。それから、一年のときから後期課程の各学部の情報にもっと触れられる場が欲しいです。
駒場のキャンパスは比較的きれいで特に不満はありません。ただ、もうすこし大きな図書館と、別の食堂があったらいいと思います（どちらも混むため）。
- 「入りにくくて出やすい」が相変わらず。もっと厳しくていい。
授業1回90分は長い。教官だって守れてない。
進振りも、希望してる所に全員行かせて、卒業をつらくすればいい。
- 教養の一要素に対話の（様々な意味での）能力があるのは明白である。が、ではなぜテスト・レポートが返却されないのか。我々の思考を教官側がどのように判断したのか全くわからないではないか。成績確定がどうのこうのという説明を聞いたが、そのような馬鹿げた理由で返却しないなら教養の看板を降ろした方がよい。「シケタイ」の力で書かれた答案にいちいち朱筆を入れて返すなんて時間の無駄、との議論は確かに

成立するように思うが、学生全てが自らの不努力を他人の力で埋める、自分の尻も拭けない人間であるわけではない。

このようなわけで、特に思想的方面の授業の無意味を悟ったので冬学期は科目の傾向を相当変えた。カリキュラムの自由度の高さは良い点として挙げておく。ゼミ形式の授業の種類がもっと増えれば、やる気のある学生が困ることも少なくなると思う。学習以外に関しても多くは不満が多々ある。生協の狭さ、食堂の味・サービスの質、書籍部は本が少ないし、ロッカー、落ち着ける場所のないのも困る。改善を望む。

- よい意味でも悪い意味でも、東京大学（駒場）は全体主義化していると感じる。「東大を頂点とする入試制度」は、できる限り雑菌を排除した者を評価するものであるのに、その結果到達するのが実社会との境界面の大学であるという矛盾に学生はどう対応しているのか？私が見る限りでは、学生自治会や「行政機構～」などの勉強会、あるいは有名教授のおっかけなど一面的価値に身をよせるか、学生という自己像に埋没して大学をレジャーランドにしてしまうか、というところだと思う。それがはじめは非常にもの足りなくて、悲しかった。今は「ミュタント」に出会えて、マイノリティーはどこまで行ってもマイノリティーなのだと分かったが。

東京大学は素晴らしい。そもそも教授なんて職業は1つのことを完璧につきつめるものなので、大成していなければおかしいし、大学の設備は少なくともお金が足りないとは感じさせない水準になっていると思う。ただ入っている学生の大半は、俗物なのだ。それは社会的・文化的原因に端を発しているゆえ、なおさら救いようがないのだが。

- 教養課程の充実とはとても良いことであると思うので、3年生以後についても柔軟に他学部聴講できるようにして欲しい。
- 教職科目が5、6限に集中し、2年からしかとれない点は不便極まりない。出席を取らない授業が多く、テストのみを受ける人、レポートのみを出す人が多いのに、それを黙認しているのはどうしてか、疑問が残る。図書館で借りられる本が少ない。
- リベラルアーツを主張するわりに、例えば建物の外観などからして、芸術性や大学としての個性を感じない。何より国から多大な援助をうけているはずなのに、それが学生に対して目に見える形で還元されていないと思う。
- 私は駒場寮の寮生ではありませんが、寮がつぶれたことで楽しみが大きく失われました。なぜならそこはクラスメイト・クラス外の仲間との交流の場だったからです。駒場寮を無くした事に私は断固抗議します。
- 「子ども」から「大人」へ、社会に対して受動的な存在から主体的に新しい社会をつくっていく存在への成長を、最終的に保障するのが大学だと思う。僕自身それを期待して大学に入ったわけだが、いろいろな面

で失望した。今の大学は、新しい社会をつくる担い手を育てるといふ点であまりに無力だと思う。特に、学生の自主活動や、大学運営への参加（「学生自治」）が尊重されていないこと、むしろ制限されていることに、危惧を感じる。創造的に自分たちの活動をつくっていくことや、自分の属する環境や組織を主体的に変えていくことを経験しないで社会に出ていくことは、特に、官僚や研究者になる人が多い東大生にとって危険ではないか。社会に出て彼らが自らの抑圧状態に甘んじることになれば、日本社会の未来は開かれぬと思う。年々の学費値上げや政府の「大学改革」などを含め、「自由」のなさという点で日本の学生のおかれている状態は異常であり、それは未来の異常につながる気がする。

- やはり文Ⅲの私としては科類間での進振りの格差が非常に不愉快である。そして基礎演習の授業は英Ⅱの授業と同じように、多少の幅をもたせた上で我々が選択できるものにすべきであると思う。そして形骸化している担任制や教官アドバイス制度をより使いやすくせねばならないと思う。大体教官のメールアドレスだけ書かれた（一部の教官は書かれてすらいないが…）冊子を渡されたところで、アドバイスを求めたいと思っても気がひけてしまうのがおちだろう。

【文三女子】

- 授業内容は多岐に渡っていて教養を身につけるのに充分であるし、多分野から単位を取ることを義務づけているのも、知識の偏りを無くす為にととても良いと思う。しかし教官によっては、授業方法が学生が目から見て余りにひどい場合もある。私は以前都内の某私大に在籍していたことがあるが、この大学に入って非常に驚いたのは、教官の遅刻の多さである。10分、15分と講義に遅刻しても平気な顔をして授業を始められる神経は信じられない。教官側の事情を知る術もないし、研究等で多忙であることは理解できるが、学生も学費を払って、学ぶ為に大学へ来ている（そうでない者もいるが）ということをおぼろげにでも欲しいと思う。また、夏学期の終わりに授業アンケートを取ったが、あれは実際にはどの様に反映されるのか、又はされないのかを学生側にもきちんと伝えるべきではないか。
- 女子トイレ、女子更衣室を増やす。男子より圧倒的に少ない。
- 駒場は汚すぎる。清掃を充実させて欲しい。進振りのために必修教科の担当教官に一喜一憂し、点数の取りやすい科目に殺到する事態はおかしい。

【理一男子】

- 学生は時間があるが金がない。良くも悪くも自由な時間が増えた。一方、大学と学生とのつながりが薄い。学生自治だなんだと言っているが真剣なのはほんの一部。もっと大学とのつながりを持てる機会を増やした方がよい。

私はスキー部という充実した場所（居場所）があるので良い生活を送れていると思う。

- 現在、物理や数学の授業を受けているのですが、1年の時と違い教官が工学部出身のため非常にレベルの低い、あまり興味をそそられない授業となっている。これを工学部の他学科に進学予定の友人も嘆いていたがやはり物理は物理学科、数学は数学科の出身の教官に教わりたい。出席をとっていなければ半分以上の人が出席しないと思う。それと、語学教育が全然だめ！教養の時は英会話など抽選で、僕は希望通りにいったことがないし、英Iも教科書がいまいち。さらに仏語まで共通の教科書を使うようになり、語学の勉強をする気にならない。教官の満足する授業でなく、生徒の満足する授業作りを行ってほしい。
- 一般の飲食店に比べ、駒場の食堂のサービスが悪いと思う。量や質や値段はもっと良くできると思う。業者の交替などを考えてもらいたい。またコンピュータールームや図書館の開館時間が短いと思う。一般の場合と違い、勉強や実験などを支える場であるので、もっと長い方が望ましい。カリキュラムについて、進学振り分けの制度は良いと思うが、教養学部においての講義等に、振り分けの参考となるような概論や施設見学を増やして欲しい。特に理工系では、動機付けとなるような授業を増やして欲しい。できれば、自由参加ではなく、単位認定となる形で導入して欲しい。
- 大学への要望について、まず、教官の中に授業への準備不足や理解させようとする意欲を持たない方がいるように感じる。また、1号館のイスが座りにくい。教室がやや使いにくいところがある。
駒場寮の学生達にはとてもうんざりさせられる。現在空き地を占拠して野宿しているのは、他の学生の運動や食事をする場所を失わせ、公共の福祉に反していると思う。学生の権利の問題もあり、また教養学部の対応も結果的に見て悪かったが、彼らには今のようない己中心的活動、非人間的行動はやめてもらいたい。
- 二外必修は悪
- 図書館、情報棟は可能な限り(最大24時間年中無休)利用できるように努めて欲しい。あと、教室の座席の配置が悪い。五月祭、駒場祭などはやはり楽しい。実験も面白かった。駒寮はもっと早く壊すべきだったが、隣に出来たテント村は空間として面白いので残して欲しい。キャンパス内の看板は新歓時期以外は禁止、撤去すべきだ。風が吹くと倒れたりして危ない。たばこは全面禁止か少なくとも完全な分煙を求めます。
- 進振りがあまりに不公平であると感じます。文一、文二、理三は単位さえ取れば簡単に進学できるのに、他の科類は、一生懸命授業に出て、高得点を取らなければならないといけません。このような格差はあってはならないと思います。早急な改善を求めます。また、食堂が狭いと思います。駒場には数多くの学生がいるのにもかかわらず、それに見合った食堂の数がないと感じています。もっとスムーズに昼食をすませることが

できれば、その時間を何か別のことに使えるのではないのでしょうか。そして、冷暖房の整備をしてほしいです。教室によってかなり設定温度が違っていて、実際はどのように設定しているのかといつも疑問を感じています。ちゃんと設定をして下さい。

- ①図書館の充実、冷暖房（夏は死ぬほどあついです。本にも悪いのでは）
- ②ロッカー 1人に1つずつきれいである程度の大きさのものがほしい。
- ③実験室などとてもきたない。気持ちよく実験できるきれいな設備にしてほしい。
- 寮での生活は、親から（ある程度）自立できると同時に、団体生活でもあるために孤独を感じることもなく、とても良いと思っています。
- 大学自体の方向性がいまいちです。
“自由に学ぶ”ということをもットーにしているのかもしれないけど、具体例としてのガイドラインみたいなものがあると便利。というか、本来大学側が行うべきものを学生自治体が引きうけているように見えるのは気のせいでしょうか？
あと対応も悪い。金をもらって仕事をしている以上、色々なところでプロ意識を見せてほしいのですな。
勝手なことを書いてまいりましたが、刺激はこの大学の人から多々うけるものがあり、満足しています。けど、それは個が素晴らしいのであって大学自体がどうというわけでは決してない。
- 先生によってあたり、はずれがあるので、ある程度自習が出来るように必修、準必修については大学内で統一の教科書等を指定してほしいです。又、どうしても定期試験の難易度に教官によって差が出るので、学部、学科ごとに進振りのテストをやしてほしいです。（入学試験のようなもの）
部活動によって大学から支給される費用を見直して下さい。人数や活動内容により額に差が出るのはしかたないけれど、支給額だけで部費がほとんど出せる所と、学生やOBの負担の多い所との差が少し大きい気がします。
- 悪い点は、1、2年生が中途半端に忙しいこと。人生には課外活動も重要であるから、もしサークルなどを十分にやれというならもっと時間がほしい。しかし逆に、大学は学ぶところなのであるから、欧米並に勉強しろというなら、もっともつつこんだ勉強を進めさせればよい。今のように中途半端ではどっちつかずのまま学生は欲求不満をかかえて過ごすことになる。
- 勝手な観察ですが、独りきりで大学生活を送っている人が最近増えているのではないのでしょうか。（無論、昔からかも知れませんが。）学問に直に接する機会をいろいろ設けて、その中で学生同士の交流がはかれるような授業が増えると良いと思います。
- 点数第一主義では真の教養は身につかない。
テスト前の暗記力が即評価につながるような評価方法はやめるべきだ。

出席・プレゼンテーション等の評価を積極的にとり入れるべき。そのために、授業のコマ数(必要単位数)を減らし、少ない授業をより深く学ぶべきである。

理Ⅰの数学のテストは共通にすべき。教官の当たりはずれは進振りには不公平。

- 良い点) 野球が出来る。
- 悪い点) 勉強しないと単位がこない。(僕が悪いんです。すいません)
- 教養学部はけちだ。
図書館が充実していない。
食堂が高い。

〔理一女子〕

- 数多くの総合科目の中から自分が学びたいと思うものを自由に取れるのはとてもいいと思う。必修科目も同じように学生に選択する余地を与えてほしい(同じ科目でも教官が選択できる等)。
- 5限までであると時間的にきつい。自習時間がなかなかとれない。
高所得者と低所得者間の格差が大きく、ときどきみじめになる。
- 一般教養の授業が充実していて、自分の専門とは異なる分野の講義も受講することができ、楽しかったです。しかし、毎日朝から夕方まで講義がある上、アルバイトや家事などをこなすのは、正直言って少しづらかったです。これからも、体調をくずさないように気をつけていきたいです。

〔理二男子〕

- 私は理系の学生であるが、理系を選択したこと自体が誤りだったことを大学に入学してつくづく実感した。進振りでも文系に進学することも可能だが、定員や点数などの条件は厳しいと言わざるを得ない。また2年生まで、大学に入って初めて習う物理などの講義を受け続けなければならないのも苦痛としか言いようがない。なぜなら全くわからないからだ。理系で進学するなら生物学をやろうという思いで入った大学で、全くこれからの展望に関わりがない学問を必修科目として学ばなければならず、やる気は無くなる一方だ。大学に入ってまで進振りのために嫌いな科目をいやいや勉強するのは大学に来る気を無くすものになる。だから私は大学をやめるつもりだが、このような意見をもつのは私だけだろうか。大学に入っていきなり物理や化学の数式を見せられてやる気になるだろうか。大学ではもっと自分の興味のあることだけを勉強できると思っていたが、勘違いだったようだ。
- 僕は理Ⅱ、1年で、化学・生物で受験しました。はっきり言って、大学では物理選択者のほうが、進振りでも圧倒的に有利です。高校物理の知識を用いる授業があまりに多く、平均点が思うように上がりません。授業にも対応できていません。物理を履修していない学生がいることを考慮せずに授業をすすめる教官が多

くて、かなりムカつきます。

- 良い点は、自由である事。
悪い点で、一番気に入らない事は、小テストやテストである。しかし、別に勉強したくないわけではない。まじめに勉強しても報われないからだ。なぜなら、この大学では、カンニングがあたりまえになっているからだ。教官には、カンニングを取り締まる気が全くない(たぶん授業をする気もない)ため、僕のとっているいくつかの授業では、半数以上の人カンニングしている。これは、進振りで良い点を取りたいためである。
点がほしい人がカンニングする→その人に負けたくないから他の人もする→平均点が高くなり、全員に優をつけなくてはならなくなるので教官はテストを難しくする→みんなわからないからカンニングする。カンニングしてなかった人も、このままでは単位も危うくなり、しかたなくカンニングする→また教官はテストを難しくする。このくり返しで、雪だるま式にカンニングする人が増え、学生のモラルが低下していく。→他の教科でもカンニングするのがあたりまえになる。
- 大学には全国各地から様々な考えを持った人が集まります。文系・理系の様々な人と出会い、話せた事が一番の収穫だと思っています。視点が広がり、視野が広がり、小さな人間から脱却できたこと。東京出身者が半分と聞いておりましたが、他大学よりも地方出身者が多いと思いますので、夏休み等に友達の実家に泊めていただいた事も、大いに自分のためになったと思います。その点、学生会館やキャンパスプラザがあるのは有難いです。又、様々なすごい先生方の授業を受けられること、直接話すことができること、東大に入って良かったと思いました。
但、図書館の書籍の充実をお願いします。もう少し本の種類が多いといいかと存じております。
私情で申し訳ありませんが、駒場寮前の桜の木、春にきれいだったので、工事の際、切らないで残して下さい。
- やはりもう少しフレキシブルな発想があってもいいと思います。というより、授業以外の点では、あまりにお役所仕事過ぎると思うのです。例えば、図書館は9時に閉まるし、教官は他大学などから非常勤で来ている人の場合、授業時間以外大学におらず、せっかく何か話したいと思っても時間がない。つまり授業以外でのフォローが事実上されていない。暖房は11/26からでないとなつかない。などなどいろいろあるのだが、一番おかしいと思うのは教務課である。4時を過ぎるとどんな事務手続き、書類の配布もしてくれない。そのために急がしい授業の合い間などに事務手続きや書類をもらったり提出したりしないとイケない。これははっきり言って時間と労力の無駄であり、大変困っている。
- 目的意識を育てる教育を希望します。日本で最も難しいとされている大学なので、他大学との差別化とい

う意味で、進振りには賛成ですが、駒場の間は点数偏重になっているのも事実だと思います。世界的な分業が進むなかで、学問への素養がある（と思われる）私達東大生は何を目指すべきなのか。ここを考えさせる大学のあり方が必要だと思います。せっかく学部・学科決定が3年生の初めなのだから、もっと将来を考えさせるべきではないでしょうか。さまざまな研究や職業を比較して、社会に則した教養を身につけることが、東大生のアイデンティティとなるべきだと思います。

- ゴミ。まあ、学生の一人一人の心がけなんですけど。構内に紙くず、ビニール、吸い殻など落っこちてて、不快といえば不快です。また、このたばこなんですけど、僕、このけむりが嫌いなんです。で、教室内で吸ってる奴はいないんですけど、ちょっと外歩いてると、すぐ眼前に紫煙が漂ってきて、こいつは不快極まりありません。他に比べれば東大の喫煙率は低いんですけど。だから、まあ実現は無理なんですけど、PUBLICな場所でのおタバコは御遠慮願いたい…です。ましてやポイ捨てはもってのほか。学内での販売もやめて欲しいです。まあ、東京大学で、もしこのような取り組みが行われるとしたら、世の、喫煙マナーを守らない愚民どもも何かしら変わってくるかもしれないしね。
- 良い点…クラスがあり、友人が増える。
自分の関心によって、講義を選べる。
自由時間が多い。
- 悪い点…教官のやる気のなさ。
講義のレベルが低い。(理系科目)
…東大入試のレベルを理解されていないと思われる。生物・物理は、入試のレベルの方が明らかに上。
- 必修科目の担当教官を選べるようにしてほしい。
5号館、7号館等の階段や入口は、使う人のことを全く考えていないとしか思えない。改築を望む。
図書館の自習スペースはとても良いと思うが、自然科学系の蔵書が少ないように思われる。
教務課の受付時間を延長し、昼休みにも受付してほしい。
図書館を24時間開館してほしい。
ただ点数を取るためだけの勉強に走りがちになるため、進振り制度を廃止してほしい。
- 東京大学は入学後に一般教養を学んだり、研究室見学をしたりしながらじっくりとやりたいことを探せ、とても良いと思う。又、総合大学であるため多方面の友人ができ、幅広い視野を持ってよい。ただ、休み時間の居場所が少ないのがつらい。又、年々、高騰し続ける学費が苦しい。
- ㊤全ての教室の冷暖房が設置してあるので、暑い日も寒い日も大学に来る気がします。
㊤長期休業中の情報棟の休館が多い。あと休日の開館時間をもう少し早くしてほしい(10:30ごろから)。保健センターも16:30までやってほしい。トレイが少

なすぎです。

- 運動する環境がサークル活動以外になかなかないので、本郷の御殿下のような運動施設が駒場にもあると助かる。
- おもしろくない授業でも受けなければならないのは苦痛。こちらからも選べる制度がほしい。逆におもしろい授業に出会えるのはうれしい。
- なかなか各授業の関連性がつかみづらくて授業についていくのに苦労する。それは部活とかをしていてなかなか時間がとれないから。大学本部には体育館施設を使える時間を増やして欲しい。第二体育館上の筋トレ場はひどい状態で、そういうのも改善してほしいです。
- 前期課程の授業は多くがマス・プロであり、「演習」等の学習を定着させるとりくみを充実させない限り2年時の学力が他大学に比して劣る可能性あり。
私は今のところ必要ないが、一般に日本の奨学金制度は不十分である。
- 教養学部前期課程における理系に、3、4学期まで第2外国語が必修であるのは、専門的な方面の勉強の大きな妨げとなっている。理系科目におきかえるか、英語のみにするかしてほしい。また、3年に上がれない者の殆どは語学(特に第2外国語)の単位を落としているのが原因なので、第2外国語自体を無くすか、または1・2学期だけにすることは、キャンパス人口の過密も軽減するし、受講者が少ない言語では教官を他の大学から雇わねばならず、第2外国語の軽減は、この問題も解決し、事務も軽減されるだろう。

〔理二女子〕

- 進学振り分け制度について、法学部、経済学部、医学部などへの、文1、文2、理3の学生の進学時の点数が他の科の学生の点数に比べあまりに低いことに疑問を感じる。例え入学時の学力が高くても、入学後、基礎的な学問知識を十分身につけずに上記の学部に進む学生が多いことは大変な問題だと思う。すでにこれらの事に対する対策として進振り制度の見直しが行われているようだが、新しい制度が導入されるまでにも、現在の学生に対して、法←文1、経←文2、医←理3の進学に対し、他科の学生と同程度の点数以下の学生は進学を認めない、などの対策を講じて頂きたい。
- 実験棟(駒場6号館)が老朽化していると思う。女子トイレを増やして欲しい。
医学部の廃物処理を徹底して欲しい。部活で七徳堂を利用するのですが、塩素事件は本当に迷惑しました。

〔理三男子〕

- どこが面白いのかを説明しようとする態度のみられる教官があまりに少なく、授業を聞いてさらに自分で調べようと思わない。

〔法学部男子〕

- 学生個人にあまり干渉してこない点は非常に感謝している。
- 法学部にも経済学部のような、2年間通してのゼミを設けて欲しい。
- 自分の時の使い方を、自分の優先順位にあわせて自分で決めることができた。
- 自由に使える時間（可処分時間）が多いが、目標なりやりたいことを見つけなければ、無為に過すことになるのではないか。
学生の手当金をうまく使うように誘導するような、インセンティブを大学側が、より多く提供することも、大学のよりよい発展につながると思う。
- 法学部に関しては、授業は高度だが無味乾燥なものが多く、あまり魅力的には思えない。そして、大人数のため、教官・学生とも接することはなく（例え隣の席で同じ授業を聴講していたとしても!!）、大学に、授業に私を来させるようなものは無くなっていった。私にとっては、これらのことは悪い点に思える。
- 様々な能力、思想を持つ人々と共に大学生活を送る中で、互いに刺激し合い、自らを向上させることができた。勉強が単なる知識の収集ではなく、自ら考え、社会を考え、そして、今後いかに生きていくかという人間の根本問題に対処するための学問や哲学、教養に昇華されたと思う。勉強が楽しいと思えるようになった。
一方で、自由な時間の中で、自分をしかってくれるような人がいないと、ややもすれば怠けてしまったり、生半端な考え方で満足してしまっている恐れがあった。
又、似たような（知的エネルギーのトップ）人間の集合の中で、一般の人々の考え方や意識を忘れてしまいがちになったような気がする。卒業間際に、飲食店でバイトをしているが、大学生すら少ない環境の中では、そもそも話が合わない、というズレを感じざるをえない。
- 大学生活は良くも悪くも自分の好きなようにやりたいように時間を使える期間だと思う。ロースクール構想等将来への不安は尽きないが今の所充実した大学生活である。
- 図書館を24時間制にしてほしい。
少人数制など改革を進めてほしい。
社会を担うエリートの養成に力を入れてほしい。
「ゆとり教育」は、それはそれとして構わないから、飛び級とかも視野に入れた教育制度を東大中心に改革して欲しい。
以上、感想というか危機感からの要望を並べてみました。
- 法学部の3コースは、法曹、官僚、まあ政治に関心があるが、特に将来を決めかねている人間（つまりその他）しかカテゴリーを設けておらず、実際のビジネスに関心を寄せる学生をカバーしきれていないと思います。旧来のステレオタイプに支配された硬直的な

カリキュラムは学習意欲をそぐ大きな要因です。（具体的にはビジネスローのコースの創設や、オープンなカリキュラム編成etc）、基本的に、ITインフラにしてもキャッチアップは遅いです。授業内容は非常に質が高いと感じますが、形式が余りにも非効率です。教務課等も徹底した合理化（Webでの情報提供、自己に関する情報開示etc）を進めないと、遅すぎます。否定的ですが、このフィードバックも反映されることが期待できません。だから提出者も少ないのだと思います。

- ゼミ以外でも少人数授業等で教授と触れ合う機会が欲しかった。
- 法学部は法律を教える場ではなく「法学」を教える場となっている。私が学びたいのは「法学」ではなく、「法律」である。学者の先生はもっと実社会を知るべきだと思う。
- 大学生活の3年ちょっとは自分が社会の中でどういう存在であるかを確認し、今後の自分の生き方の指針を得るための時間でした。その期間、本学のようにあまり一人一人の生活に踏み込んでいかないカリキュラムは快適でした。しかし、反面放任的な部分も否めません。大学生活の終盤では可能であるならば大学の教授が学生の学力向上、教養獲得、私生活にもう少し積極的に関わる機会があってもよいのではとも思うようになりました。つまり一つはもっと専門的な知識を身に付けるために一人一人の能力に応じて教授が積極的にトレーニングする機会。そしてもう一つは人格者の多い東大教授（少なくとも僕が接した人は文理問わずそのような人が多かったが…）が人生の師として学生の生活に関わるのもよいのではないかと思います。立派な大人たちとの濃密な関りは大切です。
- 学校内に学生と教授しかいないのが問題。もっと外部の人を入れるべき。
また、自分の学部以外の人と交流できるよう、他学部向けの講義をすべき。教養よりはレベルを上げ、興味があり、ある程度の時間コストをかけるつもりがある学生には多様な学習ができるようにしてほしい。

〔法学部女子〕

- 法学部でのマスプロ授業は学生の精神衛生上問題がある。ゼミをもっと充実させるなど人間的つながりを増やす機会をもっと増やしてほしい。今はゼミをとりたくてもとれない場合があり、毎日マスプロ授業の中で砂漠の中の砂粒のような気分になる。教授たちにとってもゼミでの学生との交流は有益であろう。
また、私立の中高一貫から東京大学に入り、温室しか知らない学生であふれた大学の中で、本当に優秀な人間が育つとは思えない。
外部とのかかわりを増やしてほしい。
- 教科書が高すぎます。理系とは違い実験器具等が必要ない分、何らかの補助をすべきだと思います。
自習室を充実させてほしいです。

小人数の授業を、基本六法でもしてほしいです。
構内の警備を強化してほしいです。
犬やバイクの騒音が気になります。

- 法学部に限ったことかも知れないが、ゼミ等が数ヶ月で終了してしまうために、ゼミ内の交流が他学部比べて皆無に等しい。学生の交流が極めて少なく、大学生活に活気が無くなることは必至である。大学入学時点では学習意欲・知的好奇心で満ちていたが、本郷に進学する時点では全くといって良い程それらが失われていた。非常に残念であった。もっと身近で指導してくれる教官が欲しかった。とても悔いの残る大学生活であった。(駒場時代には担当教官が居たらしいが、クラスに一度も現われたことはなく、何の助けにもならなかった。)
- 法学部は放任主義の感じがする。
法学部校舎をきれいに、ラウンジを充実させてほしい。

〔医学部男子〕

- 良い点：やる気さえあれば、先端の研究に参加することもできるし、病院へ行って実習を行うことができる。熱心な学生に対して応えてくれる教授などがたくさんいて、教育(カリキュラム以外で)という面ではあるていど充実しているといえる。
悪い点：生協が遠い、本屋や食堂に行くのが不便。
医学関係の図書揃えが悪い(図書館)
食堂が混雑しているうえに、忙しい時間帯で混んでいるときに限ってムダ話をしてくつろいでいる集団が席を占拠しているのには迷惑する。
教務課の対応の悪さには腹立たしいを通りすぎて呆れるばかりである。
- 出席をとるという行為の意味がわからない。
出席することで知識なり、学力がつく授業をすれば、出席をとらなくてもテストだけでいいはずだし、みんな授業に出ると思う。つまらない授業に出席の点の為に出席するのは苦痛でしかない。基本的に行きたければ行くというぐらいの自由度の方が良いと思う。自分は医学部なのですが、チューター制度ってのも、いららないと思う。そんなに子供じゃない。
- 進振りに惑わされていた頃が懐い。当時、点数を採ることにとりつかれて、自分を見つめる暇がなかった。私は最も進路を考えていなかったうちの一人だろうと思っている。今になってあわてて自分を模索していたりする。無教養的な教養時代は何の意味も見い出せない。若さとか幼さとはそんなものなんだろうけど。18—21才を東大で過ごしたことは、自分では意識することは不可能だけど、それなりに有意義であったのかもしれない。志を同じくするかしないか、同レベルで違った観点を持つ友人たちと過ごしてきたのだから。大学生活で良かったのはそれぐらいなのだろう。のらりくらりしてきた4年間は社会に出るにあたっての自分を確立するには短いものに思えたけど、自分という

概念がようやく育ってきたこの頃、確立なんて一生かかっても出来やしないとあきらめもついている。自分には、あと2年残っているのだから、とにかく自分のしたいことをしよう。

- 大学生活の良い所は、自主性を持てるということではないかと思う。専門性の取得と共に自立性の獲得が大学生活で得られるものではないだろうか。
しかし、長所と短所は表裏一体というように自立性をもてるということは、一歩ふみまちがえれば危険な方向へ流れるということもある。

〔医学部女子〕

- 編入生に対するカリキュラムをもう少し工夫してほしい。
- 医学部という事で仕方がないのかもしれないけれど、最近テストやレポートやらにずっと追われていて大変です。部活の練習にも本当はもっと行きたいのに時間がなくて出席率が下がっていく一方です。もう少しカリキュラムにゆとりがあるとうれしいのですが……。
- 進学振り分け制度に関して(特に私は理Ⅱ→医学科へ進学したので)、学年により平均点が高い年低い年があったり教養のクラスの基礎講義の教官のあたり運があったり、不確定要素が多すぎて真の選択になっていないと思う。医学科進学者枠を10名固定するのは融通が効かないばかりか実力を評価しきれていない。学年の全体的な点数分布の中で、進学者枠を設定し毎年若干名の増減があってもいいのではないか。又は、教養の成績により20名位の枠をまず用意し更に面接や筆記試験を行う等して10名に絞ってもよいと思う。
このように、進振りの人気が集まる学部は競争が激しいが、文Ⅰ→法、文Ⅱ→経では進学がほぼ決まっておき教養学部での過ごし方に差がでてしまう。文系と理系大きく2分してその後進学する学部を決めるシステムにしても良いかもしれない。
- 東大の学生は比較的恵まれた条件をもらって生まれてきていると思うし、家庭的にも恵まれた人が多いと考えられる。その中で、ごく一部でも、自分の出したゴミ等を講堂などに放置していく学生がいることには目を疑う。このような学生が存在しているのは、戦後の日本の「人間は平等である」そして「平等は善である。」という思想の賜物と感ずる。「人間は平等であるべきだ」という考え方は、不遇な条件を与えられた者を助ける方向に社会をもっていくだけではなく、人より有利な条件を与えられた者が自分に厳しくすることをも回避させるからである。

〔工学部男子〕

- 大学は確かに研究機関であるが、もう少し教育機関であることを意識したカリキュラムにしてほしい。
また、能力(主に試験)で成績、単位がつくのはわかるが、もう少し授業への参加態度、努力など、小手先の勉強だけで点数がつくシステムは改善してほしい。

(能力の高い人は、授業に出ず好きなことをして過ごしているのだから)

- 後期課程に進学して、一番強く思ったことは、教養学部へのときは教官がやる気が全くなかったということだ。僕は工学部機械科に進学したのだが、ほとんどの教官はやる気があり、丁寧に教えてくれる。

おそらく、機械科の教官達にとって僕らは後輩であり、将来の機械科を担う存在であるため、真剣に教えているのだろう。それに対して教養学部の教官達からは、僕らのほとんどがその教官の学科に進学しないためか、真剣さが全く感じられない。この点は、なんとか改善してほしい。

- 今の本郷での生活にとっても満足しているが、駒場の時は、授業も環境もとても嫌だった。まずは駒場の教官の無責任さ加減をどうにかするべきだと思う。「教育」をする気のない教官が多すぎる気がする。
- 駒場の教養教育はまったく機能していないので、いっそのこと単位認定も成績評価もやめてしまったらどうか。学生自身の責任で講義を聞くもよし、本を読むもよし、自由に学ばせてやった方がいい教養が身に付くと思う。進振りのために高成績をめざしてシケプリだの過去問だの逆評定だのがはびこっている現状を直視しなければならない。

工学部のカリキュラムのきつさは大いに問題だ。生活の大半を学科に管理されてうかうか本も読めない忙しさだ。大学院重点化をするなら学部教育へのしわ寄せももう少し改善されてもいいはずだ。

打算的な学生が増えていると感じる。学ぶことの意味や、本来の楽しさをすっかり忘れて「仕事」として勉強している学生がほとんどだ。(工学部だからかもしれないが)これが大学なのだろうか。

- 単位取得が容易すぎる。
学外での自主的な勉強よりも大学での授業出席を最優先にすべきという考えは古い。
- 教養時代の教育の質が悪いと思う。やはり基礎学力である数学や英語にもっと力を入れるべきだと思う。具体的には、それらの科目に対し進振りで重みをつけたり、小人数の英語の授業(できれば2~3人)を実施すると良いと思う。英語に関しては、授業という形ではなくても英語ルームのようなものを作り、そこでは英語だけを使うようにするとか。(もしかしたらあるのかもしれないのですが、僕は知りませんでした。)勉強をする環境はとていいと思う。
- 学内での治安維持・安全対策を重点的に強化してほしい。特にキャンパスのメインストリートが、夜になると地面の段差も分からないほど暗いのは安全上好ましくないので、照明を増設して頂きたい。
入学前、願書を取りに来た時にどこでもらえるのか分からず、偶然本部庁舎を見つけるまでかなり迷った。しかし、各門でも配布されているとは全然分からなかった。また、キャンパスで「○学部△△学科はどこですか」と聞かれることがある。現在の構内の案内図

では「○学部□号館」の位置は分かっても、△△学科が何号館にあるか分からないので、結局どこに行ったら良いか訪問者には全くわからないようだ。以上の観点から、初めての訪問者でも行きたい所に到達できるようなサインシステムを整備する必要があるのではないだろうか。

- 良い点
大学構内に樹木が多いので心が落ち着く。直線的に整然と植えられているのではなく、適度な乱雑さを伴って植えられているところが趣深い。
学問や芸術に対して意欲的な人が多いので良い刺激を受けられる。
- 悪い点
テストやレポートが多くて、自由に学習する時間的ゆとりがあまり持てない。
ノートをとるだけの授業が多く、学生が自発的に創意工夫をしたり、討論をする機会が少い。
理系と文系で忙しさに差があり過ぎる。
- 現時点では不満はない。ただ独立行政法人化が実施され、授業料が改訂されていくのなら、それはゆゆしき事態だと思う。
あと留学等の海外交流を、深めていけばいいと思う。
- カリキュラムの見直しは、毎年行うべきだと思う。特に文系のカリキュラムや運営形態は改善の余地が多分に存在していると思える。
- サークル活動、アルバイトは、学生の時にしかできないので、積極的にすべきだ、という意見を良く耳にします。しかし、僕は、学習や勉強こそ、学生の時にしかできないと思います。大学は今後、授業を分かりやすく、単位認定を厳しくし、学生を授業に参加させるべきだと思います。
また、英語の授業・コンピューターの授業を増やし、社会の求める人材を育成すべきです。時代に合った教育を積極的にとり入れるべきです。
- 東大は勉強や研究に関しては大変素晴らしい環境だと思います。その他、施設に関しても特に不満なことはありませんが、強いて言えばもう少し就職関係の部門を充実させてほしいと思います。
- 1・2年生のときに全然授業に来ない人なのに成績が良いという人がたくさんいて、比較的(9割程度)授業に出ていた私はとても失望感を感じた。
- 現在使用している校舎(工学部5号館)は建物の造りがしっかりしていなく地震などの災害時のことを考えると不安。また、研究スペースも狭く、非常に汚い。とても研究するような環境とは思えない。
- 自分の経験では、学年が上がるごとに教育についての満足度は増えた。今は満足しているが、駒場の教養課程は講義の質が低いし、学生もやる気が出ない。教官ももっとやる気を出して欲しい。
- 事務が融通がきかないと思う。また、種々の情報が個人に伝達しきれていないと思う。気をつけて確認していないと進学の書類や履修書類を受け取れない。し

かも後からもらおうとしてももらえない。これでは学生を墮としめるために期間を短くしているように感じてしまう。また、成績の発行や履習の開始が講義開始よりも後なのは疑問である。

- 全体を通して見れば、良かった。しかし、進捗制度には困った。人気が高いと必要な点数がはね上がるからだ。また、4年生の時は、就職活動と卒論で息抜くヒマがなかった。自分の研究室はそうでもなかったが、他の研究室では、土日もなく朝から晩までという所があるらしく、院生ならともかく4年生からそれではかわいそうだ。
- 研究室に所属すると、連帯感や学習意欲は数段高まり充実感が得られると思う。4年生からの所属というのは少し遅いようにも思う。もっと早くから所属し、専門的な知識をつけられるのであれば、学生生活は充実度を増すだろうし、あるいは大学院への進学も考えなかったかも知れない。
- 東大と言えど、「レジャー施設化の風潮」を感じてしまう。すなわち、全く勉学に対して関心すら持たない人が多いのは問題である。しかし、彼等の意見を耳にすることができる（サークルなどにおいて）点、彼らと議論できる点が良い。様々な考えを持った人々と話し合える点で、「大学という場」は意義深いと感じる。

〔工学部女子〕

- 研究室配属になってからは、学生というよりはただ働きさせられている労働者という感じで、精神的苦痛を感じる事が多いです。特に学部4年は、理系の研究室では「下っ端」だから「研究のオリジナリティーなんて持たなくとも言われたことだけやればよい」という雰囲気が感じられ、研究者になりたいという理想が失われつつある現状です。大学は教育機関でもあるわけですから教育に適した人材をスタッフとして登用すべきだと思います。研究者として優秀というだけで教官に昇格できる制度はいかなるものかだと思います。

〔文学部男子〕

- 東大には日本中から優秀な学生と教官が集まるため、そのような環境で過ごせることは、非常に得られるものが多く、満足しています。
しかしその反面、ともすればその伝統や実績に安住し、古い発想から抜け切れない面がある、と思われるふしもあります。
全体の風潮として学生は卒業だけを目標とし、学問や研究のことを軽視する一方で、教官は学問や研究を至上とし、最近の学生の傾向を把握できておらず、両者の間に乖離があるように見受けられます。
もちろん、学生に迎合しろとはいいませんが、「やる気のない学生は、知らん」と頭から無視するのではなく、学生個々人に相応の教育を行えるよう、知恵を絞っていただきたいと思っています。

- 進学振り分けについて書きます。
同じ名称の必修授業でありながら、クラスによって内容も評価方法も異なる、といった現状の中で、点数に依存した制度の公平性を保つのは無理です。必修については全学統一試験を行うべきです、英1以外も。もちろん教科書も統一して。また、教養学部の人気学科で見られるような、点数の逆転現象も不快です。理系の50点が行けて文系の80点が行けないような文系学科があったり。その学科の教官は学生の質に興味がないのでしょうか。教官からすれば、日本の大学の将来を占うような構造改革がより大切かも知れませんが、科類改革を考えるヒマがあったら、目前の不公平から正しなさい。
- 大学内に設置されているECCの端末が使用できる時間帯をもう少し長くしてほしい。文学部の学生専用の端末は、6時半頃までしか利用できないので、それ以降は図書館の端末を使うしかなくなる。図書館の端末は利用者が多いので、空席が少なく不便を感じる事が多い。各学部の端末が夜10時位まで利用できれば便利だと思う。
大学から学生に伝える情報をインターネット上に流してほしい。掲示の場合、見落としてしまったり、混雑している時に見えにくかったりと不便である。大学のホームページ上に休講予定や連絡事項がまとめられていれば、非常に便利だと思う。
- 学生寮がよく整備されていないこと。存在しても汚い。或いは存在自体が広く知られていないこと。
- 良い点 文学部1、2号館のトイレが改修され、ウォッシュレットになり、雰囲気も明るくなって非常に利用しやすくなった。
学科の中で、皆で協力して課題を1つずつこなしていこうという体制が出来上がっており、仲間意識が強い。
- 時間割を自分で組めるし授業も出席があまいので自分の好きなように時間が使えるのが良い点だと思います。逆にダラダラしようと思ったらできるのが悪い点かもしれません。でもだらだらできて良かったと思えたりもしまして、総じて大学生というのはいいもんだと思います。もっと勉強しとけば良かったと思うこともあります。大学の成績に直結しない勉強というものもあるし。とか思って今から勉強すればいいやで終われるあたりが大学生かなあと。
- 社会から隔絶された生活を送る気になれば、いくらでもできてしまう学生生活はつくづく危険だと思います。やはり最低限の目標というものがないと、生活が維持できません。
- サークルや学校祭などの活動を通じて非常に多くの仲間と出会い、ともに多くの経験を分かち合うことができたのは、本当に良かったと思います。
ただ、進学した学科が自分の想像と少し違った部分があり、勉学への意欲が少し削がれてしまったのが残念です。

- 現在の大学生生活は研究を中心に行っています。しかし、休日とくに土曜日に大学の建物への立ち入りを禁止していることはおかしいと思います。確かにキャンパスで強盗事件が発生したり、また、大学の外部への開放を進める中で、いろいろな人が出入りすることへの備えを施すことが必要であるとは思いますが、研究する立場にとって休日は必要ないといってもよいでしょう。就業時間に束縛されることのない自由をもつ分、常に平日であり研究すべきであるということを忘れてしまうのは、自分にとって、また研究者たちにとっても危ないことです。大学は外部の人をそこまで自由に出入させる必要はあるのでしょうか。

〔文学部女子〕

- 大学をほんとにせまい社会だと思い、学外活動に力を入れすぎて、かえって学内に幅広い友だちができなかった。違う学部の人ともっと仲良くなっておけばよかったと思う。
- 駒場（前期）は授業など勉学面で不満が多く、環境面では満足していた。勉学面での不満とは、授業がマスプロのものばかりで飽きてしまったことと、明確な目的もなく進振りの為の点数集めに終始してしまったこと。初めからある程度進学先やビジョンが見えていれば、もう少し学ぶ意欲が出たと思う。その点、語学や基礎演習の授業は為になった。環境面は立地条件、スポーツ施設など、充実しており、サークル活動もさかんで楽しかった。
本郷（後期）は一転してアカデミックな雰囲気、勉学に打ちこむにはとても良かった。特に文学部はゼミや講義がとても質が高く、有意義だと思う。教官や研究室のケアも細かくてうれしい。その分、就職活動などへの関心が薄く、学生からの不満は多いようだ。設備はあるにはあるようだが、広すぎて使いこなせず、不便に思うことの方が多い。図書館も分散していて意外に使いづらい。文学部は研究室主体なので学生の共通の施設が無く居場所に困る時がある。学生の中には大学に来ない人がいるのもわかる。
- 後期課程では（文学部なのですが）小規模の研究室で、教授や先輩らとの距離が近くなったことが嬉しい。駒場ではどうしても大教室での授業で、教授と接することが難しかったので。
教官はみなさん優秀だし、教室は冷暖房完備で、学びの環境には恵まれていると幸せに思う。ただ、学生の側は図書館で携帯電話を使用したり、お茶を飲んだり、常識の欠けるような人が見うけられる。受験勉強ばかりしているとこんなになってしまうのだろうかなどと思うこともあったが、どうなのでしょう…。
高校までとは違って、駒場ではクラスがあったものの、友人と接する機会が少なく、比較的表面的な付き合いで終わることが多かったが、幾人かとは高校のときの友人以上の付き合いをつくることができ嬉しい。
- 学問自体が抱える矛盾、最近指摘されている問題点

などが授業にあまり反映されない（特に本郷）のが残念だった。

基礎を知らないと問題の所在が理解できないので仕方なかろうとは思うのだが、それにしても。

学部生などは学問の素人だから、教官の言うことが絶対的に聞こえてしまう。おそらくこれはシステムではなく個人対個人の問題だろうとは思っているが。

- 良い友人、良い勉学環境に恵まれ、辛いことも多かったが、予想以上に充実していた。だが、大学があまりに大きすぎ、古すぎて、よそで何をやっているのか全くわからない。

また、理系の研究室は、教授によって学生が伸びるか伸びないか分かれてしまう。結果的に学生の世界観、視野は総じて狭い。

教養の時期に、進路について真剣に考え、ミスマッチの少ない進路を選ぶためにも、進振りには本当に思い切って変えた方がよい。

就職活動で、東大ブランドの下落をひしひしと感じたが、学生の方は至ってのん気に構えているのが、おかしく映った。

〔理学部男子〕

- 学生と教官が会う機会が少ない。オープンキャンパスなどの機会を設けるのは大変なこともわかっているつもりだが、より一層の充実を願う。
- 自由な時間が十分にあるという意味ではやりたいことが存分にでき素晴らしいチャンスだと思う。しかし目標を持っていなかったり、やる気が無いと本当に無意味に時間を潰してしまいかねない。私自身は、そこそこ充実した生活を送れたと思うが、勉学の点での外した観があるので、やや後悔している。
- 自分で選択したことではあるが、現在の研究生生活は、1日に15時間ぐらいは大学にいたので、かなり疲れている。せめて、12時間ぐらいで帰ることのできる雰囲気をつくるか、週休2日にしてほしいと思う。
最近、これなら就職した方がましだったかと深刻に思う。
- 教授（講師）陣の足並みをそろえてほしい。例えば物理や数学などで、使う記号を統一するだけでも、学生のストレスは軽減される。
板書させるだけの授業でなく、プリントを使うなどして、説明に集中できるようにしてほしい。授業に出ると参考書を読むのと、差があまりない（理解のためには）が、テストのためには授業が必要という感じがする。
- 自分自身の大学生生活にはだいたいの点で満足しているが、最近の大学の動向には疑問を感じる人が多い。例えば、独立行政法人化の流れにのった、大学のあり方の変化はそのようなものの1つである。
大学というのは一般企業や、行政とは一線を画した、競争原理にとらわれずに理性をもってあらゆる可能性を検討し、打ち出していくような第三者的立場にいる

べきであり、(予算等の関係でそううまくいかないだろうが)自治権を守っていかねばならない。(独立行政法人化は大学の自治を促進するものでは決してなく、大学の行政への屈服を強いるものである。

- 大学教育のあまさを強く感じており、これでは海外、世界へと通用する人材を育てられないと思う。

第一に、学生の人数が多すぎると思う。入学者の数を減らし、小人数制の授業にすべきである。また、教授による一方的な授業は止めるべきと思う。

次に、カリキュラム・教育システムを整えるべきだ。そしてレポートによる救済や「ゲタ」などは廃止し、厳しく採点・評価しないといけないと思う。

最後に、英語教育を充実させるべきだ。使える英語が身につくような教育になるよう期待したい。

〔農学部男子〕

- 現在弥生キャンパスに進学してからはあまり不満はありません。少々教室や研究室が雑然としている点を除けば……。

駒場時代は、学期の頭に講義に出席すると教室にはあふれんばかりの学生が居り、座れない状況。それに対応するために教室の変更などで約2週間くらいはほんろうされ、すっかり講義に出る気力が萎えてしまっていました。教室の設定をもう少し上手くやりくりしていただければ、多くの学生のやる気を維持できると考えます。大変だとは思いますが。

もう一点。灰皿をもう少し増やしてほしいです。生協前や11号館くらいにしかないため、多くの学生がポイ捨てしています。キャンパスの環境保全のためにも、設置場所を増やしていただきたい、と常々思っていました。

最も意見したい点は進振りについてなのですが、それは私に不向きであっただけで、進振り自体は東大の良い点であり、特徴でもあると考えていますので、何とも言えません。ただ、入学時に進路の決まっている者とそうでない者、両方に対応できるシステムを作してほしいものです。

- 良い点としては、「教師陣が充実していること」、「総合大学だけに、他学部の授業を聞けること、また、幅広い友達ができること」があげられる。悪い点としては、日本で頂点の大学にしては「設備が悪いこと」、「授業の雰囲気が悪いこと(教師も生徒も)」があげられる。
- すばらしく知的で賢い友人、先輩を得ることができ、生涯心に残るような長期に渡る旅を、尽きることなく、あふれる休日を利用してすることができた。大学時代はまちがいなくすばらしい時間をボクに与えてくれたと思う。反面、勉強やら恋愛やら、悩むべきことも多く、つらい思いもいっぱいした。つまりはボクも青春をしていたということかもしれない。
- 良い点
 - ① 研究費が豊富だと思う。

- ② インターネットが研究室で使える。電子ジャーナルが使える。

悪い点

- ① 1・2年時に学生を勉強する気にさせる雰囲気がない。(勉強することの大切さ、かっこよさを学べない)
- ② 1・2年時(3年～もほぼ同様)に、おもしろくない授業が多過ぎる。先生の話が簡潔でなく、自分の研究をだらだらと分かりにくく話す人が多い。全ての授業の評価を学生が行えるようにするべき。
- ③ 1・2年時に、単位認定の評価の厳しさが先生によって違いすぎて、甘い先生に履修人数が集まる。採点基準をある程度統一すべき。
- 学内に様々な施設が充実しているため、授業外で楽しむことができる。農学部図書館の開館日、時間を充実してほしい。

〔農学部女子〕

- 学部の良い点、悪い点それぞれを知ってから進学を決めることのできるように、内部の学生さんの声を聞けるような機会を作ってほしかったな……と思います。東大はとても人が多くていろんな人の考えが聞けるのでラッキーですが、正直人の痛みのわからない強者の論理を持つ人が多く見られるのはとてもカルチャーショックでした。しかし、皆多くのことを知っているので、毎日が大変興味深いです。
- これだけ人数がいるのに、友達はサークルの人やクラスの人がほとんどで他の人とは顔見知りで終わってしまっていて残念です。特に、同じ授業をとっていて毎週顔を合わせてるはずなのに話したことのない人がとても多かったです。東京大学の特徴の1つである「進振り」はとてもいいと思います。大学に入ると、高校のときに持っていたイメージがどんなに間違ったものであったかがよく分かりました。授業内容もその1つで、専門的な知識をほとんど持たない状態での学部選びは難しいので、考える時間を与えてくれた進振り制度に満足しています。
- 今までに出会ったことがないような、尊敬できる友人に多く出会えたことが良かったと思う。
- 理系と文系の生活にあまりにも違いがありすぎて、お互いおどろいています。農学部は隔離されていて、同じ大学とは思えないことがあります。平和で静かです。

〔経済学部男子〕

- 東大生ということでもよく見られたり悪く見られたり、様々な経験があったが、4年生になった今ではある意味達観している。私は地方出身であったが、東京という刺激的な環境で、能力の高い友人と多数知り合えたことは一生の財産であると言える。何にもまして重要なのは人とのつながりだと実感した。大学には不満も

あったが、それは東大だけに限らず、就職してからもつきまとうはずなので、現状を肯定する姿勢が身に付いたと思う。

卒業生として望むことは、授業の質の向上、授業料軽減、そして駒場寮問題の解決である。

- 私は経済学部に進学したのですが、文系の学部では学んだことが直接社会に出た時に役立つことが少なく、社会に出てからの特別な能力を得るためにダブルスクールに行かざるを得ませんでした。そのため、2年の時くらいから大学とダブルスクールの両方の勉強に追われ、バイト・サークル他の活動が満足に出来なかったことが残念でした。これからの大学は文系でも直接社会に出て役立つような講義が増えれば良いと思います。
- 東大生と言われることを毛嫌いしたりはせず、1つの事実と受け取り、「東大バリュー」を意識しないでやってきたつもりだった。しかし、特に何もせずにのほほんとすごってしまった背後には、無意識のうちに「東大生だから何とかなる」と考えていた気がする。東大という呪縛にもっと早く気付くべきだったと後悔している。
- 勉強も遊びも充分にやった気がする。様々なことも考えることができたし、単なるモラトリアムという以上の重要な意義を持ったと思う。後は大学生活で身につけたことを今後に生かすことができれば良いと思っているので、全体としては満足している。
- 自由な雰囲気の中で研究に励むことができるのは良い点であるが、カリキュラムより一歩進んだ研究を行う機会が少ない（特に教養学部時）、もしくはあるにしても掲示等の呼びかけが不十分であるようにも思える。また駒場キャンパスの環境がもう少し整備されて欲しい（ゴミの多さ、食堂の狭さetc.）ようにも思う。
- 教授陣が学部生の学究に対して興味を持っていない。学部間の学生・研究室レベルの交流が少ない。インターンや交換留学などを仲介・紹介してくれる仕組みが（自分の知る限り）ほとんどなく、学生のニーズに答えていないと思う。自分はたまたま都心に住んでいるので幸運だが、通学に時間がかかる学生も多く気の毒だ。学生の居場所が構内にあまりない現況では、一人暮らしをしている学生の宅にたむろするしかない。本郷キャンパスの自然の多さや開放性にはとても満足している。
- 学生（特に学部生）は、同い年ばかりなので、もっと年長者や外国人、女性など、多様であってほしい。
- 友人、先生に恵まれ充実した学生生活を送ることができている。ただ、先生によってはやる気が感じられなかったり「教育すること」について積極的とはいえない方もおられるように思う。そうした先生の講義・ゼミを忌避できるように、学生による教官評価のシステムを作って公開してほしい。現状では、駒場の「逆評定」や先輩の意見など風評の域を出ないものに頼らざるを得ず、特に駒場では同一時間に多くの講義が開

講されており、どちらを選ぶべきか判断に迷うことも多かった。無論、私も含めた学生側のモラルの低下によって様々な面で「正しい」評価システムを構築するのは難しいと思うが、少なくとも「楽か、楽でないか」という評価しかない現状よりはずっとよいと思われる。

- 東大だけがそうではなく、大学というものはそういうものかもしれませんが、人間関係はずいぶん希薄だと思います。
 - 授業をサボる学生ではなく、授業に欠かさず出てしっかり吸収している学生の一人として言わせてもらうと、授業がほとんどつまらない。その原因として、まず、教授のプレゼンテーション能力が低い。これは教授のせいではない。どんな企業だってじっくりそういう訓練をするだろうに、大学教授はそういった訓練を受けていないのだから、できなくて当然。プレゼンテーションが下手なので、「はたしてこの教授は、この学問分野を少しでも面白いと思っているのか？」と疑いたくなることもしばしば。「内容」は伝えられなくても、「自分はこのテーマが好き」という熱意くらいは伝えてほしい。その分野に多少なりとも興味を抱いた学生をたくさん生産することは、大学教授の使命だと思う。
- できれば1回1回の授業がNHKスペシャルくらいにまとまっているとベター。理想的。

〔経済学部女子〕

- 大学1、2年のうちに専門科目を厳しく授業してから教養学部の方が、良いと思う。
- 1年、2年のうちは教養の楽しさがわからず何も身につかなかった。専門の勉強をやって、今さらながら教養科目についても勉強したい。

〔教養学部男子〕

- 私は今、卒業論文を書いているところですが、今までの大学生活を振り返ってみて、自分は大変恵まれているということを実感しています。
- 特に後期課程に進学してからは、私の所属する分科は、教官の人数が学生の人数よりも多いというぜいたくな環境で、授業のカリキュラムもよく吟味されており、基礎から段階を追って専門知識を身につけることが出来ました。
- 卒論についても、これ以上は望めないと思えるほど丁寧な指導を受け、非常に満足しています。
- 私の所属した教養学部国際関係論は全体として向学心が旺盛で、集団のレベルも高かったため、周りに刺激され、その結果ある程度満足できるほど勉強をすることができたと思う。また、教養学部特有の少人数授業により、緊張感のある充実した授業を受けることができた。また、私は4年間運動会陸上部に所属し、忙しいが充実した学生生活を送ることができた。
- ただ、前期課程の文I・II時代からの周りの友人や、大学の一般的な雰囲気をみていると、学力、向学心、

能力のみならず、やる気やモラルがどんどん低下していると感じさせられることが多い。東大は、幼少期からの親の教育・受験投資の恩恵のみで入学してくるバカで、モラルの低い、社会的責任感の欠ける学生を大量に入学させる必要はないと思われる。

〔教養学部女子〕

- 良い点：教養学部（後期）のAIKOMプログラムによる留学経験。
悪い点：AIKOMプログラムによる駒場への外国人留学生の受け入れ体制は最低。質的内容がひどい。日本人学生と外国人学生の共同作業が成り立たない。
- 悪い点について—私は大学に入ってから、学校側から勉強することを殆ど要求されなくなった。大学での勉強が具体的に何かといえば、講義に出て、「受動的」に学び（しかも出ないことも可能）、期末前の期間にのみ、復習やテスト勉強をすることだ。そのような学問に対する姿勢が許容され当たり前となっていることに極めて強い疑問を私は抱いている。実際には、継続的な勉強をすることや知識をしっかりと身につけること、自分の考えをそれをもとにしっかりとと言えるようになることなどは大学のカリキュラムや教育のしかたを通して殆ど義務化されていない。これではやる気や向上心も、死んでしまう。勉強の面で充実感が全くない。もっと私のポテンシャルを伸ばす教育を望む。「勉強は自主的にやるもの」というのは、大学が学生たちに勉強の重要さや意義をしっかりと伝えた上でいえることだ。学問をするための大学に変わってほしい。

〔教育学部男子〕

- 良い点：本郷は自然環境や学食に非常に恵まれてい

ると思う。また、所蔵図書数も多く、研究に適している。

悪い点：就職・進学等のサポート体制が悪い。ほとんどほったらかし。あいかわらず学部授業（大部屋）はつまらないので、担当教官の著作を読んで単位を認めてほしい、とすら思う。

学部建物に、学部生も夜間や土日等も入れるようにしてほしい。

- 学部生にも土日に建物を使わせてほしい。
- 御殿下記念館は本当に良く利用させてもらっている。この施設をつくってくれたことに対しては、本当に感謝している。何かと大変かもしれないが、記念館がより充実するよう補助をしてもらえると、大変ありがたい。

〔薬学部男子〕

- 高校の時に比べれば勉強をしているのがまあ良い点と言えば良いがもっとした方がいいと思う。また、旅行に行ったり、友達と遊んだり割と大学生活を楽しめたのも良かったと思う。悪い点は、勉強にしる趣味にしるもう少し新しいもの（専門以外の分野の勉強）にも触れればよかったと思う。
- 大学という場は自分を伸ばすための器であって、自分がいかに伸びるかは器を利用する自分にかかっているという事に気づくのに、だいぶ時間がかかった。
大学と社会の間とに大きなGapを感じる。自分が社会に無頓着だったからかもしれないが。
学部の講義や研究と社会の結びつきが感じられず勉学の動機づけが得られなかった。
心のどこかにこの大学にいれば何とかなるといふ甘えがあった。



五月祭 鉄道研究会による波動輸送（模型の展示・体験運転）

具体的記述事項（抜粋）その2

日本社会の見通し

〔文一男子〕

- 日本社会はこれからますます悪化していくと思います。経済状況が最悪なのはいうまでもありませんが、私は特に日本人の精神に危機感を覚えています。戦後の日本は資源も富もない中で、知的財産を磨きあげることで荒廃から立ち直り、繁栄を遂げました。しかし現在、学生の学力低下、読書離れによる思想・教養のなさが問題となり、知的財産が損われています。さらに凶悪事件が多発し、モラルの無さが深刻な問題となりました。こうした精神の弱体化は国の弱体化につながります。一刻も早く具体的解決策を考える必要があるといえるでしょう。私も「教養がない」とバカにされないように精進したいと思います。
- 小泉さん次第だと思いますが、不良債権の処理は無理でしょうし、構造改革と言っても今だ、具体的には何もなされておらず、日本の景気は回復の見込みすらなく、落ち込むばかりで、日本の社会はしばらく暗いんじゃないですか。
- 今、声高に構造改革が叫ばれているが、やはり何か今までの日本のシステムを変えていかない限り、日本はよくなっていかないのだろう。今、“抵抗勢力”などと政治の世界で呼ばれている人を見ると、とにかく目先の利益しか追ってないし、道路をつくって国を潤わそうという発想自体、今までのものと全く変わっていない。今、日本が財政赤字に悩み、不況に苦しんでいるのは、今までのやり方を押し通そうとした結果なのだと思う。そして、この現状を打開するには、“将来”に対する意識をもっているであろう若い人々の力が必要だと思う。“将来”を担っていくのは、僕たち若い世代であるのだから。この若い人々が、もっと政治において発言できる機会を増やし、また、積極的に発言していこうとすれば、日本社会は好転していくと私は思う。政治にしろ、経済にしろ、年寄りが多すぎである（一人もいらないと、言わないが）。こんな状況が変わるかどうかが、これから日本社会がよくなっていくかいかを決定する、一つの条件になると思う。
- あいまいな政策が続き、国家としての「確信」（明確な国家像）がないまま、不安定なものになってゆく。
- 老人が増えて、私たちのお金が取られ、私たちにとっては悪い社会になると思います。
- もうトップになることはない。ずるずるとおちていくでしょう。でも、それでもけっこうみんながある程度幸せならいいと思う。

〔文一女子〕

- あまりよい方向にはむかわないと思います。「物質的には」豊かである、と日本人は思っていますが、欧

州と比べると物質的にも、精神的にも貧しい国です。これからは、より貧しくなっていくと思います。

- 悪くなる。犯罪の増加、自然環境の悪化、景気はますます悪化し、政治が国民の意志を反映せぬまま一人歩きし、軍国主義色が強まるだろう。
- 日本独自の文化を維持したまま、国際化を推進してってもらいたい。世界にばかり目を向けるのではなく、日本人に適合した方法で、社会の安定をはかれるようにすべきだ。日本には欧米などと異なり、国民全体が崇拝するような超人的存在（欧米では「神」）がない。そのような超人的な存在を構築する必要があるのではないか。このような存在が欠如していると社会の構成員が自由奔放に身勝手に振まってしまう、社会が崩壊してしまう気がするからだ。

〔文二男子〕

- どうも世間一般では日本を卑下しすぎる傾向にあると思う。確かに現状のままでは未来はあまり期待できないかもしれないが、ただ「日本の未来はダメだ」と吐き捨てておわってほしくない。あきらめるのではなく、みなそれぞれ、「日本を立て直すぞ」という意識を持ち、またいい所も見つけるなどして自分達の手で良くしていく必要があると思う。それができていない今の状態が続けば、未来はますます救いようがなくなってしまうと考える。日本人一人一人の意識のちかちかによってこれからの日本社会はいくらでも変えていくことができるはずなのだから。
- 失業率が上がって景気はもっと悪くなり、対外的には右傾化が進んでアジアからいっそう孤立してしまうと思う。小泉首相が人気を落としてもまた別の人が同じように登場して、同じ政治をやりそう。明るい未来が見えません。
- （経済面については、現行内閣の下で不況が改善されてゆくことを期待したいと思っている。）最近の主な関心事は教育である。

知識つめ込みを非難される教育方針、過熱する受験戦争、勉強しない大学生（自分？）、そんな中で行われた「ゆとり教育」への改革。何か違う気がする。先日、中国からの留学生に会い、日本語があまりに上手いのに驚いた。そして、日本語を勉強した期間が1年半ということを知ってさらに驚いた。1年半第2外国語を習ったが、全く身につけてない。それどころか中学生の頃から習っている英語でさえ日常レベルに達していない。日本の英語教育は間違っている、と感じた。教育改革はまずはそういった点から行われるべきではないだろうか。「ゆとり教育」といって学習レベルの低下を行うのは全くもって間違いだと思う。

日本社会がよくなることを望むが、しかし教育面については、見通しは暗いと思っている。

P.S. まとまりのない文章ですみません。

- いい加減、アメリカから「独立」してほしいのですが、当分無理のようです。このまま日本の伝統文化（それが何であるかもはや分からなくなってきていますが）は失われていくのでしょうか。毎日ハンバーガーとコカコーラの食生活になるのは勘弁して下さい。

〔文二女子〕

- 人材育成が適切にできていないうえに、外国に頭脳流出がすすむと、製造業もだめになってしまうと思う。もっと人を大切に、教育をしっかり行わないと国が減ぶのではないかと思う。貧富の差がますます拡大していくと思うので、政治家は、格差の是正をする必要があるのに、何でも自由化して規制緩和ばかりすすめても、弱者が増加して社会不安が増大するばかりだとと思う。

〔文三男子〕

- 戦後も50年を過ぎ、国内では敗戦国としての歪んだ状態から人々の考えが脱却してゆく時代を迎えると思います。その中で、アジアの国々とも「加害者―被害者」といった構図を打ち破り、若い世代の交流によって新たな関係を築きあげていけると信じます。

人々が、日本という己の固有な文化を再発見し、その伝統性を継承させていくような1世紀になるでしょう。

- 一度、壊してみないと良い展開はあり得ない。今までの既得権益を捨てて、抜本的に改革をしていく必要はある。そうしないと一部の人のみにしか、恩恵が行き渡らなくなる。

だが、希望を捨てることはダメである。今までこの国を作ってきたということに対して、自信を取り戻すべきである。コツコツとやっていたら、必ずまた、陽の当たるときは来るように見える。

政治社会では物事が容易に決められすぎているように感じられる。よく吟味し、議論を交わす社会を作っていかなければならない。可能性を捨ててはいけない。

- どうして「日本」に限定するのでしょうか？ せめて東アジア全体でみるという視野がこの大学位にあっても良いのではないかと考えます。その視野の狭さが、現状の悪さの一因だと思います。大学にできること、それは社会に広い視野を提供することだと信じています。そのことによって、いくらかでも社会が良くなれば良いと思います。少なくとも、今の「産官学云々」はその流れにあるものには見えません。

ひょっとしたらこの欄で求めている解答ではないかもしれませんが。

- 学歴の再生産等による社会の固定化の進展。

政治的無関心により、右傾化。

不景気による社会不安の増大。

環境破壊や科学技術の進歩に関する課題の浮上。

無気力層の拡大やフリーターの増加。

- このアンケートに答えて、自分はあまり自分自身以

外の物事に関心をはらわない傾向がある気がしました。私のような人が増えている気もしますが、これは社会にとってあまり良いことではないのかもしれませんが。個人的には自分の能力を越えていることに深く関わろうとすることもかえって良くないと思うのですが。

- 日本国民の平均寿命を70年として、私が50年生きる間に何が起こるのか？ 10年後までに日本の経済・金融は破綻、20年後までに軍国化、30年後までにおそらく原油をめぐる紛争、そしてその後は再びくる中世の入り口である。

見通しというのは常に最悪を想定して考えるべきで、最悪の連鎖を防ぐべく現実を直視しなければならない。そういう態度が一般的に（少なくとも危機管理というタームが横行する現在はそうではない）なるとすると、次のような希望が生まれてくる。

今後10年間に限るが、進行するデフレを、つまり消費者物価の下落の予測が預蓄率を高め金回りの悪化を招く状態を、いかに解決するかが政治課題になるのだと思う。つまり、経済問題が政治化するのだ。そしてこの問題に対して、日本の政治をどうさかのぼっても、クーデターか個人の独断による対処とその糾弾に終始している。ゆえにこの先10年、日本では民主政体の可能性が問われることになると思う。独断やクーデターなみの速さで、民主的に練り上げられた対応を、決定、実行できるかということである。

- 日本の外交における理念が見えてこない。中庸を重んじる国家としての特性を生かした独自の平和外交が実現できるかどうかということが世界での日本の立場を左右すると思う。現状ではあまり……。

追しどころと引きどころを間違っていると思う。

- 人口減少は亡びゆく国の前兆現象。産業の空洞化で失業者が増え、経済は停滞、衰退し、日本はむこう2、30年で先進国から脱落するだろうと思う。そこからかつてのような軍国主義が台頭することが懸念される。

- 今の日本の利益至上主義、競争主義の社会のあり方は、遅かれ早かれ破たんすると思う。貧富の差や失業者の増大、国民生活の破壊、モラルの低下、生活へのリスクの増大など、社会状況の悪化は目に見えて進んでいて、このような矛盾を生み出す社会のあり方への疑義は早晩、国民的なものになるのではないか。そして、旧来のあり方にしがみつ়く保守勢力と、その修正をせまる革新勢力の対立が鋭くなっていくと思う。私の実感としては、特に、今日の社会のあり方が人間の人格そのものを歪める作用は深刻で、今後ますます、様々な病理現象を伴って、今日の社会のあり方への問いが突きつけられていくと思う。さらに大きな視野で見れば、資本主義社会そのものが環境問題や不況の問題にぶつかって転換を迫られることも避けがたく、その次の社会のあり方が問題化してゆくことになると思う。

〔文三女子〕

- 景気が回復するには長い時間がかかりそうだけれど、政治家・企業家たちも、日本社会を良くしようとしているのだから、いつになるのかは分からないけれど、そのうち成果は現われるのではないだろうか。しかし、精神的には上の問いにもあったように自分勝手と個人主義を混同する人が増えてぎすぎすした社会になるような気がする。
- 日本社会が良くなるという楽観的な見通しはとても持てないが、今現在が昔と比べてそれほど悪くなっているのかどうかも疑わしいと思う。例えば若者は自己中心的で“キレイやく”になっていると言われるが、本当にそうだろうか？ 大人が皆自己中心でなければ、現在の日本はもっと住みやすく、国民はもっと幸せだったのではないかと。“キレイで”子供を殴る大人は昔からいたし、目を覆うような暴力事件だっていくつもあったのではないかと。確かに、我々を取りまく状況は変わった。科学の進歩によって、できるようになったことはたくさんあるし、できなくなったこと、なくなったものもまた多い。しかし人はそう簡単には変わらないし、そう簡単に成長するものでもない。小さな波はいくつもあろうが、結局のところこれからも同じことを繰り返して行くだろう。但し、戦争をすることは無いと思う。

〔理一男子〕

- 今の日本社会がどうなっているかもよく知らないので、よく分かりません。新聞はとらなければならないな、と最近切に思います。
- 保守的な人々が集まった国だと感じさせる日本ですが、現在の世界状況が開かれた世界を目指しているので、当然、日本はその被害を受けると思います。また、最近では個人的（集团的）な怠慢による日本の信用が墮落しているのではないかと感じます。
何より最も強く感じるのは、これから将来を担う若い人々が数十年前に比べ利己的になり、国のために働くような風潮がないこと。裕福すぎるためにがんばる力が減っているのではと。それゆえ日本社会の未来に楽観的予測をしようとは思いません。
- 経済的停滞はしばらく続くだろう。政治的には、自民の政権が続くか、くつがえるかは分からないが、現在のような国民の政治に関する関心はやがて再び薄れていくだろう。それは、政治が国民の心を反映するものとはいええないものであるからでもあり、社会は、政治とは別に一部の良識のある小団体などによって一部は形成され、別のところでは、その他の者達で構成され、まとまりのないものとなっていくだろう。文化の伝承などは、その一部の良識ある者間で守られていくが、別のところでは、元来の日本の文化とは違った文化が生まれ、二極化していくのではないかと。
- これまで主流だった、企業の歯車の一つとして働く労働形態から、個人又は少人数企業が各々の個性を最

- 大限に生かして働く労働形態へ移行していくのではないかと思います。オートメーション化、IT化が進むにつれ、企業で必要とされる人員は少なくなっていきます。人員削減により失業者は増えますが、少人数でも十分に事業をやっているようにもなります。すると、大企業の中で画一的な仕事をさせられて個性を發揮できないような人にも、自ら事業を起ち上げて自らの個性を生かした仕事をするチャンスが多分に生まれることとなります。今日、そのようなベンチャー企業のうちいくつかは成功していますが、今後そういった企業がさらに増加するのではないのでしょうか。私自身、将来は大企業の駒の一つとなるのではなく、自分で自分の未来を決めていく仕事に就きたいと思っています。
- 技術的に高度なもの以外は全て製造業は中国にもっていられるのは間違いない。フリーターの増加は福利厚生を切り捨てであるから、そのうち社会不安となると思う。少子高齢化だが、医療費は健康を維持するというポジティブな方向で対策を打てば、それほど問題にはならないかと。何をしても環境からの制約が問題になる。特に東京はこれからも人口集中が続くだろうが、交通インフラは拡充できない、ゴミの処理場が無い、防災、安全の確保にコストがかかるなどの問題が深刻になるのではと思う。
- 若年層の能力低下による、あらゆる分野での国際競争力の低下。
国債依存率、累積赤字の増大により、税金の負担分と同じだけの公共サービスが受けられなくなる。
「合理化」という名の失業率のさらなる悪化。
学術・文化振興費の削減により、研究、その他がすすまなくなる。
国立大学独法化により、長期計画の基礎研究ができなくなること。
立法・行政の不祥事、民意無視により、政治から国民がより離れていく。
- 改革されるべきは国民の意識。
“上”を目指さない国民（国家）に未来はない。
- ちょうど僕が入学する頃から、大学の学歴を重んじることが無くなってきているような気がするが、これは非常に良いことだと思う。どこの大学に行っているかが重要ではなく、大学に何を勉強したのかが、重要だからである。そして日本社会のどちらかという古い体質のようなものが無くなりつつあるので、これから世界と様々な分野で競争していかなければならなくなった時でも、十分に世界と渡り合っていると思う。もちろん、自分自身も世界に負けないような技術を大学や大学院などで身に付けていきたい。
- 「ゆとり」教育の弊害を筆頭に教育・学力レベルの地盤沈下（陥没?）により日本は国際競争力を喪失し、かつてのハイテク立国としての地位は他のアジア諸国等にとってかわられ日本の国内産業は空洞化する。今は裕福さに溢れ不況とはいえ千二兆円の個人貯蓄など財産的ポテンシャルは依然高いが、前述の国際競争力

喪失と慢性的な不況により資金的な基盤も次第に骨抜きとなって、日本国民は大量の愚民・浮浪者で溢れ返る。救いとなりうるのは、製造業が培ってきた技術・ノウハウの集積という底力であり、これがある限りかつての繁栄は再現できなくともある一定の安定した水準は維持できよう。日本はそうした高度な技術力を維持・増強していくべきなのに国民のレベルが沈下しているのが心配である。東大生こそは日本の救世主の最先鋒たるべきなのに、近頃はどうかろう。質が低下しており、世間からもバカにされ、ひどい扱いをされているのではないか。その他の点としては、社会の階層分化が決定的になり深刻の度合いを一層強めること。「富める者はますます富み、……」とっては月並みだが、裕福な者ほど大学での学びに力を入れることができ、ますます繁栄するが、裕福でない者は東大に入る機会にありつくのも困難で入ってから苦難の道をたどる。天下の東大がこのようでは日本が終わるのも仕方あるまい。

- 小泉改革が成功すれば、余計な税金支出(無駄使い)も減り、経済の立て直しが可能になる。失敗すれば国家としての存在も危うくなり、インフレか特政令で国の借金を帳消しにするしかなくなる可能性がある。
- どのようになるかはわかりませんが、まず景気ももっと良くなってもらいたいものです(特に実家が自営業をしているので……)。ニューヨークでのテロ事件、それにつづくアフガニスタンでの攻防、このような世界情勢の中で、唯一の被爆国である日本にしか果たせない世界平和に向けた役割というものがあると思います。また理系の僕等が科学技術の点から世の中の役に立っていかなければならないと思います。一人一人がそれぞれの役割をきちんとはたしていけば日本は少しずつでもより良い国になっていくのではないかと(なってほしい)と思います。あと地方出身ということもあり地方にもっとばんばってほしいです。
- 大きな経済成長はもう見込めない。様々な分野での階層分化が進むであろう。職業や学歴、経済状態、文化教養への関心などによって過去の上流中流下層のような階層が自然と生じ、あるいは居住地域も分れるかもしれない。その場合、治安の格差も生じる可能性がある。かつての身分制度のようにしぼりのきついものではない。すなわちどの階層に属するかは個人の自由だが、異なる階層同士はコミュニケーションに大きな障害があるだろう。情報ツールのノウハウやメディアリテラシーの有無によって、階層ごとに大きな情報格差が生じ、政治や世界への関心、参加、交信も国民の一部が実質行うことになる。メディア表現者は特定の階層に集中し、個人のホームページや小さなコミュニティー誌の発行人も限定されるだろう。女性や子供の権利や平和主義、国際貢献なども、意識の高い集団と低い集団が生じ、施策にも地域差が現れる。これらは全て現在進行中のものであり、今後階層性が明確になるにつれて、階層の接触点で生じる圧れきが、様々な

問題や事件を起こすだろう。

- 分かりません。というかまずは自分の幸せ、身近な人の幸せのために努力していかなければならないと思っています。
- 文系がしっかりしないと、他国に追い抜かれる知識の空洞化。
- 今、野球界はメジャー志向だ。トレーニング理論も、技術理論も。そのことは日本社会にもいえる。本当にアメリカナイズされている。日本独特の心身不離の世界は砂に埋もれてしまった。「心が病んでいる」？肉体も病んでいることに早く気付くがよろしい。いずれ、私をはじめとする同志が野球理論を変え、日本も変えることであろう。そして、世界に向かって日本をアピールする時がくる。エコノミックアニマルではない、豊かな文明人として。というシナリオを描いているのであります。

〔理一女子〕

- 財政破綻、経済崩壊、低所得者層の増加、スラム化、どこかと戦争し、負けて植民地化される。

〔理二男子〕

- 悪くなる。現に小泉政権は何の改革も行っていない。また、東大が、モラルのない人間を大量生産しているため、いろいろな組織のトップに、モラルの欠けた人が座ることになる。不正がはびこり、社会全体が、まじめに生きるのがばばからしくなっていく。まじめに働くのがばばからしくなった時、日本は崩壊する。大体、東大でカンニングがあたりまえになっているのに、政界で汚職があたりまえにならないわけがない。
- 経済状態は近年悪いままであるが、これに対し、政治の方が有効な政策によって経済の回復も進まず、それどころか古い体制にしばられ、悪くなる一方である。外交に関しても、常にアメリカの顔色をうかがうあまり、独自色が打ち出せず、展望についても見えてこない。したがって、旧体制のしがらみから全く自由な人々が、社会の中心となって改革を行っていかなければ、日本は他の国から相手にされなくなり、今までのように国際社会の中心としての地位を維持することは難しいであろう。
- まず身近なところから。将来おそらく日本の中枢を任うであろう文Iの人々を見ていると心配になる。ほとんど勉強しているところなど見られない。サークルやバイトが悪いこととは思わないが、そればかりにふけている人が多い。そして遊び回って大学に来ない人も多い。こういう人達に日本を任せられるのか非常に心配である。だからこれからは、もっと理系の人間が台頭してくると思う。また、文部科学省の新学習指導要領が今後の日本の未来に暗雲をたちこめさせている。ゆとり教育などといって単に小学生をダメに

している。最近の小学生を見ているとおそろしくなる。渋谷のセンター街をたむろしている若者を小さくしたような子達がふえてきている。現状の危険さを日本人一人一人が気づき、これを何とか打開しようとしないう限り日本社会はだめになるだろう。残念ながらほとんどの一般の人が自分一人が何を言っても日本は変わらないと思いがちだから。

- 社会が変わっても自分にはよく分からないと思っただけだろうと思われる。自分のことも満足にできないので社会のことまで考えがまわらないというのが正直な感想である。社会が変わることについて何も気にしなさそう。そして、こういう自分みたいな人間が増えてよくない方向に進んで行くのかもしれない。
- 失業率のさらなる増加、能力主義が浸透し、安心できる雇用環境が減少する。主に40代以上から社会への不安が多くなる。住宅の流動化が進み、新築の減少。それに伴って建築業界の縮小が起こる。さらなる実学嗜好主義の高まりが起こり、若い世代はさらにプロフェッショナルを目指す学習を始める。不況や不安の結果、人々は自らの価値を高めようとして社会に活気が生まれると思う。
- 悪くなると思う。日本人は一度厳しい状況にならないと力を発揮しない点がある。又、保守的で改革が進まない点もある。だからこの先数年は悪化の一途をたどるのではないかと考える。
- 日本は不景気だと言われている。景気を良くするためには、消費を活性化させる。すなわち税金を下げる必要があるのに、消費税を3%→5%に上がるなど、税金が上がっている。小泉内閣も構造改革をうたっているが、無駄な公共投資はいっこうに減りはしない。例えば、山形新幹線など、ほんとうに必要なのだろうか？ また、今計画されている、九州新幹線は必要なのだろうか？ 税金を上げる前に無駄な公共投資を無くさなければ、日本は良くならないと思う。
- 若い時に苦勞を余りしていない世代が世の中を担っていくので、社会は悪い方向に向かうと思う。道徳の時間、ボランティアの時間などを多く取り入れて、社会人としてのルールを身に付けさせるべきだと思う。又、日本は教養(育)に対する考えが甘くなっていると思う。経済問題で政府を責めても仕方なく(それは世の流れだから)、大事なのは次世代の育成である。しっかりとした教育と環境保護を進めない限り、世の中の存続はありえない。
- 海外旅行を経験して日本は安全で良い国であると実感した。でも、それだけではこれからの国際社会ではやっていけない。先進国として、外国に様々な援助をしてほしい。同時に日本内部でも不正な事件が多発しているので正していかなければならない。
今までのような「住みやすい日本」というのは維持できなくなっていくだろう。
- はっきりいってあまり現状は良くないと思うが、それは東京に住んでからそういう考えになった。自然が

好きな自分としては東京に住んで少しストレスが溜っているのかもしれない。でも、未来の日本についてはあまり悲観はしていなくて、きっと自分達の世代が頑張れば良くなっていくと思う。(未来の日本というか、未来の世界だけだ)

〔理二女子〕

- 現在の日本は物質的に豊かになり、不況と言われながらも人々はなまぬるい生活を送っているように感じられる。韓国や中国など、ハングリー精神をもった人々にやがては追い付き追いこされ、日本が発展途上国と呼ばれる日が来るのも、そう遠くない気がする。

〔理三男子〕

- technologyの進歩によって、利用できるcommunication tooleが増える。それに従って、磨かなければ社会に適応できなかったようなcommunication skillを身に付ける必要がうすれてくる。自分にとって都合のよいcommunityをinternet上などに見つけやすくなるからだ。そのようにして各人のcommunication patternは狭く浅くなり、特定のgroupに安住するようになり、人間関係の島宇宙化が進むと思う。日本社会のみということではなく、多分、先進国においてはそうなるだろう。また、経済がこの先大きく伸びることもないと思うから、失業率がこの先大きく減ることもないと思う。それに従って、貧富の差が拡大していく傾向になると思う。
- この十年間に膨らんだ国・地方債は間違いなく私たちの世代に影を落としている。教育、仕事において日本はこの十年余裕を求めてきたようだが、それは誤りだったのだろう。日本の良さが高い教育水準、経済的平等にあったことを思い出し、そこから築き直すにしても、中期的には経済的な後退を、僕らの時代には迎えると思っている。場合によっては、国外で暮らすことも真剣に考え、英語の教養は重視していきたい。

〔理三女子〕

- 現在、国立大学の独立行政法人化が話題となっているが、ただでさえ近年の国立大学の授業料の値上げは著しいのに、独立行政法人化によってこれ以上の急激な値上げがあれば、学業を続けたい者も続けられなくなる。未来を任う人材を積極的に育成しなければ、日本という国は減じる。独立行政法人化を行うならば、それによる支障が経済的弱者に出ないように奨学金制度を充実させるなどの十分な対策をして欲しい。

〔法学部男子〕

- 何だかんだ言って、社会構造は変わって行くと思う。政治・経済・社会・教育など、あらゆる場において、いい意味での競争が繰り広げられよう。また、一見矛盾するが、独創性・多様性も生まれてくると思う。これは俗に言う「敗者復活」とも結び付く。つまり、自

らを活かせる場が見付かる、流動性のある社会になろう。閉塞した今こそが、変革の機会ではなからうか。

- 「日本社会」というくり方自体が、多くの人の実感にあわなくなるのかもしれませんがね。
- 昨今、日本をとりまく国際情勢が急激に変化しつつあるが、このまま八方美人的に流れるまま身を委ねてはいずれ日本は国際社会から無視され、孤立する。さらに景気の後退が続けば国は減び、三流国への転落は避けられない。日本国民は自分の国が現在いかなる状況にあるかを理解し把握する義務があり、政府は国民の声を真摯に反映する機関として国策を遂行し、諸外国を尊重しつつもプレッシャーを与え、独自のカラーをアピールしていかなければならない。
- 現在、悪い悪いと言われているが、まだまだ日本の経済力は力があるといえる。現在の改革の動きは全てが正しい方向にうまくいっているとはいいたいが、本来あまり議論してこなかった内容が再度検討されている点で評価できる。経済状況・人材の流動化（新旧世代の交代）などを考える時に長期的には（大きな負の遺産があるものの）楽観的に考えているが、より個人の能力が重視される時代になるので、キャリア形成の教育が重要になる。問題はここ数年の動きで、うまく民営化や個々の企業の体質改善が進まないと社会の変化に苦しむ個人や個々の企業が増え、社会不安が増えるだろうと思われる。くりかえすが、長期的10年～20年後については楽観的に考えている。国が～をすべきだとするより、自分が良い生活をするために～したい～するという考えが大切。
- それは難しい質問。
「日本」という枠組でものごとを考えることにどれほどのイミがあるのか？ 日本社会の構成員が全て日本人であるとは限らない。日本社会を外国人と一緒に作っていくのがよい。
- 米軍の核の傘に守られた（守られてばかりいた）状況が無くなり、自己の国の安全は、自己が守るという方向に、進む可能性が高く、いわゆる「一国、平和」の状況は、（現在も無くなりつつあるが）完全に無くなると思う。
国内では、雇用の流動化と、セーフティネットの不完備から、社会不安が増大し、貧富の差がますます拡大し、犯罪の凶悪化、増化がさらに進んでいくと思われる。
望ましくない状況であるが、残念ながら、以上のように書かざるをえない。
- まず、長期の不況により、失業者あるいは非正規雇用で働く人の増加が見込まれます。それにより、安定した収入を得られない人が増加し、正規雇用で継続して雇われている人との賃金格差が拡大します。そして、今までのような総中流社会は崩壊し、階層分化が進むと思っています。
また、失業保険や老後の生活保障も、今の政府の財政状況を見るに、保障レベルが下がると考えられます。

そして、この点と先述の雇用の不安定や低所得者層の増加などにより、社会に不安が増大するとも思います。

- 経済構造の改革、環境配慮を通じた持続可能な発展の実現、人々の対政府要求の内容変化、を通じて、低成長 or 停滞国家になる。
移民労働力の大規模活用、国内外での企業活動のシームレス化により、日本人であることのアイデンティティが失われる。日本社会は対外的に開放的になる。
- 義務や責任を負わないで自由や権利を要求する人々が増えるであろう。その結果、個々人が我がままを抑制することを知らない社会になるであろう。
- よく分かりませんが、少子化が進む以上、人口は減るので成長は有りえないと思います。経済的地位は低下するので、そのカウンターとして、民族主義的傾向が強くなっていくと思います。基本的に中途半端なので、10年程度後の危機の後にはまた成長する可能性もあると思います。
- 戦後築き上げてきた日本独自の風土やシステムが破壊され、今はまた戦後すぐのような、何でも出きる状態にあると思う。
これから日本がどちらに進むべきか。どうしても領土環境や資源といった点で日本は劣るために、国際競争といった観点に立った時に不利なのは否めない。その時に、言い古された表現だが「心を豊かな社会」に向かって行ってほしい。具体的には福祉、住環境の整備などを大事にして行ってほしい。
- 「平等」観念を追求してみんなで貧しくなるか、それとも、評価を伴わない社会的分業を追求し（エリート制）、立て直していくか。おそらく前者ではないか。まあ、今のうちに破たんした後の国家を立て直していただくの気概と知識を見つけていこうとする者たちが増えなければ、厳しい将来が待っているのではないか。さらに、人材流出が進めば、中流国家以下の位置付けになるのではないだろうか。
しかし必ずしも上記のようなことが不幸なこととは思わない。心の豊さももしかしたら取り戻せる契機なのかもしれない……。
- 教育への関心を高め、よりオープンにより速く優秀な人間を集め育てることができなければ、物価水準も税金も高い日本の国際競争力が停滞するのは当然の帰結だと思います。
- 経済的な豊かさを手に入れたことによって、次に向かうべき方向を模索している段階だと思われます。失業問題、教育問題、財政問題など、様々な課題が顕在化していますが、それらの問題について本腰を入れて取り組むことが求められている、と考えます。
国内の問題を解決するために、戦前のような狂信的なナショナリズムにとらわれてしまって、他の地域の人々を巻き込みにすることは避けるべきだ、と考えています。悲観的な見方が強調されることが多いのですが、経済的に豊かになったことで、人々はこれ

からは精神的な豊かさを求めるでしょうから、日本社会はより平和な社会になっていくような気がします。

〔法学部女子〕

- 年上への敬意を持ち尊ぶことを忘れた青少年に社会が家庭が責任を感じるべきだ。日本は壊れた家庭の集合体であり、表面化していない多くの問題に注意を注ぐべきだ。
ここには書ききれない。

〔医学部男子〕

- 見通しが立たないので、これから生きていくのが楽しみです。
- 経済のことはよく分からないが、今の政治のようすをみる限りでは、良くなるとは思えない。現在の政治家の多くは金と地盤だけで成り上がったような人間が多すぎる。はっきりいって“頭が悪い”、“教養がない”、“人格上問題がある”ような者が多い。そんな人間が政治をうごかしていると思うと日本の行く末は見えている。又、そんな人間が上にいけるようなシステムになっている日本の社会もいかなものかと思う。さらにいうと、日本全体でみた場合の“教養レベル”は年々落ちてきているのではないかと思われるようなことが最近多い。日本人全体の知的水準が下がっていくことが将来、日本社会に大きな影をおとすに違いない。日本はイギリスのように没落して、経済的にも落ち目になり、外国からも見向きもされなくなるであろう。外国の多くの国は日本の経済力を目当てに近づいているようにしか思えない。日本は外交の仕方にも問題があると思う。最後に、医療サイドからみると、医療費を減らすくらいなら皇室関係者のぜいたく費を医療費に当てるべきであろう。私は左翼ではないが。
- 貧富の差が広がって二極化して行くと思う。税制も金持ち（才能がある人）に優しいものになってくと思う。
- 社会状況は決して良くないが、希望も込めてこれから良くなると信じている。
- なんだかんだで日本はいい国だ。安全が一番。

〔医学部女子〕

- どのようになるのかは、大多数の国民がどのように考えているのかマスコミの報道などだけからは判らないのではっきりとは言えないが、政治的には変化はありうと思う。首相公選制に賛成の項目を選んだが、実際に国民がどの程度良い選択ができるかは別として、そのくらいの規模の制度の変革は必要だと思う。首相公選制に対する反対意見として天皇制と競合することをあげた議員がいた。封建的階級制が廃止された現在の社会で世襲制の国家元首が良い意味で存在する為にはその家が特殊な精神性を受け継いでいなくてはならず、その構成メンバーは高い精神的レベルにある必要がある。これをそのメンバー当人達が否定している現

在、この制度を存続させる意味は無い。また、ある地位にある（又は生まれついた）人がその地位にふさわしい人物であるかどうかじっくり観察することなく、ただその地位にある（生まれついた）というだけでその人を盲目的に受け入れることを当然とする習慣は、日本人の思考能力、批判的考察の能力を低下させ、権威主義を助長させている。この意味でも、天皇制は廃止した方がよい。国家元首は総理大臣でよい。または、大統領制を導入してもよいと思う。

〔工学部男子〕

- 景気は絶対に良くならない。
テレビ（メディア）に露出する人の発言力が異様に高くなりめっちゃくちゃになる。
- 現在の状況が底を打っても、回復には至らず、一流半程度の国に落ち着くのではないか。一時期は隆盛を極めながら今やその影もない(?)スペインのような感じだろうか。
更に現在のまま近隣アジア諸国との違和感が消えないならば、非常に半端な国になるであろう。
また、技術立国にしても、陳腐化が速く、瞬時に世界中に発見が知られる世界になっている以上、新技術で食べてゆくのは困難と考える。
結局、二流からよくて一流半の国として安定し、慎ましやかに暮らしてゆくのではないか。それも悪くないと思うのだけれど。
- 先の見えない不況であると言われるが、別に家族の食事のおかずが毎日メザシというようなこともなく、誰もが普通のレベルの生活を送れているので、現状の日本の経済状況が手詰まり状態であるとは思えない。むしろ戦後から今までがたまたま好況すぎただけではないかと思うので、そう悲観する必要はないと思う。
教育では、この調子だと学校のみで本当に基礎にしか触れない人と家庭に余裕があり塾でいろいろな知識を得る人とに、子供の知的レベルが二極分化するような気がする。それがやがては知識人と非知識人を明確して区別し、階級化をもたらしていくのではないだろうか。
- フリーター人口が百万人を超えている。今後増えつつけるだろう。むしろひとつの雇用形態として確立されていくのではないか。昔のような世間的な価値観はもはやない。個人主義の時代である。それにより世間、そして国という枠を越えた人と人のつながりが生まれるのだからグローバル化にマッチしている。しかし個人主義は生きづらいものだ。自分の価値観や思想を自分の中から築き上げなくてはならないからだ。何も頼れるものがない心細さと、それでも生きていかなければならないプレッシャーは想像をこえるだろう。この状況の中で生きるには思考することが何より大事だ。考えることをなまけていては価値観も思想も生まれえない。だから将来は、人間ひとりひとりの知力が試される時代になると思う。一生フリーターとして生き

ることも認められるようになるだろう。そもそも働くことの価値が社会的に低下すると思う。文化的なこと、学ぶということに価値観の主流は移ると予想する。

- 国際競争の中で厳しい状況に置かれるようになると思う。世界最高の給料を維持するには質の高い仕事をしなければいけないのに、教育の質がどんどん下がっている。高齢化という構造と合わせ、非常に厳しいと思う。

今後は日本人相手のサービス業が日本人の仕事の中心になっていくのではないかと思う。

- 経済格差が広がり、世界一の階級社会になる。政治や経済での世襲化が進む。

優秀な人や経済力のある人がどんどん海外に流出する。

理系離れが進み、技術力が低下し、産業の国際競争力が低下する。

社会的成功よりも、余暇の充実に人生の意義を見出す人々が増え、オランダのようなワークシェアリング的な労働環境を望む声が高まる。しかし、なかなか実現しないものと思われる。

日本の伝統的な文化や思想が衰退していく。

モラルが著しく低下する。

物質的な豊さばかりが尊重され、精神が荒廃する。

- 中国や東南アジア諸国等、現在発展著しい国々と競争していけるのか疑問。東大の中でも、海外も視野に入れている人は少ない。国際的に通用する人材の育成に力を入れていかなければ、生き残っていけないと思う。
- 大きな経済成長は望めないが、安定した社会は築かれていくことと思う。
- 今の若者は、基本的に自己中心的であり、世界や国のために頑張るような人は少ないと思います。さらに、他の国の大学生と比較すると、日本の大学生には努力や根性が足りないと思います。

このように、人材の質が低下する日本は、経済的にも2流国となると思います、日本企業も、今の自動車業界のように外貨にとって代わられると思います。

そのような中、優秀な人材は外国へ行ってしまおうでしょう。個人的には、日本の将来は暗いのではないかと感じています。そうならないよう、教育改革を断行してほしいです。

- これまでのような優位性は維持できないだろうが、それでいても十分に豊かな社会であると思う。
- バブル経済の反動が現在大変な不況を招いてしまったように、現在の問題になりつつも大して改善されていない点（高齢化社会への対策、環境問題など）のしわ寄せが少しずつ大きくなっていくように思います。決して楽観できる局面ではないと思います。
- 大量生産、消費、廃棄の生活パターンから循環型社会へ移行する。それに伴いモノをつくって売り、金を稼ぐ産業は縮退し、サービス産業が増える。大量生産型の産業は減るが、より専門的な技術に支えられたモノ

づくりは発展する。

- 知的水準が下がる。
魅力的な人、才能のある人が減る。
- マスコミにながされたいような知識人がたくさんいればわるくなることはない。マスコミをどうにかしてほしい。身勝手な発言ばかり。
- 2010年ぐらいまでは、経済は衰退するがそれ以降は上向きに転じていくと思う。何だかんだと言っても日本の製造業の技術は優れているからだ。人件費が安いという点を見れば、中国等に追い上げを喰うだろうが、日本でなきゃできないことというのが必ずあるはずであり、それを見つけるのが2010年辺りだと自分は思っている。政治やその他に関してはとやかく言っても仕方がないと思う。
- 良く分からない。それだけ、不安定ということだろう。落ちるところまで落ちるのも良いのでは。
- 社会構造もアメリカのような勝組と負組のはっきりしたようなものになりつつある。自分は北欧のような充実した社会保障、直接税の大きな税制で資産の再配分がなされるほうが良いと思う。技術者、研究職者に適正な所得がないために海外への流出へとつながりかねない状況になっているのでそこをなおすべきだ。行きすぎた平等をなおして競争を取り入れようという雰囲気があるが、大した仕事のない銀行が高給取って資本流入受け、産業の根幹の技術が薄給なのは不平等ではなからうか。なれあい、もたれあいはおそらくずっと続くであろうし、競争原理も独占、寡占企業が出現するだけとなり、しばらくは不況が続くだろう。
- 無責任・自分勝手な風潮が高まりつつも、個人の創造力、柔軟性が開花する社会になると思う。古い価値観を持つ世代と、ニューエイジが二極化し、既往の企業構造は大きく変わるであろう。厳正だが適切な評価がなされるようになり、純粋に結果のみが求められる生存競争の時代がやってくると思う。

【文学部男子】

- 社会の流動化がすすみ、終身雇用、年功序列が崩れてゆくと思う。総じて言えば、アメリカ型の社会になると思う。
- 時論では、不況と関連して経済問題を巡る論議が盛んですが、もし20~30年後も現在と同じ生活水準を保てるならば、日本としては万々歳でしょう。中国・朝鮮・シンガポールetcといった国々と渡り合って、キチンと存在感を示す事ができなければ、現在の平穏な生活も次第に下向いていく恐れがあります。政治・経済に限らず、福祉・教育・医療といった側面でも、これまでやってきた仕組みのままでは、どうにも立ち行かなくなるでしょうから、向こう5~10年の動きがどうなるかですね。
- 日本は長期にわたる不況と莫大な国債・地方債を抱えており、今後しばらくは上向くことはないと考えます。むしろ、日本は大きな挫折を体験することになる

うかと思えます。

しかし日本の大いなる英知を究極的には信じて疑わない私としては、遠い将来、必ずやその挫折を乗り越え、旧来型の社会と違った新しい日本に生まれ変わると考えています。

- 現在、長期的な不況が続き失業率も増加しているが、この状況は今後もしばらくは続いていくと思う。景気を回復させるには、政府が経済の立て直し、構造改革について国民が納得できるような具体的な計画を示し、それを実践していかなければならない。その結果、国民が安心して生活できるような社会的基盤が築かれたならば、景気も回復し安定してくると考えられる。
- 小さいテロや暴動、警官襲撃が増えて夜道は歩けなくなる。外国人犯罪は増える一方で、皆自衛手段を考え始める。国として機能しなくなり財政は世界最低に。国ごとアメリカの新たな州として収容される。
もしくは世界自体が戦争で消えてなくなっている。
- 高度な高齢化社会、激競争社会。
前者は、周知のことと思われるが若い人間が1人あたり多数の老人を支えなくてはならなくなることから、負担が相当なものになる。国の借金、地方の借金ともに危機的状況にあって将来、自分たちの生活保障がなされるのか極めて不安である。
後者は、最近のデフレスパイラルに見られるようにどんどんコストが削減され、人間が整理されていっていること。中国などの経済的躍進のため、かつて日本が米に脅威を与えたような状況をはるかにこえて、世界規模の激しい競争が生じている。これまでのような中間大衆的気分がいつまでいられるのか分からない。
- 現在の経済不況は底を打ったような感もあるが、今後当面の間目立った回復が見られることはなからう。その起爆剤となる要因が、全く見当たらないからである。一般のサラリーマンには依然厳しい状況が続くだろう。
購買行動が刺激されないのは難点であるが、一方で物を捨てずにリサイクルしようとする動きは一層進展し、その方面の技術開発も進められるのではないか。
高齢化が進展する一方で福祉の引きしめが図られており、高齢者を巡る問題は益々困難になっていくであろう。
- あまり全体では変わらず、ずるずると少しずつ世界に対する経済的地位が下がるのではないのでしょうか。自分は日本史を学んでいますが、日本の歴史を見て思うのは歴史の大部分は改革ではなく延命のための修正を行っている時間で占められています。政治を行っている内部からの要請で変わるというのは稀で、それも独裁とまでもいかなくても誰かに権力が集中した時のみであり、多くは外部的要因で改革が行われます。いなければ反乱（日本では革命ってのとは違うと思います。）による政権交代ですが、結局はその反乱指導者個人の資質が大きく影響しており、何もかもが一新って程ではありません。

今の日本の問題点は官僚制と、国会議員と在地社会の癒着だと思えますが、それを直すきっかけがありそうもない、というか直すべき立場の人が、官僚と議員なので革命ってのが起こらないと状況は良くならないだろうなあと思えます。起こりそうもありませんが。

- 不景気ということが言われて数年が経ちますが、もう経済は下げ止まった感が強いと思います。そのため、今後2、3年で景気は回復に向かうと思います。
社会全体としては、残念ながら凶悪犯罪がやや増加する傾向にあり、その低年齢化とともに、米国社会にやや類似した状況になっていくと思います。その対策としては、家庭、教育機関、そして地域社会の連携が重要になってくると思います。そのような点で、都心部と農村部などにおいて二極化が進んでくるのではないのでしょうか。
何かと暗いニュースの多い現代ですが、人間はそんなに悪い生き物ではないと信じたいです。
- 倫理観のない政治家を選ぶ国民には何らかの制限が必要だろう。責任取る必要があるはずだから。官僚にだめ出しできる国民はあまりいないはず。発言が無責任。他人任せすぎ。
文部科学省の改正は知識レベルのみならず、思考レベルも低下するだろう。やっぱり、知識なくして思考なしだと思ふ。あと、外務省のみならず、他省庁でも、何らかの大臣による破壊活動により、機能マヒに陥る。政治家という立法者が行政に対して介入しすぎているから、行政での利権を減少させることで、国会内での派閥・党が解体される。そして、明治時代へ逆もどり。なんてことになりかねない。誰もかれも、自分のためにしか働こうとしない風潮が高度経済成長で増長されすぎている。このことが今だに残っているのは、30～60代の大人が意識改革する必要があるはず。
代案なき反論は聞くに値しない。ま、私のこの意見も代案はないが。

〔文学部女子〕

- これから確実に変化していくと思う。製造業がかけりを見せている今、貿易やサービス・観光といった産業に重きがおかれるようになるが、ただでさえ島国で閉鎖的な日本という国において成功するかどうか疑問である。治安も悪化するだろう。
ある程度の豊かさを手にしてしまったので、子供たちに夢がないのが本当にかわいそうだと思う。夢や希望を見つけられるような社会、宇宙、バイオ、環境など、まずは何でもよいから子供たちに将来を与えられる社会をつくりたい。
- 具体的に、というによくわからないし、うまく言えないけれど、あまり良い方向には向かわないように思う。社会が変化しているのだと言われてしまうかもしれないが、(これまでの)常識や倫理が軽んじられていたり、教育改革であやぶまれている学力低下も心配だ。一国の状態？は、やはりそれを構成・支える人々

の質に抛るところが大きいと思う。

- 政治や経済に関しては細かいことは言えないが、社会的なことでは色々問題が増えてきていると思う。技術の発達によって人間の倫理が問われるようになったが、それに対してあまり対策がなされていない。教育においても明らかに時代に合わせた変革が必要なのに、むしろ指導要領など逆向きの改正をしている。国際化へも今一歩踏み出せていない。現在の日本は今までの経済力と技術力によって安定・信頼を保っている。しかし、これからの前進力には欠ける。それはどの先進国にも共通するが、危機感があまりないのは日本だけではないかと思ってしまう。このままだと他のアジア諸国に追いつけ追いこせで置いていかれるだろう。もう少し視野を広く持って物事を見る必要がある。
- 首相、与党の独裁にも似た政治で、弱者がどんどん切り捨てられていくと思う。社会的に弱い立場の人には生きにくい世の中になると思う。富める者はますます富み、貧しい者はどんどん貧しくなるという今の世界の縮図のようなものができあがってしまうのではないか。
- 勢いや成長性に欠ける。一部の企業のみ革新力があるが、全体的に経済活動が行き詰まり、それに対する対応力があまりに遅いので、アジア全体の中で位置付けを探らなければいけないのではないだろうか。教育と福祉はハコばかり作ろうとして、中身が充実していないと思う。全体として人を育てるといふより、追い詰める方に向かっていくのではないだろうか。

〔理学部男子〕

- 高度経済成長の終点に辿り着いた結果、この豊かさの中に埋もれて、目標を失い、社会全体が浮き足だっているように思える。海外で事件が起こると、何も考えずして、すぐ法案を可決させてしまう (!!) のに、肝心の不況対策となると、全然対応できない政治。簡単に人に危害を加えてしまうような犯罪の増加。共同体の崩壊、情報化、不況の波とともに孤独感が増大していく社会。挙げだしたらきりが無いが、こういったものが次世代に受け継がれていく限り、将来に明るい展望は期待できないだろう。
- 我国には資源といえるものは人間だけであり、モノは持っていない。従って、いかに繁栄を夢想しようとも、長期的に考えて見通しはない。技術なるものは追いつくことは容易だが、つきはなすことは不可能に近い。さらに、人間の質が落ちてきている現在、社会は悪化する一方であろう。実際、すでにその兆候はみえている。
資源なく、食料なく、基軸通貨ももたず、軍事力ももたず、砂上樓閣のマナーのうえにあぐらをかいている社会、人間を創ることもできなくなった今、社会に未来はないであろう。
- なんだかんだ言っただけで、日本はまだまだ捨てたものではないと思う。今までも、そうであったように、決して

一番にはなれないもののそれなりの地位を確保していくだろう。しかし、それは、何もしなくてもうまくいくという訳ではなく、誰かが行動を起こしていかなければならない。理系の自分としては、政治的に貢献していくことは、あまりないかもしれないが、総理大臣になろうとしている大学の友人などを見ると、とても頼もしい限りである。

- 社会の体質としては、西洋的なドライな契約社会へ移り変わるが、男性の精神年齢が低いなどの傾向は続き、根本はなかなか変わらない。経済力ばかりにものを言わせ、文化・芸術、後進国と言われる状況はさらに進む。食い止められない国家財政の破綻と日本経済の停滞に、福祉、科学・芸術振興に手が回らず先見の明のある優秀な才能はどんどん流出する。
- 決して明るくはない。
日本は様々な問題をかかえていると思うが、僕が特に感じるのは、生活に根づいたCommunityの消失がより進んでいるということである。
これは何らかの方法によって一朝一夕に解決することのできるようなものでないことは明らかであるが、放置することによってさらに2次的、3次的問題を生む非常に深刻なものである。

〔農学部男子〕

- 経済的には、あまり明るくなることはないように感ずる。これから先、景気は一時的に少し良くなることはあっても全体的に悪くなることは必至であろうと思われる。社会的にもモラルの低下は著しく、見通しは明るくないだろう。貧富の差が広がり、国民みなの中流階級のような社会は変わっていくと思われる。
- 世界全体の資源の量(石油・石炭etc.)が減る一方であると思うので、現在の日本の様に、石油を主なエネルギー源とする工業国は減ってしまうと思う。経済的に余裕がある内に、土地を改良し、食糧自給率を100%にしておかないと、飢餓が発生する様な気がします。
- 国際化社会と言われ、外交的に世界と対話しているかのように見えますが、国家は自国の利益(国民の生活保障)を第一に考えるべきだと思う。食糧自給率(特に穀物)は、今後の来たるべき食糧難の時代を思うと不安で仕方ありません。国内および国際犯罪に対してもそうです。
国民の生活を守るべき立場にある人達には、国民の利益を第一に考えてもらわないと困ります。それが仕事なんですから。税金にしても、増収を見込みやすい弱者からの搾取などのもつての他です。
- 停滞感はあるが、暗い社会にはならないと思う。社会が成長している時は楽しいが、成長のスピードが落ちれば、成長していても停滞感を感じるものだろう。しかし、マスコミが言うほど、日本の若者はくさっていない。だから暗い社会にはならないだろう。ただ日本社会は外にもっと開いていくだろう。少子化の影響

だけでなく、アジアの中の日本を意識すれば、自然とそうなる。

- このまま世界に対して何の主張や立場を強く表明できないままでは、国際社会の信用を失い、我々日本人は、みじめになっていくと思う。
- 大方の見方通り、どん底に陥った後、急速に回復し、再び景気が良くなると見ている。
どん底に陥った時に、真の改革が出来ればいいと思う。
- 現在の経済政策では、日本国内において貧富の差が拡大するのは明らかである。現に失業率の悪化はひどいものがあると思う。結局は、貧しい人々を切り捨てているとしか思えない。医療制度の変更も、ひどい。自己負担をふやすのはよくいうように、病気が悪化してからでないで診断に訪れない人々が増えてしまう。どう考えても、分かることだ。せめて、世界に対して積極的に意見を求めるようにしてほしいものだ。また、食料自給率が下がっているとなげきつつも、今だに減反をしているのは何事だ!!もう少し考えて、政治家のみなさんに行動してほしいものです。

〔農学部女子〕

- 不況によるリストラやテロなど悪いニュースが相次ぐ現代世界で、日本では人を押しつけて生き残ろうという精神がいつの時代よりも強くみられるような気がします。それはいい意味で使われれば、日本の発展に寄与するものですが、それと引きかえに大事なものを見失なうことのないようにしたいと私は思います。
- これまで日本は何かとアメリカのまねをしようと、努力してきたように思われますが、最近起きたテロ事件に対する行動からも分かるように、アメリカと日本では当然のことながら、考え方の違いがあります。またアメリカのしている事が全て正しいわけではありません。戦争反対を唱える力などは唯一の被爆国である日本の特権だと思います。このような日本の力を用いて、どこかのまねではなく、1つの国として成長していくことを目指すべきです。そのためには色々試す勇氣が必要であり、これから社会に出ていく私達がいなければならないことだと思います。日本から離れて海外にばかり行くより、日本という国の確立を目標にしていけば、自分達の望む国になるはずです。
- このままでは、良い方向には向かって行かないのでは、と思う。もっと国民一人一人が自分の考えをしっかり持つことが大切だと思う。

〔経済学部男子〕

- 日本社会は完全なデフレスパイラルにおちいっていると思う。既存の大企業は過剰な投資や社内構造の改正を解決せねばならないため、数年は昔のような競争力は取り戻せそうにないだろう。新しいアイデアを持った企業はこうした状況でも高い収益率をあげるかもしれないが、社会全体としては80年代のような繁栄

の時代は十年以上は来ないと思っている。

- 世間では暗い話題や暗い見通しばかりなのですが、個人的には良い方向へ向かっていくと思います。少子高齢化の進展、高学歴化によりますます一人一人の“個”が尊重され、“自分”の意志を持って行動する人が増えてくると思います。ですから、マスコミなどで安易に流されてしまうことはなく、“自分らしく”自分たちの生き方を追求する人が多くなっていくと思われます。
結果的には成長率や人口など経済規模が減少したとしても、『心の豊かさ』は大きくなっているのではないかと思います。
この見通しには、私の希望も入っておりますが……。でも実現できたら……とと思っています。
- 当アンケートで「日本の将来の見通しはどうか」と思いますか?」(70)という問いがあったが、悩みに悩んで結局「どちらとも言えない」を選択した。結局のところ、情報が巷に溢れ返る中で何が「良い」社会で何が「悪い」社会かという価値判断が多様化しつつあり、自分の主観的な価値判断が社会全体としてみたときのそれとどの程度符合しているのか確信が持てないことによるのだと思う。私は将来研究職を志望しているが、何をもって「良い」社会とし、何をもって「悪い」社会とするのかというより本質的な議論から目をそむけることなく、専門分野の研究を行なっていきたい。したがって、一人でも多くの人にとって「良い」社会が訪れることを切に願うが、その実現可能性を判断することは現時点の私には難しい。
- 現在のデフレが改善されるなどして、経済が不況から抜け出したとしても、人口の減少などで将来的には経済活動が縮小し、もはや「経済大国」とは呼べない状態になると思う。
- 日本社会の展望についてコメントできるような大それた立場にはいませんので、コメントは控えさせていただきます。ただ、日本と世界の発展を祈りつつ、自分は自分の役割をこなしていきたいと思っています。
- 制度が変わらなければ人材が流出して沈没する。
愛国心がないわけではないが、少なくとも自分は外国に移住することも考えている。自分自身の時間や能力を資産だと考えたときに、日本は必ずしもよい投資先とは思えない。企業の世界では日本企業が育て上げた人材を外資系の会社がヘッドハントしていつている。同じことが日本で起こり、日本国内は空洞化し、世界の中での地位も落ちていく。
しかし、全ての分野で日本が衰えるわけではないだろう。一部の自動車メーカーや精密機器(SONY、CANON等)は、既にグローバルな企業になっており世界でも重要な位置を占める。逆に、流通・金融等の中心は韓国・中国(台湾)シンガポール等の国々に移っていく。通信・エネルギー等は外資系企業の参入をおこすが、国内企業がある程度のシェアを占める。ただ、世界のスタンダードにはなり得ない。

今の日本は人の住んでいない廃ビルと同じである。政治の力か外圧かはわからないがあと10年程度で倒れる状況にある。その後、何か新しいものを建てられるかどうかは、どのような人材を育てるか、そしてそれを国内にとどめておけるかにかかっているのではないか。

- 階級化していくと思う。年齢や学歴ではなく、「実力」によって区別された階級社会になる気がする。

豊かな人は二十代で年収数千万円を手にし、実力のない人は一生年収5、6百万ですごさなければならないような社会が来る。年功序列や終身雇用の廃止は実力のある人にだけチャンスをもたらし、実力のない人は底辺にいることを余儀なくするだろう。

- 不平等の拡大、財政悪化、低成長、東京一極集中の加速、人々の孤立化、といったマイナスの要素が考えられる。ある程度は競争原理を促しつつも、すべての人が安心して暮らせる人間中心の、あるいは自然の中における人間中心の社会をつくり出すことでこれらは軽減できる。その結果が楽観的シナリオになるかどうかは我々の世代にかかっている。

- 他人にちょっとした親切、思いやり、義理・人情をかけてやる余裕すら失っている人が少しずつ増えていると思う。

他人を思いやらないということは実は自分の首をしめていると思う。平和ボケした日本人、争いを好まない日本人、おひとよしの日本人、タメマエとホンネを使い分ける日本人、思っていることをはっきり言えない日本人が減ってくると、いよいよ日本もせせこましくて住みにくい社会になっていくと思う。

- かつての英国のように、経済大国の地位からの転落を余儀なくされると思う。そして英国に比べてなお深刻なのは、言語をはじめとして日本のあらゆる要素が世界に対して閉ざされていること。「知らない」ということは恐ろしい。日本の将来について本当に危機感を持って、実際に行動をおこしている人があまりにも少ない。

- 非常に困難な状況がおとずれると思う。しかしそのことがぬるま湯につかった若い世代を目覚めさせてくれるだろう。このままつぶれてゆく日本ではないだろう。

長く苦しい状況が続いても、必ず問題を提起し、解決を手探りし、努力し、むくわれると信じる。

〔経済学部女子〕

- 経済悪化、失業率増加

ゆとり教育の弊害で子供の基礎学力低下生活レベルが下がる。

日本社会は先行き暗いが、一度悪化した方がまたはいあがるきっかけとなって良いかもしれない。

〔教養学部男子〕

- 今の日本は経済システムとしても社会全体の幸福を

得る場としても崖っぷちの状態。ごく近い将来にこの2つのうちどちらかが（少なくともマスコミのプロパガンダのレベルで）崩壊する。一旦崩壊したのち、真に社会の仕組みを知る者たちが日本を再建していく。

- 上記のような社会的責任感の薄い“エリート”東大生を見るにつれ、また最近の政治の低迷、また国際的な競争力を見据えた国家戦略の欠如を考えると、この国の未来は厳しいのではないかと思わざるを得ない。いつまでも「日本のトップだ、俺たちは」的な発想で、そこから努力しない東大生は必要ないと思うし、第一、その日本自体が国際的に沈んでしまったら意味がないであろう。

〔教養学部女子〕

- バブル期に見過ごされてきたものが、とり戻される傾向が強まると思う（自然環境や日本の風土・文化を重んじる姿勢、伝統技術など）。

家族形態・結婚形態が変わっていく。

個人が集団（学校・会社）に頼ってばかりはいられない世の中になると思う。

〔教育学部男子〕

- 総人口が減る以上、数値上の拡大はあまり見込めないでしょう。しかし一方で、国家そのものを“ブランド化”することで収益を上げることは十分可能です。具体的に言うと、技術がサービスに関するノウハウをベースに、イメージ的要素（キャラクターやデザイン）を付与し、高価値の商品を創出するといった具合です。要は“日本”“Made in Japan”という言葉に“あこがれ”を持たせるということです。そのためには（東大の場合）日本人学生の定員を半分にして学生のレベルを高め、人的余裕をもってアジアの若いエリート（非英語圏リーダー）に大学を開放する戦略等が必要になってくるでしょう。

- 現在の内閣のもとでの改革が「そのまま」進めば日本は世界から孤立し、経済状況も回復に向かわないだろう。

真に国民1人1人が大切にされる社会を、1人1人が自覚してつくっていくことが必要であろう。

大学も1部企業のためではなく国民1人1人に開かれたものにしていく必要がある。（図書館の開放など）それを考えると現在の独立法人化は好ましいとはいえない。

〔教育学部女子〕

- 学生の知的レベルが自分も含めて低下していると感じる。今の学生が社会を担う段になった時、日本社会はどうなるのだろうと不安だ。今、学生達が、ハングリーに、学んでいる他のアジアの国々に、置いていかれてしまうのではないだろうか。

〔薬学部男子〕

- いい方向に進んでいくとは思えないが、世界の中で第二グループくらいの国ではいられると思う。経済次第で、他の部分も決まってくるのでは。
- 社会全体のSafety netが脆弱なものになり、自己責任が重要になってくると思う。

Safety netが脆弱なため、社会に対する帰属意識は薄くなる。

企業、国に代わって社会をまとめる組織はあらわれるのか？ モラルは大丈夫か？

混沌としたものになるのは確かだが、具体像はつかめない。



五月祭 農学部2類4年による利き酒

資料 2

第51回 (2001年) 学生生活実態調査票

I. 基本的事項について

1. 性別	1. 男 78.7%	2. 女 21.3%	
◎科 類 (1・2年生の方は右の1から6までの該当する番号を記入してください。)	1. 文I 8.5%	4. 理I 17.0%	
	2. 文II 5.2	5. 理II 9.4	
	3. 文III 8.3	6. 理III 1.3	
2. ◎学 部 (3年生以上の方は右の11から21までの該当する番号を記入してください。)	11. 法 9.8%	15. 教養(文系) 1.2%	19. 農 4.5%
	12. 経済 5.2	16. 教養(理系) 1.1	20. 薬 1.8
	13. 文 5.2	17. 理 4.5	21. 医 3.6
	14. 教育 1.0	18. 工 12.6	
3. 現役・浪人等	1. 現役 65.9%	3. 2浪以上 3.3%	5. その他() 1.4%
	2. 1浪 29.1	4. 学士入学 0.3	
4. 現在の学年	1. 1年 23.7%	3. 3年 23.4%	5. 5年(医医・農獣) 1.1%
	2. 2年 25.9	4. 4年 25.6	6. 6年(医医・農獣) 0.4
5. 入学年度	「西暦」で記入してください。		
6. ◎進学年度(後期課程の方のみ)	「西暦」で記入してください。		

II. 家庭の状況について

7. 家庭の所在地はどこですか。	A. 地 区			
	1. 東京都 22.9%	5. 中 部 12.5%	9. 九州・沖縄 9.9%	
	2. 関 東 32.8	6. 近 畿 9.3	0. その他 0.2	
	3. 北海道 1.1	7. 中 国 3.7	無回答 0.1	
	4. 東 北 4.2	8. 四 国 3.2		
都市規模が不明の場合は具体的に都市名を記入してください。	B. 都市規模			
	1. 大都市=人口100万人以上 35.0%	3. 小都市=人口10万人未満 12.2%		
	2. 中都市=人口10万人以上 43.1	4. 郡 部 8.9		
		無回答 0.7		
8. 主たる家計支持者はだれですか。	1. 父 91.5%	5. 祖父母 0.5%		
	2. 母 4.4	6. 配偶者 0.0		
	3. 本人 0.3	7. だれと一口にはいけない 2.4		
	4. 兄弟姉妹 0.2	8. その他 () 0.5		
		無回答 0.1		

9. 主たる家計支持者の職業はどれにあたりますか。

1. 専門的、技術的職業	〔科学研究者、技術者、医師、薬剤師、裁判官、検察官、弁護士、公認会計士、税理士、芸術家、宗教家、著述家、記者、俳優、職業スポーツ家、プログラマーなどの方〕	17.4%
2. 教育的職業	〔大学(研究所)、短大、高専の教授・助教授などの方、小・中・高校の教員(校長・教頭を含む。)、その他の教員(私塾等)〕	12.8
3. 管理的職業	〔会社役員、課長以上の会社員、課長以上の公務員などの方〕	43.0
4. 事務	〔一般事務(3を除く)などの方〕	8.3
5. 販売	〔小売店主、卸売店主、飲食店主、行商人、保険代理人、販売店員などの方〕	4.5
6. 農・林・漁業		0.7
7. 生産工程・採掘作業	〔金属工業、機械工業、繊維工業などの工程従事者の方、洋服仕立職、大工、印刷工、菓子製造工などの方、建設作業員、倉庫作業員、運搬作業員、配達作業員などの方、採掘作業員などの方〕	4.2
8. 運輸・通信・保安・サービス	〔鉄道・自動車の運転手、車掌、船舶乗組員、無線通信士、電話交換手などの方、自衛官、警察官、消防士、守衛などの方、理容師、美容師、料理人、クリーニング職、給仕、下宿・アパート等の管理人、清掃員などの方〕	5.4
9. 無職	〔不動産収入・金利・年金生活者などを含む。〕	2.7
0. その他(無回答)		0.6 0.3

10. 主たる家計支持者の勤務先(設問9の職業分類)の規模はどれにあたりますか。(無職の場合は「0」と記入してください。)

A. 職業が「1及び3～8」の方は次の中から選んでください。		
1.	従業員が1,000人以上の企業及び官公庁	39.8%
2.	〃 100人以上1,000人未満の企業	16.5
3.	〃 10人以上100人未満の企業	12.5
4.	〃 10人未満の企業	13.0
B. 職業が「2. 教育的職業」の方は次の中から選んでください。		
5.	大学(研究所)、短大、高専の教授・助教授	5.3
6.	小・中・高校の校長・教頭	2.9
7.	上記5、6以外の教員	4.4
	無職	2.4
	無回答	3.3

11. 主たる家計支持者の雇用形態は大きく分けてどれにあたりますか。(無職の場合は「0」と記入してください。)

1.	自分1人(だれにも雇用されていない、まただれも雇用していない。)	5.1%
2.	民間企業に勤務(民間企業・団体の職員等)	56.8
3.	官公庁に勤務(国・自治体、公共企業体の職員等)	21.0
4.	経営者・役員又は人を雇用している	13.1
	無職	2.5
	無回答	1.5

12. 主たる家計支持者の
年収（税込み）はど
れくらいですか。
（給与生活者の場合は
ボーナスも含めてく
ださい。）

年収を単位「十万円」で記入してください。……………100.2十万円
（十万円未満は、四捨五入して記入）

Ⅲ. 生活費の状況について

13. 右の各欄に金額を記
入してください。
（最近3ヶ月の実績か
ら、平均1ヶ月の収
支額を記入してくだ
さい。）

支出額を単位「千円」で記入してください。

①食費
自宅生は外食代（費）
を記入する。
②学費
勉学に必要な書籍代、
実習材料費、文房具
代、実習旅費等（授
業料等の学校納付金
を除く。）
③教養・娯楽費
教養・娯楽費のため
の書籍代、サークル
の支出、勉学以外の
旅行の費用、交友費、
スポーツ代、映画・
演劇・音楽会の入場
料等。
④雑費
理・美容代、タバコ
代、化粧品代、ガソ
リン代、電話代、医
療費、水・光熱費等。

衣 料 費……………10.7千円
食 費……………26.9
住 居 費……………67.2
勉 学 費……………10.1
教養・娯楽費……………15.1
通 学 費……………7.6
雑 費……………12.9
支 出 額 合 計……………114.8

収入額を単位「千円」で記入してください。

①家庭からの仕送り・小
遣い
親・兄弟・親類等か
らの仕送り、又は小
遣い等。

家庭からの仕送り・小遣い……………84.8千円
奨 学 金……………52.2
アルバイト・雑収入……………45.3
収 入 額 合 計……………121.7

IV. 通学・住居について

14. 現在どこに住んでいますか。	1. 足立・葛飾・荒川	1.6%	11. 川崎市	2.5%		
	2. 江戸川・江東・墨田	2.1	12. 神奈川県	3.7		
	3. 台東・文京・豊島	16.2	(「10」・「11」を除く)			
	4. 千代田・中央・港	1.9	13. さいたま・川口・蕨の各市・	2.3		
	5. 板橋・練馬・北	9.1	14. 埼玉県(「13」を除く)	5.1		
	6. 中野・杉並・新宿	10.8	15. 千葉・船橋・市川・習志の各市	3.0		
	7. 世田谷・渋谷・目黒	14.3	16. 千葉県(「15」を除く)	3.3		
	8. 品川・大田	2.9	17. その他の県	0.4		
	9. 東京都(23区外)	14.6	無回答	0.2		
	10. 横浜市	5.7				
15. 居住形態はどれにあたりますか。	1. 自宅	45.6%	2. 自宅外	54.1%	無回答	0.2%
16. 現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。 ◎(自宅外の方のみ)	1. 分譲マンション				2.0%	
	2. 賃貸マンション・アパート(バスつき)				72.7	
	3. アパート(バスなし)				6.5	
	4. 下宿				3.1	
	5. 東大学寮・三鷹国際学生宿舎				5.3	
	6. その他の寮				9.2	
	7. その他()				1.2	
17. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (主たるものを移動時間の多い順に2つまで選び、番号を記入してください。)	(「1位のみ」)					
	1. 電車	78.3%	5. 自転車		16.9%	
	2. バス	0.2	6. 徒歩のみ		3.8	
	3. 自家用車	0.0	7. その他		0.0	
	4. バイク	0.5	無回答		0.2	
18. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 ◎(分単位で記入してください。)	所要時間.....				48.4分	

V. 奨学金について

19. 日本育英会又は他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	1. 受けている	22.9%	3. 受けたくない	5.0%
	2. 受けたいが受けられなかった	17.7	4. 受ける必要がない	54.0
			無回答	0.3
◎設問19で「2」または「3」と答えた方のみ 20. その理由はどれにあたりますか。	1. 事務手続きが煩雑だから			14.0%
	2. 掲示等に気がつかなかった			10.7
	3. 書類を期限までに整えられなかった			5.1
	4. 出願はしたが採用されなかった			24.8
	5. 貸与なので申請しなかった			21.5
	6. 資格がない			22.0
	7. その他()			1.9

奨学金を受けている方のみ	21. どの奨学金を受けていますか (該当する番号を記入してください。)	1. 日本育英会第一種奨学金	53.2%
		2. 日本育英会第二種奨学金・きぼう21プラン奨学金	34.3
		3. 財団・地方公共団体等の奨学金 無回答	28.2 0.9
	22. 奨学金はどんな面で役に立っていますか (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 家庭の経済的負担が軽減される	81.0%
		2. 多少ともゆとりのある生活ができる	26.9
		3. アルバイトが軽減される	25.0
		4. 奨学金があるので生活が成り立っている	28.7
		5. 定期的な収入があるので助かる	16.7
		6. その他 () 無回答	2.3 0.5
	23. 奨学金の主たる支出目的(用途)はどれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費(衣・食・住居費)	76.9%
		2. 授業料	32.4
		3. 勉学費	47.7
		4. 教養・娯楽費	43.1
		5. 旅行(帰省旅行も含む)	8.3
		6. 技術・資格等取得の費用	7.9
		7. 耐久消費財購入費用	7.4
		8. 貯金	18.1
		9. その他 () 無回答	0.0 0.5

Ⅵ. アルバイトについて

24. 過去一年間にアルバイトをしましたか。	1. 継続的(1ヶ月以上)アルバイトをした	53.6%
	2. 臨時(1ヶ月未満)アルバイトをした	10.2
	3. 継続的+臨時アルバイトをした	15.4
	4. しなかった(「4」を選んだ方は設問31に進んで下さい。) 無回答	20.5 0.3
25. そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。 (主たるものを2つまで選び番号を記入してください。)	1. 家庭教師	48.4%
	2. 塾講師	32.8
	3. 試験監督・採点	9.7
	4. 特殊技術(翻訳・通訳・プログラミング等)を要すること	5.4
	5. 一般事務	10.1
	6. 販売・セールス・サービス業	25.6
	7. 肉体労働	13.1
	8. 宿直・警備	1.6
	9. その他 無回答	5.1 0.0
26. アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	A. 時間(往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。)	11.1時間
	B. 収入額(1ヶ月当たりの平均額を単位「千円」で記入してください。)	47.6千円

アルバイトをした方の	27. アルバイトの紹介者はだれでしたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学の担当事務	13.1%
		2. 大学の研究室	2.5
		3. 内外学生センター	6.2
		4. 新聞広告・アルバイト広告誌	32.3
		5. インターネット	11.1
		6. 友人・知人等	41.8
		7. アルバイト先と直接	25.9
		8. スーパー・銀行等の伝言板	2.1
		9. その他 ()	6.2
		無回答	0.3
の	28. アルバイトをした理由はどれにありましたか。	1. 家庭の経済的負担を軽減するため	28.2%
		2. 学生生活を楽しむため	38.9
		3. 社会経験のため	26.4
		4. その他	6.2
		無回答	0.4
み	29. アルバイトの収入は何に使っていましたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費 (衣・食・住居費)	52.9%
		2. 授業料	2.1
		3. 勉学費	12.5
		4. 教養・娯楽費	71.0
		5. 旅行 (帰省旅行も含む)	20.1
		6. 技術・資格等取得の費用	2.1
		7. 耐久消費財購入費用	4.0
		8. 貯金	21.2
		9. その他 ()	0.9
	◎設問24で「1」または「3」と答えた方のみ		
—	30. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんか(でした)か。	1. かなり妨げになる (なった)	8.6%
		2. 多少妨げになる (なった)	42.6
		3. 妨げにならない (なかった)	45.2
		無回答	3.5
31. 現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	1. かなり楽な方	21.2%	
	2. やや楽な方	25.5	
	3. 普通	36.4	
	4. やや苦しい方	13.0	
	5. 大変苦しい方	2.9	
	6. 分からない	0.6	
	無回答	0.4	

Ⅶ. 入学までの学習について

32. あなたの出身高校は、 どれに該当しますか。	1. 国立（大学附属）	8.7%
	2. 公立	37.9
	3. 中高一貫型の私立	49.2
	4. その他の私立	3.4
	5. 大学入学資格検定	0.0
	6. その他（ 無回答	0.7 0.1
33. 高校1～2年のとき の、学校外での学習 時間はどれくらいで したか。 (夏休み等の休暇中は 除く)	A. 塾（家庭教師などを含む）での学習（1日当たり）	
	1. 塾に行っていない	61.4%
	2. 1時間未満	13.6
	3. 1時間以上2時間未満	13.1
	4. 2時間以上3時間未満	8.5
	5. 3時間以上 無回答	2.9 0.6
	B. 家庭での個人学習（1日当たり）	
	1. 1時間未満	37.3%
	2. 1時間以上2時間未満	32.5
	3. 2時間以上3時間未満	17.9
4. 3時間以上 無回答	11.7 0.6	
34. 高校1～2年のとき、 部活動や生徒会活動 をやっていましたか。 該当するもの（複数 あるときは、最も主 たるもの）を1つ選 んでください。	1. 文化部……活動の内容 []	27.5%
	2. 運動部……活動の内容 []	44.2
	3. 生徒会活動	4.2
	4. 部活動や生徒会活動は行っていない	21.8
	5. その他（ 無回答	1.4 1.0
35. 高校3年のときの、 学校外での学習時間 はどれくらいでした か。 (夏休み等の休暇中は 除く)。	A. 塾（家庭教師などを含む）での学習（1日当たり）	
	1. 塾に行っていない	45.9%
	2. 1時間未満	11.3
	3. 1時間以上2時間未満	16.0
	4. 2時間以上3時間未満	14.8
	5. 3時間以上4時間未満	8.2
	6. 4時間以上 無回答	3.2 0.7
	B. 家庭での個人学習（1日当たり）	
	1. 1時間未満	5.8%
	2. 1時間以上2時間未満	19.1
	3. 2時間以上3時間未満	31.5
	4. 3時間以上4時間未満	22.5
	5. 4時間以上 無回答	20.3 0.7

36. あなたにとって、学習意欲を高めるのに影響が大きかったと思う人を、いくつでも挙げてください。 (該当するすべての項目に「1」を記入してください。)	A. 小学校時代	1. 父親				32.4%
		2. 母親				54.1
		3. 学校の教師				28.9
		4. 塾の教師や家庭教師				36.0
		5. 兄や姉				13.6
		6. 学級(あるいは学校)全体				13.7
		7. 親しい友人				27.2
		8. その他()				4.7
			無回答			10.4
	B. 中学・高校時代	1. 父親				25.6%
		2. 母親				33.7
		3. 学校の教師				54.0
		4. 塾の教師や家庭教師				35.1
		5. 兄や姉				10.6
		6. 学級(あるいは学校)全体				50.0
		7. 親しい友人				59.6
8. その他()					5.6	
		無回答			4.4	
37. 幼少期から本学に入学するまでの経験に照らして、高い学力を身につけるのにあなたにあてはまる要因について伺います。 (それぞれの項目について、該当する番号を選び、記入してください。)		よくあ	ややあ	あまり	全くあ	無回答
		てはま	てはま	あては	てはま	
		る	る	まらな	らない	
				い		
		4	3	2	1	
	1. 学校の授業で教師の教え方がよかった	20.6%	38.3%	27.7%	13.2%	0.2%
	2. 学校全体に、勉強をする雰囲気があった	30.5	37.3	19.9	12.2	0.2
	3. 塾、予備校、家庭教師などでレベルの高い指導を受けた	31.6	27.2	14.8	26.1	0.3
	4. わからないことを教えあえる友人がいた	20.7	30.5	28.7	20.0	0.2
	5. 家庭に、教養的なことや学習を奨励する雰囲気があった	28.9	32.0	22.2	16.8	0.2
6. 家庭で、親や兄・姉などに勉強を教えてもらえた	8.8	16.8	20.4	53.7	0.3	
7. 参考書、問題集などの学習教材が、家庭で充実していた	18.9	25.7	26.9	28.2	0.3	
8. 読書、習い事、趣味などで、興味や知識を広げておいた	25.1	31.8	25.9	16.9	0.3	
9. その他()						

VIII. 入学・進学・学業について

38. 東大に入学することを、どの程度希望していましたか。	1. どうしても入りたかった	44.3%	
	2. だめなら他大学でもよいと思った	34.6	
	3. なんとなく	20.6	
	無回答	0.5	
39. 東大入学の動機は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、重視した順に番号を記入してください。)	(「1位のみ」)		
	1. 社会的評価が高いから	19.9%	8. 親・兄弟・姉妹の勧めで
	2. スタッフ・設備が優れているから	15.4	9. 高校の先生や友人などの勧めで
	3. 将来の就職を考えて	6.8	10. その他 ()
	4. 難関を突破したかったから	8.1	無回答
	5. 私大に比べて授業料が安いから	10.4	0.5
	6. 東大の伝統や雰囲気に憧れて	7.1	
	7. 入学後に学部の選択が可能だから	15.9	
40. 入学するときに進学する学部、あるいは学科等を決めていましたか。	1. 学科等まで決めていた	29.4%	
	2. 学部のみを決めていた	33.5	
	3. 学部、学科等は決めていなかった	36.7	
	無回答	0.3	
41. 学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか(しますか)。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 最先端の学問が学べること	13.4%	
	2. 自分が惹きつけられた学問分野であること	79.1	
	3. その学部・学科等の教官に魅力を感じることに	12.3	
	4. 社会のためになる分野であること	22.6	
	5. 就職の際に有利であること	13.9	
	6. 将来なりたい職業に就くのに必須であること	28.1	
	7. 選択に際し特に考えなかった (ない)	8.1	
	無回答	0.3	
◎後期課程及び進学内定者に伺います	1. 希望通り決定 (内定) した	79.9%	
42. 進学の決定 (内定) は希望通りでしたか。	2. ほぼ希望通り決定 (内定) した	13.5	
	3. 希望通りでなかった	4.8	
	無回答	1.9	
43. 現在在籍している学部・学科等 (科類) に満足していますか。	1. 満足している	37.8%	4. やや不満である
	2. まあ満足している	33.3	5. 不満である
	3. どちらとも言えない	10.5	無回答
			3.3
44. 進学振分け制度についてどのように考えていますか。	1. 現行のままでよい	36.2%	
	2. 点数だけでない選択方法も取り入れてほしい	30.9	
	3. 入学時からある程度進路が決まっていた方がよい	10.7	
	4. 特にない	13.7	
	5. その他 ()	5.6	
	無回答	2.9	
45. 現在のカリキュラムに満足していますか。	1. 満足している	12.1%	4. やや不満である
	2. まあ満足している	31.5	5. 不満である
	3. どちらとも言えない	20.8	無回答
			2.8
46. 現在のカリキュラムは消化できますか。	1. できる	37.8%	3. 多少困難
	2. まあまあできる	36.7	4. できない
			無回答
			3.0

◎設問46で「3」または「4」と答えた方のみ	1. 進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる	13.7%		
	2. 授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある	32.5		
	3. カリキュラムの組み方に問題がある	8.5		
47. その理由はどれにあたりますか。	4. 教育上の指導助言が十分でない	5.2		
(主たるものを3つまで選び、順位に従って番号を記入してください。)	5. 高校までの勉強のやり方ではうまく適応できない	0.9		
	6. 大学入試の受験科目として取らなかった	2.8		
	7. 授業の準備と復習の時間が十分とれない	13.7		
	8. 授業に対する自分の意欲や努力が足りない	19.3		
	9. その他 ()	3.3		
48. 学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	1. 進学する	45.1%	4. 進学も、就職もするつもりはない	1.8%
	2. 就職する	28.6		
	3. まだわからない	21.8	無回答	2.8
◎設問48で「1」と答えた方のみ	1. 大学院修士課程			59.8%
	2. 大学院博士課程			36.9
49. どこまで進学を予定していますか。	3. その他 (学士入学等)			2.8
	無回答			0.5
◎設問49で「1」または「2」と答えた方のみ	1. 高度の専門知識・技術を身につけるため	81.5%	7. 社会的評価が高いから	5.1%
	2. 大学で教職に就くため	7.5	8. 友人・先輩の意見	3.6
50. その理由は、次のうちどれにあたりますか。	3. 将来研究者になるため	45.5	9. 大学での進路指導	1.7
(主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	4. 良い就職先を得るため	16.8	10. その他	2.9
	5. まだ社会に出たくないから	16.5	無回答	0.5
	6. 周囲にすすめられたから	2.7		

Ⅷ. ボランティア活動について

51. あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。	1. ある (あった)	33.4%
	2. ない	66.5
	無回答	0.1
◎設問51で「1」と答えた方のみ	1. 老人福祉・介護等	35.2%
52. あなたの行った (ている) 活動はなんですか。	2. 心身に障害がある方 (子供を含む) への支援	28.6
(該当するすべての項目に「1」を記入してください。)	3. 児童福祉に関する支援	17.5
	4. 災害の復旧支援	8.6
	5. 自然環境保護活動	27.6
	6. スポーツ・文化的活動の指導・運営	14.9
	7. 留学生との交流・支援	17.1
	8. 青年海外協力隊での活動	0.3
	9. Non-governmental Organization (NGO) などの組織での活動	7.0
	10. その他 ()	10.2
	無回答	0.3
53. 今後、ボランティア活動をしてみたいと思いますか。	1. はい	62.2%
	2. いいえ	36.6
	無回答	1.2

◎設問53で「1」と答えた方のみ	1. まとまった時間	74.4%
	2. 活動の情報提供・呼びかけ	61.8
54. ボランティア活動을自分で行おうとしたときに必要だと思うことはなんですか。(主たるものを2つまで選び番号を記入してください。)	3. 活動参加への大学からの支援	17.2
	4. その他 ()	10.4
	無回答	6.0
55. あなたは大学周辺地域の街づくりや街の活性化の活動に参加したことがありますか。	1. ある (あった)	3.7%
	2. ない	93.9
	無回答	2.3
56. あなたは大学周辺地域との関わりをどのように考えていますか。	1. 街づくりに積極的に参加したい	7.1%
	2. 周辺地域から要望があれば応えたい	59.0
	3. 自分とは関係ない	28.1
	4. その他 ()	3.5
	無回答	2.2

X. 不安・悩みについて

57. 現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。(それぞれの項目について、該当する番号を選び、記入してください。)	よく悩む ときに悩む あまり悩まない 全く悩まない 無回答				
	4	3	2	1	
1. 勉学 (成績・単位など)	21.8%	44.9%	22.0%	11.0%	0.3%
2. 学部進学や大学院進学	23.9	35.0	19.6	21.1	0.3
3. 就 職	29.0	31.4	23.8	15.5	0.3
4. 将来の進路や生き方	46.0	34.9	13.4	5.4	0.3
5. 友人との対人関係	14.6	32.8	37.7	14.5	0.3
6. 性・異性・恋愛・結婚	24.3	38.2	27.2	10.0	0.3
7. 経済的なことや経済的自立	21.9	35.4	30.0	12.4	0.3
8. 自分の性格	19.9	28.2	34.8	16.8	0.3
9. 自分の体調や健康	11.4	21.0	41.5	25.8	0.3
10. 人生の意義・目標	24.5	33.5	27.2	14.4	0.3

58. あなたは、不安や悩みを感じたとき、だれに相談したり、話し合ったりしますか。 (それぞれの項目について、該当する番号を選び、記入してください。)	よく相談する	ときどき相談する	たまに相談する	全く相談しない	無回答
	4	3	2	1	
1. 父・母	10.5%	19.0%	39.4%	30.7%	0.4%
2. 兄弟・姉妹	3.3	8.5	22.6	64.6	1.0
3. 大学の教職員	0.3	1.5	8.5	89.3	0.4
4. 大学内の同じ学科や研究室の友人	9.4	21.7	33.0	35.4	0.5
5. 大学内のサークルや団体の友人	15.1	23.0	26.6	34.8	0.4
6. 大学外の友人	15.1	27.8	31.2	25.5	0.4
7. 先輩	3.9	13.1	26.6	55.8	0.5
8. 恋人	18.0	13.5	15.3	51.7	1.5

59. あなたは、最近6ヶ月の間に、次の各項目について、体験したり悩んだりしましたか。 (それぞれの項目について、該当する番号を選び、記入してください。)	よく体験する	ときに体験する	あまり体験しない	全く体験しない	無回答
	4	3	2	1	
1. 強い不安に襲われた	14.5%	33.2%	24.0%	27.9%	0.3%
2. 自分でもバカらしいと思う考えが浮かんだり、自分のすることを何度も確かめてみなければならなかった	9.4	21.8	28.6	40.0	0.2
3. 人と話していてもとても緊張したり、不安を感じた	8.5	24.9	30.9	35.5	0.2
4. 他の人が自分に敵意を持っている、人から監視されていると感じた	3.7	14.3	22.1	59.7	0.2
5. バス・地下鉄・電車などの乗り物に乗るのがこわかった	1.1	1.6	8.5	88.6	0.2
6. 気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった	10.5	25.9	28.7	34.7	0.2
7. 人と一緒にいてもさびしい感じがした	7.9	24.3	27.1	40.4	0.3
8. 体の病気でもないのに、息切れ・めまい・動悸などがした	1.9	8.7	14.0	75.2	0.2
9. イライラしたり、物をこわしたり人を傷つけたりしたい衝動にかられた	5.6	15.1	25.2	53.9	0.2
10. やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった	10.9	24.5	28.9	35.5	0.2
11. ついつい過食してしまう傾向があった	7.0	18.3	21.2	53.3	0.2
12. 食欲がなくなり、食べ物を口にしたいと思わないと思った	2.5	8.0	18.0	71.2	0.2

60. あなたの悩みや不安を解消するために、大学にどのような対応があればよいと思いますか。 (それぞれの項目について、該当する番号を選び、記入してください。)	全くそ う思う	まあそ う思う	あまり そう思 わない	全くそ う思わ ない	無回答
	4	3	2	1	
1. 学生が教官や職員と接触する機会を増やす	10.2%	34.5%	29.0%	26.0%	0.3%
2. 教務課や学生課などの事務機能を充実させる	6.4	22.7	36.8	33.8	0.3
3. クラス担任制度やチューター制度を充実させる	6.4	22.1	34.2	37.0	0.3
4. 学習方法や学習内容について相談機能を充実させる	13.7	33.1	28.1	24.7	0.3
5. 学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる	22.3	40.2	18.8	18.3	0.4
6. 就職指導や進路相談の機能を充実させる	25.7	38.7	20.1	15.2	0.3
7. 健康相談や保健センターの機能を充実させる	20.3	34.5	26.8	18.2	0.3
8. 個人的な悩みの学生相談やカウンセリング機能を充実させる	17.0	32.9	29.1	20.7	0.3
9. 奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する	28.0	30.0	23.2	18.4	0.3
10. 学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	13.8	30.7	32.1	23.1	0.3
11. その他 ()					

XI. 学生生活の満足度について

61. あなたは一週間に平均何回ぐらい大学に来ますか。	1. 1回	2.2%	5. 5回	50.6%
	2. 2回	3.5	6. 6回	16.2
	3. 3回	5.5	7. 7回	4.9
	4. 4回	15.6	8. ほとんど来ない	1.3
			無回答	0.1
62. 日頃大学に行くときどのように感じますか。	1. 行きたい・楽しみ			15.3%
	2. どちらかといえば、行きたい・楽しみ			60.7
	3. どちらかといえば、行きたくない・憂鬱			20.4
	4. 行きたくない・憂鬱			3.0
				無回答

63. 自分の大学生生活の目的をどう考えていますか。 (主たるものを3つまで選び、順位に従って番号を記入してください。)	〔1位のみ〕						
	1. 専門的学問・研究をする						26.6%
	2. 高度な専門知識・技術を身につける						24.3
	3. 豊かな教養を身につける						19.7
	4. 学歴・資格を得る						6.1
	5. クラブ・サークル活動に力を入れる						5.9
	6. 希望する企業等に就職する						0.7
	7. 学生生活を楽しむ						10.5
	8. 友人を多く持つ						4.0
	9. 特に目的はない						1.7
	無回答						0.3
64. 現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度満足していますか。 (それぞれの項目について、満足度に該当する番号を選び、記入してください。)		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答
		5	4	3	2	1	
	1. 授業の内容	5.7%	39.9%	24.7%	19.5%	10.0%	0.1%
	2. 大学の環境、設備	13.9	41.7	20.2	16.9	7.2	0.1
	3. 経済的状况	18.4	35.8	22.7	16.1	6.8	0.2
	4. 友人	24.0	45.1	19.2	8.4	3.2	0.1
	5. 余暇・レジャー	13.5	33.5	26.4	19.3	7.1	0.1
	6. クラブ・サークル活動	18.9	30.0	31.5	11.5	7.2	0.8
	7. 食事	17.8	40.3	24.7	13.3	3.7	0.1
8. 住居	29.6	41.6	13.3	10.5	4.8	0.2	
65. それでは全体として大学生生活に満足していますか。	1. 満足している						29.3%
	2. まあ満足している						48.8
	3. どちらとも言えない						11.6
	4. やや不満である						7.1
	5. 不満である						3.1
	無回答						0.1
66. いろいろ考えてみて、あなたは幸福ですか。	1. 幸福だ						54.2%
	2. どちらかといえば幸福だ						38.3
	3. どちらかといえば幸福でない						4.4
	4. 幸福でない						3.0
	無回答						0.1

XII. 社会観について

67. 現在の日本社会において、右に挙げたことを積極的にすすめる(認める)べきだと思いますか。 (それぞれの項目について、該当する番号を記入してください。)	思う					思わない	無回答
	5	4	3	2	1		
1. 首相公選について	21.5%	25.4%	17.9%	15.2%	19.7%	0.2%	
2. 外国人の参政権について	28.2	30.7	20.1	10.6	10.2	0.2	
3. 地方分権について	27.9	35.4	23.1	8.3	5.0	0.3	
4. 公共事業の縮減について	33.0	27.8	24.6	10.2	4.0	0.3	
5. 食料自給率の向上について	34.6	28.6	20.4	11.4	4.8	0.3	
6. 脳死を人の死とすることについて	20.3	22.2	34.7	10.6	11.8	0.4	
7. 人間の生命操作(クローン・遺伝子操作)	9.7	12.8	19.3	24.1	33.8	0.3	
8. 夫婦別姓について	29.9	19.5	27.3	9.0	14.0	0.2	
9. 飛び級・飛び入学について	31.3	26.3	21.7	10.6	9.9	0.2	
68. 右に現在の日本社会の見方に関して、7つの項目が挙げてありますが、あなたはどちらの方により賛成ですか。 (それぞれの項目について該当する番号を記入してください。)	思う					思わない	無回答
	5	4	3	2	1		
1. 国民の声が政治に反映されていると	1.4%	6.9%	17.2%	38.1%	36.2%	0.2%	
2. 人々間の平等が実現されていると	4.2	15.6	19.9	30.8	29.3	0.2	
3. 人間が大切にされていると	5.2	19.2	29.3	27.6	18.4	0.3	
4. 軍国主義化の危険があると	8.3	18.5	15.0	24.7	33.3	0.2	
5. 国民の権利が保障されていると	8.0	31.8	33.1	19.1	7.7	0.2	
6. 自分の欲望や利益しか考えない人が増えていると	40.7	33.3	15.8	6.7	3.3	0.2	
7. 日本の社会は世界に向かって開かれていると	3.2	12.3	29.0	36.7	18.6	0.2	
69. 全体として現在の日本社会をどう思いますか。							
1. 良い						4.0%	
2. まあ良い						25.1	
3. どちらとも言えない						25.7	
4. 余り良くない						33.9	
5. 良くない						11.1	
無回答						0.2	
70. それでは日本の将来の見通しはどのようになりますか。							
1. 良くなる						6.6%	
2. やや良くなる						11.5	
3. どちらとも言えない						36.3	
4. ある程度悪くなる						29.2	
5. 悪くなる						16.1	
無回答						0.3	

XIII. 就職について

71. どのような職業に就きたいと思いますか。 (主たるものを3つまで選び、就きたい職種 の順位に従って番号を記入してください。)	(「1位のみ」)	
	1. 大学・官公庁の教育・研究職	26.2%
	2. 企業等の研究職	16.1
	3. 技術職	10.2
	4. 事務職	5.3
	5. 教育職(大学を除く)	1.4
	6. 行政職(公務員)	12.7
	7. 専門職(医師、弁護士、公認会計士等)	19.1
	8. マスコミ(新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等)	4.1
	9. その他()	4.2
	無回答	0.5
72. その職業に就きたい と考えるのは、どの ような理由からです か。 (主たるものを3つま で選び、重視する順 に番号を記入してく ださい。)	(「1位のみ」)	
	1. 人を助けたり社会に奉仕する	19.0%
	2. 安定した生活が保証されている	10.5
	3. 十分な収入が期待できる	7.0
	4. 自分の特技・能力や専門知識が活かせる	40.1
	5. 華やかで、世間からもてはやされる	0.2
	6. 社会的な地位・名声が得られる	1.3
	7. 組織にしばられず、自由な活動ができる	5.4
	8. 人や組織を動かすことができる	2.4
	9. 独創性や創造性を発揮できる	9.2
	10. その他()	3.3
	無回答	1.5
73. 仕事や職場を選ぶ際 にどのようなことを 重視しますか。 (主たるものを3つま で選び、重視する順 に番号を記入してく ださい。)	(「1位のみ」)	
	1. 給料がよい	10.4%
	2. 休みをとりやすい	2.8
	3. 責任が軽い	0.1
	4. 失業の心配がない	4.2
	5. 福利厚生が充実している	1.1
	6. 出世の見込みが多い	0.3
	7. 技術や知識を身につけられる	5.7
	8. 権限が大きい	0.4
	9. やりがいがある	48.7
	10. 能力が発揮できる	14.5
	11. 人から評価される	1.4
	12. 仕事を行う上で男女の差別がない	1.2
	13. 将来発展する見込みがある	1.1
	14. 職場が都心のオフィス街にある	0.1
	15. 職場が自然環境のよい郊外にある	0.1
	16. 海外勤務の機会が多い	0.6
	17. 転勤が少ない	0.5
	18. いろいろな人と知り合える	1.2
	19. オフィスが新しくきれい	0.0
	20. 職場の人間関係がよい	2.7
21. その他()	1.8	
	無回答	1.1

74. 就職活動として、どのようなことをしていますか(いましたか)。 (該当するすべての項目に「1」を記入してください。)	1. インターネット等で、情報を収集する	37.3%
	2. 企業等のセミナーや説明会に参加する	20.9
	3. 就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	11.9
	4. 職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	17.2
	5. その他 ()	2.5
	無回答	50.4
75. 就職する場所はどこを希望しますか。	1. 東京圏（東京近郊）を希望する	54.4%
	2. 東京圏（東京近郊）以外を希望する	2.0
	3. 出身地に近いところを希望する	5.7
	4. 東京圏、東京圏以外どちらでもよい	32.1
	5. その他 ()	3.8
	無回答	2.0

XV. 大学への要望について

76. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主たるものを3つまで選び、重視する順に番号を記入してください。)	1. カリキュラムの改革	13.8%
	2. 教室・実験室の充実	7.5
	3. 教育スタッフの充実	7.9
	4. 進学振分け制度の改善	9.2
	5. 小人数教育の実施	9.9
	6. 授業の方法の工夫・改善	16.2
	7. 単位認定や学年試験を緩やかに	4.2
	8. 単位認定や学年試験を厳しく	2.1
	9. キャンパスの拡大・移転・統合	0.7
	10. 図書館の充実	7.4
	11. 談話室・学生控室の充実	3.4
	12. 課外活動諸施設の拡充	2.7
	13. 体育施設の充実	1.6
	14. 福利厚生施設の充実	1.2
	15. 学生自治に対する適切な助成と助言	0.1
	16. 学生自治の尊重	0.3
	17. 奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	7.6
	18. 就職対策の充実	2.9
	無回答	1.2

学生生活委員会学生生活調査室

平成14年11月現在

調査室長	市川伸一（大学院教育学研究科・教育学部）
副調査室長	菊地和也（大学院薬学系研究科・薬学部）
室員	中谷和弘（大学院法学政治学研究科・法学部）
〃	小林廉毅（大学院医学系研究科・医学部）
〃	床司正弘（大学院工学系研究科・工学部）
〃	井島正博（大学院人文社会系研究科・文学部）
〃	中村正治（大学院理学系研究科・理学部）
〃	小田切徳美（大学院農学生命科学研究科・農学部）
〃	粕谷誠（大学院経済学研究科・経済学部）
〃	瀬地山角（大学院総合文化研究科・教養学部）
〃	坂口裕（学生部）
〃	宮田政拓（学生部）
調査集計担当	学生部学生課調査掛

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1252 2002年12月12日
東京大学広報委員会
〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393